

令和元年度

男女共同参画社会に関する
県民意識調査報告書

高 知 県

はじめに

男女がお互いの人権を尊重しあうとともに、仕事や家事の責任も分かち合い、性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会」の実現は、社会の活性化を図るうえで、また、県政浮揚を進めるうえでも、極めて重要な課題です。

県では、平成15年に「高知県男女共同参画社会づくり条例」を制定し、「こうち男女共同参画プラン」や「高知県DV被害者支援計画」に基づき、こうち男女共同参画センター「ソーレ」を拠点に、男女共同参画に関する啓発や人材育成などの様々な取組を進めてまいりました。また、平成26年度からは、女性の活躍の場の拡大を県政の重要政策に位置付け、社会全体で子育てしながら働く女性を支援する仕組みづくりに取り組んでいます。

このたび、男女共同参画の視点から見た県民の意識や課題を把握し、それらの経年変化や全国調査との比較等を行うことで、今後の施策に活かすことを目的に、「男女共同参画社会に関する県民意識調査」を実施いたしました。今回の調査では、これまでの男女共同参画や家庭生活における男女の役割分担の意識といった項目に加えて、ワーク・ライフ・バランスの理想と現実や理想の働き方実現に必要なことをお聞きしており、男女がともに働きやすい環境づくりに向けた課題がより明確になったものと受け止めています。

今後は、この調査結果を新たな「こうち男女共同参画プラン」策定に活かすとともに、より一層の施策の充実を図るよう努めてまいりますので、男女共同参画に携わる関係機関や県民の皆様にも、ご理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本調査の実施にあたりご協力いただきました方々に、心よりお礼申し上げます。

令和2年3月

高知県 文化・生活・スポーツ部 県民生活・男女共同参画課長 吉村 和世

目 次

	ページ	
I 調査の設計	1	
II 調査結果の見方	3	
III 調査対象者の特性	5	
1. 市町村別の配布・回収状況	5	
2. 対象者の特性	5	
IV 調査結果のあらまし	10	
V 調査結果〔解説・グラフ〕		
〔1〕 男女共同参画に関する意識について	解説・グラフ ページ	数 表 ページ
1. 各分野における男女の地位の平等意識	20	88
〔2〕 家庭生活について		
2. 家庭における男女の役割分担の理想と現実について	33	90
(1) 理想の役割分担に最も近いものは	33	90
(2) 実際の役割分担に最も近いものは	35	91
3. 理想的な男女の役割分担が実現するために必要なこと	38	92
〔3〕 男女がともに働きやすい職場づくりについて		
4. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	41	93
(1) 理想に最も近いものは	41	93
(2) 現実（現状）に最も近いものは	43	94
5. 男女がともに働きやすくなるために必要なこと	46	96
(1) 家庭や地域において必要なこと	46	96
(2) 企業など職場において必要なこと	48	96
(3) 行政の取組において必要なこと	50	97
〔4〕 ドメスティック・バイオレンス（夫婦・恋人間の暴力）/セクシュアル・ハラス メントについて		
6. 配偶者・恋人からの行為に対する暴力の認識	54	98
7. DV経験の有無	56	100
8. したこと、されたことのあるDV行為	57	102
(副問1) DV行為について相談した相手	59	104

(副問2) DV行為について相談しなかった理由……………	61 ……	105
9. デートDV (交際相手からの暴力)、DV (配偶者等からの暴力)		
性暴力などの行為を予防し、なくすためにはどうすればよいか……………	63 ……	106
10. セクシュアル・ハラスメントだと思う行為……………	65 ……	107
[5] 男女共同参画の推進について		
11. 男女共同参画関連用語等の周知度……………	67 ……	108
12. 男女共同参画社会を実現するために力を入れていくべきこと……………	86 ……	110
VI 調査結果〔数表〕……………	88	
VII 自由回答……………	111	
VIII 自由回答〔「その他」の内容〕……………	123	
IX 調査票〔単純集計結果〕……………	127	

I 調査の設計

1. 調査の目的

本調査は、高知県の男女共同参画を推進していくうえでの基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の事項

(1) 男女共同参画に関する意識について

各分野における男女の地位の平等意識

(2) 家庭生活について

家庭生活における男女の役割分担の理想と現実／理想的な男女の役割分担が実現するために必要なこと

(3) 男女がともに働きやすい職場づくりについて

「仕事」と「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度について、理想に最も近いものは／現実（現状）に最も近いものは／男女がともに働きやすくなるために家族や地域において必要なこと／男女がともに働きやすくなるために企業など職場において必要なこと／男女がともに働きやすくなるために行政の取組において必要なこと

(4) ドメスティック・バイオレンス（夫婦・恋人間の暴力）／セクシュアル・ハラスメントについて

配偶者・恋人からの行為に対する暴力認識／DV経験の有無／DV経験（加害・被害）の有無及び頻度／DV行為についての相談相手／DV行為について相談しなかった理由／DV等を予防し、なくすために必要なこと／セクシュアル・ハラスメント認識

(5) 男女共同参画の推進について

男女共同参画関連用語等の周知度／男女共同参画社会実現のために力をいれるべきこと

3. 調査の対象

県内全域から18歳以上の県民2,000人を抽出

4. 対象者の抽出方法

層化二段無作為抽出法（総人口比から各市町村のサンプル数を割り当て、各市町村の選挙人名簿から抽出した）

5. 調査の方法

郵送法

6. 調査の期間

令和元年10月29日(火)～11月15日(金)までの18日間

7. 実査および集計

株式会社 トミーコーポレーション

8. 調査票配布数と回収状況

配布数 2,000票

有効回収数 964票 (有効回収率 48.2%)

Ⅱ 調査結果の見方

1. 「V 調査結果〔解説・グラフ〕」は「VI 調査結果〔数表〕」に基づき、要点のみを記述してあるので、「VI 調査結果〔数表〕」をあわせて参照すること。
2. 「VI 調査結果〔数表〕」の「サンプル」は有効調査人数を示し、比率（％）算出の基礎となっている。
3. 「VI 調査結果〔数表〕」に記入してある数値は、回答人数又は各回答項目に対する回答率であり、回答率は下記の式により求めている。

$$\text{回答率（％）} = \frac{\text{回答人数}}{\text{サンプル（有効調査人数）}} \times 100$$

なお、回答率は小数第2位を四捨五入し表示しているため、合計が100%にならない場合もある。

4. 質問によっては、複数の回答を選択する形（例：「2つまで○印」「3つまで○印」「あてはまるものすべてに○印」）になっているため、比率の合計が100%を超えることがある。
5. 質問回答者が限定される場合は、その内容及び母数について、質問ごとに記載している。（母数は全ての質問について記載している。）
6. 各質問に対する集計は、対象者の特性別（階層別）及び回答者別（質問間クロス）で分析した。

- | | | | | | | | | | | | |
|-------|---|---|---|--|--|-------------------------------------|---|--|---|---|---------------|
| F 1 | 性 | 別 | … | 男、女、その他 ^{※1} の3種類に分類 | | | | | | | |
| F 2 | 年 | 代 | 別 | … 10歳代、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上の7階層に分類 | | | | | | | |
| F 3 | 従 | 業 | 上 | の | 地 | 位 | 別 | … | 会社などに雇用されている方、自営業主、家族従業者（自営業主の家族で、その自営業に従事している者）、無職（主婦、主夫、学生を含む）の4種類に分類 | | |
| F 3-1 | 仕 | 事 | の | 内 | 容 | 別 | … | 管理職、専門・技術職、事務職、販売・サービス・保安職、農林漁業職、生産・輸送・建設・労務職の6種類に分類 | | | |
| F 3-2 | 雇 | 用 | 形 | 態 | 別 | … | 役員、正規の職員・従業員、非正規の職員・従業員（契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む）の3種類に分類 | | | | |
| F 4 | 結 | 婚 | の | 有 | 無 | 別 | … | 結婚している、結婚していない、結婚していないがパートナーと暮らしているの3種類に分類 | | | |
| F 5 | 夫 | 婦 | 共 | 働 | き | の | 有 | 無 | 別 | … | はい、いいえの2種類に分類 |
| F 6 | 市 | 町 | 村 | 別 | … | 高知市、高知市以外の市、町村の3種類に分類 ^{※2} | | | | | |
| F 7 | 世 | 帯 | 別 | … | 一人世帯、一世帯世帯（夫婦だけ）、二世帯世帯（親と子）、三世帯世帯（親と子と孫）、その他の世帯の5種類に分類 | | | | | | |

F8 同居の子ども別 … 未就学児、小学生、中学生、高校生、大学生・専門学生等、
当てはまる子どもはいないの6種類に分類

7. その他

本報告書で「全国調査」とあるのは、内閣府男女共同参画局調べの下記調査を指す。

・令和元年度「男女共同参画社会に関する世論調査」

(調査期間：令和元年9月5日～9月22日、調査対象：5,000人、有効回収数：2,645人)

※1 今年度においては「その他」の項目に記入がなかったため、調査結果は「男」、「女」
の2種類で分析。

※2 居住地域別の市町村内訳は次のとおりである。

◆F6 居住地域別

高 知 市

高知市以外の市

室戸市、安芸市、南国市、土佐市、須崎市、宿毛市、土佐清水市
四万十市、香南市、香美市

町 村

東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村
本山町、大豊町、土佐町、大川村、いの町、仁淀川町、中土佐町
佐川町、越知町、梶原町、日高村、津野町、四万十町、大月町
三原村、黒潮町

Ⅲ 調査対象者の特性

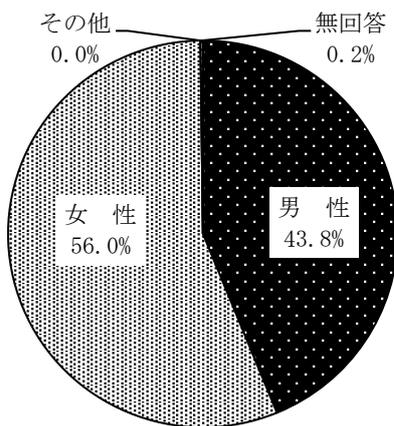
※構成比は小数第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合もある。

1. 居住地域（市町村）別の配布・回収状況

市町村別	配布数（人）	有効回収状況		
		回答数（人）	回収率（%）	構成比（%）
高知市	910	459	50.4%	47.6%
高知市以外の市	713	338	47.4%	35.1%
町村	377	161	42.7%	16.7%
無回答		6		0.6%
合計	2,000	964	48.2%	100.0%

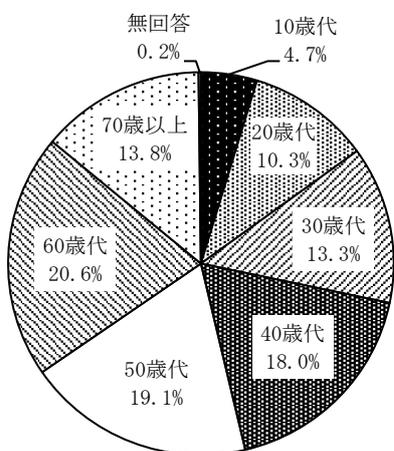
2. 対象者の特性

F1 性



区分	回答数（人）	構成比（%）
男性	422	43.8%
女性	540	56.0%
その他	0	0.0%
無回答	2	0.2%
合計	964	100.0%

F2 年代

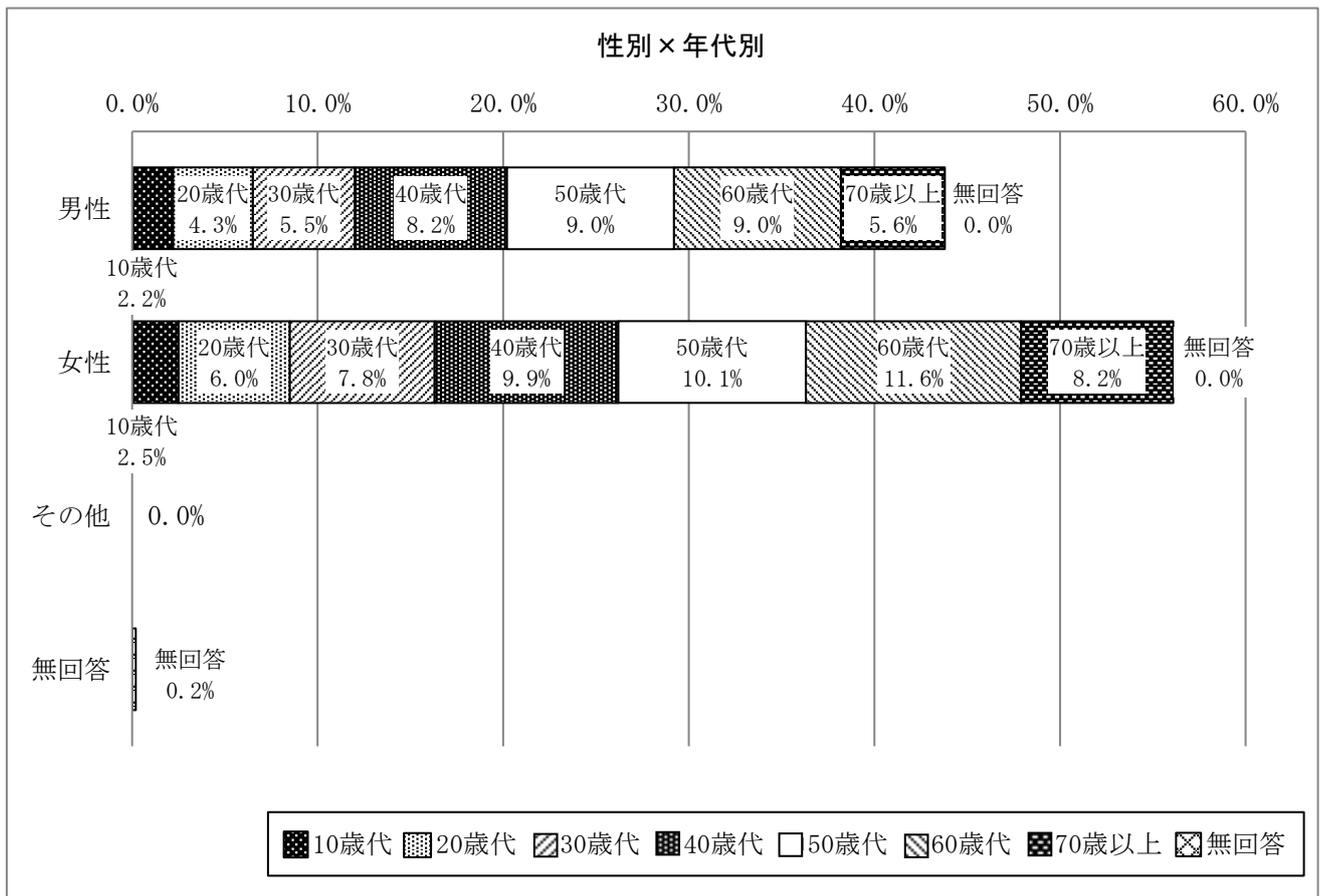


区分	回答数（人）	構成比（%）
10歳代	45	4.7%
20歳代	99	10.3%
30歳代	128	13.3%
40歳代	174	18.0%
50歳代	184	19.1%
60歳代	199	20.6%
70歳以上	133	13.8%
無回答	2	0.2%
合計	964	100.0%

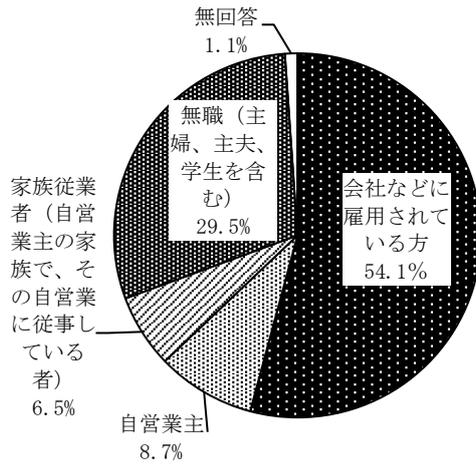
(参考)

○ F 1 性別 × F 2 年代別内訳

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	無回答
全体	964	45	99	128	174	184	199	133	2
	100.0%	4.7%	10.3%	13.3%	18.0%	19.1%	20.6%	13.8%	0.2%
男 性	422	21	41	53	79	87	87	54	0
	43.8%	2.2%	4.3%	5.5%	8.2%	9.0%	9.0%	5.6%	0.0%
女 性	540	24	58	75	95	97	112	79	0
	56.0%	2.5%	6.0%	7.8%	9.9%	10.1%	11.6%	8.2%	0.0%
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%

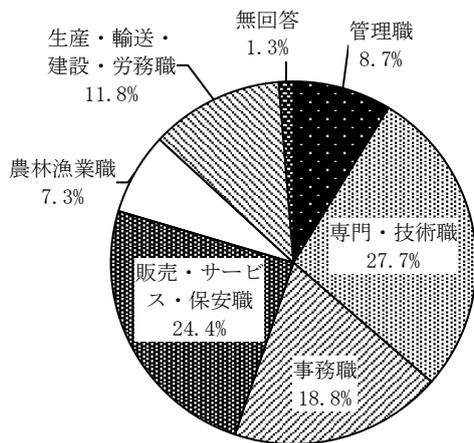


F 3 従業上の地位



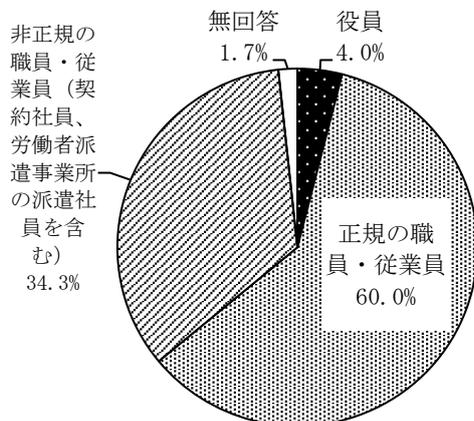
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
会社などに雇用されている方	522	54.1%
自営業主	84	8.7%
家族従業者 (自営業主の家族で、その自営業に従事している者)	63	6.5%
無職 (主婦、主夫、学生を含む)	284	29.5%
無回答	11	1.1%
合計	964	100.0%

F 3-1 仕事の内容



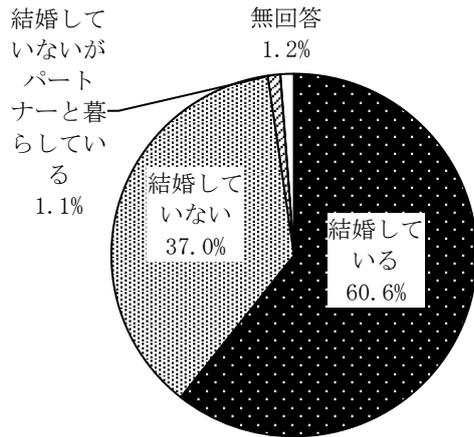
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
管理職	58	8.7%
専門・技術職	185	27.7%
事務職	126	18.8%
販売・サービス・保安職	163	24.4%
農林漁業職	49	7.3%
生産・輸送・建設・労務職	79	11.8%
無回答	9	1.3%
合計	669	100.0%

F 3-2 雇用形態



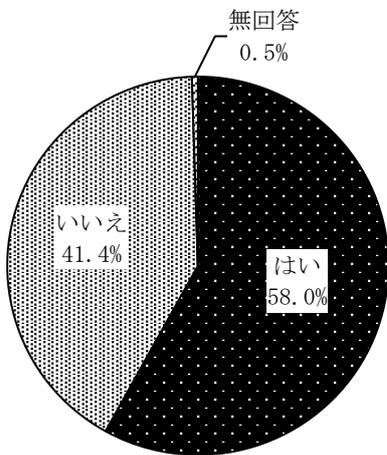
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
役員	21	4.0%
正規の職員・従業員	313	60.0%
非正規の職員・従業員 (契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む)	179	34.3%
無回答	9	1.7%
合計	522	100.0%

F 4 結婚の有無



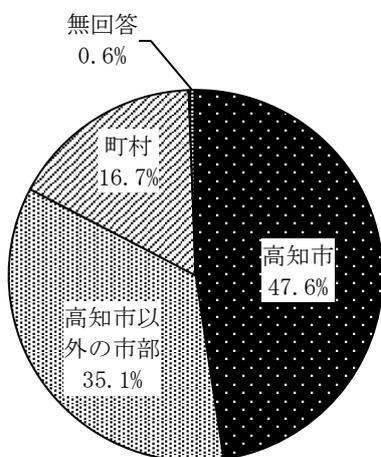
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
結婚している	584	60.6%
結婚していない	357	37.0%
結婚していないがパートナーと暮らしている	11	1.1%
無回答	12	1.2%
合計	964	100.0%

F 5 夫婦共働きの有無



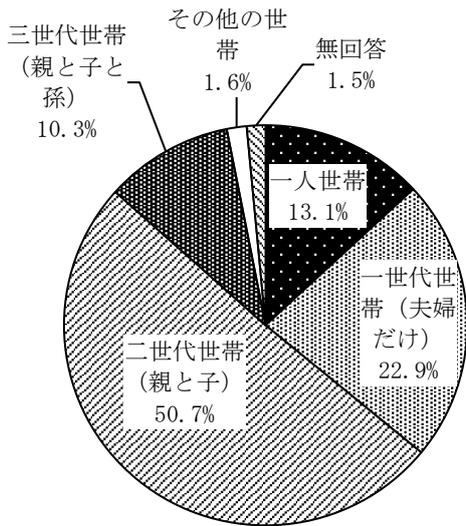
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
はい	339	58.0%
いいえ	242	41.4%
無回答	3	0.5%
合計	584	100.0%

F 6 居住地 (市町村)



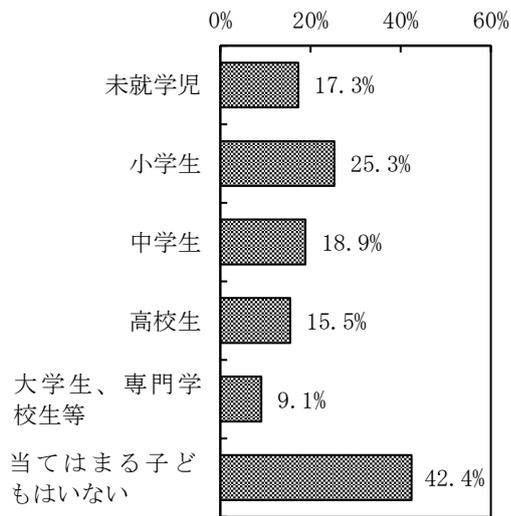
区分	回答数 (人)	構成比 (%)
高知市	459	47.6%
高知市以外の市部	338	35.1%
町村	161	16.7%
無回答	6	0.6%
合計	964	100.0%

F 7 世帯構成



区分	回答数 (人)	構成比 (%)
一人世帯	126	13.1%
一世帯世帯 (夫婦だけ)	221	22.9%
二世帯世帯 (親と子)	489	50.7%
三世帯世帯 (親と子と孫)	99	10.3%
その他の世帯	15	1.6%
無回答	14	1.5%
合計	964	100.0%

F 8 同居の子ども



区分	回答数 (人)	構成比 (%)
未就学児	65	17.3%
小学生	95	25.3%
中学生	71	18.9%
高校生	58	15.5%
大学生、専門学校生等	34	9.1%
当てはまる子どもはいない	159	42.4%
合計	375	100.0%

IV 調査結果のあらまし

1. 男女共同参画に関する意識について

◆問1 各分野別における男女の地位の平等意識

実生活における各分野での男女平等に関する意識については、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を足したもの。以下同。）の割合が最も高いのが、「政治の場」で69.1%を占めており、前回調査（71.4%）と比較すると約2.3ポイント減っている。次いで「社会通念・慣習・しきたり（63.5%、前回70.8%）」は7.3ポイント、「社会全体（60.4%、前回66.0%）」は5.6ポイント減少が見られた。

また、男女平等と感じている割合が高いのは、「学校教育（67.5%、前回71.0%）」「地域活動の場（45.4%、前回43.2%）」「法律や制度の上（38.6%、前回37.7%）」の順になっている。

なお、いずれの項目も、「平等」と回答した割合は、女性よりも男性の方が高かった。

(ア) 家庭生活

家庭生活では、平成11年度調査からほぼ一貫して『男性優遇』の割合が下がり、「平等」の割合が上がっている。

他の項目に比べて、男女による認識の差が大きく、男性が『男性優遇』が36.9%（3.3%+33.6%）であったのに対して、女性は『男性優遇』が55.3%（12.2%+43.1%）で、18.4ポイント差が見られた。また「平等」だと回答した割合も、男性が41.2%であったのに対して、女性は30.6%と認識に差が見られた。前回調査では、『男性優遇』（男性38.1%、女性63.6%）、「平等」（男性45.6%、女性24.6%）であったことから、男女間の意識の隔たりがわずかながら減少していると言える。

女性の20歳代では、『女性優遇』の割合は、平成26年度の9.7%（8.8%+0.9%）と比較して、今年度は18.2%（16.2%+2.0%）と2倍近く上昇している。

なお、年代別でみると、若い世代ほど『男性優遇』の割合が低くなっており、「平等」の割合が比較的高い傾向にあることから、家庭における男女平等の意識が高まってきていることが伺える。

(イ) 職場生活

職場生活では、平成11年度の調査結果と比較すると『男性優遇』の割合は減っているが、平成21年度以降は、ほぼ横ばいの状態が続いている。ただし、「わからない」の割合が減り、「平等」とした割合はわずかながら増加傾向にある。

性別では、『男性優遇』が男性40.7%、女性49.3%と8.6ポイント差、「平等」が男性39.1%、女性30.6%と8.5ポイント差となっており、前回の調査時よりもポイントの開きが減少している。

夫婦共働きの有無別では、共働きありの層が『男性優遇』41.9%、「平等」42.5%であったのに対し、共働きでないの層は『男性優遇』49.6%、「平等」25.6%となっており、共働きありの家庭の方の平等意識が高いことがわかる。

(ウ) 学校教育

学校教育では、平成26年度に比べ、『男性優遇』の割合が3.7ポイント増えており、「平等」の割合が3.5ポイント減少している。全国と比較すると、『男性優遇』の割合は低く（県11.3%、全国18.5%）、「平等」の割合が高い（県67.5%、全国61.2%）。

また、『男性優遇』の平成26年度の60歳代（1.7%+4.2%）、70歳以上（2.3%+4.5%）の割合が、今年度では60歳代が（1.5%+12.6%）、70歳以上が（17.3%）と10ポイント近く増加している。

70歳以上の層で「平等」の割合が53.4%になっている他は、いずれの層でも7割前後が「平等」を選択しており、最も平等意識が高い項目となっている。

(エ)政治の場

政治の場では、『男性優遇』の割合が最も高い分野である。しかし、前回調査と比較した場合、『男性優遇』の割合が2.3ポイント減少し、「平等」が前回調査よりも2.6ポイント増加している。

性別では、「男性の方が非常に優遇されている」(男性17.3%、女性30.7%)、「平等」(男性21.8%、女性12.0%)で男女間に違いが見られる。

年代別では、各年代で『男性優遇』の割合が6割を超えており、40歳代、50歳代、60歳代では7割を超えている。

夫婦共働きの有無別では、「男性の方が非常に優遇されている」の割合を見ると、今回調査時(9.4ポイント差)の方が、前回調査時(1.9ポイント差)より差は増加している。

(オ)地域活動の場

地域活動の場では、前回調査と比較していずれもほぼ横ばいの状態で、ほとんど変化は見られず、「平等」(45.4%)は「学校教育」分野に次いで高い。

性別では、『男性優遇』10.6ポイント(男性24.4%、女性35.0%)、「平等」11.9ポイント(男性52.1%、40.2%)と男女差が見られ、また、年代別では、『男性優遇』の割合が若い世代ほど低くなっている。

(カ)法律や制度の上

法律や制度の上では、総合では、『男性優遇』の割合が平成26年度とほぼ同じ割合となっている。

また、『男性優遇』と回答した割合の男女差は、前回調査では、22.5ポイントであったが、今回調査では14.1ポイントと8.4ポイント減少している。

性別では、『男性優遇』とした割合が男性の(3.1%+25.8%)に対し、女性は(10.6%+32.4%)と14.1ポイントの差がある。一方、「平等」とした割合は、女性が30.7%であるのに対して、男性は48.6%と逆転している。

年代別でみると、10歳代、20歳代、30歳代は『男性優遇』とした割合が30%を下回っているが、40歳代は39.1%、50歳代、60歳代は約42%、70歳以上は36.9%と高くなっている。

(キ)社会通念・慣習・しきたり

社会通念・慣習・しきたりでは、「政治の場」に次いで『男性優遇』の割合が高い。だが、平成11年度調査以降では『男性優遇』の割合が最も減少しており、前回の調査時より7.3ポイント減少している。

性別では、『男性優位』が男性(9.2%+48.3%)、女性(20.6%+47.6%)と10.7ポイント差が生じている。「平等」の意識は、男性27.7%、女性16.1%で、11.6ポイント差があるものの、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合では、男性48.3%、女性47.6%と、大きな差は見られない。

(ク)社会全体

社会全体では、全般的に『男性優遇』の割合が高くなっているが、60.4%(9.6%+50.8%)が『男性優遇』としており、前回調査結果(65.8%)と比較して5.4ポイント減少している。「平等」と答えた割合(23.4%)が前回(16.1%)より7.3ポイント増えている。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」では、今回(50.8%)は、前回調査(56.4%)に比べ、5.6ポイント減少している。

性別では、『男性優遇』は男性53.6%(3.6%+50.0%)、女性66.1%(14.4%+51.7%)、「平等」と感じているのは、男性28.9%、女性19.1%と男女差が見られる。

年代別では、『男性優遇』と回答した割合は、一番高い60歳代の69.9%(11.1%+58.8%)に対し一番低い10歳代は44.4%(4.4%+40.0%)と25.5ポイントの差があり、若い世代ほど低くなっている傾向にある。

2. 家庭生活について

◆問2 家庭における男女の役割分担の理想と現実について

(1) 理想の役割分担に最も近いものは

前回調査とは選択肢が多少異なる(夫→男性、妻→女性に変更)ため、単純な比較はできないが、家庭生活における男女の理想の役割分担としては、「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」(45.2%、前回44.5%)を選択した県民が最も多く、「男性と女性の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う」(25.8%、前回20.0%)、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」(12.9%、前回20.4%)など、2位以下を大きく引き離れた。

平成26年度と比較して見てみると、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」(12.9%、前回20.4%)が7.5ポイント減少し、「男性と女性の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う」(25.8%、前回20.0%)が5.8ポイント増加している。

年代別では、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」割合は、年代が低くなるにつれ割合も減っていく傾向にある。「男性と女性の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う」は30歳代から70歳以上が約25%に対して10歳代では40.0%、20歳代では32.3%と違いが見られる。

夫婦共働きの有無別では、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」(共働きあり10.3%、共働きなし21.9%)と、「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」(共働きあり54.3%、共働きなし38.0%)に違いが見られる。

(2) 実際の役割分担に最も近いものは

前回調査とは選択肢が多少異なるため、単純な比較はできないが、家庭生活における男女の現実の役割分担は、「男性と女性が共同で家計を支え、主に女性が家事・育児を分担する」(40.9%、前回41.1%)、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」(26.3%、前回23.3%)、「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」(18.9%、前回18.9%)の順になっている。

平成11年度からの経年変化を見てみると、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」が平成21年度に一度減少したが、以降は増加傾向にある。一方、「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」についても増加傾向が見られる。

年代別では、年代が高くなるほど「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」の割合が高くなっており、60歳代では35.0%となっている。一方、若い世代ほど「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」の割合が高い傾向にあり、共働きで家事を分担している様子が伺える。

居住地域別では、高知市以外の市で「男性と女性が共同で家計を支え、主に女性が家事・育児に専念する」の割合が46.6%と最も高く、逆に「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」の割合は低くなっている。

夫婦共働きの有無別で見ると、共働きありの層でも、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」(11.6%)と、「男性と女性が共同で家計を支え、主に女性が家事・育児を分担する」(50.7%)を合わせた62.3%が、女性が家事を担っている状況にある。

◆問3 理想的な男女の役割分担が実現するために必要なこと

家庭生活における男女の理想的な役割分担を実現するために必要だと考えることを複数回答で確認したところ、6割近くもの県民が「夫婦や家族間で、コミュニケーションを増やすこと」と回答している。

次いで「育児・介護休業制度が充実するとともに、休業しやすい職場の雰囲気があること」(37.4%)、「労働時間短縮や休暇制度を充実することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(35.5%)、「共働きしなくても生活できる所得が確保されること」(34.1%)の順になっており、働き続けながら育児や介護が出来る環境づくりを求める一方、3割以上の県民から専業主婦(主夫)として家事・育児等に専念できるよう十分な収入の確保を求める意見も出ている。

3. 男女がともに働きやすい職場づくりについて

◆問4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

(1) 理想に最も近いものは

今回新たに追加した質問である。

生活の中での、「仕事」と「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度について、理想に最も近いものについては、「ライフステージの変化に応じて、その都度考えたい」26.9%が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」を共に優先したい」24.8%、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」14.6%と続いている。

性別では「仕事」を優先したい」が男性7.1%、女性1.3%と男性の方が5.8ポイント高くなっているが、「家庭生活」を優先したい」では男性が10.4%、女性が15.6%と女性の方が5.2ポイント高くなっている。「ライフステージの変化に応じて、その都度考えたい」では男性20.9%、女性31.7%と女性の方が10.8ポイント高くなっている。

年代別では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が60歳代、70歳以上では30%を超えており、10歳代から50歳代までと比べて意識の差が大きくなっている。

(2) 現実（現状）に最も近いものは

「仕事」を優先している」が37.9%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」26.1%、「ライフステージの変化に応じて、その都度考えている（考えた）」11.0%と続いている。

年代別では、20歳代が「仕事」を優先している（優先した）」が52.7%と他の年代よりも高くなっているが、逆に「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（優先した）」は10.8%と、他の年代と比べ10ポイント以上少なくなっている。

◆問5 男女がともに働きやすくなるために必要なこと

(1) 家庭や地域において必要なこと

「家事・育児・介護などは男女を問わず分担し、協力すること」が72.4%ともっとも割合が高く、7割以上の県民が選択している。次いで、「地域に子育てや介護をするうえで助けてくれる人や支援・サービスがあること」48.1%、「家族が、女性が働くことについて理解すること」23.0%と続いている。

性別では、「家事・育児・介護などは男女を問わず分担し、協力すること」が男女とも最も高い割合であったが、男性62.8%、女性80.0%と17.2ポイントの差があり、男女の意識の差が大きいことが分かる。

(2) 企業と職場において必要なこと

「仕事と、子育てや介護の両立について、職場（上司・同僚・部下）の理解が得られること」（45.2%）と「育児・介護に関する休暇・休業等の制度が整っており、取得しやすい雰囲気があること」（44.0%）の2つの項目が、他の項目よりも割合が高い。

性別では、男性は「仕事と、子育てや介護の両立について、職場（上司・同僚・部下）の理解が得られること」が44.3%、女性では「育児・介護に関する休暇・休業等の制度が整っており、取得しやすい雰囲気があること」が46.9%と最も高くなっている。

男女ともに、育児休業や介護休業などの制度の充実だけではなく、実際に制度を使えるかどうか（職場の理解）を重要だと認識していることが分かる。

(3) 行政の取組において必要なこと

「柔軟に子どもを預かってくれる保育サービスが充実すること（一時預かり、ファミリー・サポート・センターなど）」（28.9%）、「介護サービスが充実すること」（26.8%）、「児童手当など子育てに関する経済的な支援が充実すること」（23.0%）、「出産や育児、介護等といった退職しても再就職の支援があること」（22.7%）の順になっている。

性別で見ると、男性では「介護サービスが充実すること」が29.1%、女性では「柔軟に子どもを預かってくれる保育サービスが充実すること（一時預かり、ファミリー・サポート・センターなど）」が29.8%と最も高くなっている。

4. ドメスティック・バイオレンス（夫婦・恋人間の暴力） / セクシュアル・ハラスメントについて

◆問6 配偶者・恋人からの行為に対する暴力の認識

身体に直接的な被害を及ぼす行為については、「どんな場合も暴力に当たる」を選択した割合が高く（約88%～96%）、「暴力の場合とそうでない場合がある」を合わせると、95%以上の県民が暴力だと認識している。

一方、身体に直接的な被害を及ぼさない精神的な行為等については、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が、身体に直接的な被害を及ぼす行為よりも高くなっているものの、90%近い県民が暴力だと認識している。

前回調査と比較すると、ほとんどの項目で前回調査時点よりも「暴力に該当する（「どんな場合も」「時により」）」と回答する割合が高くなっており、DVに対する県民の理解、認識がさらに高まっていることが伺える。

◆問7 DV経験の有無

今回の調査では、前回調査時の数値と比較して全ての項目でほぼ同じ割合となっているが、属性別でみた場合、居住地域別では、町村で「直接、経験したことがある」が、前回調査では27.6%、今回調査では19.3%と8.3ポイントの減少が見られる。

性別では、「直接、経験したことがある」は、男性17.1%、女性23.3%、「身近に見聞きしたことがある」は、男性42.7%、女性34.4%、「経験したこともないし、見聞きしたこともない」は、男性37.2%、女性40.7%となっている。

年代別では、10歳代、20歳代が「経験したこともないし、見聞きしたこともない」が他の年代より高率となっている。

◆問8 したこと、されたことのあるDV行為

それぞれの項目において、何らかのDV経験があると回答した割合（全体から「どちらでもない・無回答」の割合を引いたもの）は、「小バカにするようなことを言ったり、態度を取る」が71.3%、「大声でどなる、罵倒する」が65.8%、「素手で殴ったり、足でける」が46.8%の順で高率となっている。

いずれの項目も「した」より「された」の割合が高くなっており、加害者と被害者の間に認識の違いが見られる。

特に、「小バカにするようなことを言ったり、態度を取る」については、問6で「暴力の場合とそうでない場合がある」を選択した割合が41.1%と最も高いことから、自分の行っている行為はDVではないと認識して行っている可能性がある。

◆問8〈副問1〉 DV行為について相談した相手

DV行為について、打ち明けたり、相談した相手について複数回答で質問したところ、「どこ（だれ）にも相談しなかった」割合が48.7%（男性62.5%、女性41.3%）と最も高率であり、前々回と前回の調査では7.9ポイント減少していたが、今回の調査では前回調査（43.5%）と比較すると5.2ポイント増加している。

また、「家族・親せき（25.1%、前回29.2%）」、「友人・知人（29.6%、前回34.4%）」に相談等を行った割合は減少した一方、「警察（7.0%、前回2.4%）」に相談した割合は4.6ポイント増加していた。

「法務局・人権擁護委員」や、「県庁」等の公的機関への相談件数はいずれもゼロだった。

◆問8〈副問2〉 DV行為について相談しなかった理由

「相談するほどのことではないと思ったから」(40.2%、前回42.9%)が最も高率となっている。次いで、「相談しても解決しないので、無駄だと思ったから」(24.7%、前回24.2%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(21.6%、前回24.2%)と続いている。

性別では、女性は「相談しても解決しないので、無駄だと思ったから」(36.5%)が最も高率で、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」(34.6%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(26.9%)となっている。

一方男性は、「相談するほどのことではないと思ったから」(46.7%)が最も高率で、次いで「自分に悪いところがあると思ったから」(17.8%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(15.6%)であった。

◆問9 デートDV(交際相手からの暴力)、DV(配偶者等からの暴力)

DVや性暴力などの行為を予防し、なくすためには、何を行う必要があるのかを複数回答で質問したところ、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やし、窓口の周知を図る」が47.3%(男性46.9%、女性47.6%)と最も高率で、次いで「法律、制度の制定や見直しを行い、加害者への罰則を強化する」が42.8%(男性43.6%、女性42.4%)、「学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や暴力を防止するための教育を行う」が32.0%(男性29.6%、女性33.7%)となっている。

性別でみると、「DV被害者が自立して新たな生活を始めるための支援を強化する(衣食住の確保)」(25.9%)では、女性30.7%、男性19.9%と10.8ポイント差が、「地域で、防止啓発のための研修会、イベントなどを行う」(5.1%)では男性9.2%、女性1.9%と7.3ポイントの差が見られた他は、比較的近い割合であった。

◆問10 セクシュアル・ハラスメントだと思う行為

セクシュアル・ハラスメントに該当すると思う行為について複数回答で質問したところ、「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する」(85.5%、前回86.9%)、「相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体にさわる」(83.7%、前回80.2%)、「相手が嫌がっているのに、性的なことを話題にする」(77.4%、前回75.7%)の順であった。順位及び割合とも、前回調査時点と大きな変化は見られない。

一方、「宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する」(70.1%、前回61.9%)は8.2ポイント、「(女性にのみお茶くみや掃除をさせる等)性別による役割分担を強要する」(58.9%、前回49.8%)は9.1ポイント、「ヌードポスターやポルノ雑誌等を人目につくところに置く、飾る」(65.7%、前回58.7%)は7ポイント増えており、セクシュアル・ハラスメントに対する認識は全体的に高まってきていると考えられる。

性別でみると、「相手の容姿や服装に関してあれこれ言う」(男性56.4%、女性64.6%)や「結婚はまだか」や「子供はまだか」などたびたび聞く(男性56.4%、女性63.1%)や「ホモ」、「オカマ」、「レズ」等、相手の性的指向を話題にして、からかう(男性66.4%、女性73.0%)などの言葉に関するセクシュアル・ハラスメント認識において男女間の差が大きくなっている。

5. 男女共同参画の推進について

◆問11 男女共同参画関連用語等の周知度

最も認識が高かったのは、「セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)」で87.2%、次いで「DV(ドメスティック・バイオレンス)」83.5%と8割以上の県民が「内容を知っている」と回答した。その後は、「男女雇用機会均等法」(52.4%)、「カミングアウト」(49.4%)と続いた。

「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を足した割合では、「セクハラ」(96.5%)、「DV」(95.1%)、「男女雇用機会均等法」(83.9%)、「育児・介護休業法」(82.6%)の順で高くなっている。

「内容を知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が最も低かったのは、「クオーター制」(3.7%+18.2%)で、「アウトティング」(6.4%+17.8%)、「高知家の女性しごと応援室」(3.6%+23.1%)、「性的指向・性自認(SOG I)」(10.3%+25.1%)、「女子差別撤廃条約」(14.3%+26.3%)と続いている。

(ア) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）については、前回と比較して、「内容を知っている」（23.4%→38.3%）、「聞いたことはあるが内容は知らない」（26.7%→30.8%）の両方の割合が上がったため、全体としても19ポイントのアップとなっており、県民の周知度がより上昇していると見られる。

性別では、「知らない」と回答した割合は、女性（22.8%）の方が男性（26.5%）よりも3.7ポイント低くなっている。

年代別では、年代が低くなるほど「内容を知っている」と回答した割合が高くなる傾向にある。

(イ) DV（ドメスティック・バイオレンス）

DV（ドメスティック・バイオレンス）については、「内容を知っている」（83.5%、前回86.8%）と「聞いたことはあるが内容は知らない」（11.6%、前回6.8%）を足すと、95.1%の県民が周知している。

性別では、「内容を知っている」の割合は、女性（86.7%）の方が男性（79.6%）よりも高率である。

年代別では10歳代（73.3%）を除いて、年代が上がるほど周知度が下がる傾向があり、20歳代（89.9%）、30歳代（92.2%）、30歳代（90.2%）に対して、60歳代（80.9%）、70歳以上（69.2%）であった。

(ウ) セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）

セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）については、「内容を知っている」（今回87.2%、前回88.9%）の割合が最も高率で、「聞いたことはあるが内容は知らない」（今回9.3%、前回6.1%）を足すと、96.5%の県民が周知しており、前回調査時（平成26年度）よりも増加している。

性別では、「内容を知っている」では、女性（89.6%）が男性（84.4%）よりも高くなっている。

年代別では、「内容を知っている」の割合が、30歳代では92.2%、40歳代では94.8%と90%を超えている一方、70歳以上では75.2%と最も低くなっている。

(エ) こうち男女共同参画センター「ソーレ」

こうち男女共同参画センター「ソーレ」については、前回調査よりも周知度がダウンしており、「内容を知っている」の割合が34.5%から30.6%へと3.9ポイント減り、まだまだ十分周知されていないことが分かる。

年代別では、「内容を知っている」の割合が50歳代で37.0%と最も高くなっている一方、10歳代では11.1%と25.9ポイントの差がある。

結婚の有無別では、「内容を知っている」の割合が、結婚していないがパートナーと暮らしている層が45.5%と最も高くなっており、結婚していない層は25.2%と20.3ポイントの差がある。

居住地域別では、「内容を知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた割合は高知市で79.9%（34.6%+45.3%）と最も高く、最も低い高知市以外の市の61.5%（26.0%+35.5%）と比較すると18.4ポイントの差がある。

同居の子ども別では、大学生、専門学校生等と同居している層の周知度が50.0%と最も高く、小学生、中高生と同居している層では約30%と、20ポイント近い差がある。

(オ) クオータ制

クオータ制については、今回の調査項目の中で、「内容を知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合がともに最も低く、マスコミ等での露出度の低さからか、周知度は低くなっている。

また、「内容を知っている」の割合は前回調査が3.3%に対し、今回調査では3.7%とほぼ横ばいだが、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合は前回調査の15.3%に対し、今回調査では18.2%と2.9ポイント増加しており、「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた割合も、前回調査が18.6%に対し、今回調査では21.9%と3.3ポイント増加している。さらに、「知らない」と回答した割合も、前回調査の76.0%から今回調査の73.9%へと2.1ポイント減少している。

(カ) 女性相談支援センター

女性相談支援センターについては、「内容を知っている」(16.0%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(43.0%)合わせて59.0%となっており、前回調査よりも減少している。

性別では、女性(20.9%)の方が男性(9.7%)よりも「内容を知っている」割合が高くなっている。

年代別では年代が高くなるほど「内容を知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」を足した割合が高くなる傾向にある。

居住地域別では、「内容を知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」を足した割合は、高知市で64.9%(18.5%+46.4%)と最も高く、最も低い高知市以外の市の52.6%(13.3%+39.3%)と比較すると、12.3ポイント高くなっている。

同居の子ども別では、高校生、大学生、専門学校生等と同居している層と、当てはまる子どもはいない層の周知度は、未就学児、小学生、中学生と同居している層と比べると高くなっている。

(キ) 高知家の女性しごと応援室

高知家の女性しごと応援室については、前回調査と比較してもほぼ横ばいとなっている。

性別では、「内容を知っている」(男性3.1%、女性4.1%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(男性19.2%、女性26.1%)と女性の方が高くなっている。

年代別では、「知らない」が10歳代(84.4%)、20歳代(82.8%)で8割を超えている。また、最も多い10歳代(84.4%)と、最も少ない60歳代(63.3%)では21.1ポイントの差がある。

居住地域別では、「知らない」は町村(73.9%)が最も高く、最も少ない高知市(66.0%)と比較して7.9ポイントの差がある。

(ク) 女子差別撤廃条約

女子差別撤廃条約については、「内容を知っている」(14.3%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(26.3%)で、合わせて40.6%の周知度である。

性別による周知度の違いはほとんど無い。

年代別では、「内容を知っている」(35.6%)が10歳代で最も高くなっており、低い年代の方が周知度は高くなっている傾向にある。

(ケ) 男女雇用機会均等法

男女雇用機会均等法については、「内容を知っている」(52.4%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(31.5%)で合わせて83.9%の周知度である。なお、「内容を知っている」については、70歳以上で39.8%になっている他は、概ね50%から60%の周知度となっている。

(コ) 育児・介護休業法

育児・会議休業法については、「内容を知っている」(46.9%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(35.7%)で合わせて82.6%の周知度である。

年代別では、年代が高くなるほど「知らない」の割合が低くなっていく傾向にある。

結婚の有無別では、「内容を知っている」割合が、結婚していると結婚していない層では47%以上であるのに対し、結婚していないがパートナーと暮らしている層では27.3%と20ポイント近い差がある。

同居の子ども別では、同居している子どもの年齢が高くなるほど「内容を知っている」の割合が高くなっている。

(サ) 女性活躍推進法

今回新たに追加した質問である。

女性活躍推進法については、「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせたものが、「知らない」とほぼ同数となっており、男女差はほとんど見られない。

結婚の有無別では、結婚していない層で「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせたものが51.8%と最も高くなっている。

年代別では低い年代ほど「内容を知っている」の割合が高い傾向にある。

(シ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（いわゆるDV防止法）

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（いわゆるDV防止法）については、「内容を知っている」(28.1%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(49.8%)と、合わせて77.9%の周知度となっている。

性別に関しては、ほとんど差は見られない。

年代別では、「内容を知っている」の割合が、70歳以上(23.3%)で低く、10歳代、20歳代では30%を超えている。

同居の子ども別では、「内容を知っている」は、大学生、専門学校生等と同居している層が44.1%と最も高く、最も少ない小学生と同居している層の20.0%とは、24.1ポイントの差がある。また、子供の年齢が高いほど「内容を知っている」の割合が高くなる傾向にある。

(ス) 高知県男女共同参画社会づくり条例

高知県男女共同参画社会づくり条例については、「内容を知っている」5.7%、「聞いたことはあるが内容は知らない」38.3%で、約半数が「知らない」と回答している。

性別に関しては、ほとんど差は見られない。

年代別では、「内容を知っている」では年代による差は見られないが、「聞いたことはあるが内容は知らない」では10歳代(28.9%)、20歳代(31.3%)、30歳代(32.0%)の割合が低く、40歳代(44.3%)、50歳代(40.8%)、60歳代(40.7%)では高くなっている。

(セ) 性的少数者（いわゆるLGBTなど）

今回新たに追加した質問である。

性的少数者（いわゆるLGBTなど）については、「内容を知っている」43.0%、「聞いたことはあるが内容は知らない」27.0%、「知らない」26.3%と回答している。

男女差による大きな違いはない。

年代別では、「内容を知っている」が20歳代(57.6%)で最も高く、最も低い70歳以上(24.1%)と比べると33.5ポイントの差がある。

結婚の有無別では、「内容を知っている」が結婚していない層(51.5%)で最も高く、最も低い結婚していないがパートナーと暮らしている層(18.2%)と比べると33.3ポイントの差がある。

(ソ) 性的指向・性自認（SOGI）

今回新たに追加した質問である。

性的指向・性自認（SOGI）については、「知らない」が60.8%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」25.1%、「内容を知っている」10.3%となっており、全般的に認知度は低い。

性別では、女性(62.6%)の方が男性(58.3%)より、「知らない」と回答した割合が多い。

年代別では、「知らない」の割合が30歳代(67.2%)と70歳以上(67.7%)で高い割合となっている。

結婚の有無別では、結婚していないがパートナーと暮らしている層が「内容を知っている」という回答が0%となっている。

同居の子ども別では、未就学児と同居している層で、80%が「知らない」と回答している。

(タ) カミングアウト

今回新たに追加した質問である。

カミングアウトについては、「内容を知っている」が 49.4%、「聞いたことはあるが内容は知らない」は 22.7%と、合わせて 72.1%と周知度は高い。

性別では、「内容を知っている」の割合が、男性 (45.5%) よりも女性 (52.4%) の方が高くなっている。

年代別では、40 歳代 (66.7%) が最も高く、一番低い 70 歳以上 (20.3%) とでは 46.4 ポイントの差がある。

結婚の有無別では、「知らない」の割合が、結婚していないがパートナーと暮らしている層で 54.5%と最も高く、結婚をしている層 (25.5%)、結婚をしていない層 (21.6%) と比較すると倍以上の差となっている。

同居の子ども別では、「内容を知っている」と回答した割合は高校生と同居している層が 69.0%と最も高く、最も低い大学生、専門学校生等と同居している層の 47.1%と比較して 21.9 ポイントの差がある。

(チ) アウティング

今回新たに追加した質問である。

アウティングについては、「知らない」が 71.9%と高く、周知度は低い状態である。

性別では、男女による差はほとんど無い。

年代別では、10 歳代で「知らない」が 82.2%と最も高い。また、高い年代ほど「内容を知っている」の回答の割合が低くなる傾向にある。

結婚の有無別では、「内容を知っている」の割合が、結婚していないがパートナーと暮らしている層で 0%となっている。

同居の子ども別では、高校生と同居している層では、「内容を知っている」(10.3%) と「聞いたことはあるが内容は知らない」(20.7%) を合わせた割合が他よりも 10 ポイント前後高くなっている。

◆問 12 男女共同参画社会実現のために力を入れていくべきこと

今まで以上に男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきか、複数回答で質問したところ、「労働時間を短縮するなど、性別にとらわれず家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること」(36.7%)、「性別やジェンダーに基づくさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」(32.9%)、「誰もが平等に人権が尊重されるために、ジェンダーや性の多様性などについて相互理解を深めるための学習機会を充実すること」(31.1%) と続いた。

性別では、「性別にとらわれず、誰もが生活者としての家事能力を身につけること」(男性 24.4%、女性 33.3%) で 8.9 ポイント差、「法律や制度の面で見直しを行い、性別やジェンダーに基づく差別につながるものを改めること」(男性 29.4%、女性 22.2%) で 7.2 ポイント差、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(男性 20.1%、女性 27.0%) で 6.9 ポイント差が見られたほかは、大きな男女差は認められなかった。

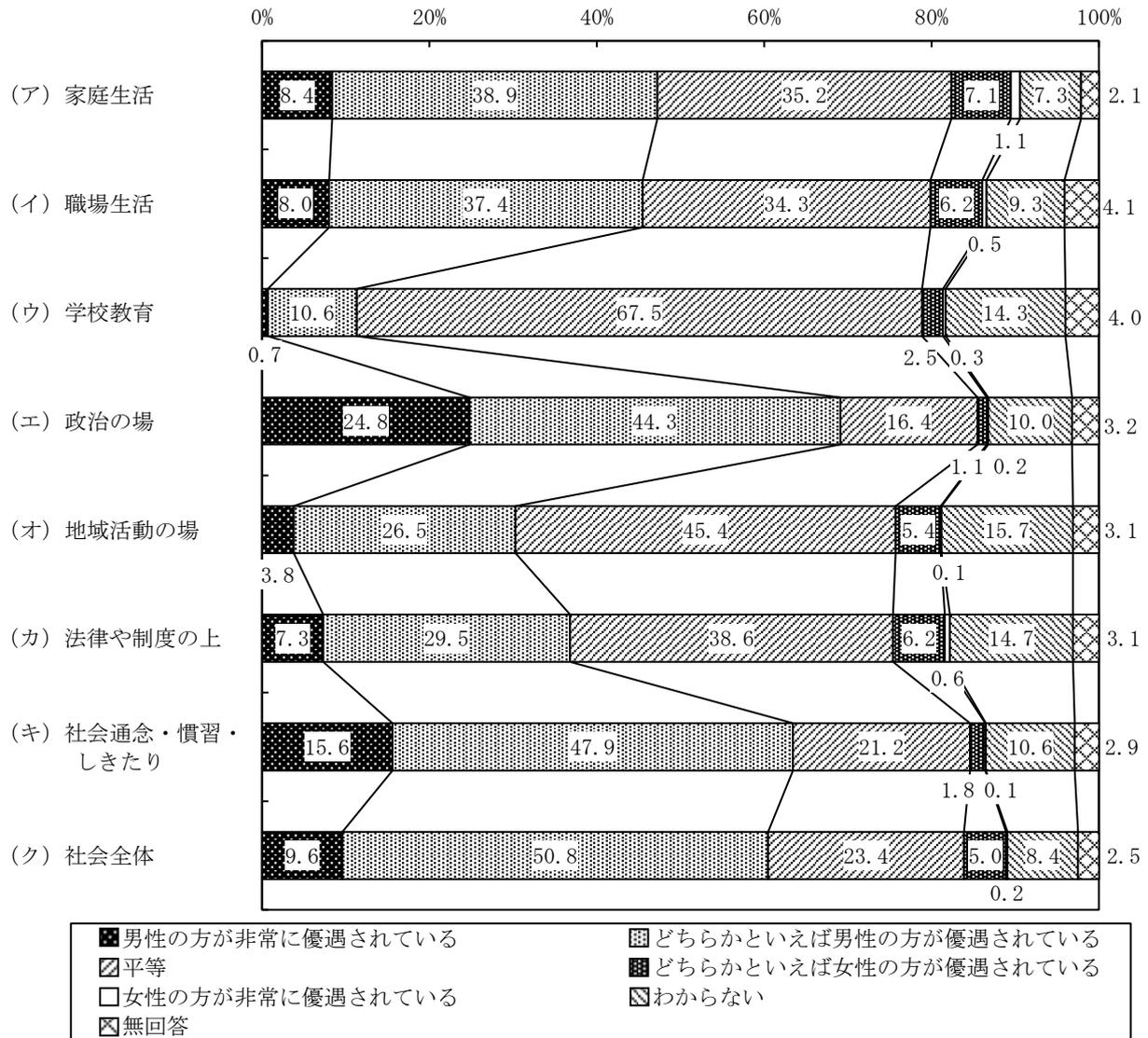
V 調査結果

[解説・グラフ]

◆ 1. 男女共同参画に関する意識について

問1 次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 ((ア)から(ク)まで、あなたの気持ちに最も近い番号(1~6)に1つだけ○印【全員回答】
 [N=964、選択数:各1]

図表1-1 分野別の男女平等意識「全体」
 [総合: N=964、選択数:各1]



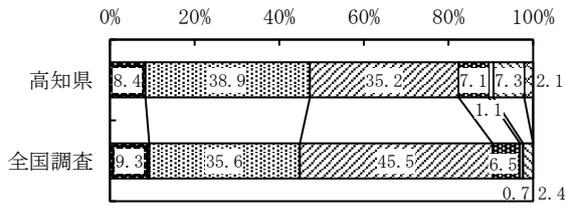
実生活における各分野での男女平等に関する意識については、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を足したもの。以下同。）の割合が最も高いのが、「政治の場」で69.1%を占めており、前回調査（71.4%）と比較すると約2.3ポイント減っている。次いで「社会通念・慣習・しきたり（63.5%、前回70.8%）」は7.3ポイント、「社会全体（60.4%、前回66.0%）」は5.6ポイント減少が見られた。

また、男女平等と感じている割合が高いのは、「学校教育（67.5%、前回71.0%）」「地域活動の場（45.4%、前回43.2%）」「法律や制度の上（38.6%、前回37.7%）」の順になっている。

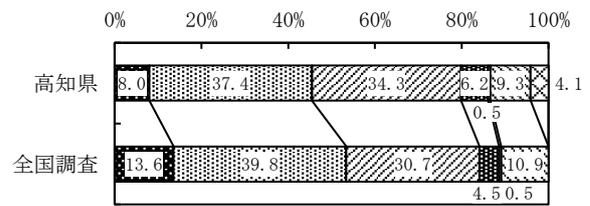
なお、いずれの項目も、「平等」と回答した割合は、女性よりも男性の方が高かった。

図表1-2 分野別の男女平等意識（全国調査※との比較） [高知：N=964、全国：N=2,645、選択数：各1]

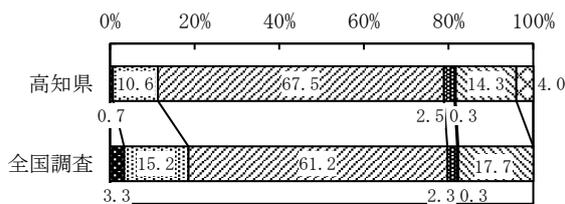
(ア) 家庭生活



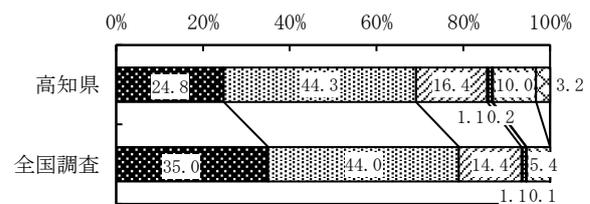
(イ) 職場生活



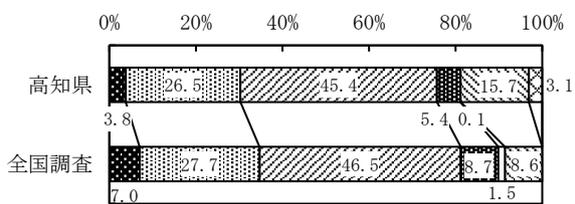
(ウ) 学校教育



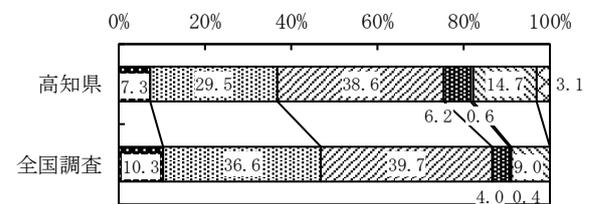
(エ) 政治の場



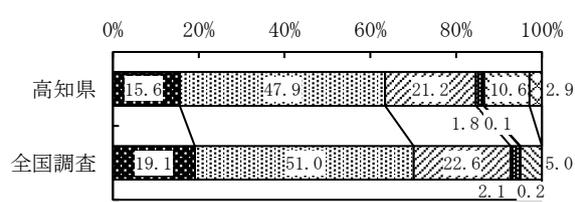
(オ) 地域活動の場



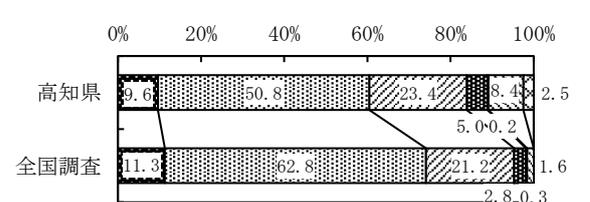
(カ) 法律や制度の上



(キ) 社会通念・慣習・しきたり



(ク) 社会全体



※「全国調査」出典：

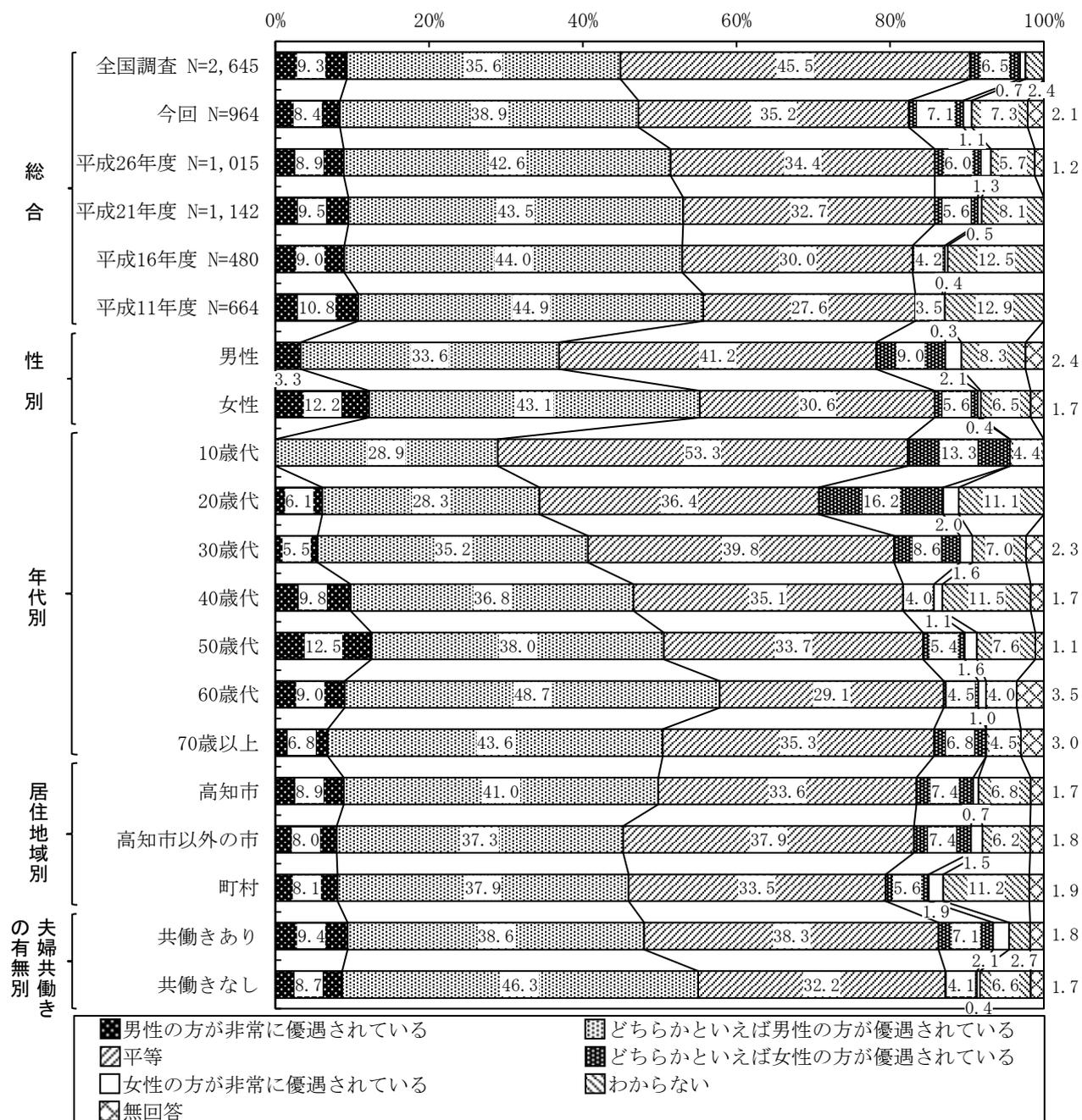
令和元年度「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府男女共同参画局調べ）

全国調査と比較すると、『男性優遇』の割合が、「家庭生活」（47.3%、全国44.9%）では、2.4ポイント高知県の方が高いものの、他の項目では全国の割合の方が高い。

また、「平等」と答えた人の割合が全国より高いのは、「職場生活」（34.3%、全国30.7%）、「学校教育」（67.5%、全国61.2%）、「政治の場」（16.4%、全国14.4%）、「社会全体」（23.4%、全国21.2%）の四分野となっている。

(ア) 家庭生活

図表 1-3 分野別の男女平等意識「家庭生活」 [総合：N=964、選択数：1]

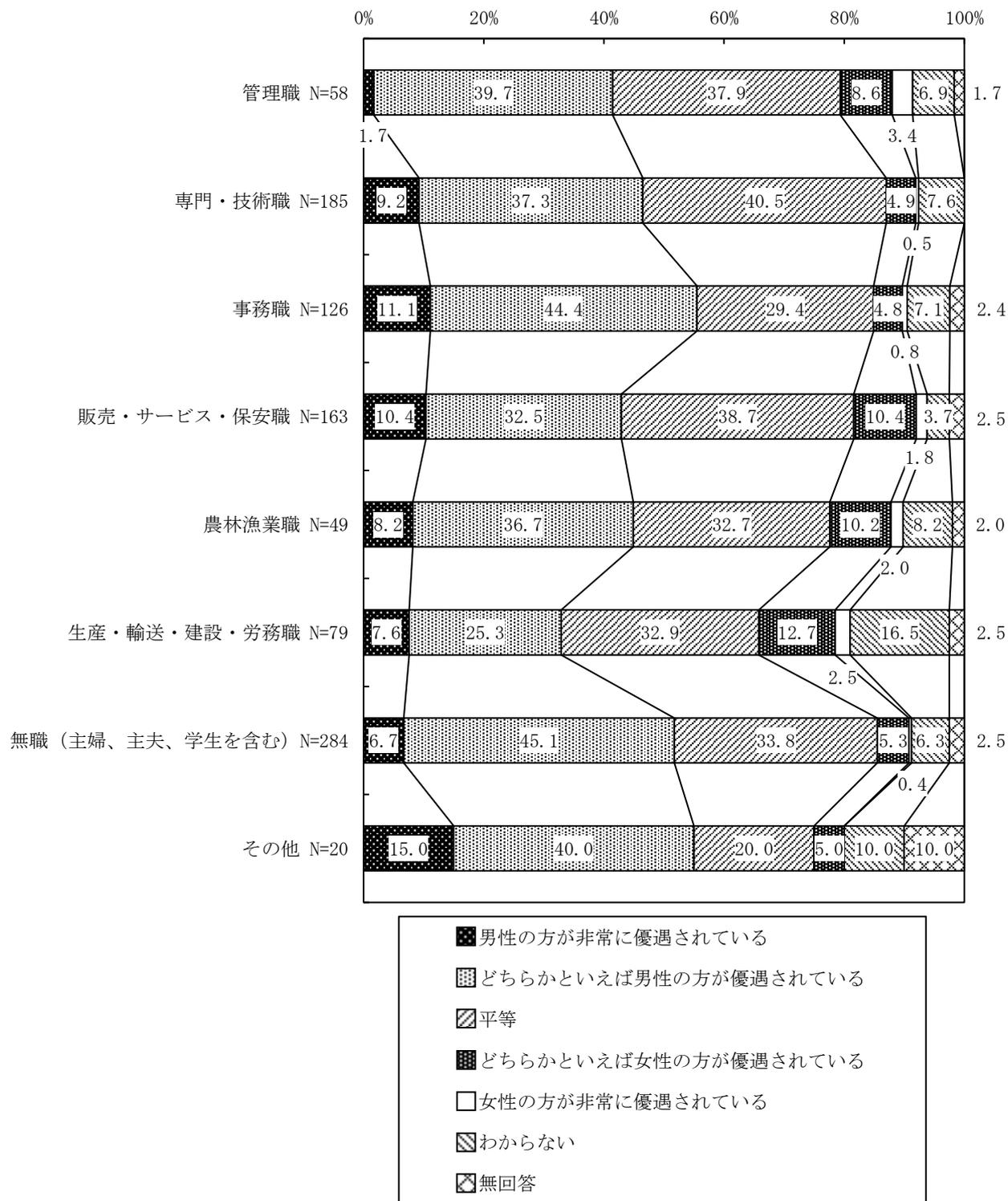


家庭生活では、平成11年度調査からほぼ一貫して『男性優遇』の割合が下がり、「平等」の割合が上がっている。他の項目に比べて、男女による認識の差が大きく、男性が『男性優遇』が36.9% (3.3%+33.6%) であったのに対して、女性は『男性優遇』が55.3% (12.2%+43.1%) で、18.4ポイント差が見られた。また「平等」だと回答した割合も、男性が41.2%であったのに対して、女性は30.6%と認識に差が見られた。前回調査では、『男性優遇』(男性38.1%、女性63.6%)、「平等」(男性45.6%、女性24.6%)であったことから、男女間の意識の隔たりがわずかながら減少していると言える。

女性の20歳代では、『女性優遇』の割合は、平成26年度の9.7% (8.8%+0.9%) と比較して、今年度は18.2% (16.2%+2.0%) と2倍近く上昇している。

なお、年代別で見ると、若い世代ほど『男性優遇』の割合が低くなっており、「平等」の割合が比較的高い傾向にあることから、家庭における男女平等の意識が高まってきていることが伺える。

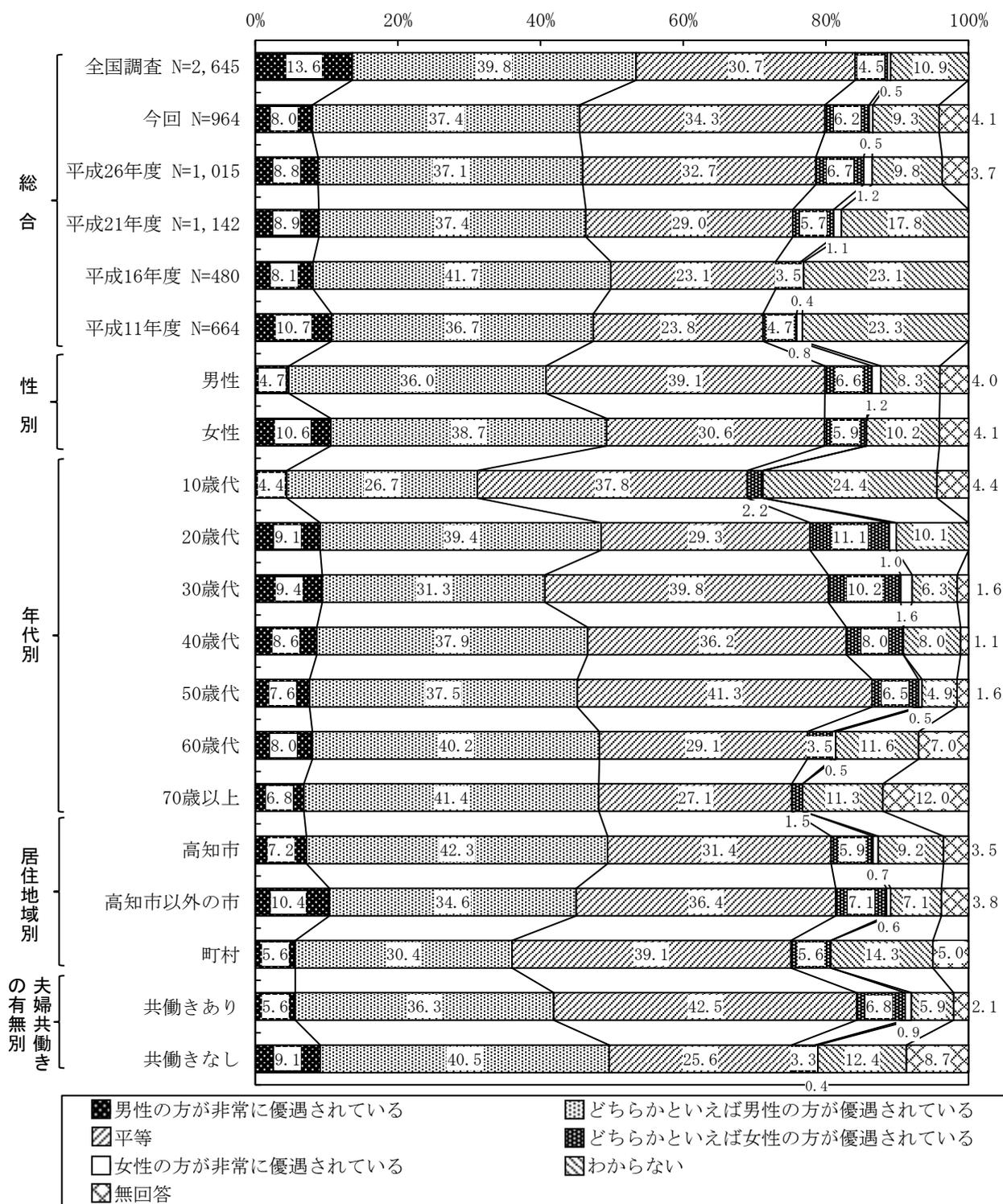
図表 1-4 分類別の男女平等意識「家庭生活」(職業別) [職業別：N=964、選択数：1]



職業別でみると、『男性優遇』の割合が最も低いのは「生産・輸送・建設・労務職 (32.9%)」で、平等意識については「専門・技術職 (40.5%)」が最も高くなっている。一方、『男性優遇』の割合が最も高かったのは、「事務職 (55.5%)」であった。

(イ) 職場生活

図表 1-5 分野別の男女平等意識「職場生活」 [総合：N=964、選択数：1]

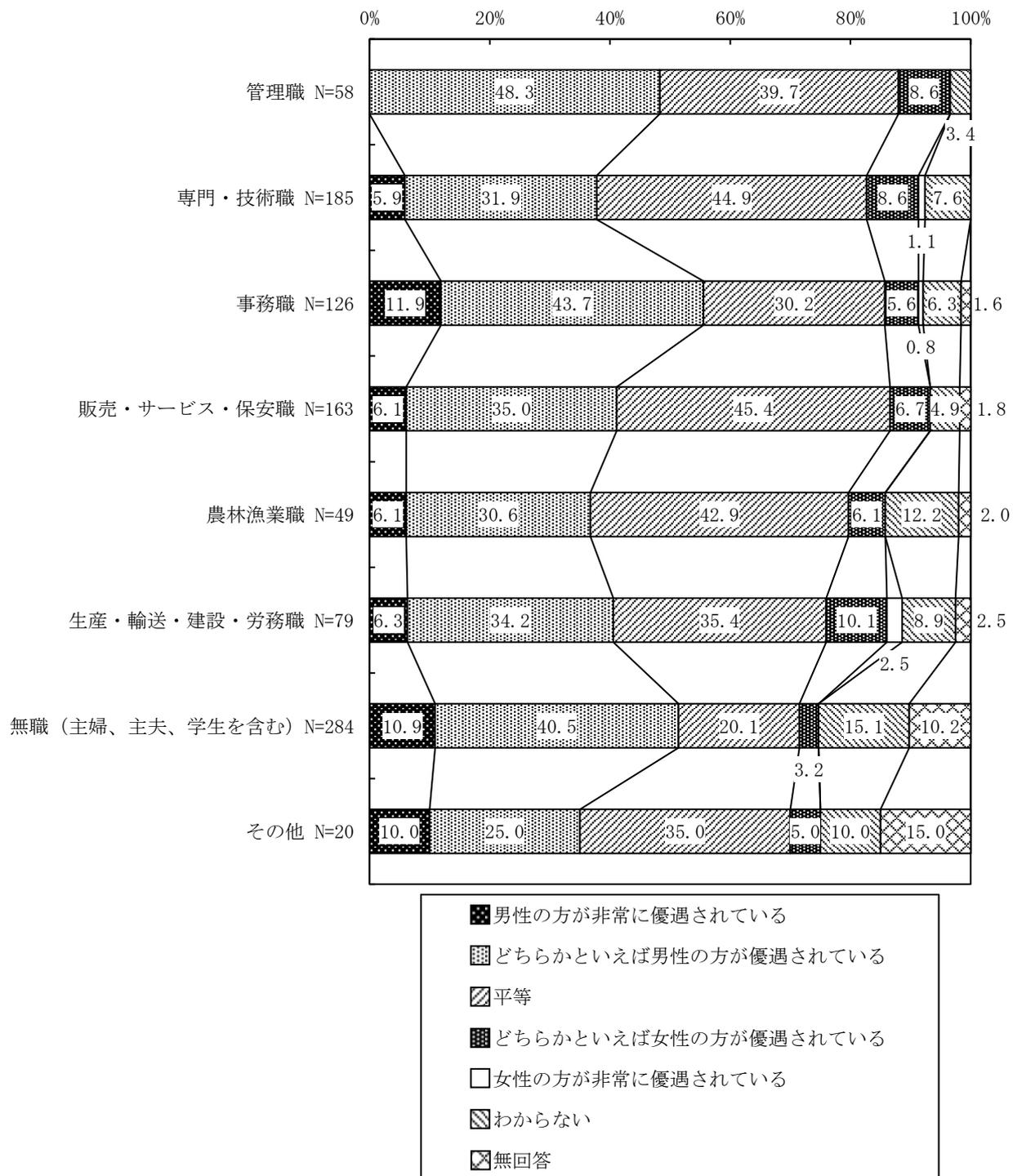


職場生活では、平成11年度の調査結果と比較すると『男性優遇』の割合は減っているが、平成21年度以降は、ほぼ横ばいの状態が続いている。ただし、「わからない」の割合が減り、「平等」とした割合はわずかながら増加傾向にある。

性別では、『男性優遇』が男性40.7%、女性49.3%と8.6ポイント差、「平等」が男性39.1%、女性30.6%と8.5ポイント差となっており、前回の調査時よりもポイントの開きが減少している。

夫婦共働きの有無別では、共働きありの層が『男性優遇』41.9%、「平等」42.5%であったのに対し、共働きでないの層は『男性優遇』49.6%、「平等」25.6%となっており、共働きありの家庭の方の平等意識が高いことがわかる。

図表1-6 分野別の男女平等意識「職場生活」(職業別) [職業別：N=964、選択数：1]

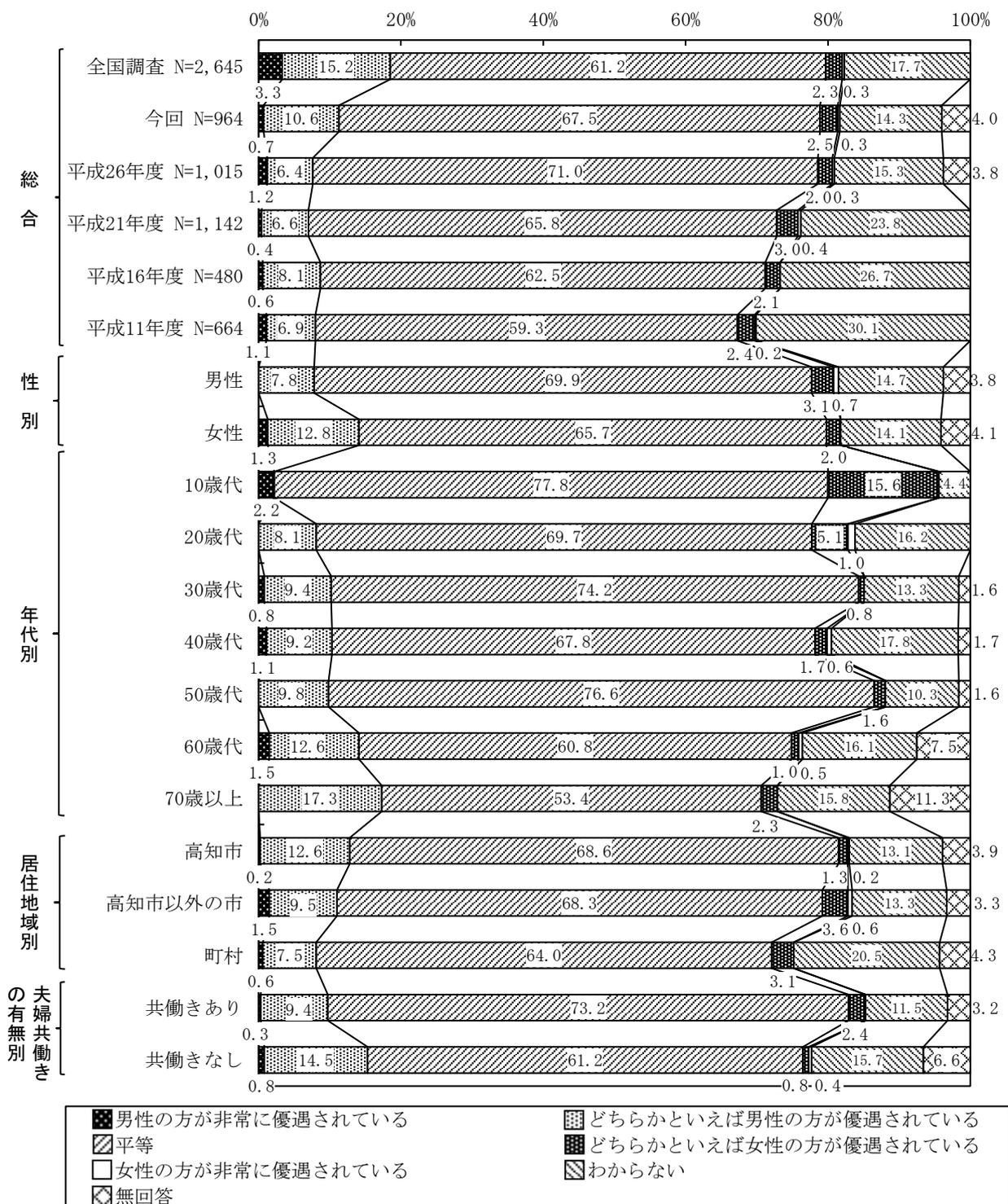


『男性優遇』の割合が低いのは、「その他」(35.0%) が最も低く、次いで「農林漁業職」(36.7%) となっている。一方、『男性優遇』の割合が高いのは、「事務職」(55.6%)、「無職(主婦、主夫、学生を含む)」(51.4%) となっている。

「平等」の割合が高いのは「販売・サービス・保安職」(45.4%) で、次いで「専門・技術職」(44.9%) となっている。

(ウ) 学校教育

図表 1-7 分野別の男女平等意識「学校教育」 [総合：N=964、選択数：1]



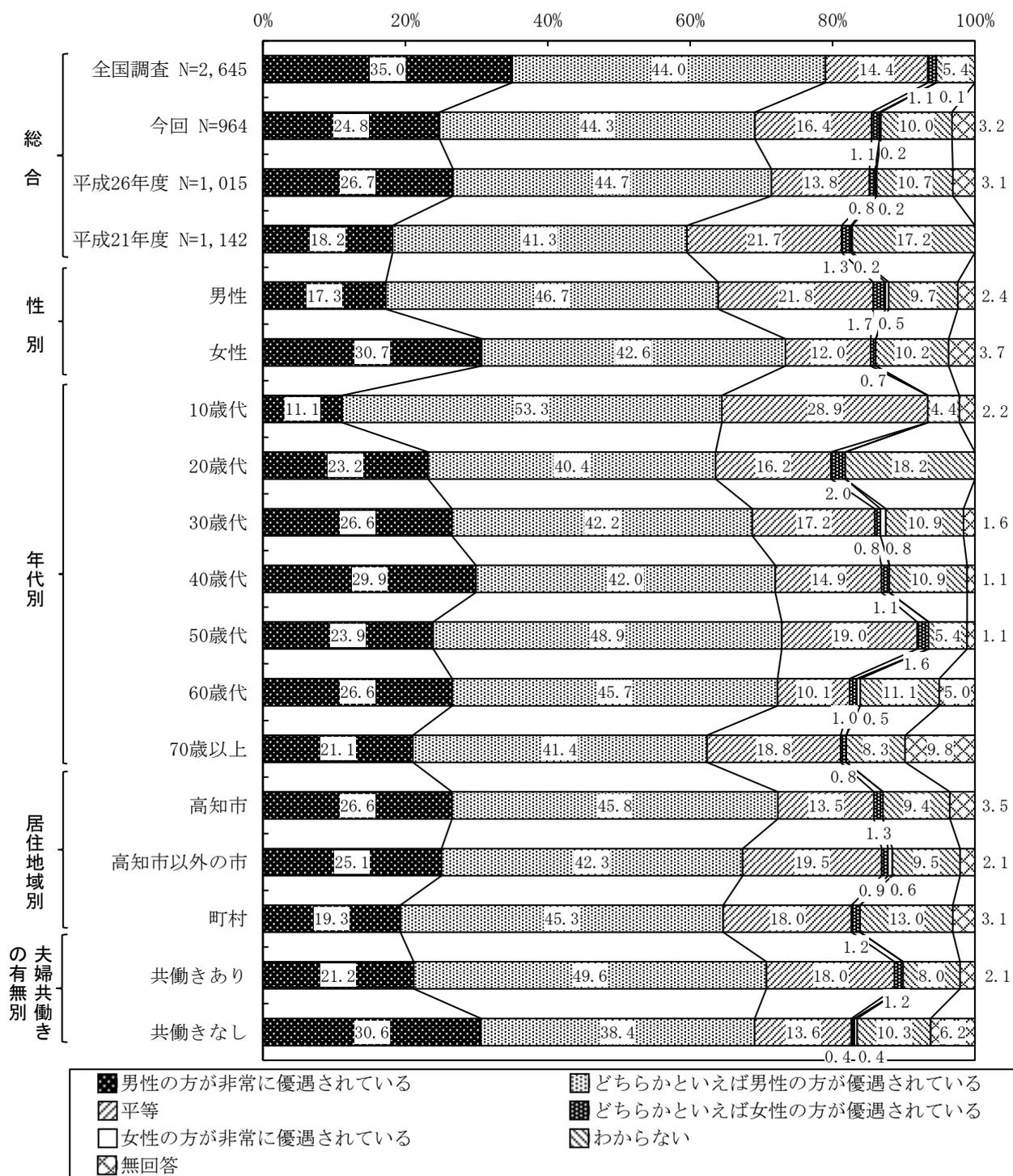
学校教育では、平成26年度に比べ、『男性優遇』の割合が3.7ポイント増えており、「平等」の割合が3.5ポイント減少している。全国と比較すると、『男性優遇』の割合は低く（県11.3%、全国18.5%）、「平等」の割合が高い（県67.5%、全国61.2%）。

また、『男性優遇』の平成26年度の60歳代（1.7%+4.2%）、70歳以上（2.3%+4.5%）の割合が、今年度では60歳代が（1.5%+12.6%）、70歳以上が（17.3%）と10ポイント近く増加している。

70歳以上の層で「平等」の割合が53.4%になっている他は、いずれの層でも7割前後が「平等」を選択しており、最も平等意識が高い項目となっている。

(工) 政治の場

図表 1-8 分野別の男女平等意識「政治の場」 [総合：N=964、選択数：1]



政治の場では、『男性優遇』の割合が最も高い分野である。しかし、前回調査と比較した場合、『男性優遇』の割合が2.3ポイント減少し、『平等』が前回調査よりも2.6ポイント増加している。

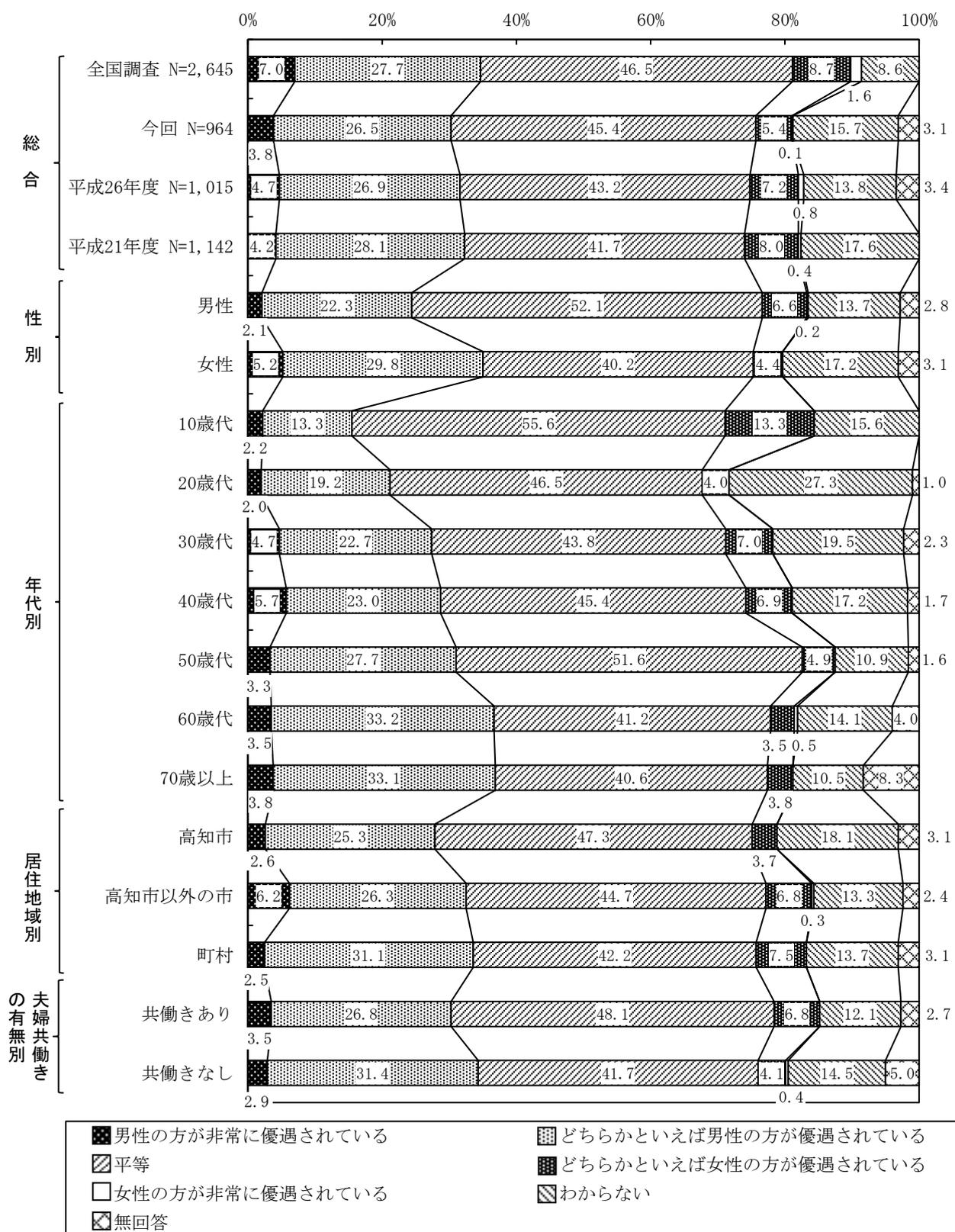
性別では、「男性の方が非常に優遇されている」（男性17.3%、女性30.7%）、「平等」（男性21.8%、女性12.0%）で男女間に違いが見られる。

年代別では、各年代で『男性優遇』の割合が6割を超えており、40歳代、50歳代、60歳代では7割を超えている。

夫婦共働きの有無別では、「男性の方が非常に優遇されている」の割合を見ると、今回調査時（9.4ポイント差）の方が、前回調査時（1.9ポイント差）より差は増加している。

(オ) 地域活動の場

図表 1-9 分野別の男女平等意識「地域活動の場」 [総合：N=964、選択数：1]

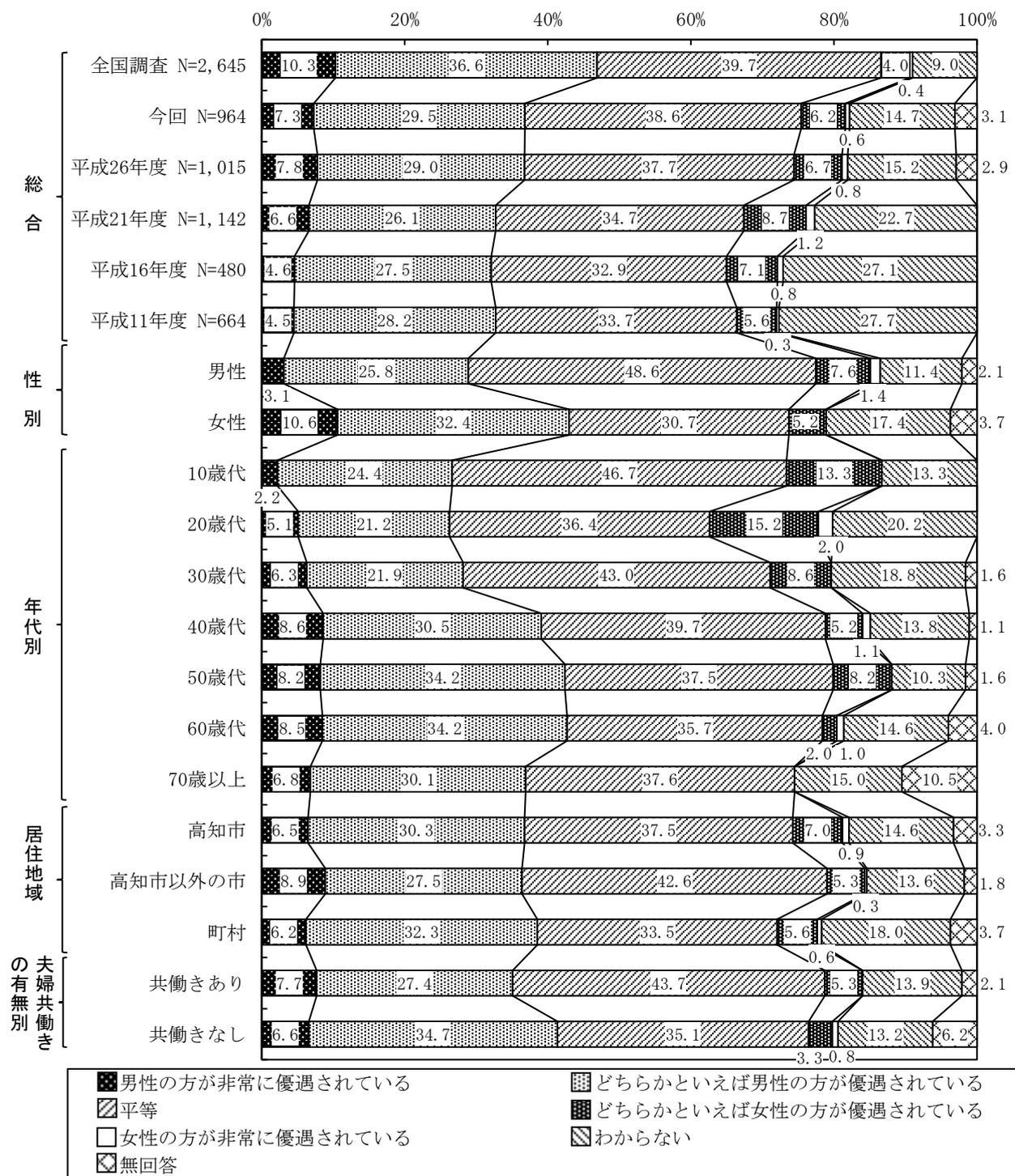


地域活動の場では、前回調査と比較していずれもほぼ横ばいの状態で、ほとんど変化は見られず、「平等」(45.4%)は「学校教育」分野に次いで高い。

性別では、『男性優遇』10.6ポイント(男性24.4%、女性35.0%)、「平等」11.9ポイント(男性52.1%、40.2%)と男女差が見られ、また、年代別では、『男性優遇』の割合が若い世代ほど低くなっている。

(カ) 法律や制度の上

図表 1-10 分野別の男女平等意識「法律や制度の上」 [総合：N=964、選択数：1]



法律や制度の上では、総合では、『男性優遇』の割合が平成26年度とほぼ同じ割合となっている。

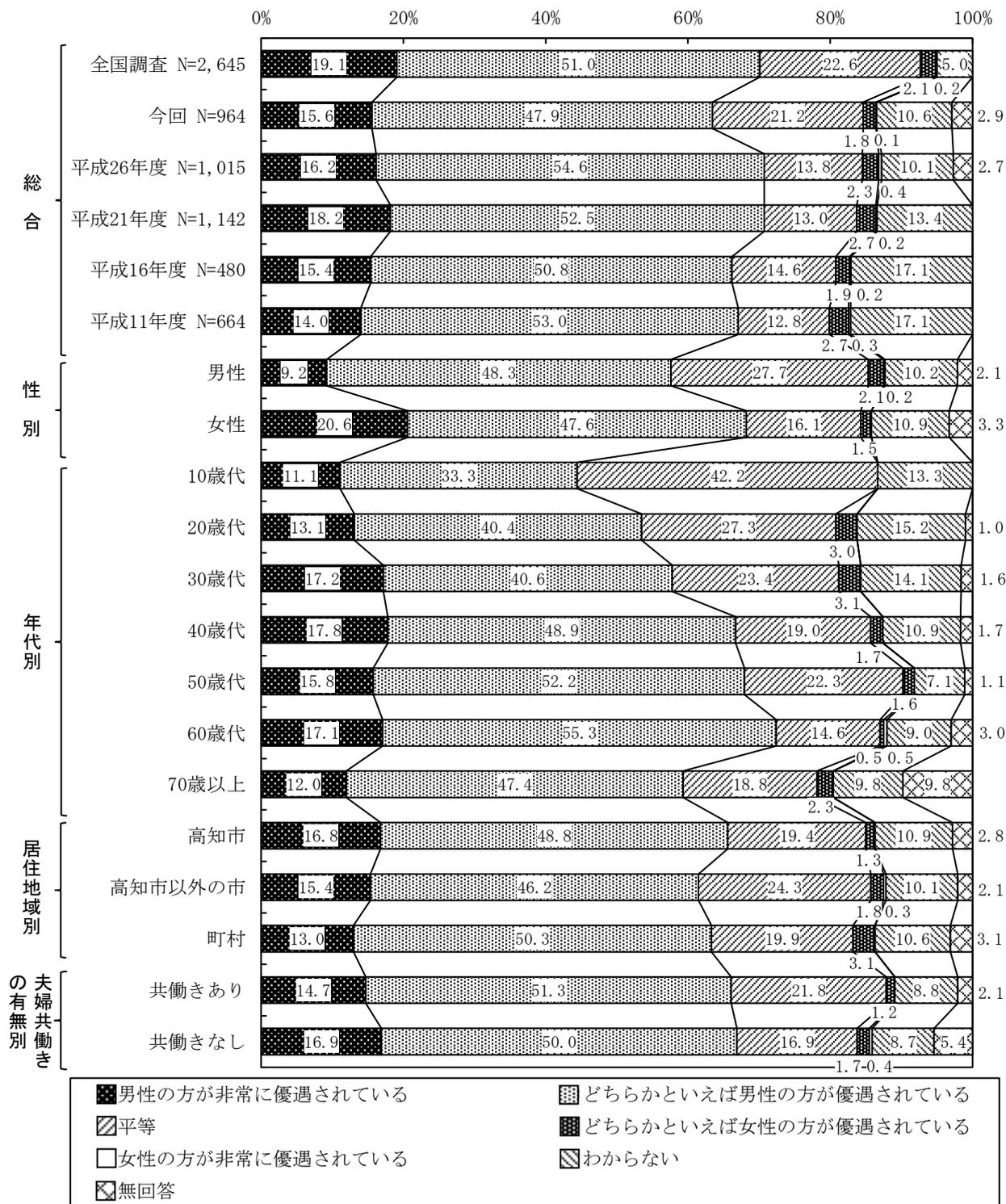
また、『男性優遇』と回答した割合の男女差は、前回調査では、22.5ポイントであったが、今回調査では14.1ポイントと8.4ポイント減少している。

性別では、『男性優遇』とした割合が男性の(3.1%+25.8%)に対し、女性は(10.6%+32.4%)と14.1ポイントの差がある。一方、『平等』とした割合は、女性が30.7%であるのに対して、男性は48.6%と逆転している。

年代別でみると、10歳代、20歳代、30歳代は『男性優遇』とした割合が30%を下回っているが、40歳代は39.1%、50歳代、60歳代は約42%、70歳以上は36.9%と高くなっている。

(キ) 社会通念・慣習・しきたり

図表 1-11 分野別の男女平等意識「社会通念・慣習・しきたり」 [総合：N=964、選択数：1]

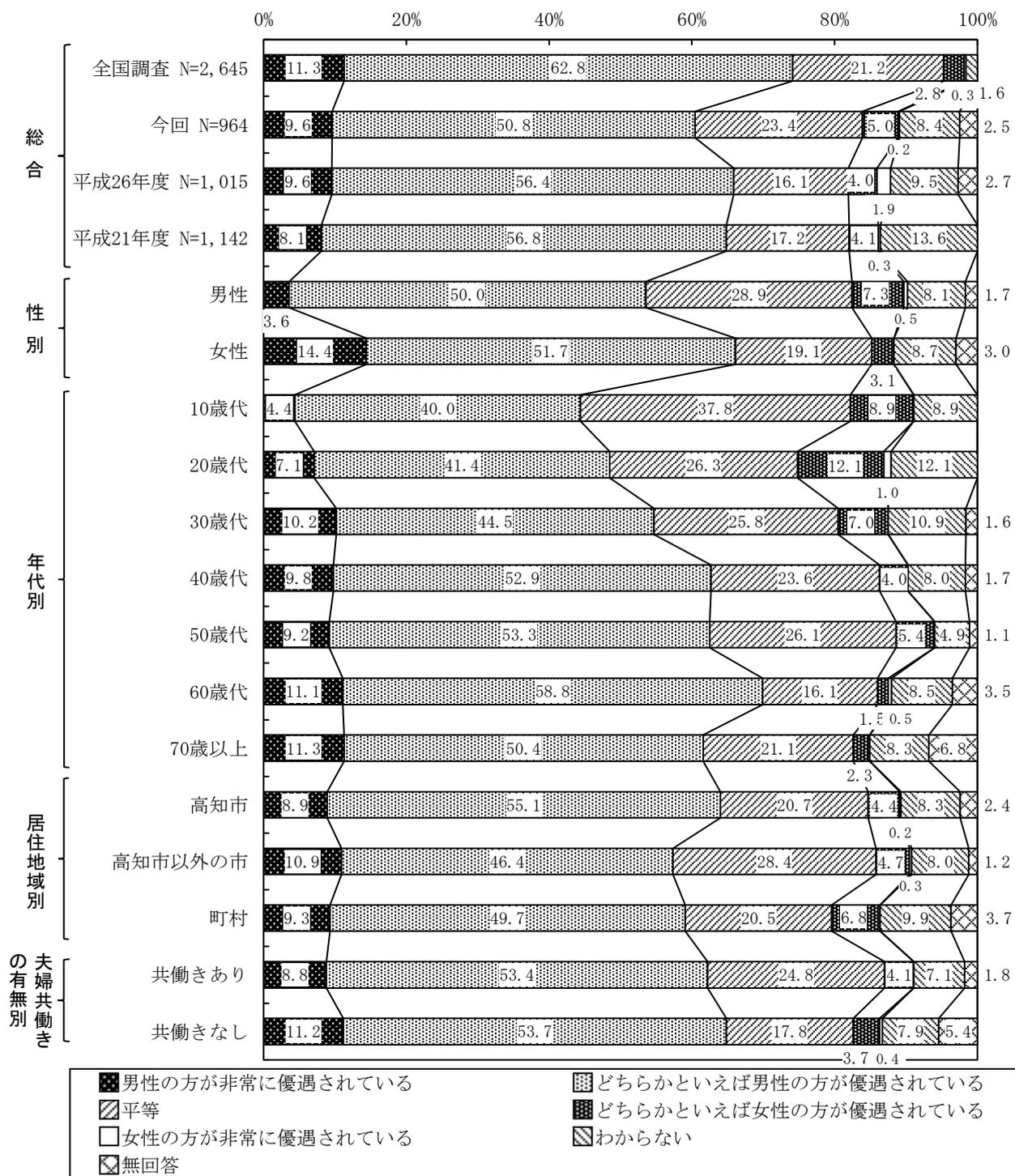


社会通念・慣習・しきたりでは、「政治の場」に次いで『男性優遇』の割合が高い。だが、平成11年度調査以降では『男性優遇』の割合が最も減少しており、前回の調査時より7.3ポイント減少している。

性別では、『男性優遇』が男性(9.2%+48.3%)、女性(20.6%+47.6%)と10.7ポイント差が生じている。「平等」の意識は、男性27.7%、女性16.1%で、11.6ポイント差があるものの、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合では、男性48.3%、女性47.6%と、大きな差は見られない。

(ク) 社会全体

図表 1-12 分野別の男女平等意識「社会全体」 [総合：N=964、選択数：1]

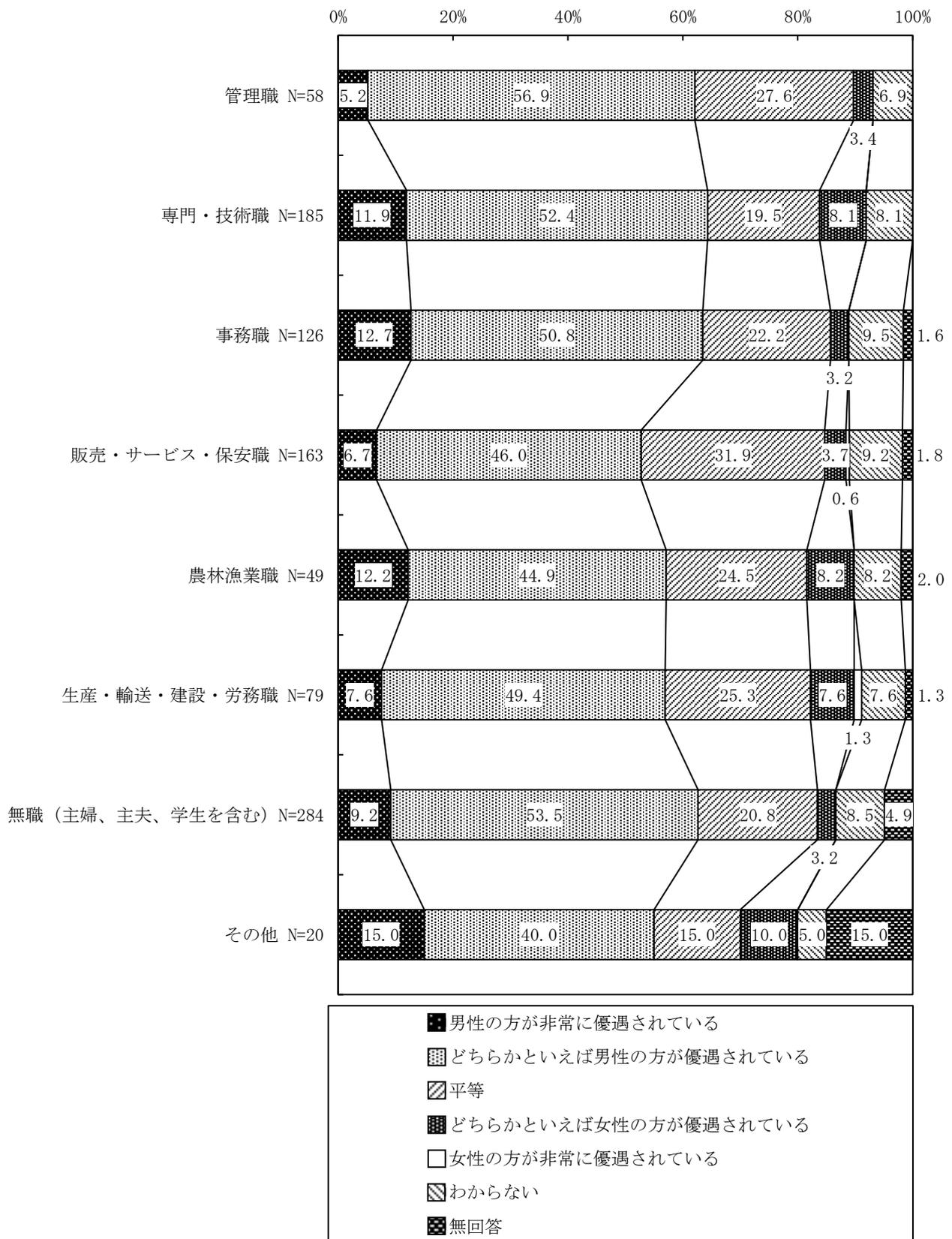


社会全体では、全般的に『男性優遇』の割合が高くなっているが、60.4% (9.6%+50.8%) が『男性優遇』としており、前回調査結果 (65.8%) と比較して5.4ポイント減少している。「平等」と答えた割合 (23.4%) が前回 (16.1%) より7.3ポイント増えている。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」では、今回 (50.8%) は、前回調査 (56.4%) に比べ、5.6ポイント減少している。

性別では、『男性優遇』は男性53.6% (3.6%+50.0%)、女性66.1% (14.4%+51.7%)、「平等」と感じているのは、男性28.9%、女性19.1%と男女差が見られる。

年代別では、『男性優遇』と回答した割合は、一番高い60歳代の69.9% (11.1%+58.8%) に対し一番低い10歳代は44.4% (4.4%+40.0%) と25.5ポイントの差があり、若い世代ほど低くなっている傾向にある。

図表 1-13 分野別の男女平等意識「社会全体」(職業別) [職業別：N=964、選択数：1]



職業別では、『男性優遇』の割合は、専門・技術職（11.9%+52.4%）と事務職（12.7%+50.8%）が高く、「平等」の割合が最も高いのは、販売・サービス・保安職（31.9%）であった。

◆ 2. 家庭生活について

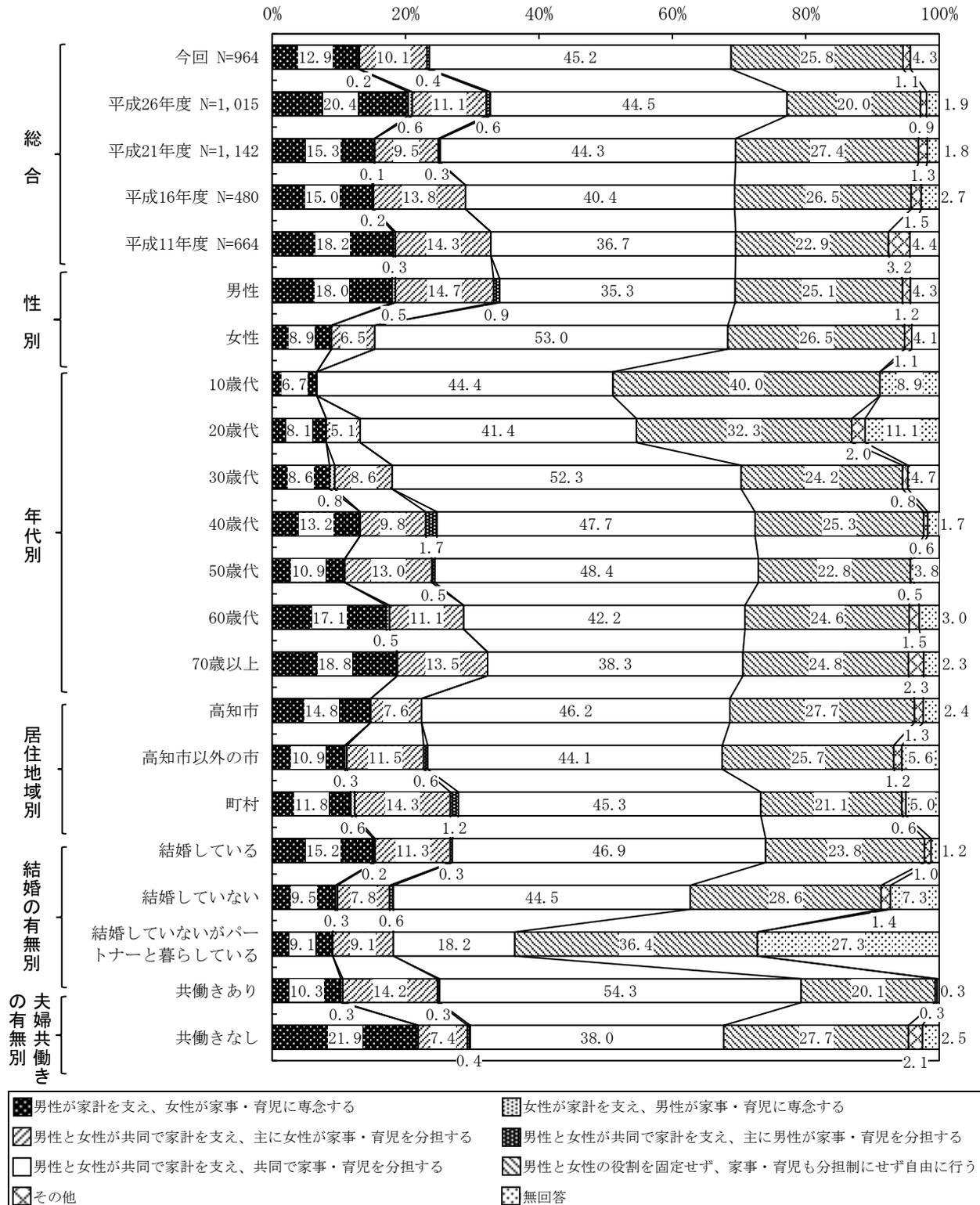
★ (1) は全員、(2) は結婚している (またはしたことがある) 方のみお答えください。

問2 家庭生活における男女の役割分担の理想と現実について伺います。

(1) あなたの理想に最も近いものはどれですか。(1つだけ○印)【全員回答】

[N=964、選択数：1]

図表2 (1) - 1 家庭生活における男女の理想的な役割分担 [総合：N=964、選択数：1]



[※平成26年度以前の調査では、今回調査における選択肢の「男性」が「夫」、「女性」が「妻」となっている。]

前回調査とは選択肢が多少異なる（夫→男性、妻→女性に変更）ため、単純な比較はできないが、家庭生活における男女の理想の役割分担としては、「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」（45.2%、前回44.5%）を選択した県民が最も多く、「男性と女性の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う」（25.8%、前回20.0%）、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」（12.9%、前回20.4%）など、2位以下を大きく引き離れた。

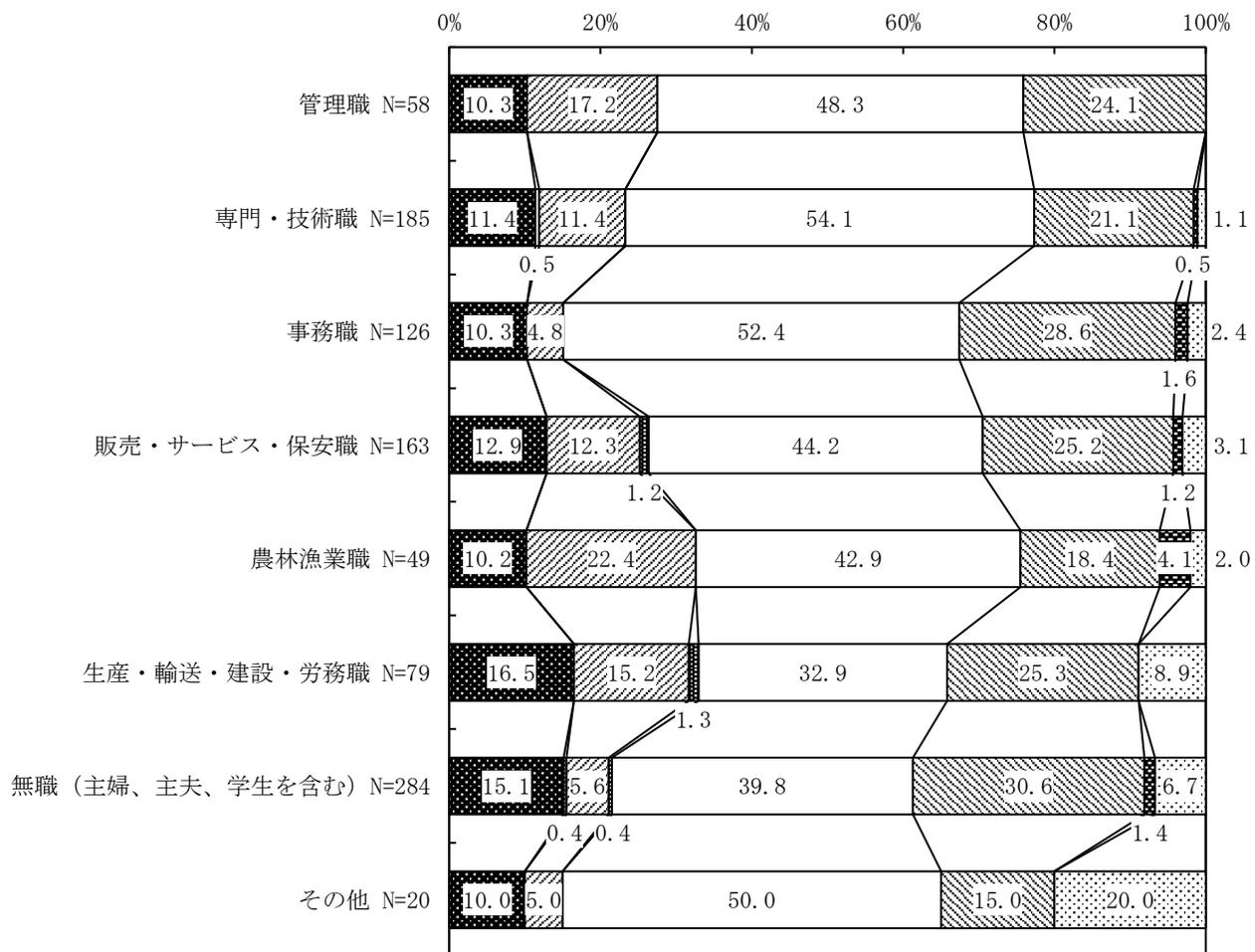
平成26年度と比較して見てみると、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」（12.9%、前回20.4%）が7.5ポイント減少し、「男性と女性の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う」（25.8%、前回20.0%）が5.8ポイント増加している。

年代別では、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」割合は、年代が低くなるにつれ割合も減っていく傾向にある。「男性と女性の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う」は30歳代から70歳以上が約25%に対して10歳代では40.0%、20歳代では32.3%と違いが見られる。

夫婦共働きの有無別では、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」（共働きあり10.3%、共働きなし21.9%）と、「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」（共働きあり54.3%、共働きなし38.0%）に違いが見られる。

図表2（1）－2 家庭生活における男女の理想的な役割分担（職業別）

〔職業別：N=964、選択数：1〕

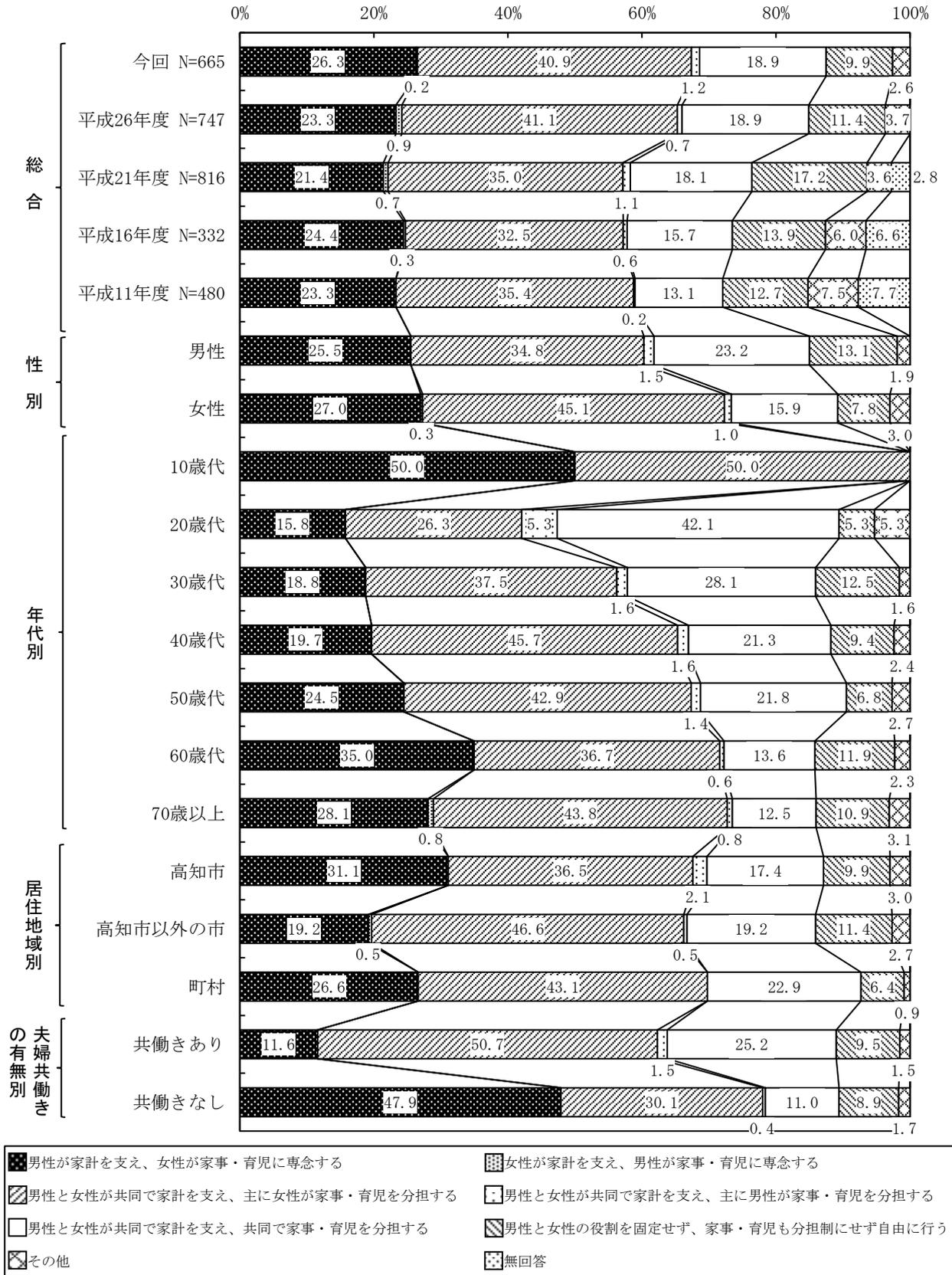


男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する
 女性が家計を支え、男性が家事・育児に専念する
 男性と女性が共同で家計を支え、主に女性が家事・育児を分担する
 男性と女性が共同で家計を支え、主に男性が家事・育児を分担する
 男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する
 男性と女性の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う
 その他
 無回答

〔※平成26年度以前の調査では、今回調査における選択肢の「男性」が「夫」、「女性」が「妻」となっている。〕

問2 (2) あなたの家庭での実際の役割分担に最も近いものはどれですか (どれでしたか)。(1つだけ○印)
 【結婚している (またはしたことがある) 方のみ回答】 [N=665、選択数: 1]

図表2 (2) - 1 家庭生活における男女の現実の役割分担 [総合: N=665、選択数: 1]



※平成26年度以前の調査では、今回調査における選択肢の「男性」が「夫」、「女性」が「妻」となっている。
 ※10歳代はサンプル数が少ないので参考値。

前回調査とは選択肢が多少異なるため、単純な比較はできないが、家庭生活における男女の現実の役割分担は、「男性と女性が共同で家計を支え、主に女性が家事・育児を分担する」(40.9%、前回 41.1%)、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」(26.3%、前回 23.3%)、「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」(18.9%、前回 18.9%) の順になっている。

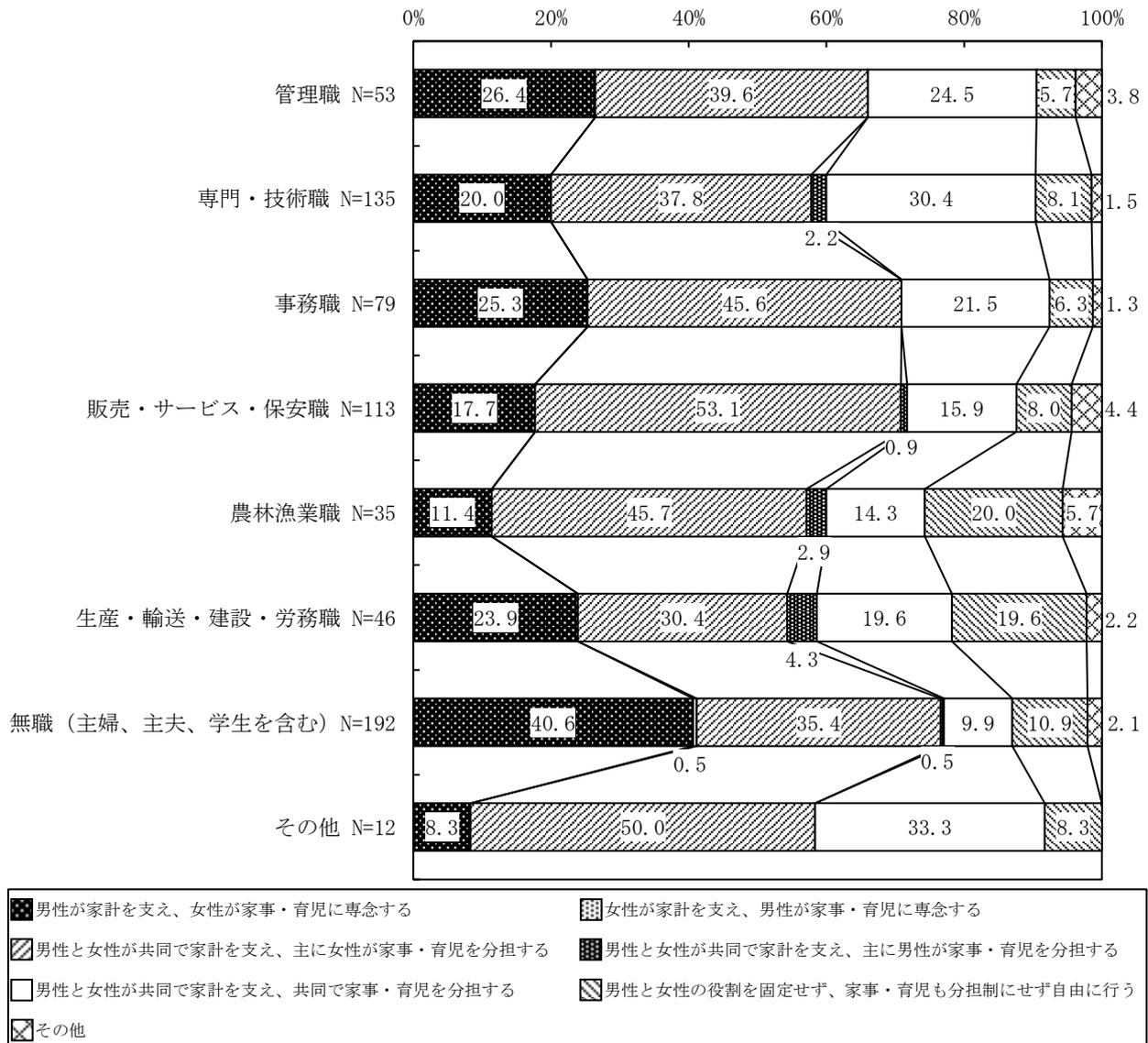
平成 11 年度からの経年変化を見てみると、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」が平成 21 年度に一度減少したが、以降は増加傾向にある。一方、「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」についても増加傾向が見られる。

年代別では、年代が高くなるほど「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」の割合が高くなっており、60 歳代では 35.0%となっている。一方、若い世代ほど「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」の割合が高い傾向にあり、共働きで家事を分担している様子が伺える。

居住地域別では、高知市以外の市で「男性と女性が共同で家計を支え、主に女性が家事・育児に専念する」の割合が 46.6%と最も高く、逆に「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」の割合は低くなっている。

夫婦共働きの有無別で見ると、共働きありの層でも、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」(11.6%)と、「男性と女性が共同で家計を支え、主に女性が家事・育児を分担する」(50.7%)を合わせた 62.3%が、女性が家事を担っている状況にある。

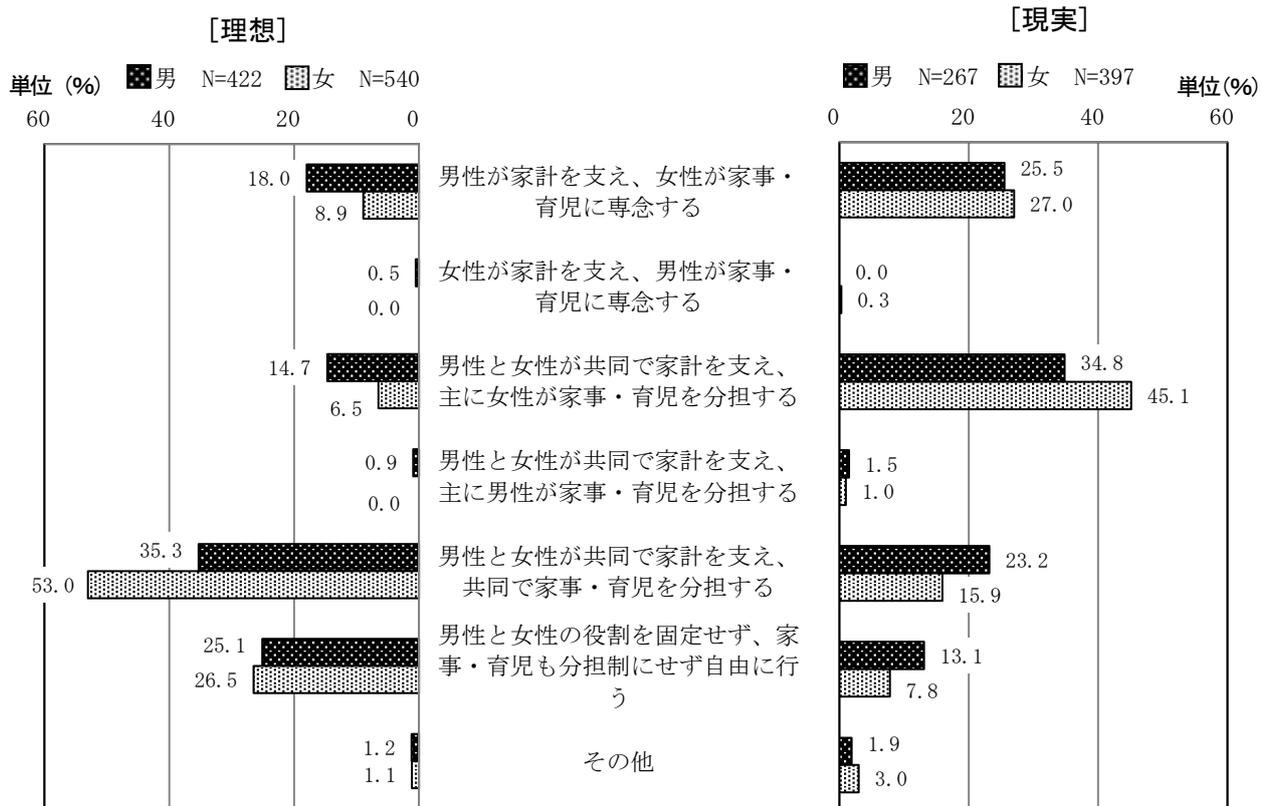
図表 2 (2) - 2 家庭生活における男女の現実の役割分担 (職業別) [職業別 : N=665、選択数 : 1]



[※平成 26 年度以前の調査では、今回調査における選択肢の「男性」が「夫」、「女性」が「妻」となっている。]

図表2（2）－3 家庭生活における男女の役割分担の理想と現実（性別）

〔結婚している（またはしたことがある）方（男性（N=267）、女性（N=397））、選択数：1〕



〔※平成26年度以前の調査では、今回調査における選択肢の「男性」が「夫」、「女性」が「妻」となっている。〕

前回調査とは選択肢が多少異なるため、単純な比較はできないが、結婚している（または結婚したことのある）県民を対象に、家庭生活における男女の役割分担の理想と現実を比較した。

理想の役割分担については、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」では、前回調査では男性26.6%、女性17.0%だったが、今回調査では男性18.0%、女性8.9%と、男女とも8ポイント以上減少している。

「男性と女性の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う」では前回では、男性は16.9%だったが、今回は25.1%と8.2ポイント増加している。

今回調査では、「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」では、（男性35.3%、女性53.0%）の割合が男女とも最も高く、次いで「男性と女性の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う」（男性25.1%、女性26.5%）、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」（男性18.0%、女性8.9%）と続いた。

一方、現実の働き方では、「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」の男性の割合が、前回調査では21.2%だったが、今回調査では25.5%と4.3ポイント増加している。

今回調査では、「男性と女性が共同で家計を支え、主に女性が家事・育児を分担する」（男性34.8%、女性45.1%）が最も高く、次いで「男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する」（男性25.5%、女性27.0%）、「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」（男性23.2%、女性15.9%）」の順であった。

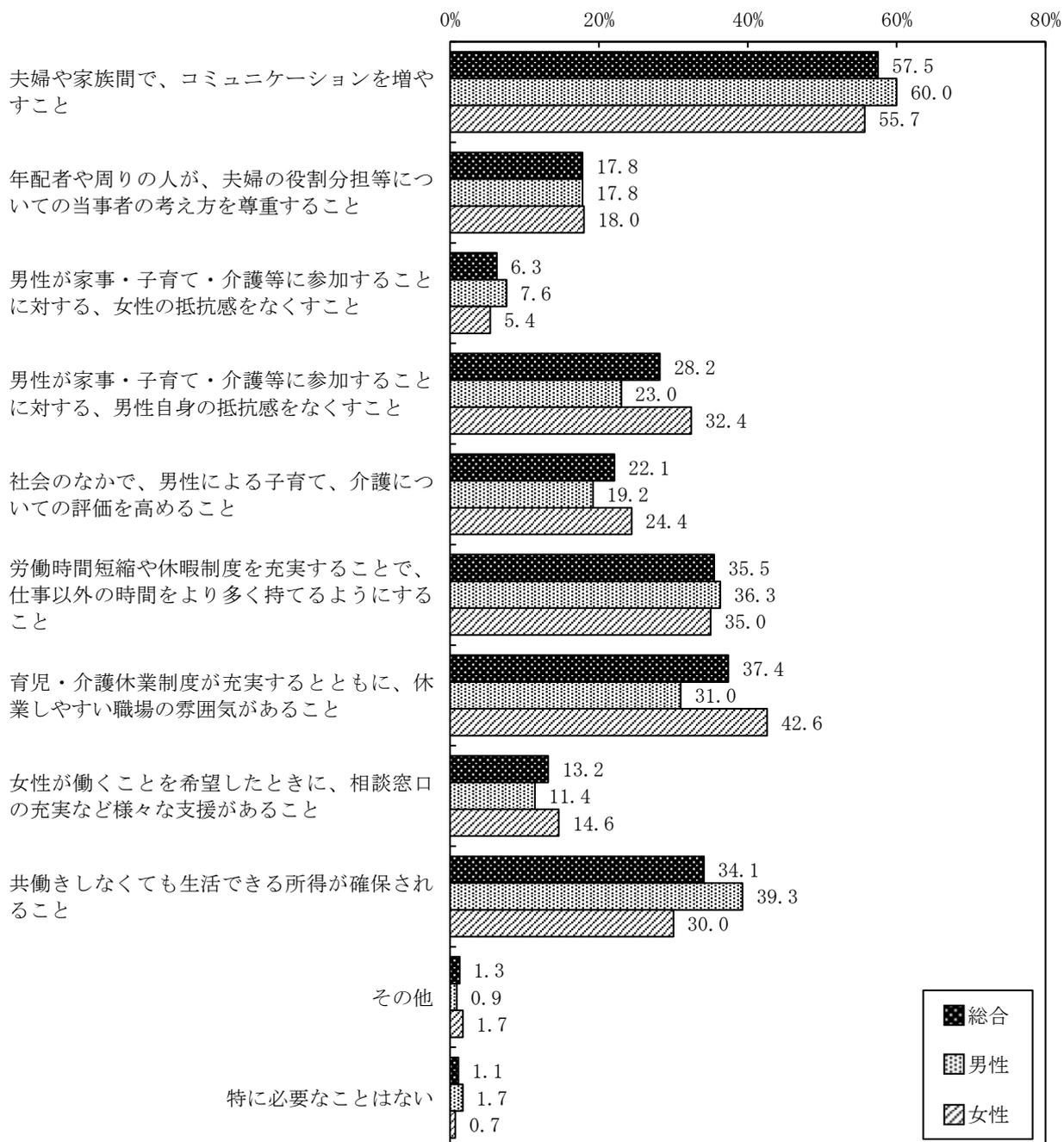
「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」姿を男女とも最も高率で理想的としたが、実際には、「男性と女性が共同で家計を支え、主に女性が家事・育児を分担する」割合が最も高くなっており、女性に家事と育児の負担がかかっていると言える。

問3 あなたが考える理想的な男女の役割分担が実現するためには、どんなことが必要だと思いますか。

(3つまで○印)【全員回答】

[N=964、選択数：3つ以内]

図表3-1 家庭生活における男女の理想的な役割分担実現に必要なこと [総合(N=964)、選択数：3つ以内]

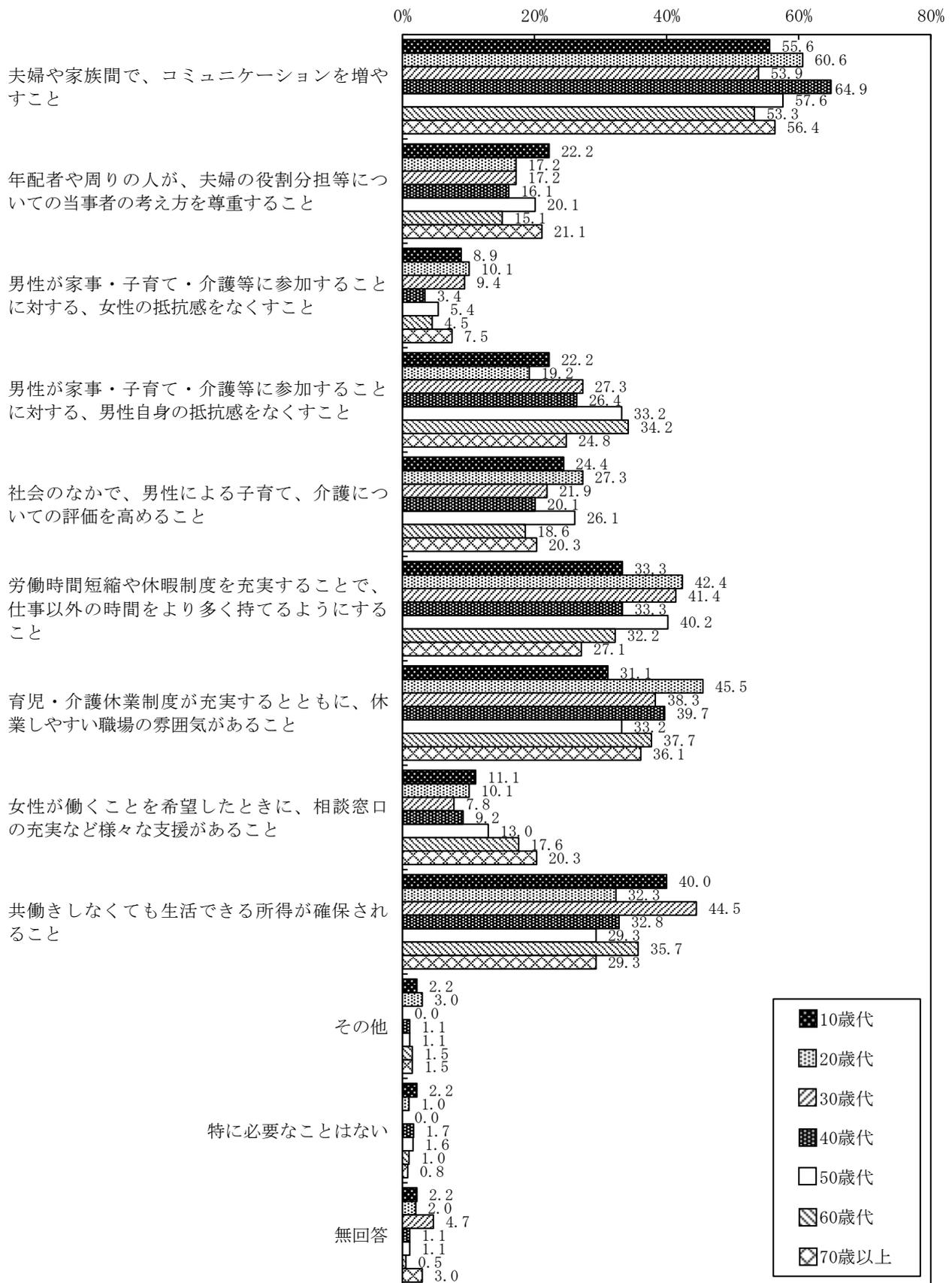


家庭生活における男女の理想的な役割分担を実現するために必要だと考えることを複数回答で確認したところ、6割近くもの県民が「夫婦や家族間で、コミュニケーションを増やすこと」と回答している。

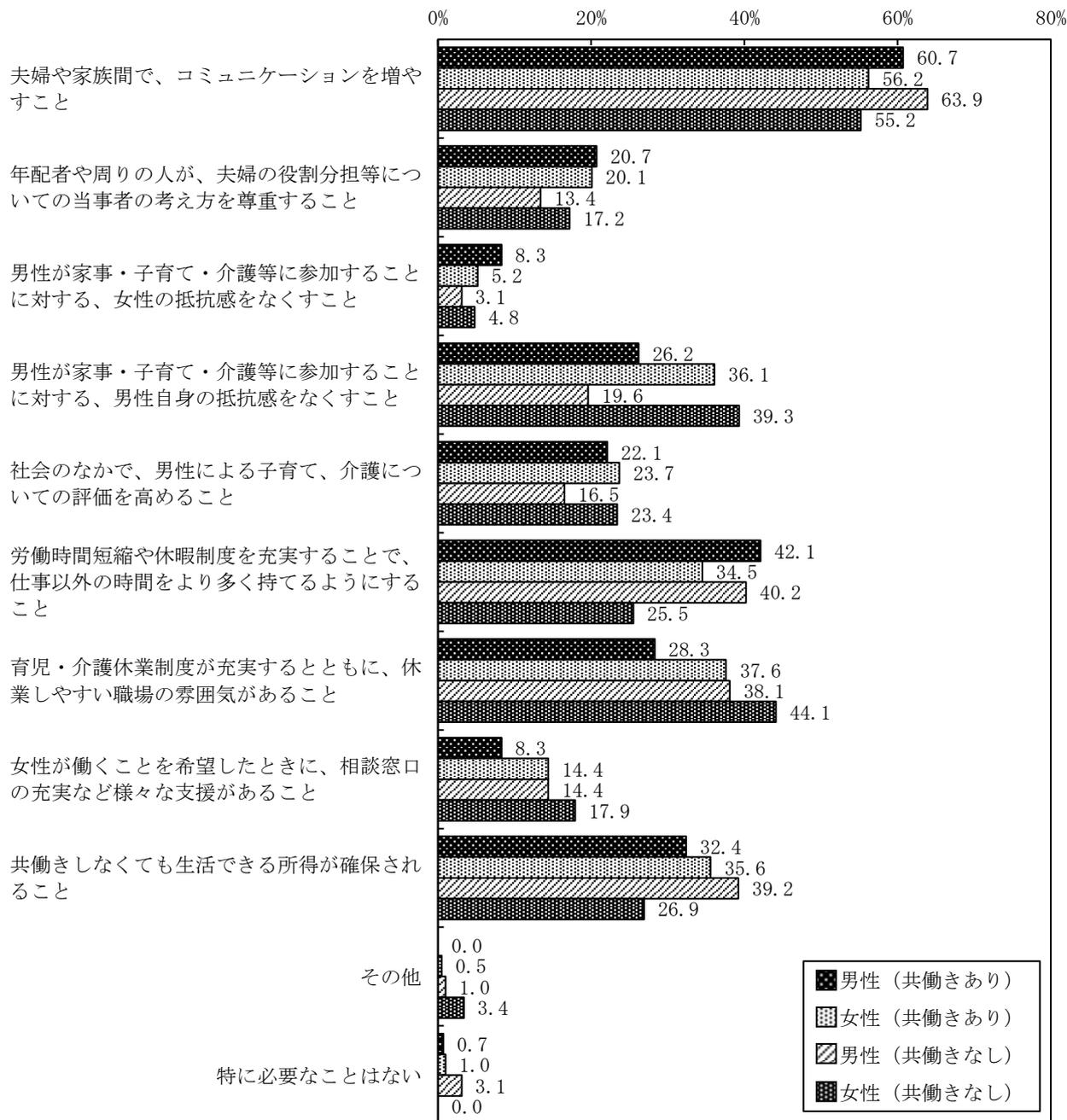
次いで「育児・介護休業制度が充実するとともに、休業しやすい職場の雰囲気があること」(37.4%)、「労働時間短縮や休暇制度を充実することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(35.5%)、「共働きしなくても生活できる所得が確保されること」(34.1%)の順になっており、働き続けながら育児や介護が出来る環境づくりを求める一方、3割以上の県民から専業主婦(主夫)として家事・育児等に専念できるよう十分な収入の確保を求める意見も出ている。

図表3-2 家庭生活における男女の理想的な役割分担実現に必要なこと（年代別）

[年代別：N=964、選択数：3つ以内]



図表3-3 家庭生活における男女の理想的な役割分担実現に必要なこと（性別×夫婦共働きの有無別）
 [男性（共働きあり）（N=145）、女性（共働きあり）（N=194）、
 男性（共働きのなし）（N=97）、女性（共働きのなし）（N=145）、選択数：3つ以内]



夫婦共働きの有無別、性別の比較では、いずれの属性でも「夫婦や家族間で、コミュニケーションを増やすこと」を選択した割合が最も高く、特に男性（共働きあり 60.7%、共働きのなし 63.9%）では60%を超えており、女性（共働きあり 56.2%、共働きのなし 55.2%）よりも割合が高くなっている。また、「労働時間短縮や休暇制度を充実することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」においても、男性（共働きあり 42.1%、共働きのなし 40.2%）の方が女性（共働きあり 34.5%、共働きのなし 25.5%）よりも割合が高くなっている。

逆に、「男性が子育て・介護等に参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」では、女性（共働きあり 36.1%、共働きのなし 39.3%）の方が男性（共働きあり 26.2%、共働きのなし 19.6%）よりも高率である。

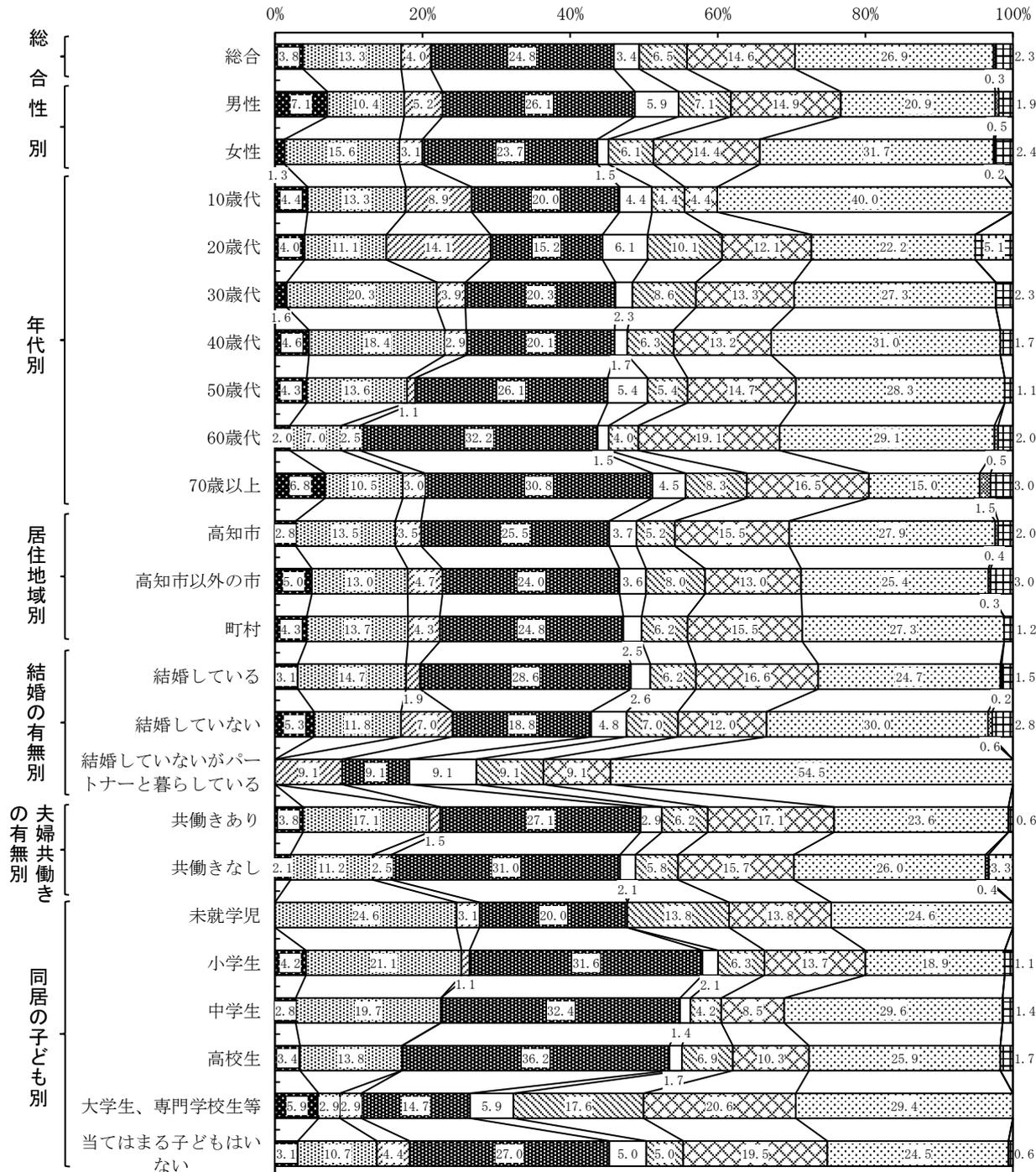
ここから、男女ともにコミュニケーションを重視しつつも、「男性は仕事が忙しいため」、「女性は男性が子育てや介護に抵抗感を持っている」ために理想的な役割分担が実現できないと考えていることが伺える。

◆ 3. 男女がともに働きやすい職場づくりについて

問4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、伺います。

(1) 生活の中での、「仕事」と「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの理想に最も近いものはどれですか（1つだけ〇印）【全員回答】 [N=964、選択数：1]

図表4 (1) - 1 理想に近い働き方 [総合：N=964、選択数：1]



- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- ライフステージの変化に応じて、その都度考えたい
- その他
- 無回答

今回新たに追加した質問である。

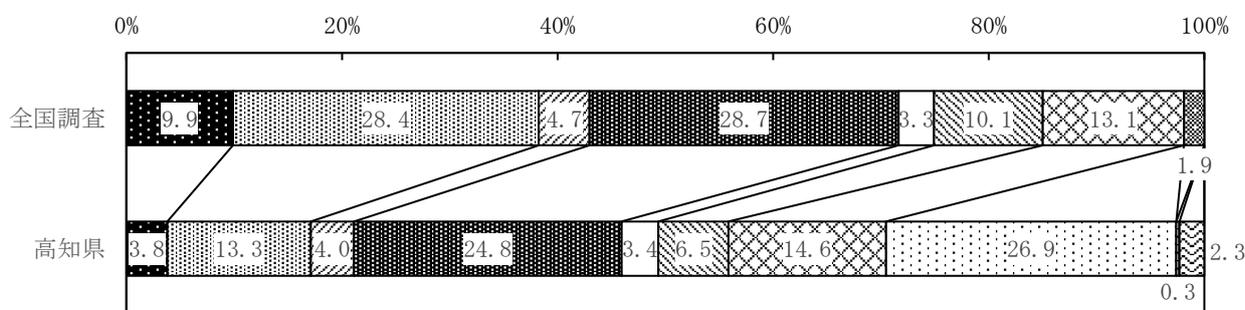
生活の中での、「仕事」と「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度について、理想に最も近いものについては、「ライフステージの変化に応じて、その都度考えたい」26.9%が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」を共に優先したい24.8%、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい14.6%と続いている。

性別では「仕事」を優先したいが男性7.1%、女性1.3%と男性の方が5.8ポイント高くなっているが、「家庭生活」を優先したいでは男性が10.4%、女性が15.6%と女性の方が5.2ポイント高くなっている。「ライフステージの変化に応じて、その都度考えたい」では男性20.9%、女性31.7%と女性の方が10.8ポイント高くなっている。

年代別では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが60歳代、70歳以上では30%を超えており、10歳代から50歳代までと比べて意識の差が大きくなっている。

図表4 (1) - 2 (参考) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について、理想に最も近いもの(全国調査*1との比較)

[高知県(N=964)、全国(N=2,645)、選択数:各1]



- 「仕事」を優先したい
- ▨ 「家庭生活」を優先したい
- ▩ 「地域・個人の生活」を優先したい
- ▧ 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- ▤ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- ▦ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- ▣ ライフステージの変化に応じて、その都度考えたい*1
- わからない*2
- ▤ その他*1
- ▣ 無回答*1

*1 高知県調査独自の選択肢
*2 全国調査独自の選択肢

※1 「全国調査」 出典：内閣府男女共同参画局調べ

・令和元年9月調査：「男女共同参画社会に関する世論調査」

全国調査と高知県の調査では選択肢が一部異っているので単純な比較はできないが、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について理想に最も近いものとしては、「仕事」を優先したい(全国9.9%、高知県3.8%)、「家庭生活」を優先したい(全国28.4%、高知県13.3%)と回答した割合は、どちらも全国より低くなっている。

一方、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいは全国13.1%、高知県14.6%と全国より高くなっている。

また、高知県のみを選択肢だが、「ライフステージの変化に応じて、その都度考えたい」が26.9%と、約四分の一を占めていることから、理想的には自分自身のいる地域、社会における状況や環境により、ライフスタイルを固定せずに、臨機応変に変化させていきたいと考えているのが分かる。

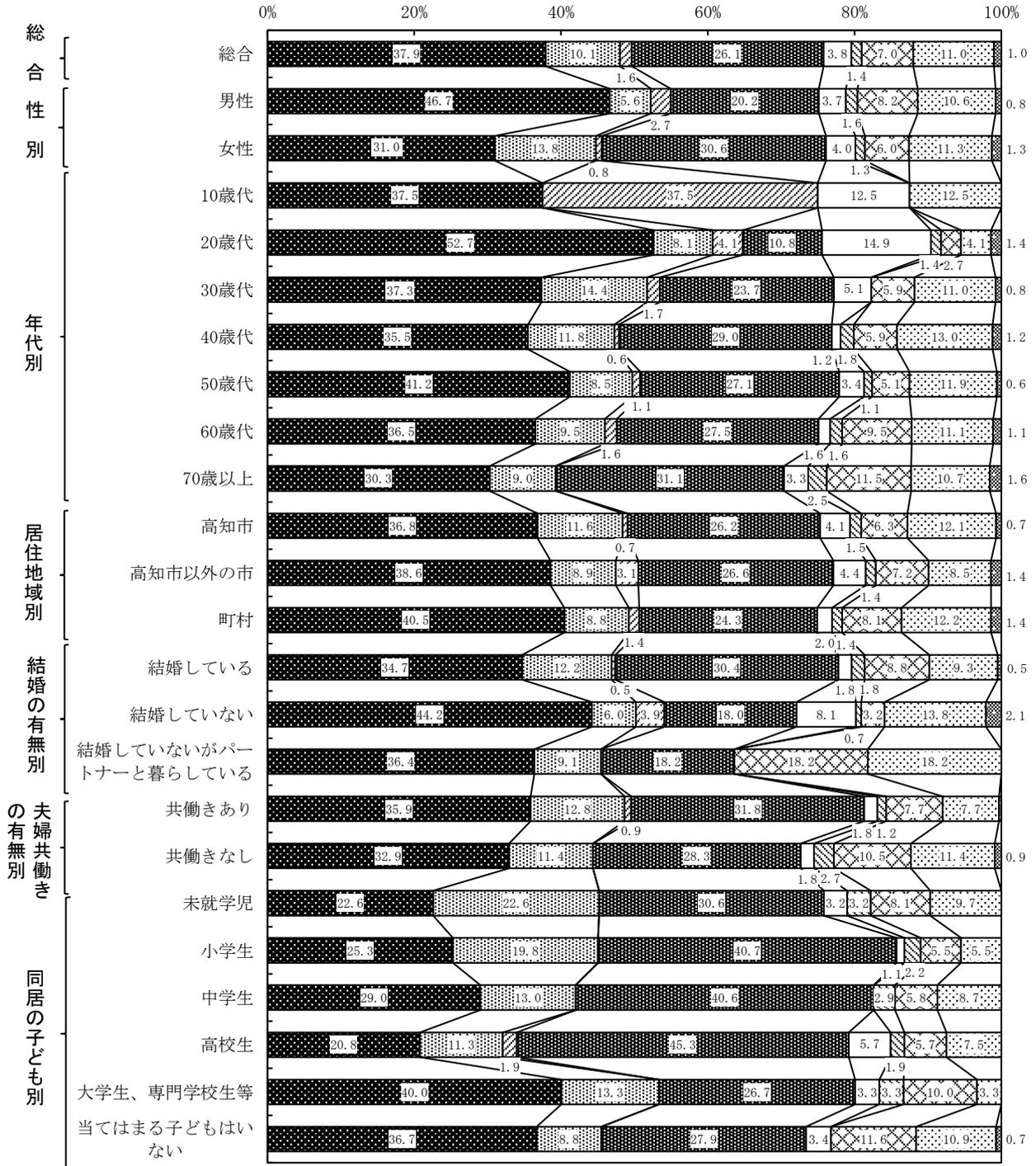
問4 (2) あなたの現実 (現状) に最も近いものはどれですか (どれでしたか) (1つだけ○印)

【働いている (または働いたことのある) 方のみ】

[N=858、選択数: 1]

図表4 (2) - 1 実際の働き方

【働いている (または働いたことのある) 総合: N=858、選択数: 1】



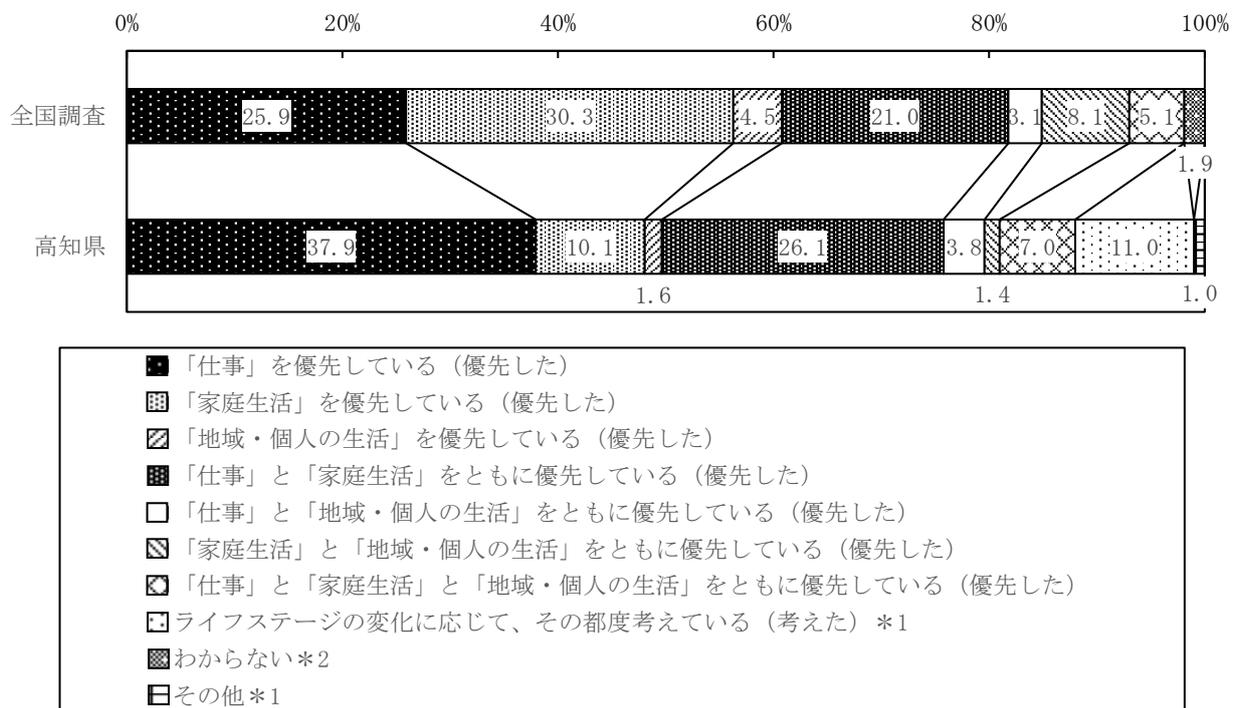
- 「仕事」を優先している (優先した)
- ▨ 「家庭生活」を優先している (優先した)
- ▩ 「地域・個人の生活」を優先している (優先した)
- ▧ 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している (優先した)
- ▦ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している (優先した)
- ▥ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している (優先した)
- ▤ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している (優先した)
- ▣ ライフステージの変化に応じて、その都度考えている (考えた)
- ▢ その他

「仕事」を優先している」が37.9%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」26.1%、「ライフステージの変化に応じて、その都度考えている（考えた）」11.0%と続いている。

年代別では、20歳代が「仕事」を優先している（優先した）」が52.7%と他の年代よりも高くなっているが、逆に「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（優先した）」は10.8%と、他の年代と比べ10ポイント以上少なくなっている。

図表4（2）-2（参考）仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、現実に最も近いもの（全国調査^{※1}との比較）

〔高知県（N=858）、全国（N=2,645）、選択数：各1〕



※1 「全国調査」出典：内閣府男女共同参画局調べ

・令和元年9月調査：「男女共同参画社会に関する世論調査」

*1 高知県調査独自の選択肢

*2 全国調査独自の選択肢

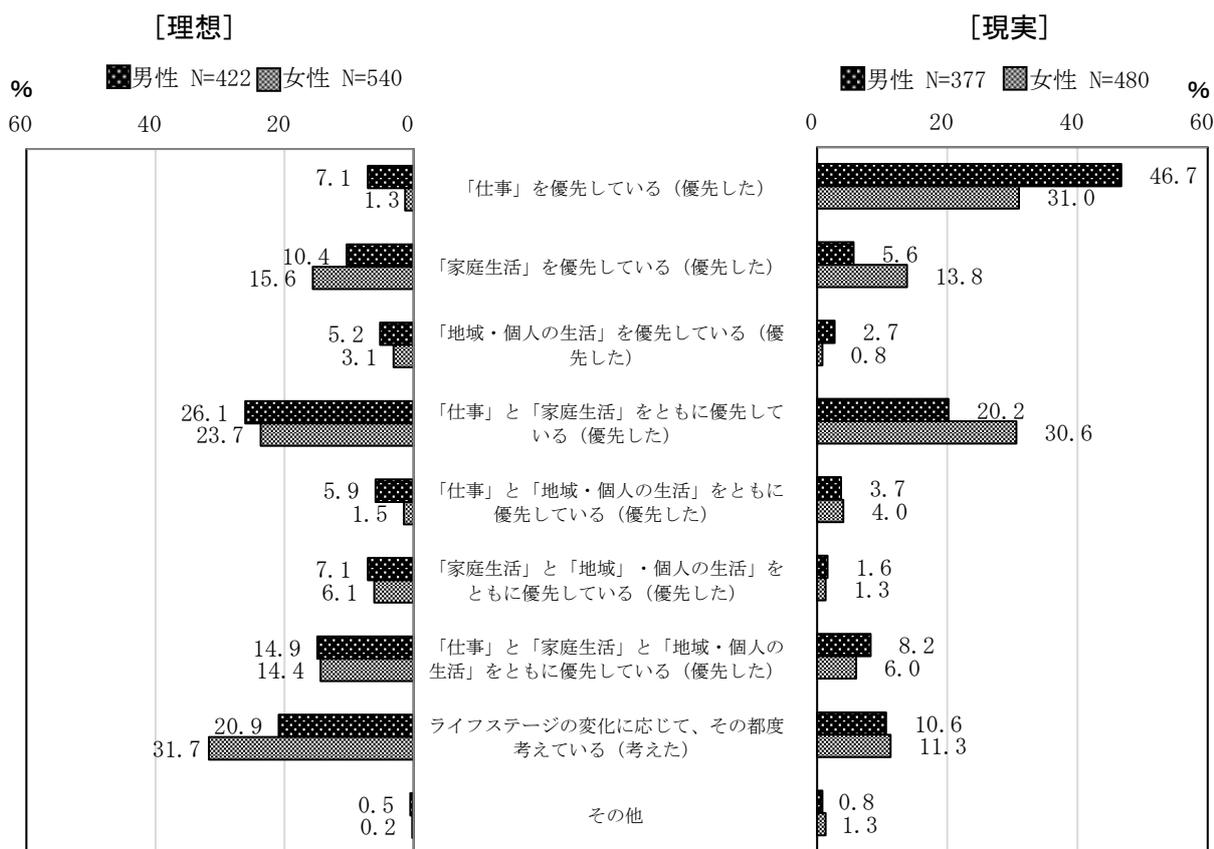
全国調査と高知県の調査では選択肢が一部異っているので単純な比較はできないが、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、現実に最も近いものとしては、「仕事」を優先している（優先した）」が全国25.9%、高知県37.9%と、高知県の方が12ポイント高い。逆に「家庭生活」を優先している（優先した）」は全国30.3%、高知県10.1%となっており、高知県の方が20.2ポイント低い。

また、「ライフステージの変化に応じて、その都度考えたい」も11.0%と、理想（26.9%）と比較すると大きな隔りがある。

以上から、高知県では、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が仕事寄りになっていることが分かる。

図表4（2）－3 働き方の理想と現実の比較

【働いている（または働いたことのある）方：N=858、選択数：1】



働いている（または働いたことのある）方の理想としては、男性では「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が26.1%、女性では「ライフステージの変化に応じて、その都度考えたい」が31.7%と最も高くなっている。

しかし、現実では男女ともに「「仕事」を優先している（優先した）」（男性46.7%、女性31.0%）が最も高くなっており、男女ともに仕事が忙しく、家庭や個人の生活を優先できないことが分かる。

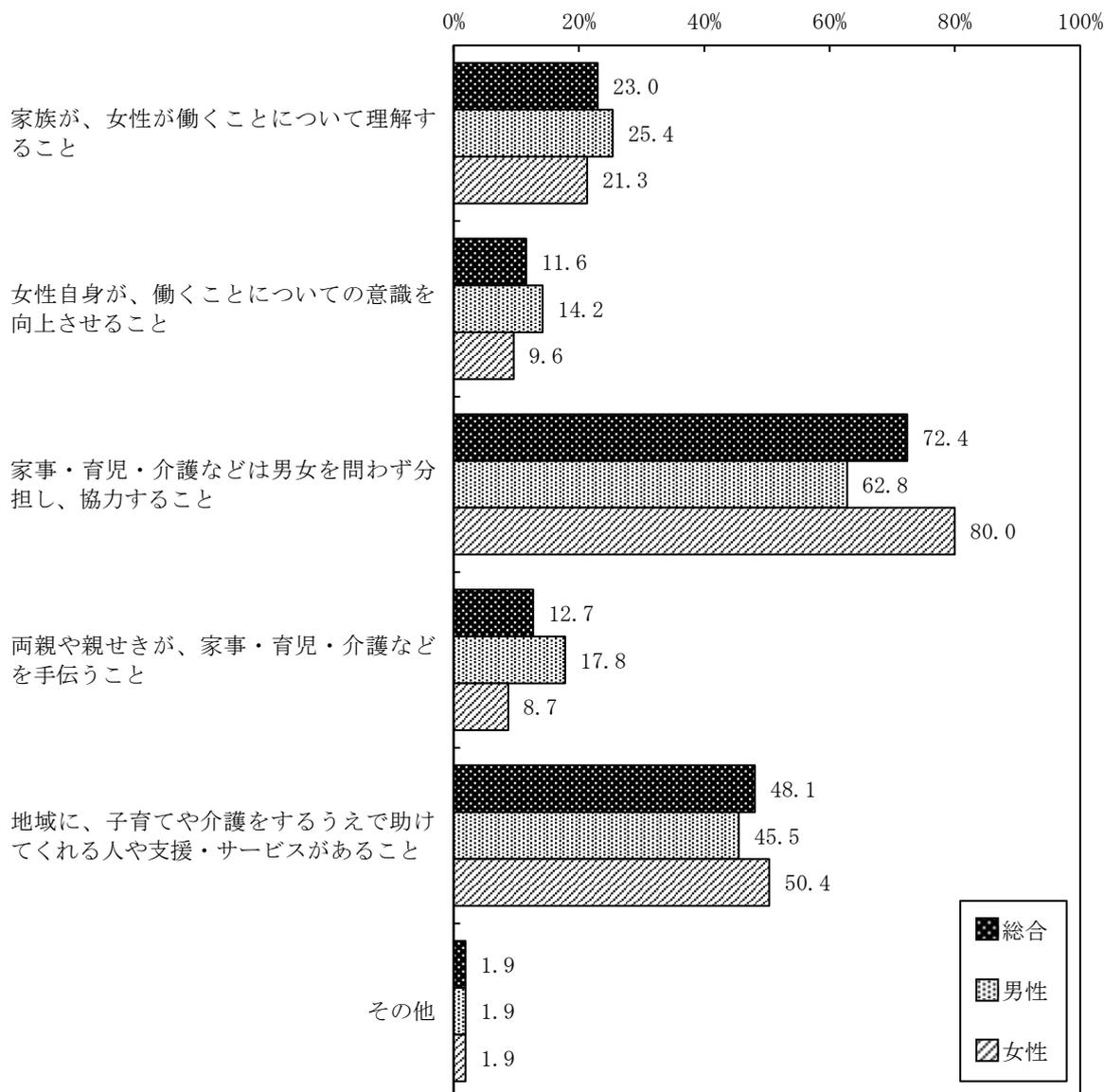
問5 (1) 男女がともに働きやすくなるためには、家族や地域においてどんなことが必要だと思いますか。

(2つまで○印) 【全員回答】

[N=964、選択数：2つ以内]

図表5 (1) -1 男女がともに働きやすくなるために、家族や地域で必要なこと (総合・性別)

[総合・性別：N=964、選択数：2つ以内]

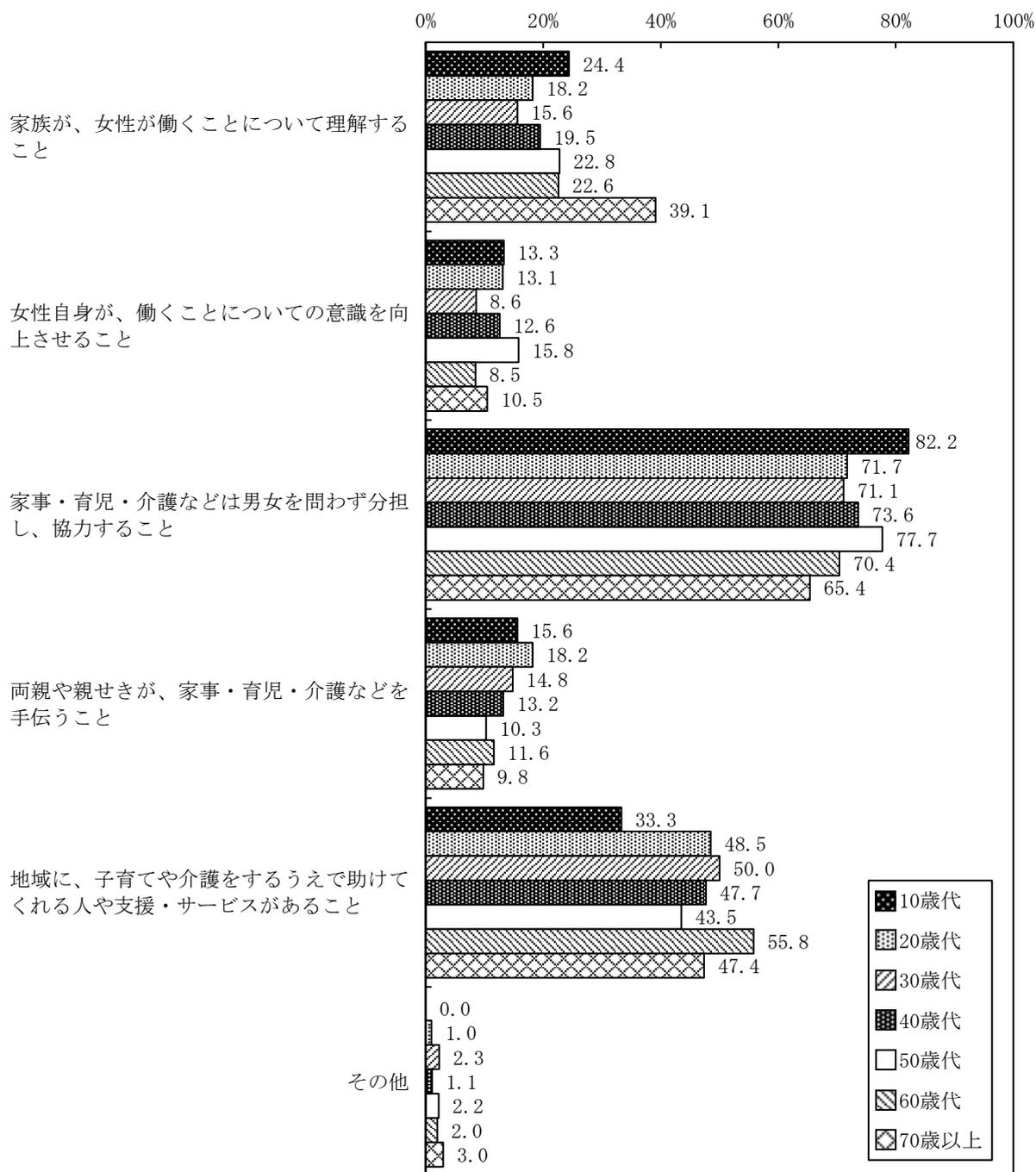


「家事・育児・介護などは男女を問わず分担し、協力すること」が72.4%ともっとも割合が高く、7割以上の県民が選択している。次いで、「地域に子育てや介護をするうえで助けしてくれる人や支援・サービスがあること」48.1%、「家族が、女性が働くことについて理解すること」23.0%と続いている。

性別では、「家事・育児・介護などは男女を問わず分担し、協力すること」が男女とも最も高い割合であったが、男性62.8%、女性80.0%と17.2ポイントの差があり、男女の意識の差が大きいことが分かる。

図表5（1）－2 男女がともに働きやすくなるために、家族や地域で必要なこと（年代別）

[年代別：N=964、選択数：2つ以内]



年代別では、すべての年代で「家事・育児・介護などは男女を問わず分担し、協力すること」の割合が高くなっているが、特に10歳代が82.2%と最も高くなっている。次いで「地域に、子育てや介護をするうえで助けてくれる人や支援・サービスがあること」、「家族が女性に働くことについて理解すること」と続いており、「家族が女性に働くことについて理解すること」では70歳以上が39.1%と他の年代より10ポイント以上高くなっている。

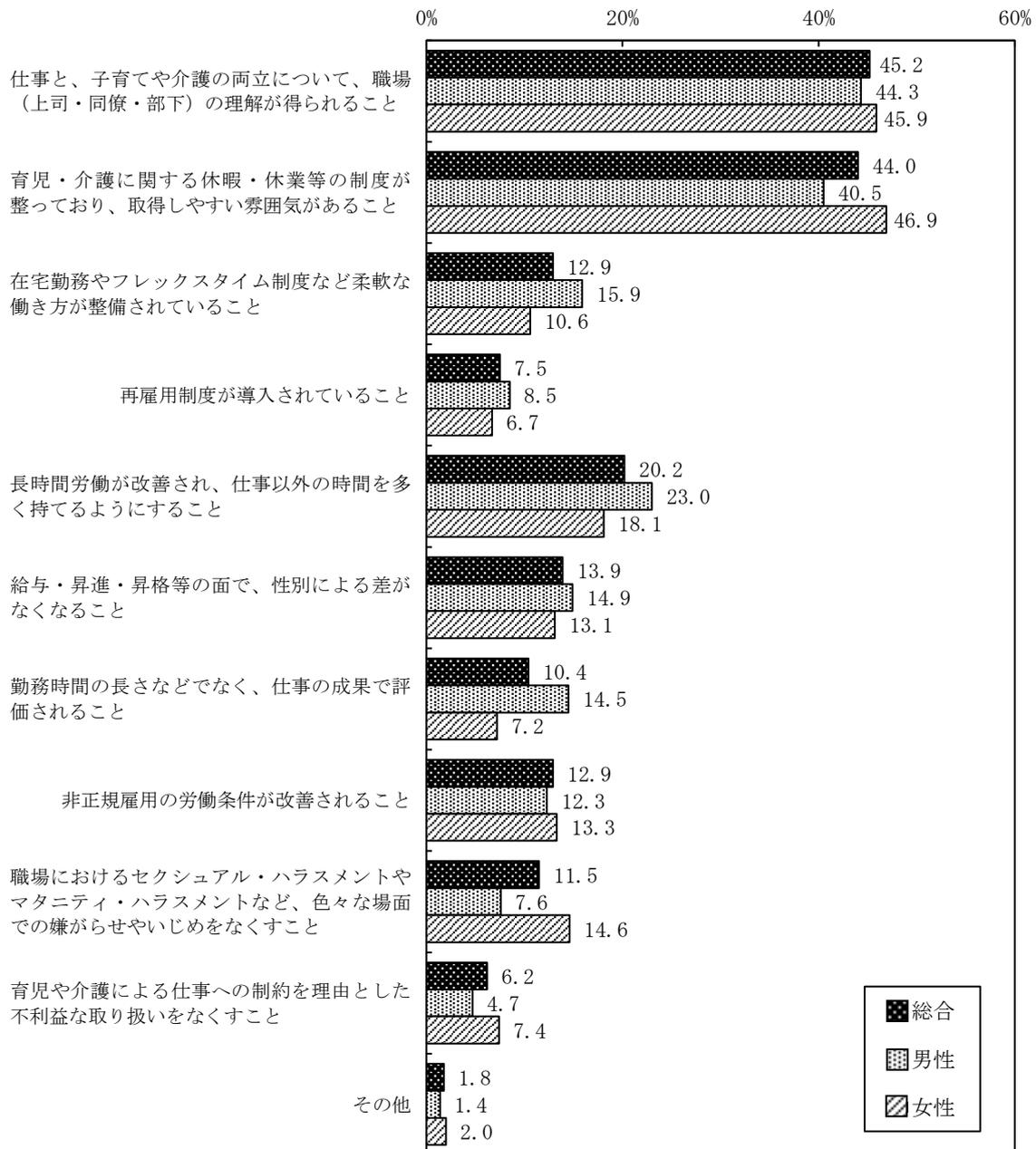
問5 (2) 男女がともに働きやすくなるために、企業など職場においてどんなことが必要だと思いますか。

(2つまで○印) 【全員回答】

[N=964、選択数：2つ以内]

図表5 (2) —1 男女がともに働きやすくなるために、企業など職場で必要なこと (総合・性別)

[総合・性別：N=964、選択数：2つ以内]



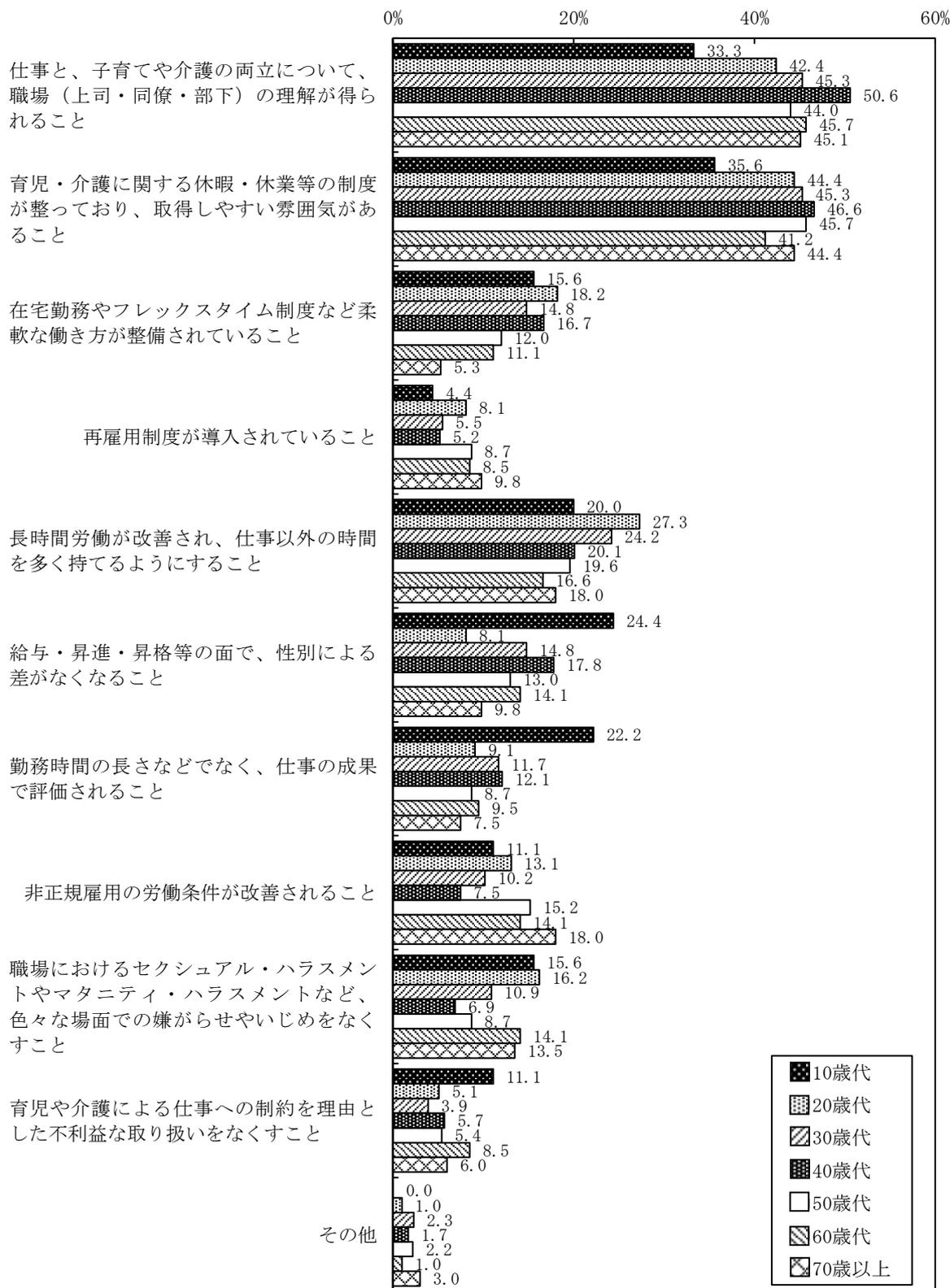
「仕事と、子育てや介護の両立について、職場 (上司・同僚・部下) の理解が得られること」(45.2%) と「育児・介護に関する休暇・休業等の制度が整っており、取得しやすい雰囲気があること」(44.0%) の2つの項目が、他の項目よりも割合が高い。

性別では、男性は「仕事と、子育てや介護の両立について、職場 (上司・同僚・部下) の理解が得られること」が44.3%、女性では「育児・介護に関する休暇・休業等の制度が整っており、取得しやすい雰囲気があること」が46.9%と最も高くなっている。

男女ともに、育児休業や介護休業などの制度の充実だけではなく、実際に制度を使えるかどうか (職場の理解) を重要だと認識していることが分かる。

図表5（2）－2 男女がともに働きやすくなるために、企業など職場で必要なこと（年代別）

[年代別：N=964、選択数：2つ以内]



年代別では、「仕事と、子育てや介護の両立について、職場（上司・同僚・部下）の理解が得られること」が30歳代（45.3%）、40歳代（50.6%）、60歳代（45.7%）、70歳以上（45.1%）で割合が高く、10歳代（35.6%）、20歳代（44.4%）、同率での30歳代（45.3%）、50歳代（45.7%）では「育児・介護に関する休暇・休業等の制度が整っており、取得しやすい雰囲気があること」が高くなっている。

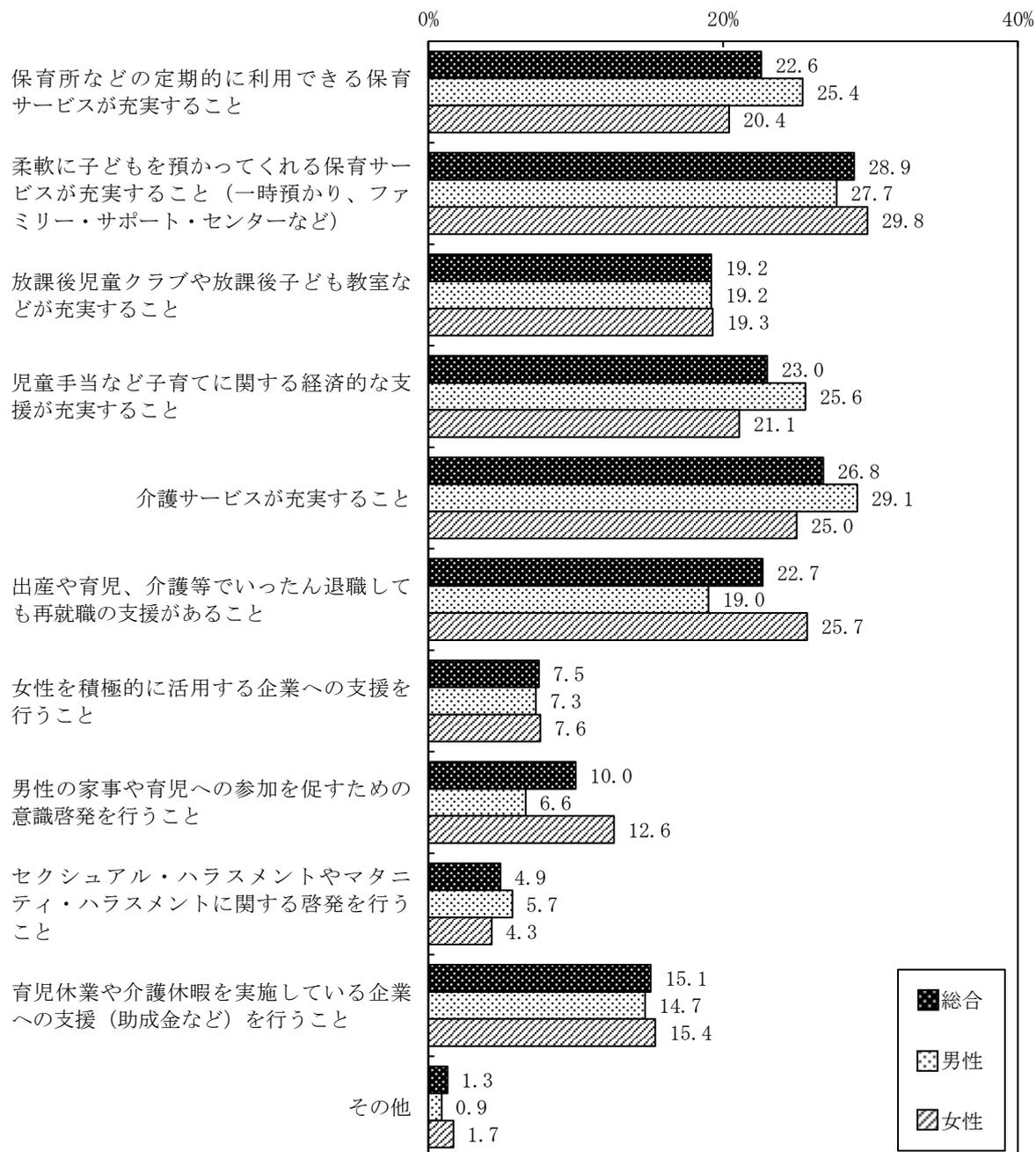
問5 (3) 男女がともに働きやすくなるために、行政の取組においてどんなことが必要だと思いますか。

(2つまで○印)【全員回答】

[N=964、選択数：2つ以内]

図表5 (3) - 1 男女がともに働きやすくなるために、行政の取組で必要なこと (総合・性別)

[総合・性別：N=964、選択数：2つ以内]

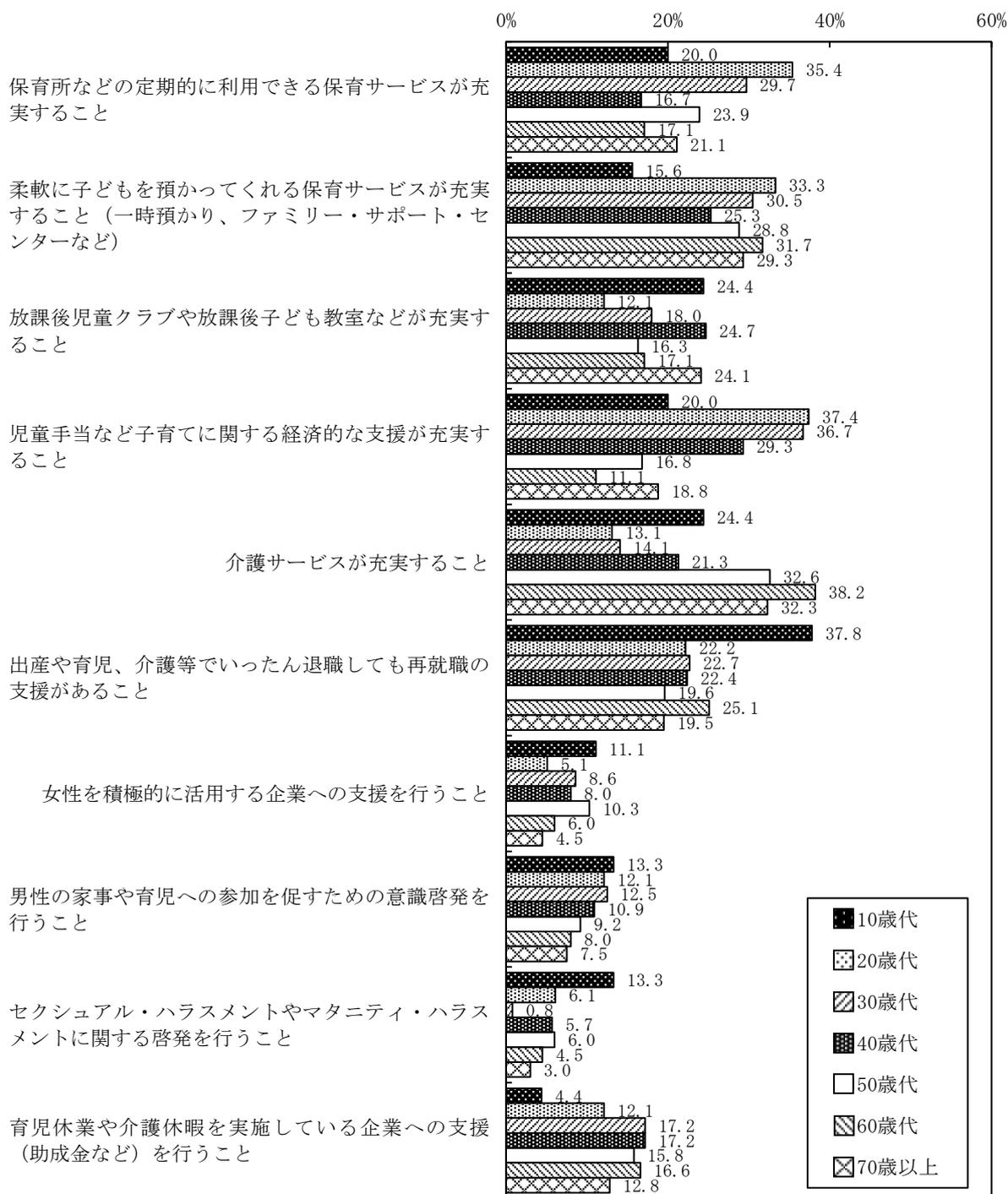


「柔軟に子どもを預かってくれる保育サービスが充実すること (一時預かり、ファミリー・サポート・センターなど)」(28.9%)、「介護サービスが充実すること」(26.8%)、「児童手当など子育てに関する経済的な支援が充実すること」(23.0%)、「出産や育児、介護等でいったん退職しても再就職の支援があること」(22.7%)の順になっている。

性別で見ると、男性では「介護サービスが充実すること」が29.1%、女性では「柔軟に子どもを預かってくれる保育サービスが充実すること (一時預かり、ファミリー・サポート・センターなど)」が29.8%と最も高くなっている。

図表5（3）－2 男女がともに働きやすくなるために、行政の取組で必要なこと（年代別）

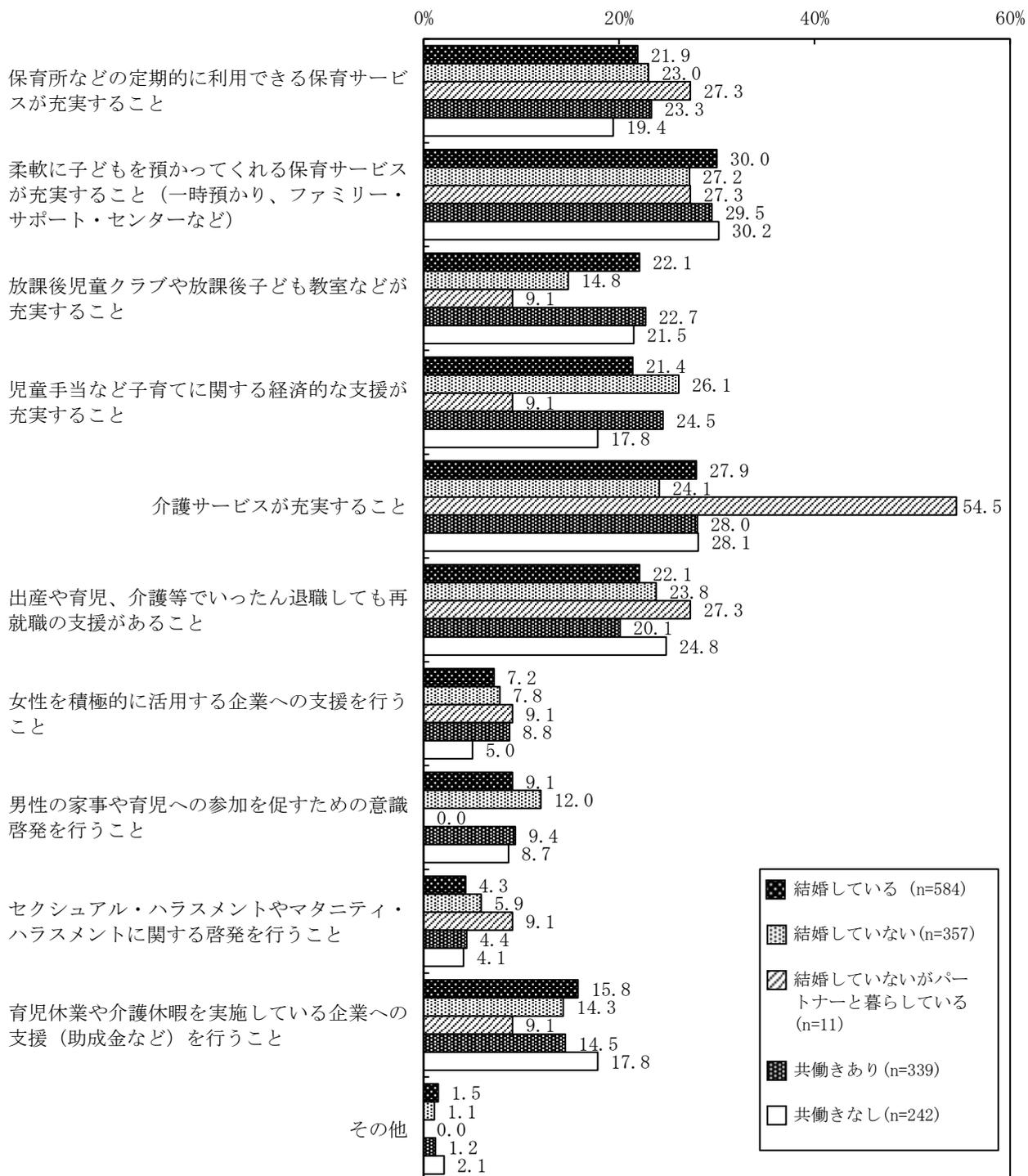
[年代別：N=964、選択数：2つ以内]



年代別では、世代間で回答のバラつきが見られた。「出産や育児、介護等でいったん退職しても再就職の支援があること」では、10歳代が37.8%と他の年代より12ポイント以上高くなっており、「児童手当など子育てに関する経済的な支援が充実すること」では、20歳代37.4%、30歳代36.7%、40歳代29.3%で最も高く、「介護サービスが充実すること」では50歳代32.6%、60歳代38.2%、70歳以上32.3%で最も高くなっており、それぞれが現在抱えている問題点を選択したと考えられる。

さらに、項目ごとにどの年代が多いのか見てみると、最も高い割合の「柔軟に子どもを預かってくれる保育サービスが充実すること（一時預かり、ファミリー・サポート・センターなど）」は20歳代（33.3%）が最も多く、次いで高い割合の「介護サービスが充実すること」は60歳代（38.2%）、「児童手当など子育てに関する経済的な支援が充実すること」は、20歳代（37.4%）が多い。

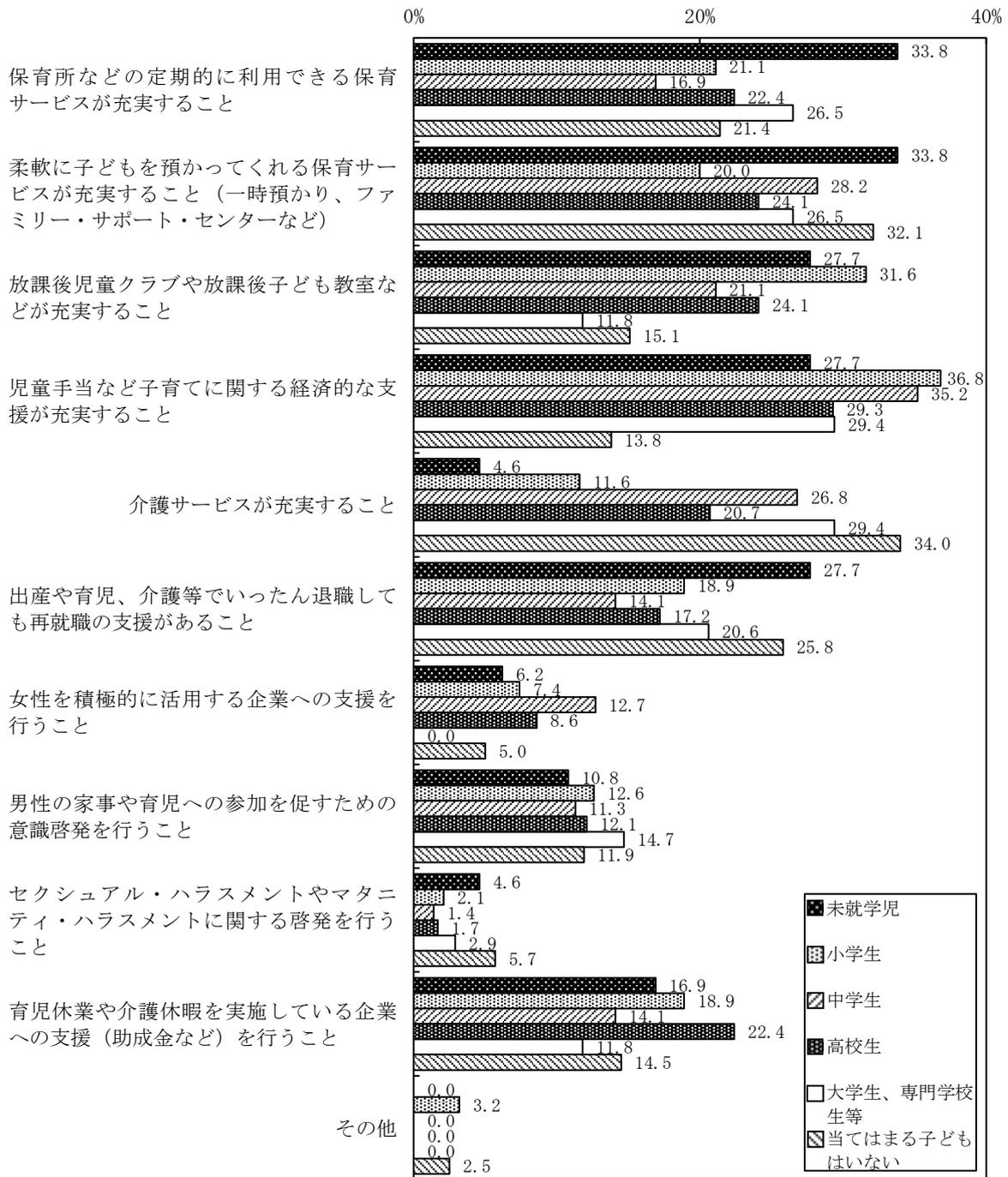
図表5 (3) -3 男女がともに働きやすくなるために、行政の取組で必要なこと（結婚・夫婦共働き有無別）
 [結婚の有無別（N=964）、夫婦共働きの有無別（N=584）、選択数：2つ以内]



結婚の有無別、夫婦共働きの有無別の属性でみると、結婚している、結婚していない、共働きあり、共働きなしの層では「柔軟に子どもを預かってくれる保育サービスが充実すること（一時預かり、ファミリー・サポート・センターなど）」が最も高い。また、属性のサンプル数が少ないため、参考としての記載となるが、結婚していないがパートナーと暮らしているの層では「介護サービスが充実すること」が最も高くなっている。

さらに、項目ごとにどの属性が多いのか見てみると、最も高い割合の「柔軟に子どもを預かってくれる保育サービスが充実すること（一時預かり、ファミリー・サポート・センターなど）」では共働きなしが30.2%と最も多い。

図表5 (3) - 4 男女がともに働きやすくなるために、行政の取組で必要なこと（同居の子どもの内容別）
 [同居の子どもの内容別：N=942、選択数：2つまで]



同居の子どもの内容別で見ると、未就学児と回答した方では「保育所などの定期的に利用できる保育サービスが充実すること」と「柔軟に子どもを預かってくれる保育サービスが充実すること（一時預かり、ファミリー・サポート・センターなど）」がともに33.8%で、同率で最も高い。

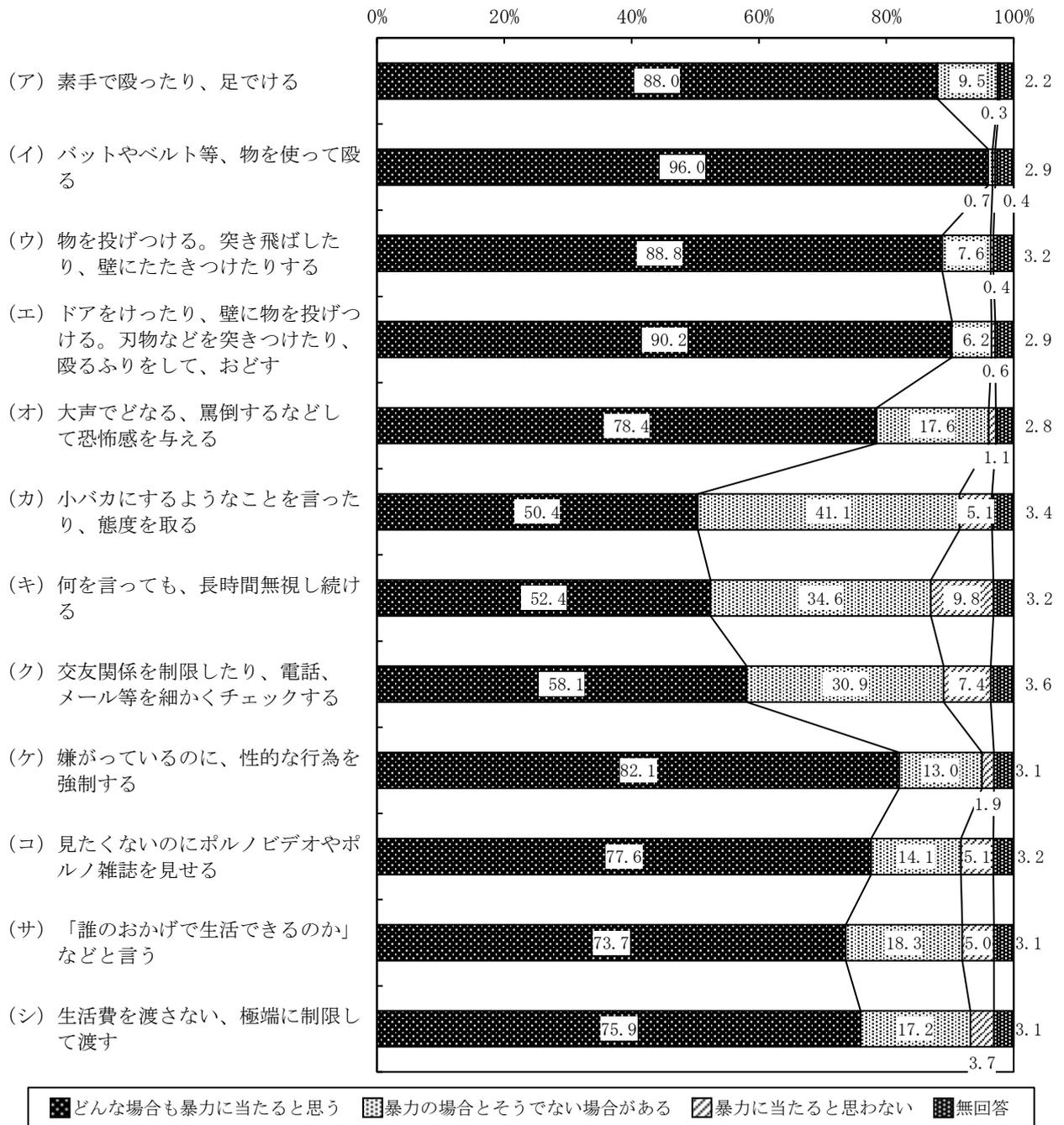
小学生（36.8%）、中学生（35.2%）、高校生（29.3%）と回答した方では「児童手当など子育てに関する経済的な支援が充実すること」が、大学生、専門学校生等と回答した方では「児童手当など子育てに関する経済的な支援が充実すること」と「介護サービスが充実すること」が29.4%で同率となっている。

当てはまる子どもはいないと回答した方では「介護サービスが充実すること」が34.0%と最も高くなっている。

◆4. ドメスティック・バイオレンス(夫婦・恋人間の暴力) /セクシュアル・ハラスメントについて

問6 あなたは、配偶者や恋人があなたに対して、次のようなことをした場合、それを暴力だと思いますか。
(あなたの気持ちに最も近い番号(1~3)に1つだけ○印)【全員回答】 [N=964、選択数:各1]

図表6-1 配偶者・恋人からの行為に対する暴力認識 [総合: N=964、選択数:各1]



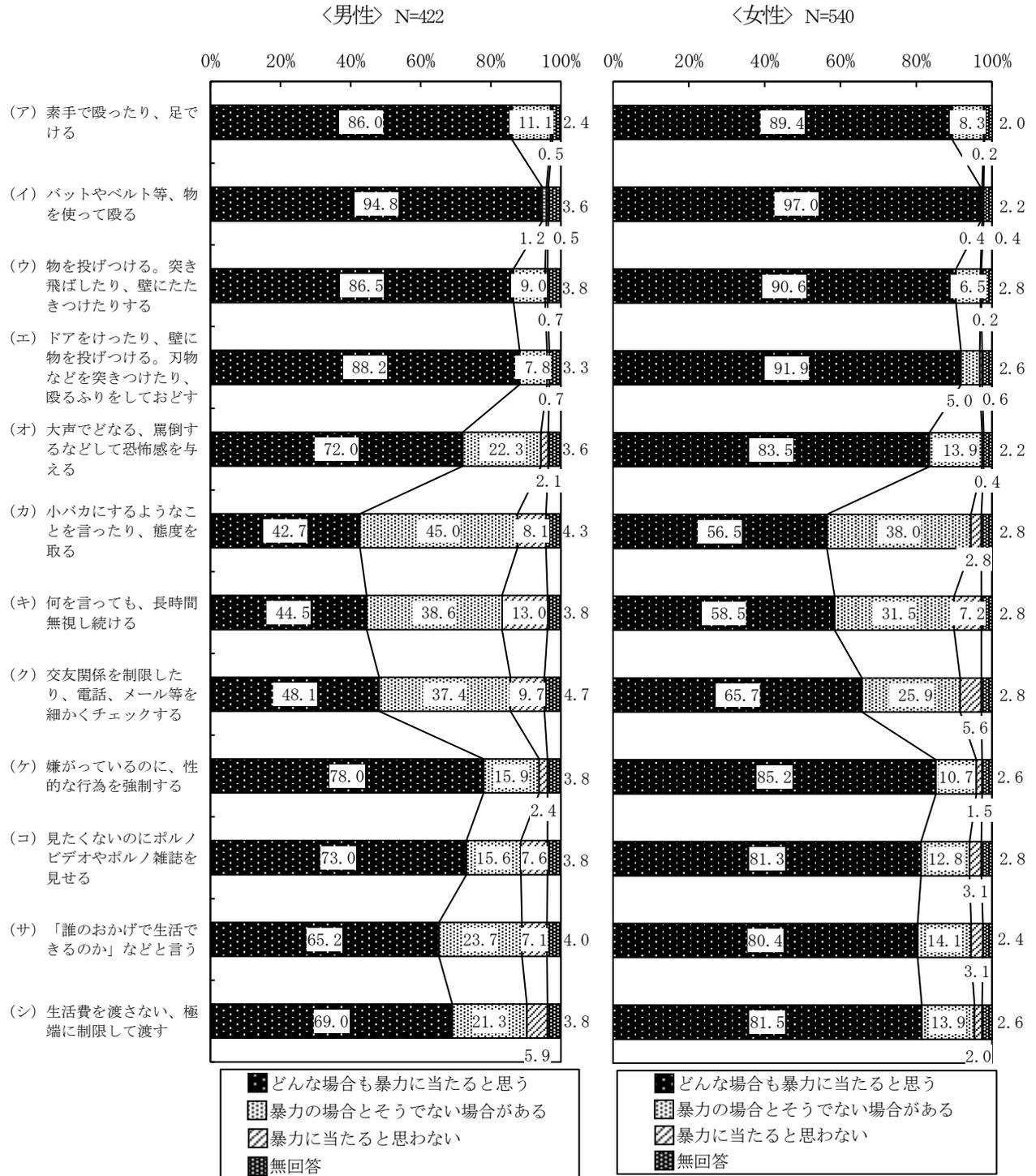
身体に直接的な被害を及ぼす行為については、「どんな場合も暴力に当たる」を選択した割合が高く(約88%~96%)、「暴力の場合とそうでない場合がある」を合わせると、95%以上の県民が暴力だと認識している。

一方、身体に直接的な被害を及ぼさない精神的な行為等については、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が、身体に直接的な被害を及ぼす行為よりも高くなっているものの、90%近い県民が暴力だと認識している。

前回調査と比較すると、ほとんどの項目で前回調査時点よりも「暴力に該当する(「どんな場合も」「時により」)」と回答する割合が高くなっており、DVに対する県民の理解、認識がさらに高まっていることが伺える。

図表6-2 配偶者・恋人からの行為に対する暴力認識（性別）

〔性別：N=964、選択数：各1〕



性別では、全ての項目で女性の方がより高率で暴力に該当すると認識している。「どんな場合も暴力に当たると思う」の男女差が最も大きい項目は、「交友関係を制限したり、電話、メール等を細かくチェックする」で、男性は48.1%、女性は65.7%で、17.6ポイントの差がある。

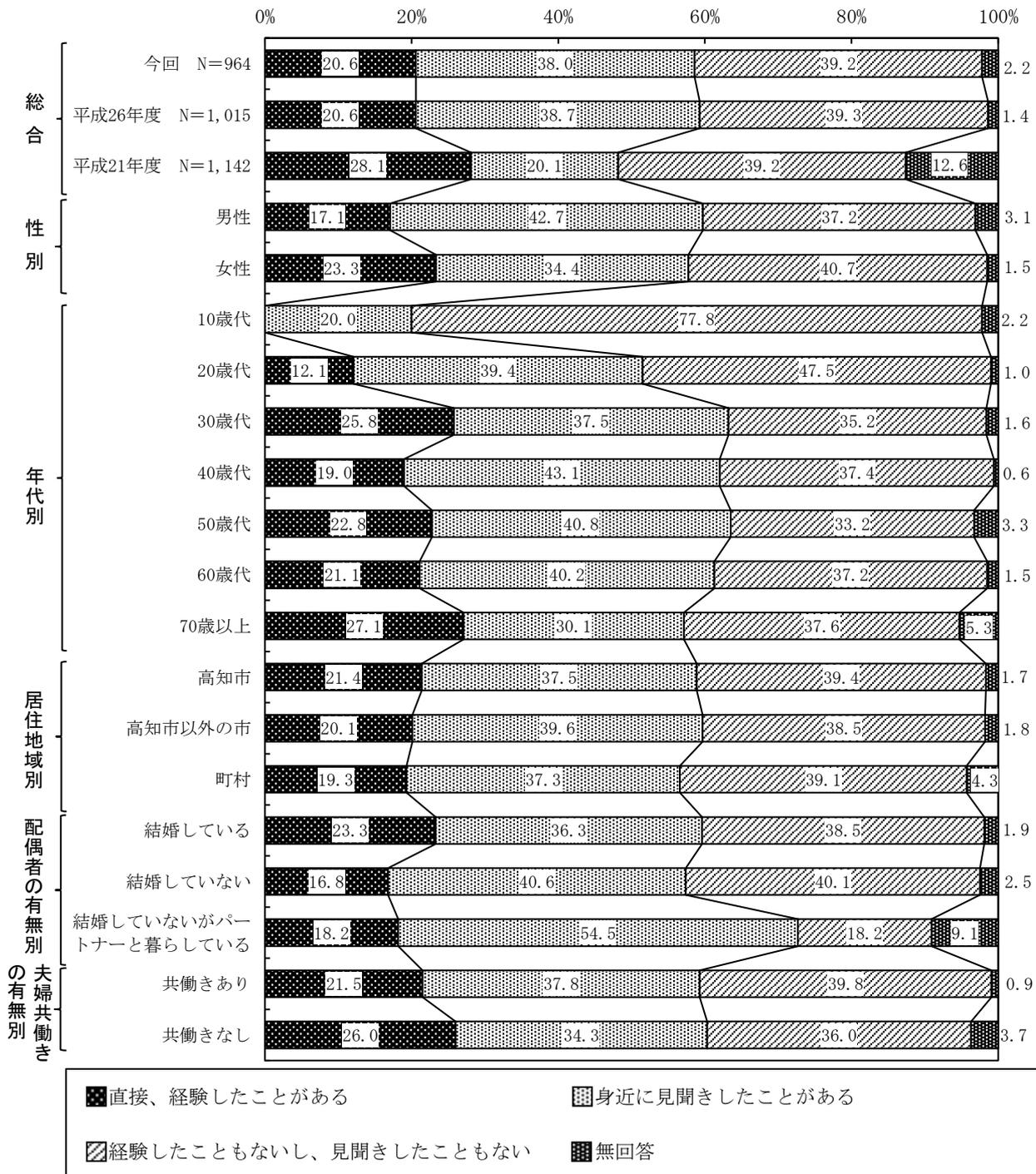
身体に直接的な被害を及ぼさない行為に関して、まだ男性と女性における認識の差が見られる。

問7 あなたは問6（ア）～（シ）のようなことを経験したり、見聞きしたことがありますか。

（1つだけ〇印）【全員回答】

〔N=964、選択数：各1〕

図表7 配偶者・恋人からの暴力（DV）経験の有無 [総合：N=964、選択数：各1]



今回の調査では、前回調査時の数値と比較して全ての項目でほぼ同じ割合となっているが、属性別でみた場合、居住地域別では、町村で「直接、経験したことがある」が、前回調査では27.6%、今回調査では19.3%と8.3ポイントの減少が見られる。

性別では、「直接、経験したことがある」は、男性17.1%、女性23.3%、「身近に見聞きしたことがある」は、男性42.7%、女性34.4%、「経験したこともないし、見聞きしたこともない」は、男性37.2%、女性40.7%となっている。

年代別では、10歳代、20歳代が「経験したこともないし、見聞きしたこともない」が他の年代より高率となっている。

★問7で「1. 直接、経験したことがある」を選んだ方のみお答えください。

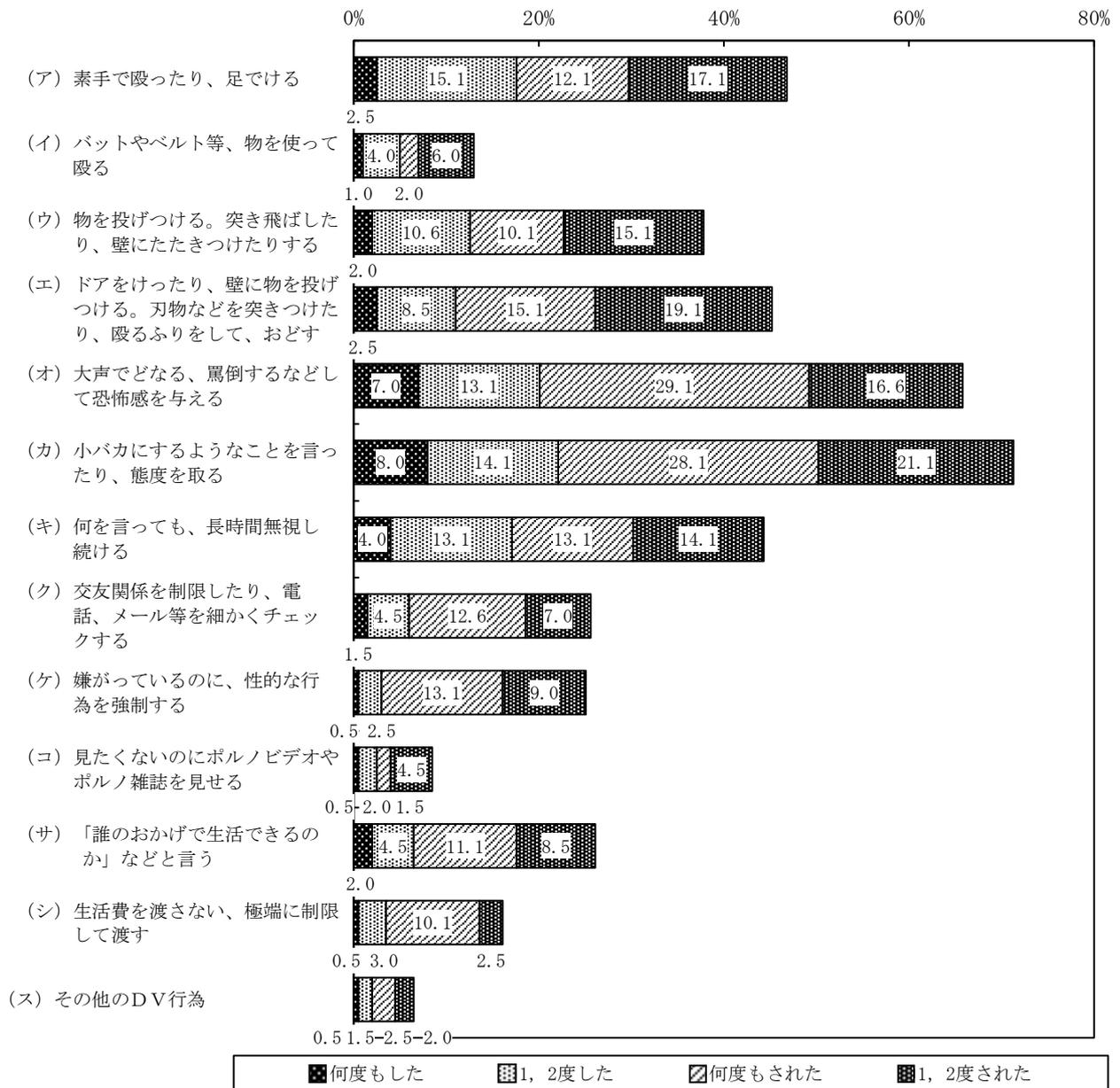
問8 あなたは、あなたの配偶者や恋人に次のようなことをしたこと、またはされたことはありますか。
(あなたの経験に最も近い番号(1~4)に○印)

【問7で「1. 直接、経験したことがある」を選んだ方のみ】

[N=199、選択数：項目別の「した」「された」ごとにいずれか1つ]

図表8-1 DV経験(加害、被害)の有無及び頻度(全体)

[総合：N=199、選択数：項目別の「した」「された」ごとにいずれか1つ]



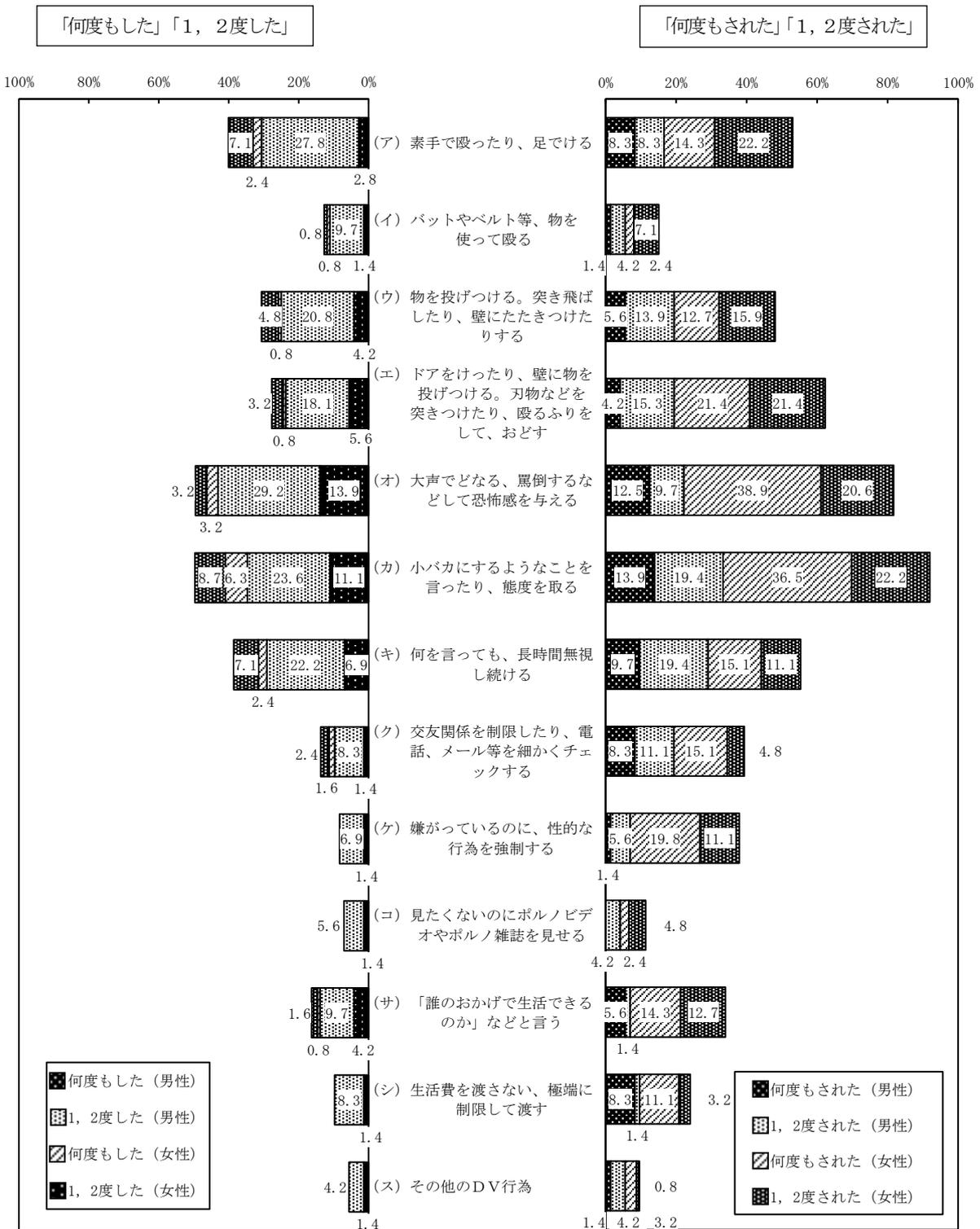
それぞれの項目において、何らかのDV経験があると回答した割合(全体から「どちらでもない・無回答」の割合を引いたもの)は、「小バカにするようなことを言ったり、態度を取る」が71.3%、「大声でどなる、罵倒する」が65.8%、「素手で殴ったり、足でける」が46.8%の順で高率となっている。

いずれの項目も「した」より「された」の割合が高くなっており、加害者と被害者の間に認識の違いが見られる。

特に、「小バカにするようなことを言ったり、態度を取る」については、問6で「暴力の場合とそうでない場合がある」を選択した割合が41.1%と最も高いことから、自分の行っている行為はDVではないと認識して行っている可能性がある。

図表8-2 DV経験（加害、被害）の有無及び頻度（性別）

[男性（N=72）、女性（N=126）、選択数：項目別の「した」「された」ごとにいずれか1つ]



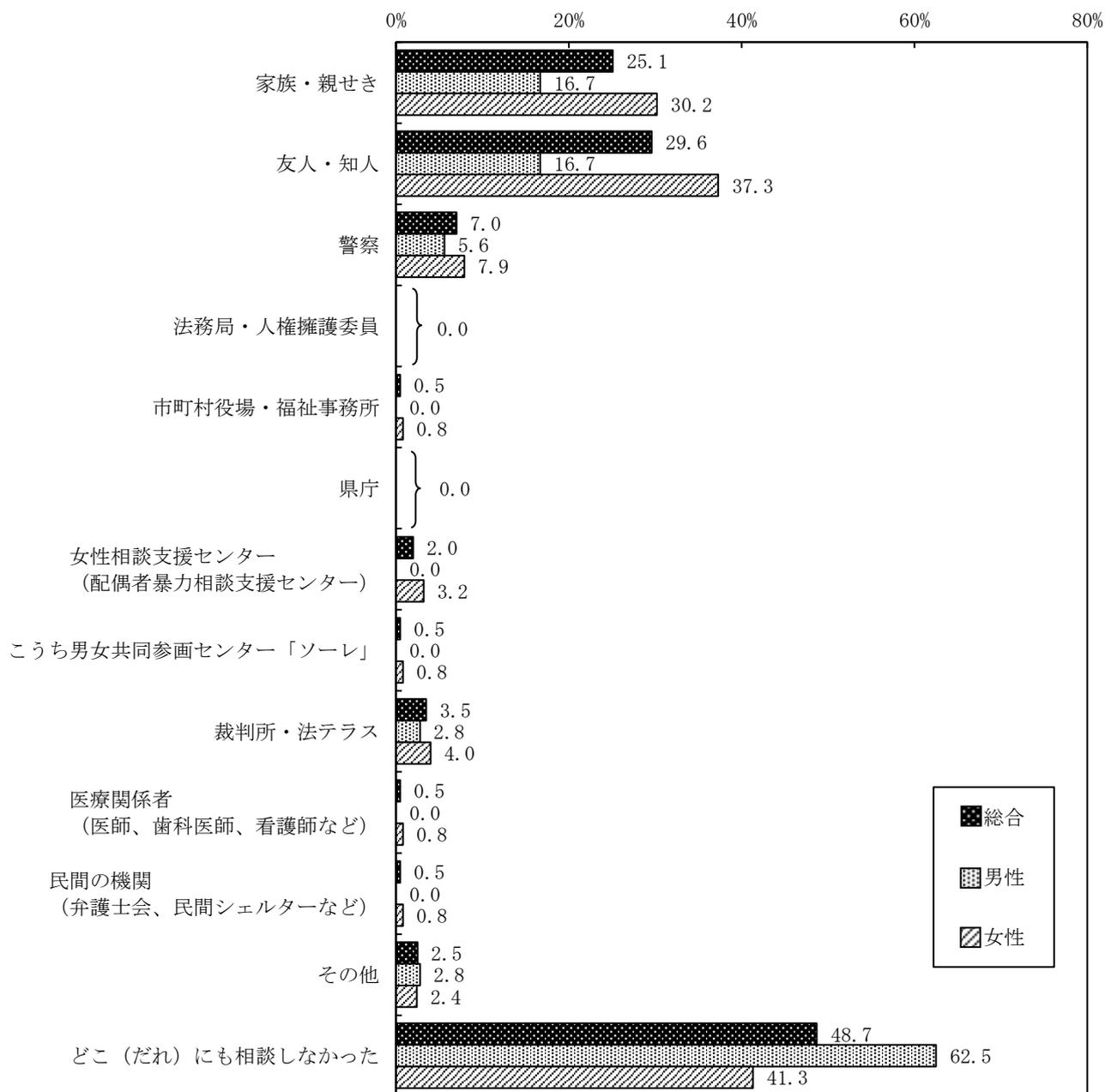
性別の加害、被害の状況を比較したところ、「加害」では男性の、「被害」では女性の回答した割合が多くなっている。

男性の加害では「大声でどなる、罵倒するなどして恐怖感を与える」(43.1%)が、女性の加害では「小バカにするようなことを言ったり、態度を取る」(15.0%)が最も高い割合となっている。

男性の被害では、「小バカにするようなことを言ったり、態度を取る」(33.3%)、女性の被害では「大声でどなる、罵倒するなどして恐怖感を与える」(59.5%)が最も高い割合となっている。

問8 (副問1) あなたは、問8のしたこと、されたことについて誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
 (あてはまるものすべてに○印) 【問7で「1. 直接、経験したことがある」を選んだ方のみ】
 [N=199、選択数:いくつでも]

図表8 (副1) - 1 配偶者・恋人からの暴力(DV)行為についての相談相手(総合・性別)
 [総合(N=199)、男性(N=72)、女性(N=126)、選択数:いくつでも]



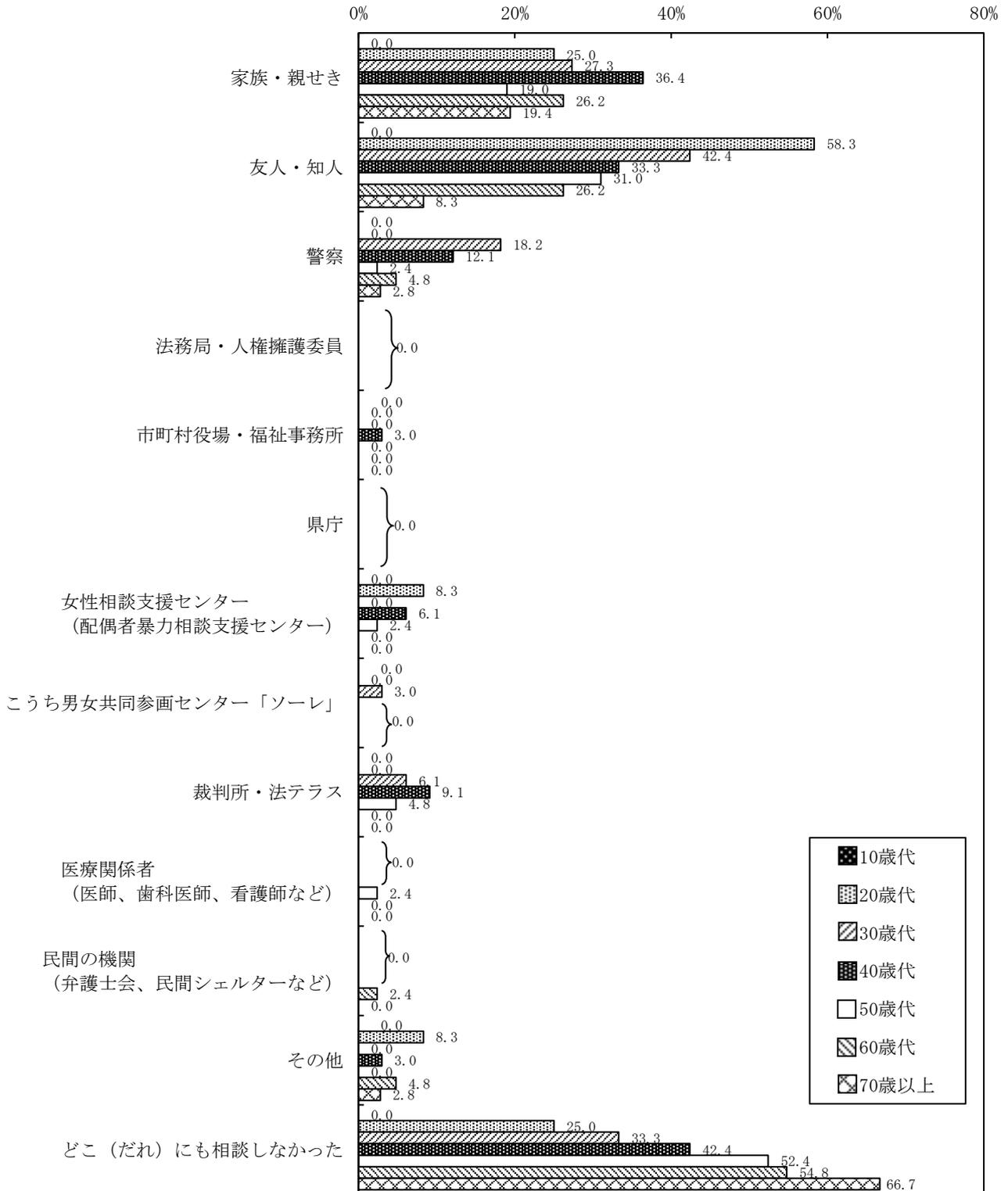
DV行為について、打ち明けたり、相談した相手について複数回答で質問したところ、「どこ(だれ)にも相談しなかった」割合が48.7% (男性62.5%、女性41.3%)と最も高率であり、前々回と前回の調査では7.9ポイント減少していたが、今回の調査では前回調査(43.5%)と比較すると5.2ポイント増加している。

また、「家族・親せき(25.1%、前回29.2%)」、「友人・知人(29.6%、前回34.4%)」に相談等を行った割合は減少した一方、「警察(7.0%、前回2.4%)」に相談した割合は4.6ポイント増加していた。

「法務局・人権擁護委員」や、「県庁」等の公的機関への相談件数はいずれもゼロだった。

図表8 (副1) -2 配偶者・恋人からの暴力(DV)行為についての相談相手(年代別)

[10歳代(N=0)、20歳代(N=12)、30歳代(N=33)、40歳代(N=33)、50歳代(N=42)
60歳代(N=42)、70歳以上(N=36)、選択数:いくつでも]



年代別でみると、20歳代(58.3%)、30歳代(42.4%)では「友人、知人」に、40歳代(42.4%)、50歳代(52.4%)、60歳代(54.8%)、70歳以上(66.7%)では、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が最も高くなっており、年代での差が見られた。また、前回調査と比較すると、30歳代が警察へ相談した割合(今回18.2%、前回0.0%)が増加している。

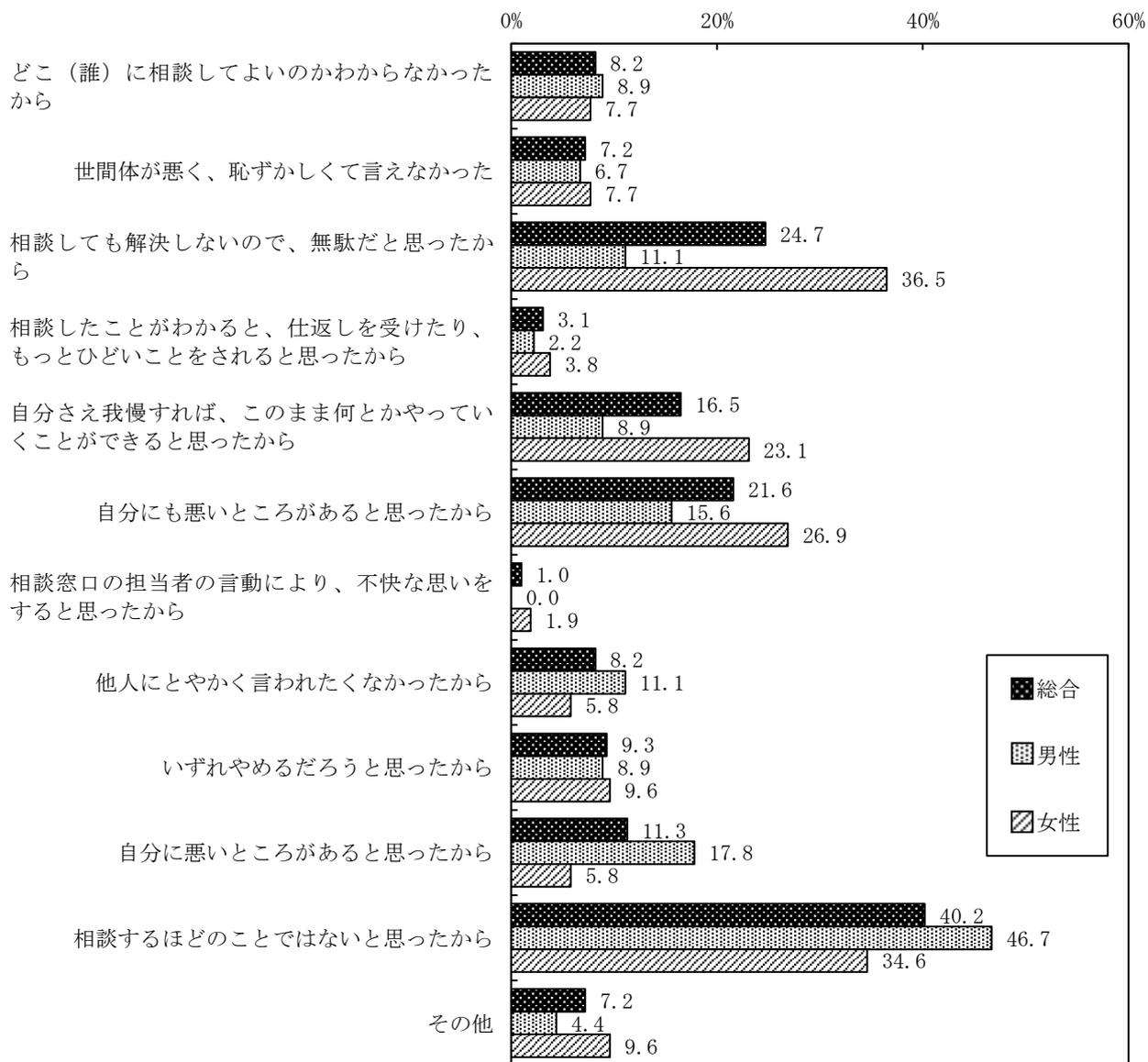
★副問1で「13 どこ（だれ）にも相談しなかった」を選んだ方のみお答えください。

問8（副問2） あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。（あてはまるものすべてに○印）
 【副問1で「13 どこ（だれ）にも相談しなかった」を選択した方のみ回答】

[N=97、選択数：いくつでも]

図表8（副2）－1 相談しなかった理由（総合・性別）

[総合：N=97、男性（N=52）、女性（N=45）、選択数：いくつでも]



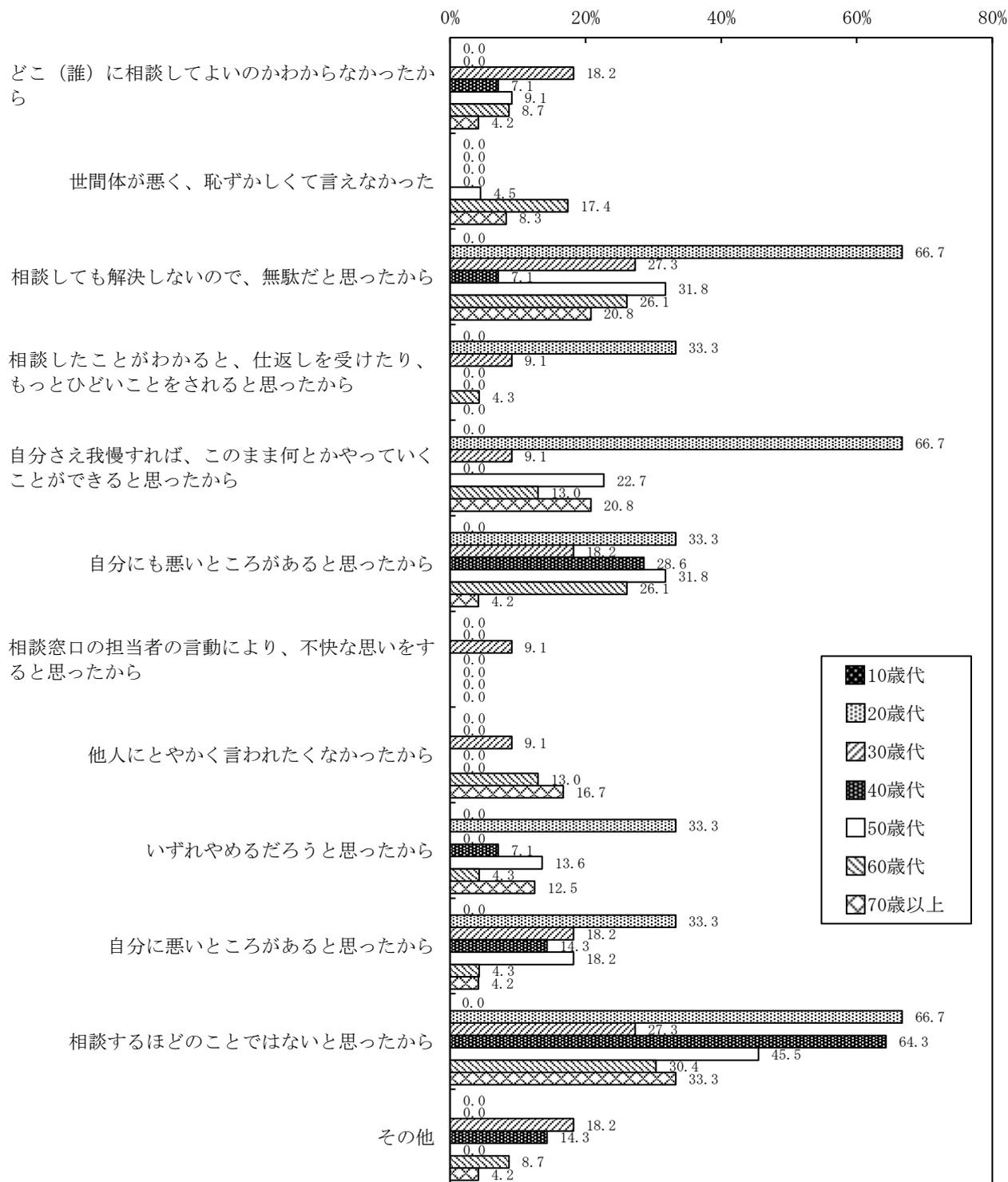
「相談するほどのことではないと思ったから」（40.2%、前回42.9%）が最も高率となっている。次いで、「相談しても解決しないので、無駄だと思ったから」（24.7%、前回24.2%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（21.6%、前回24.2%）と続いている。

性別では、女性は「相談しても解決しないので、無駄だと思ったから」（36.5%）が最も高率で、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」（34.6%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（26.9%）となっている。

一方男性は、「相談するほどのことではないと思ったから」（46.7%）が最も高率で、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」（17.8%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（15.6%）であった。

図表8 (副2) - 2 相談しなかった理由 (年代別)

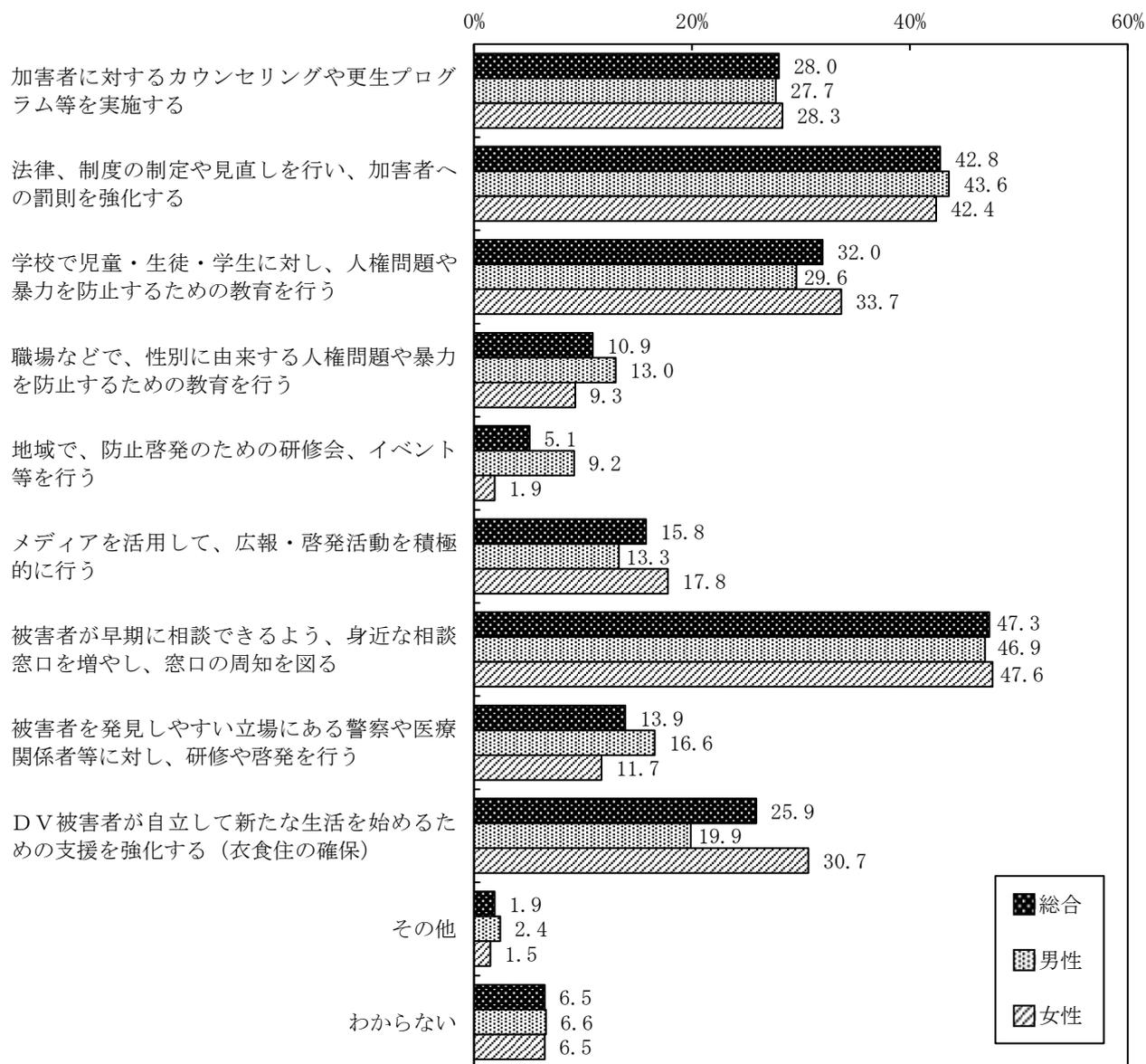
[10歳代 (N=0)、20歳代 (N=3)、30歳代 (N=11)、40歳代 (N=14)、50歳代 (N=22)
60歳代 (N=23)、70歳以上 (N=24)、選択数：いくつでも]



どこ (誰) にも相談しなかった理由としては、全ての年代で「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高率であった。20歳代では他にも、「相談しても解決しないので、無駄だと思ったから」と「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」が同率1位であった。同じく、30歳代では「相談しても解決しないので、無駄だと思ったから」が同率1位であった。

問9 デートDV（交際相手からの暴力）、DV（配偶者等からの暴力）、性暴力などの行為が社会問題になっていますが、このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。（3つまで〇印）
 【全員回答】 [N=964、選択数：3つ以内]

図表9-1 DVなどを予防し、なくすために必要と思われること（総合・性別）
 [総合・性別：N=964、選択数：3つ以内]

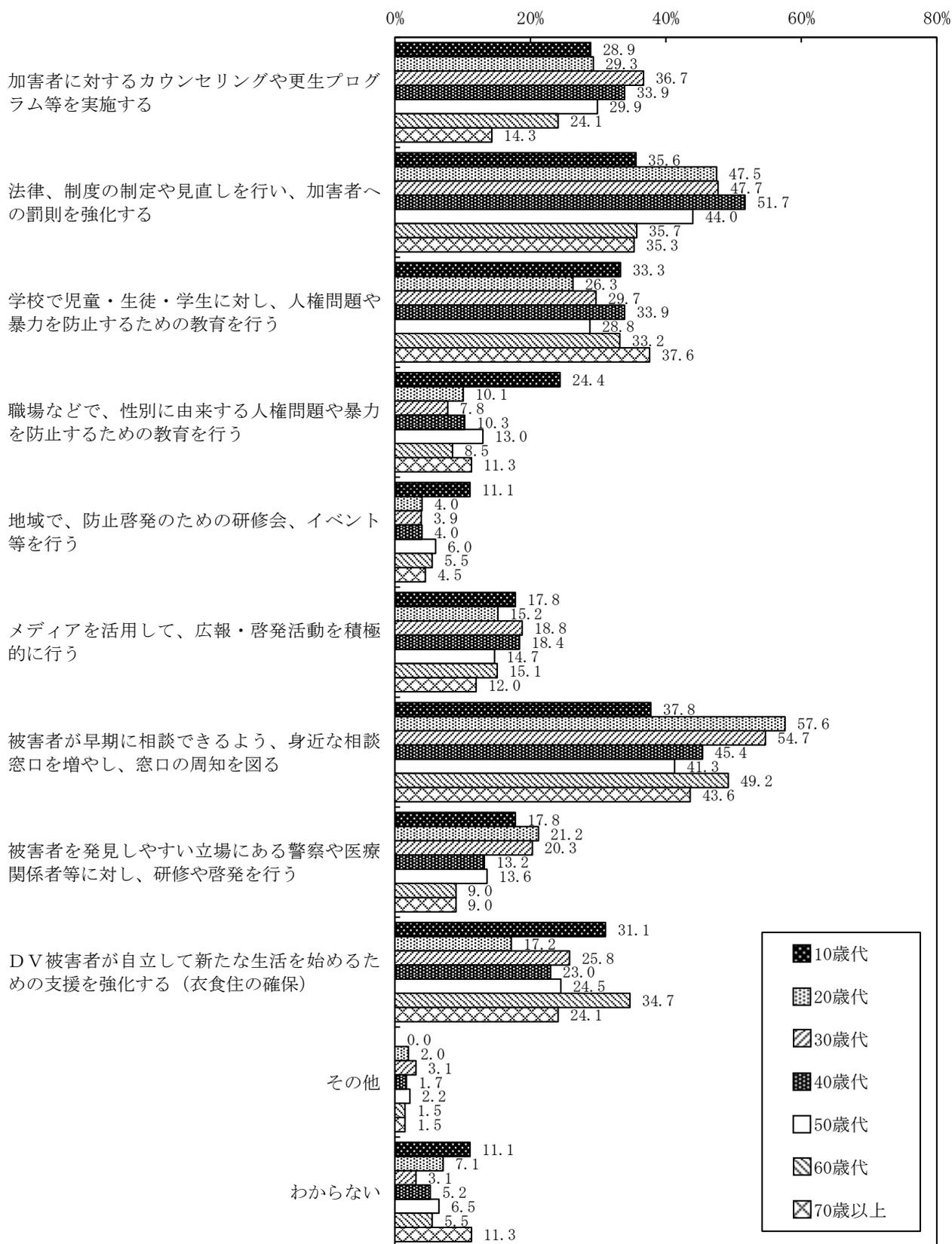


DVや性暴力などの行為を予防し、なくすためには、何を行う必要があるのかを複数回答で質問したところ、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やし、窓口の周知を図る」が47.3%（男性46.9%、女性47.6%）と最も高率で、次いで「法律、制度の制定や見直しを行い、加害者への罰則を強化する」が42.8%（男性43.6%、女性42.4%）、「学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や暴力を防止するための教育を行う」が32.0%（男性29.6%、女性33.7%）となっている。

性別でみると、「DV被害者が自立して新たな生活を始めるための支援を強化する（衣食住の確保）」（25.9%）では、女性30.7%、男性19.9%と10.8ポイント差が、「地域で、防止啓発のための研修会、イベントなどを行う」（5.1%）では男性9.2%、女性1.9%と7.3ポイントの差が見られた他は、比較的近い割合であった。

図表9-2 DVなどを予防し、なくすために必要と思われること（年代別）

[年代別：N=964、選択数：3つ以内]



40歳代、50歳代を除くすべての年代で最も高率だったのは、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やし、窓口の周知を図る」で、40歳代、50歳代では「法律、制度の制定や見直しを行い、加害者への罰則を強化する。」が最も高率であった。

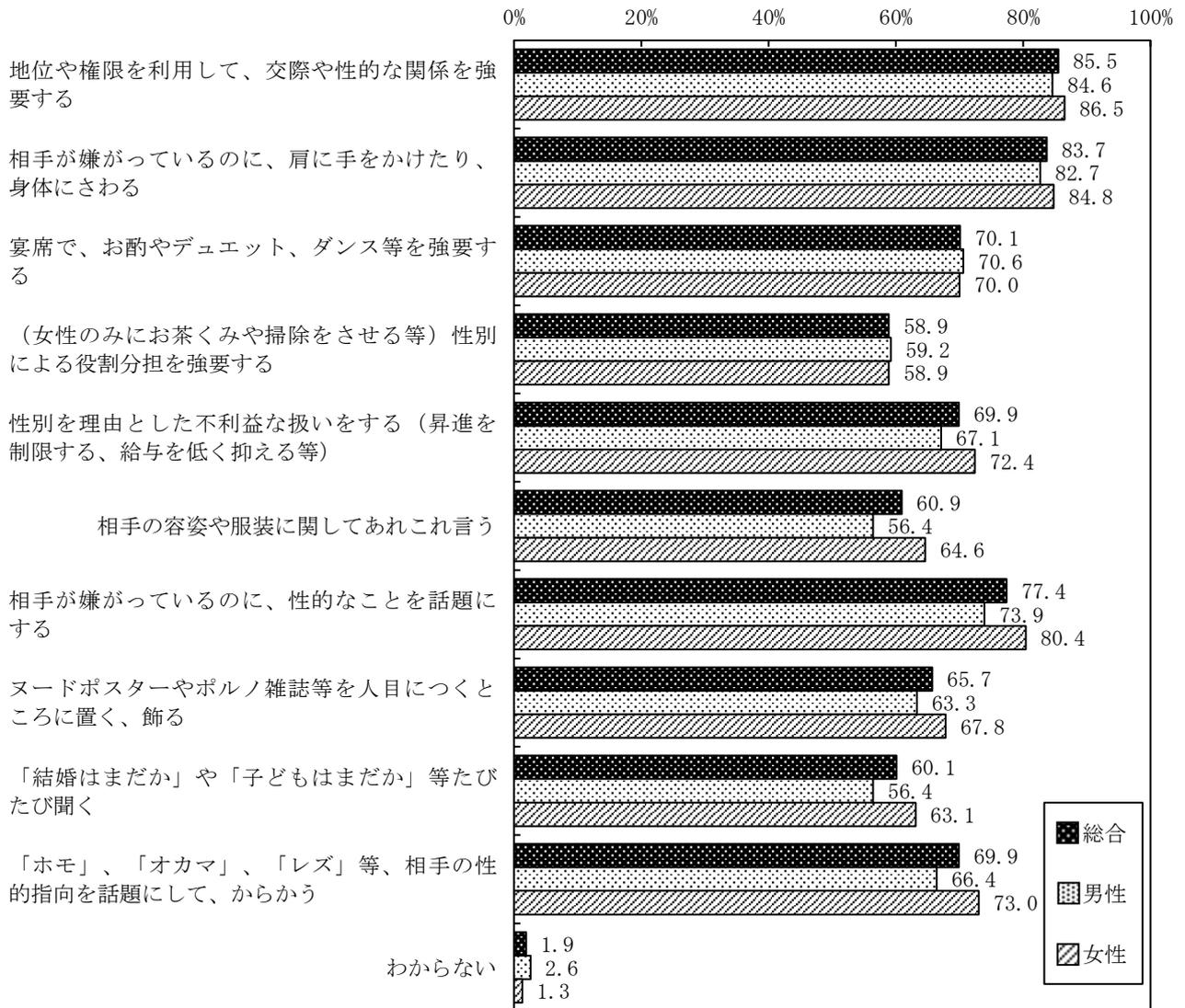
問10 次にあげるもののうち、あなたがセクシュアル・ハラスメントだと思うことはどれですか。

(あてはまるものすべてに○印)【全員回答】

[N=964、選択数：いくつでも]

図表 10-1 セクシュアル・ハラスメント認識 (総合・性別)

[総合・性別：N=964、選択数：いくつでも]



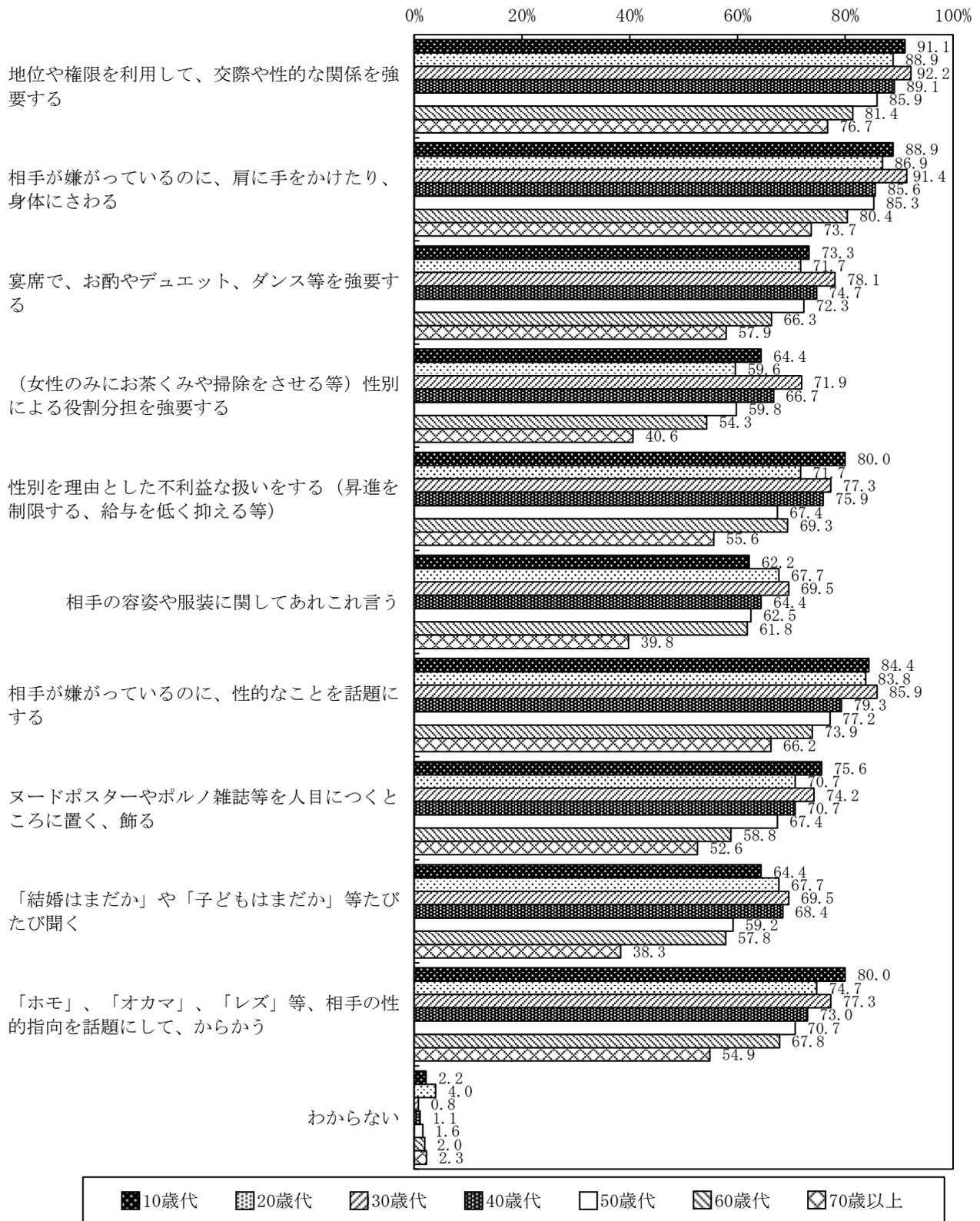
セクシュアル・ハラスメントに該当すると思う行為について複数回答で質問したところ、「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する」(85.5%、前回 86.9%)、「相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体にさわる」(83.7%、前回 80.2%)、「相手が嫌がっているのに、性的なことを話題にする」(77.4%、前回 75.7%) の順であった。順位及び割合とも、前回調査時点と大きな変化は見られない。

一方、「宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する」(70.1%、前回 61.9%) は 8.2 ポイント、「(女性のみにお茶くみや掃除をさせる等) 性別による役割分担を強要する」(58.9%、前回 49.8%) は 9.1 ポイント、「ヌードポスターやポルノ雑誌等を人目につくところに置く、飾る」(65.7%、前回 58.7%) は 7 ポイント増えており、セクシュアル・ハラスメントに対する認識は全体的に高まってきていると考えられる。

性別でみると、「相手の容姿や服装に関してあれこれ言う」(男性 56.4%、女性 64.6%) や「結婚はまだか」や「子供はまだか」などたびたび聞く」(男性 56.4%、女性 63.1%) や「ホモ」、「オカマ」、「レズ」等、相手の性的指向を話題にして、からかう」(男性 66.4%、女性 73.0%) などの言葉に関するセクシュアル・ハラスメント認識において男女間の差が大きくなっている。

図表 10-2 セクシュアル・ハラスメント認識（年代別）

[年代別：N=964、選択数：いくつでも]



年代別では、10歳代から50歳代がいずれの項目でも比較的高率である。逆に60歳代、70歳以上は比較的低率であり、特に70歳以上はいずれの項目でも最も低率になっている。

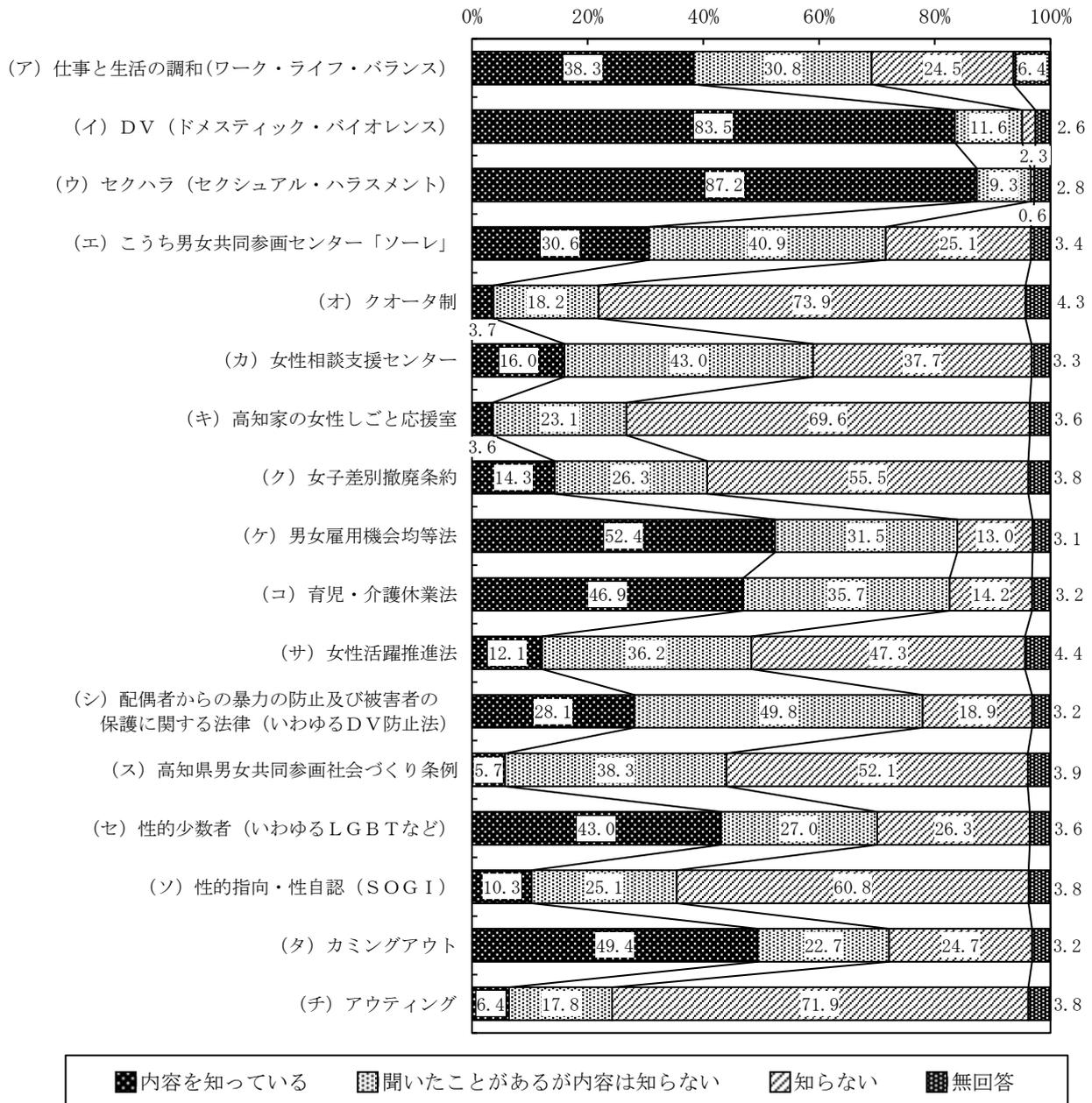
◆5. 男女共同参画の推進について

問11 あなたは、次にあげる言葉について、知っていますか。

(それぞれ該当する番号(ア)～(チ)に1つだけ○印)【全員回答】

[N=964、選択数：各1]

図表11-1 男女共同参画関連用語等の周知度「全体」 [総合：N=964、選択数：各1]



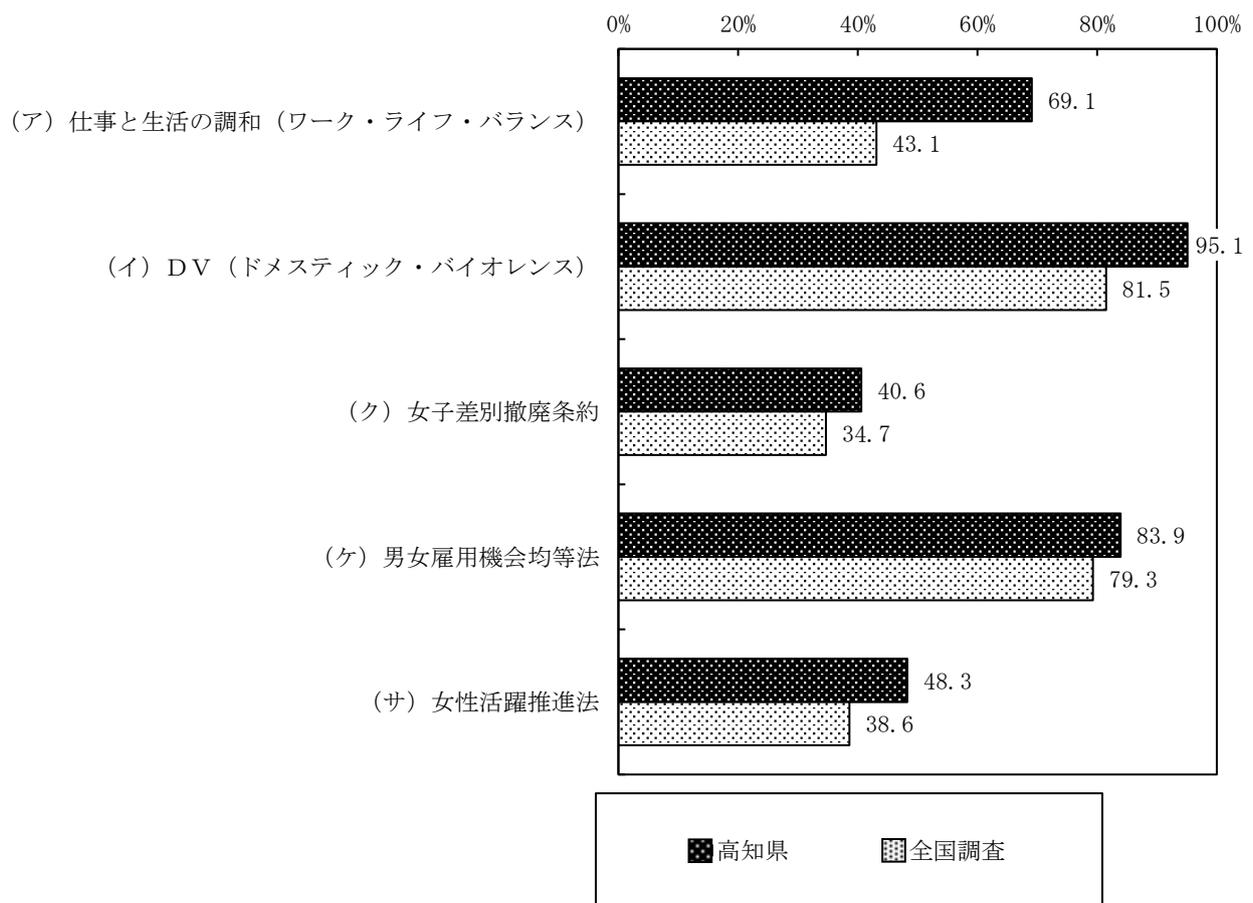
最も認識が高かったのは、「セクハラ (セクシュアル・ハラスメント)」で87.2%、次いで「DV (ドメスティック・バイオレンス)」83.5%と8割以上の県民が「内容を知っている」と回答した。その後は、「男女雇用機会均等法」(52.4%)、「カミングアウト」(49.4%)と続いた。

「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を足した割合では、「セクハラ」(96.5%)、「DV」(95.1%)、「男女雇用機会均等法」(83.9%)、「育児・介護休業法」(82.6%)の順で高くなっている。

「内容を知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が最も低かったのは、「クオーター制」(3.7%+18.2%)で、「アウティング」(6.4%+17.8%)、「高知家の女性しごと応援室」(3.6%+23.1%)、「性的指向・性自認 (SOGI)」(10.3%+25.1%)、「女子差別撤廃条約」(14.3%+26.3%)と続いている。

図表 11-2 男女共同参画関連用語等の周知度「全国調査との比較※」

[高知：N=964、全国：N=2,645、選択数：各1]



※「全国調査」出典：

・令和元年度「男女共同参画社会に関する世論調査」(内閣府男女共同参画局調べ)

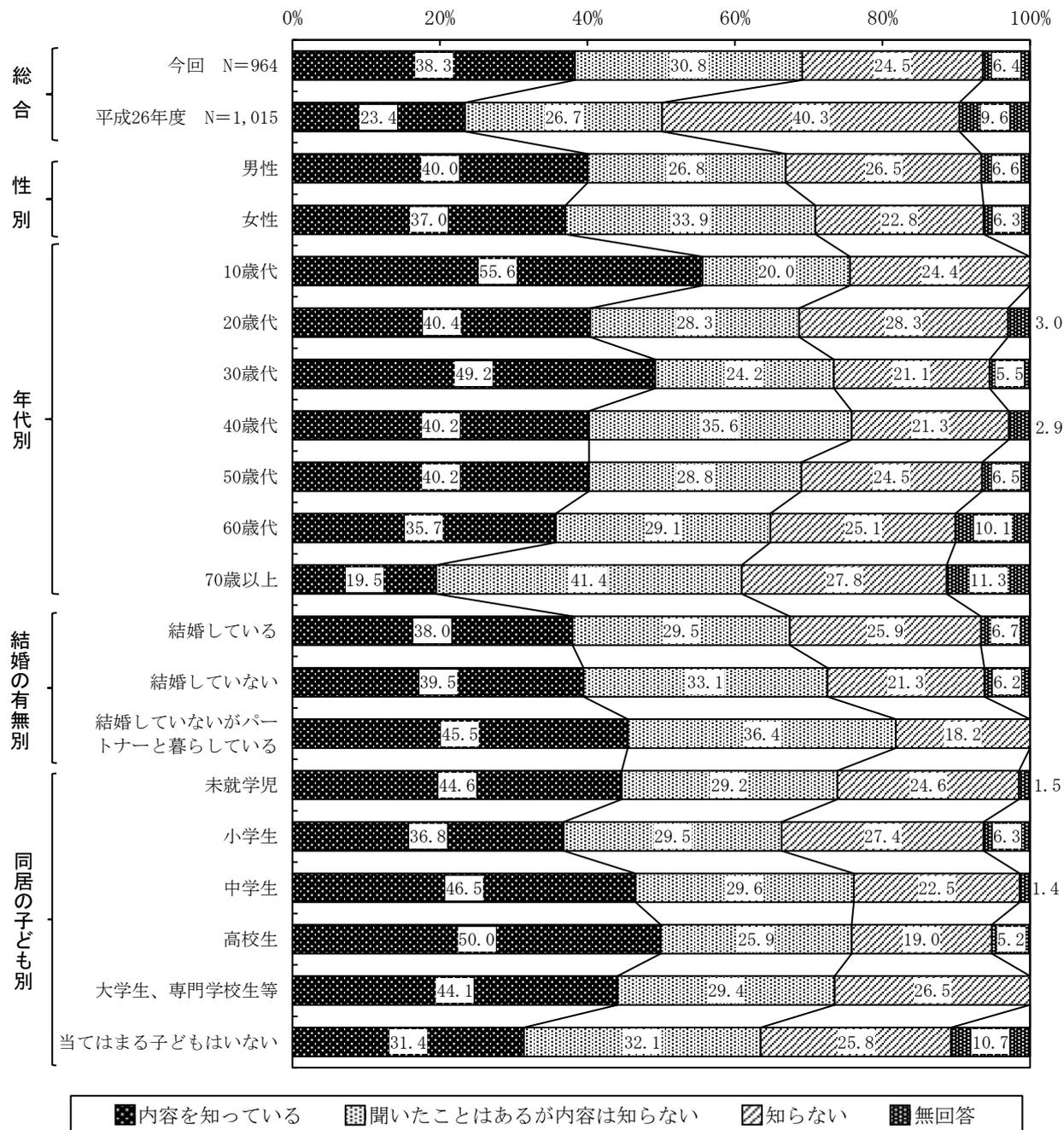
※全国調査の質問文は「これらの言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことのあるものを全てあげてください。」となっているため、高知県の数値は「内容を知っている」「聞いたことがあるが内容は知らない」の回答を合わせたものを表示している

全国と比較すると、「仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)」(高知：69.1%、全国：43.1%)、「DV」(高知：95.1%、全国：81.5%)、「女子差別撤廃条約」(高知：40.6%、34.7%)、「男女雇用機会均等法」(高知83.9%、全国79.3%)、「女性活躍推進法」(高知48.3%、全国38.6%)と、いずれの選択肢も高知県の方が認識が高いという結果となった。これは、前回調査(平成26年度)、前々回調査(平成21年度)と同様である。

(ア) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

図表 11-3 男女共同参画関連用語等の周知度「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」

[総合：N=964、選択数：1]



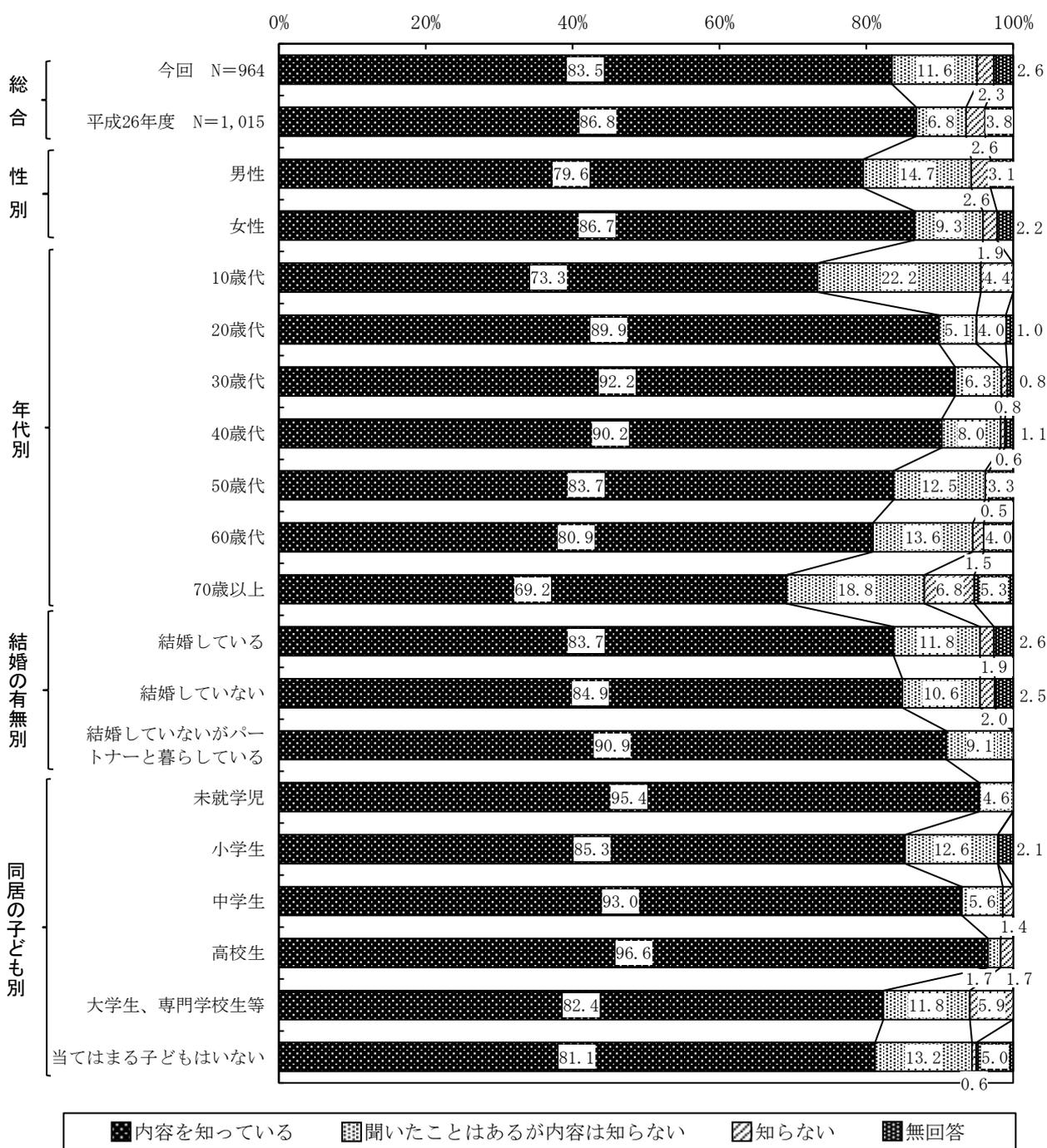
仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）については、前回と比較して、「内容を知っている」（23.4%→38.3%）、「聞いたことはあるが内容は知らない」（26.7%→30.8%）の両方の割合が上がったため、全体としても19ポイントのアップとなっており、県民の周知度がより上昇していると見られる。

性別では、「知らない」と回答した割合は、女性（22.8%）の方が男性（26.5%）よりも3.7ポイント低くなっている。

年代別では、年代が低くなるほど「内容を知っている」と回答した割合が高くなる傾向にある。

(イ) DV (ドメスティック・バイオレンス)

図表 11-4 男女共同参画関連用語等の周知度「DV (ドメスティック・バイオレンス)」
 [総合：N=964、選択数：1]



DV (ドメスティック・バイオレンス) については、「内容を知っている」(83.5%、前回86.8%)と「聞いたことはあるが内容は知らない」(11.6%、前回6.8%)を足すと、95.1%の県民が周知している。

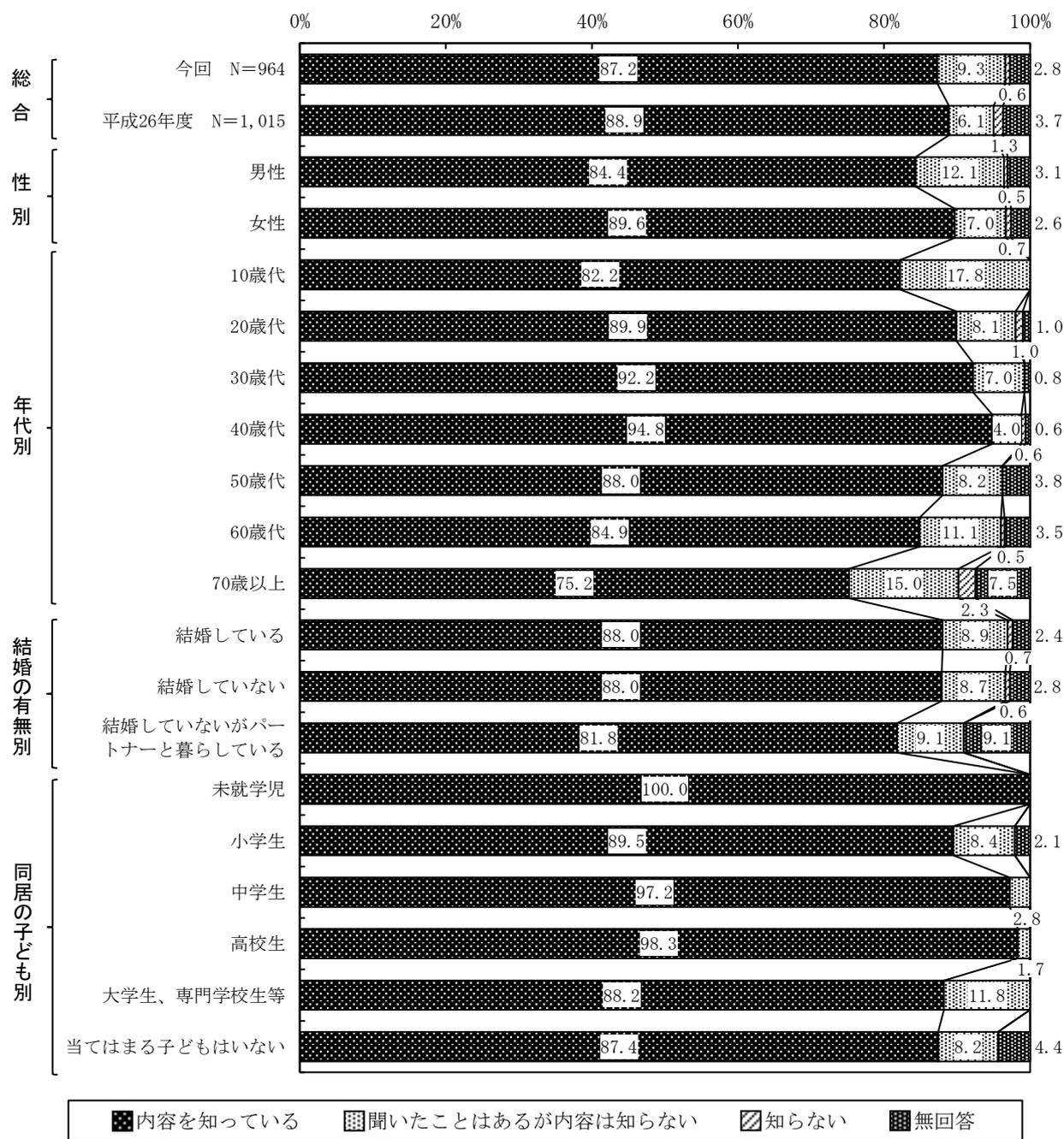
性別では、「内容を知っている」の割合は、女性(86.7%)の方が男性(79.6%)よりも高率である。

年代別では10歳代(73.3%)を除いて、年代が上がるほど周知度が下がる傾向があり、20歳代(89.9%)、30歳代(92.2%)、30歳代(90.2%)に対して、60歳代(80.9%)、70歳以上(69.2%)であった。

(ウ) セクハラ (セクシュアル・ハラスメント)

図表 11-5 男女共同参画関連用語等の周知度「セクハラ (セクシュアル・ハラスメント)」

[総合: N=964、選択数: 1]



セクハラ (セクシュアル・ハラスメント) については、「内容を知っている」(今回87.2%、前回88.9%)の割合が最も高率で、「聞いたことはあるが内容は知らない」(今回9.3%、前回6.1%)を足すと、96.5%の県民が周知しており、前回調査時(平成26年度)よりも増加している。

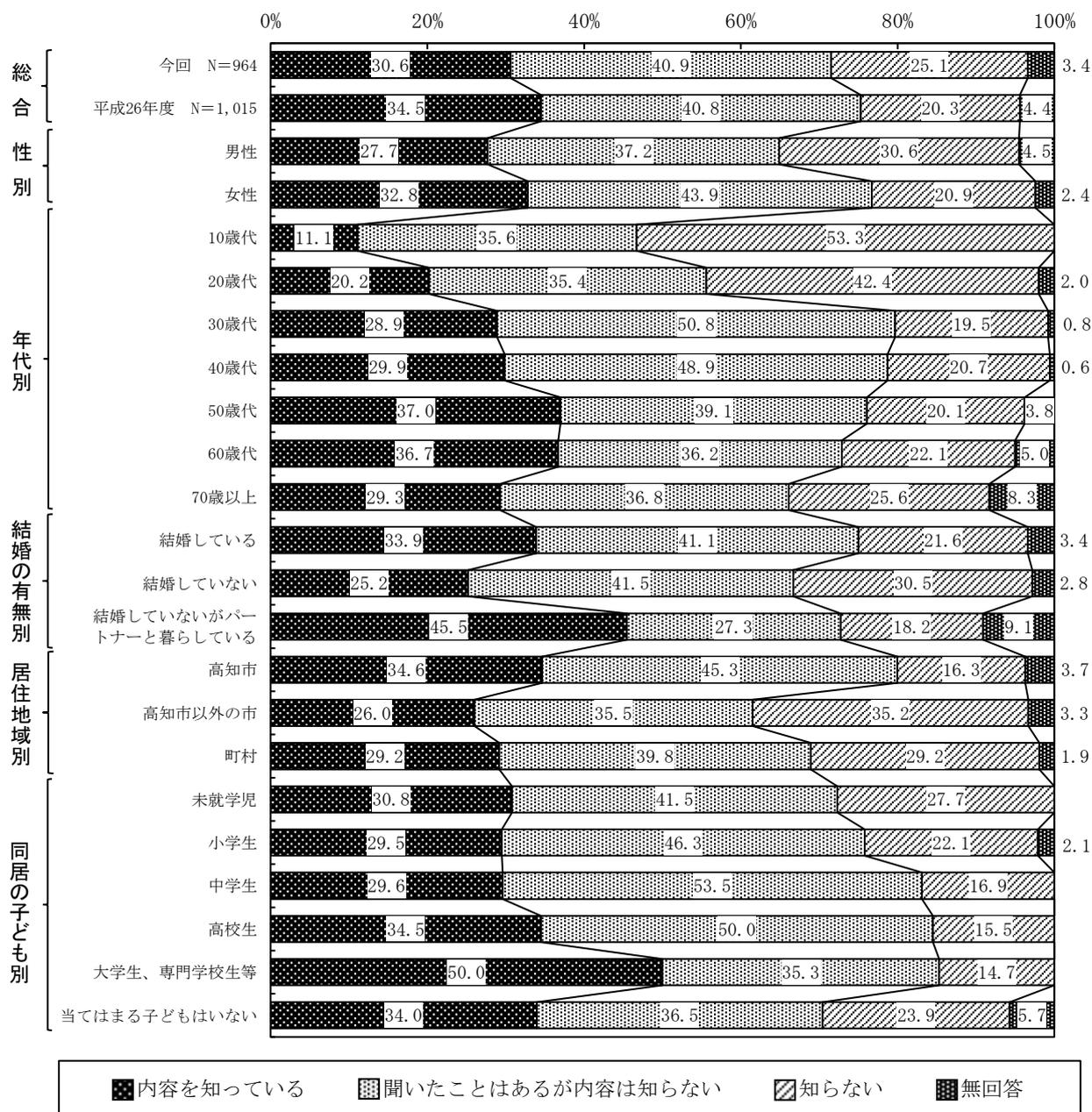
性別では、「内容を知っている」では、女性(89.6%)が男性(84.4%)よりも高くなっている。

年代別では、「内容を知っている」の割合が、30歳代では92.2%、40歳代では94.8%と90%を超えている一方、70歳以上では75.2%と最も低くなっている。

(エ) こうち男女共同参画センター「ソーレ」

図表 11-6 男女共同参画関連用語等の周知度「こうち男女共同参画センター「ソーレ」

[総合：N=964、選択数：1]



こうち男女共同参画センター「ソーレ」については、前回調査よりも周知度がダウンしており、「内容を知っている」の割合が34.5%から30.6%へと3.9ポイント減り、まだまだ十分周知されていないことが分かる。

年代別では、「内容を知っている」の割合が50歳代で37.0%と最も高くなっている一方、10歳代では11.1%と25.9ポイントの差がある。

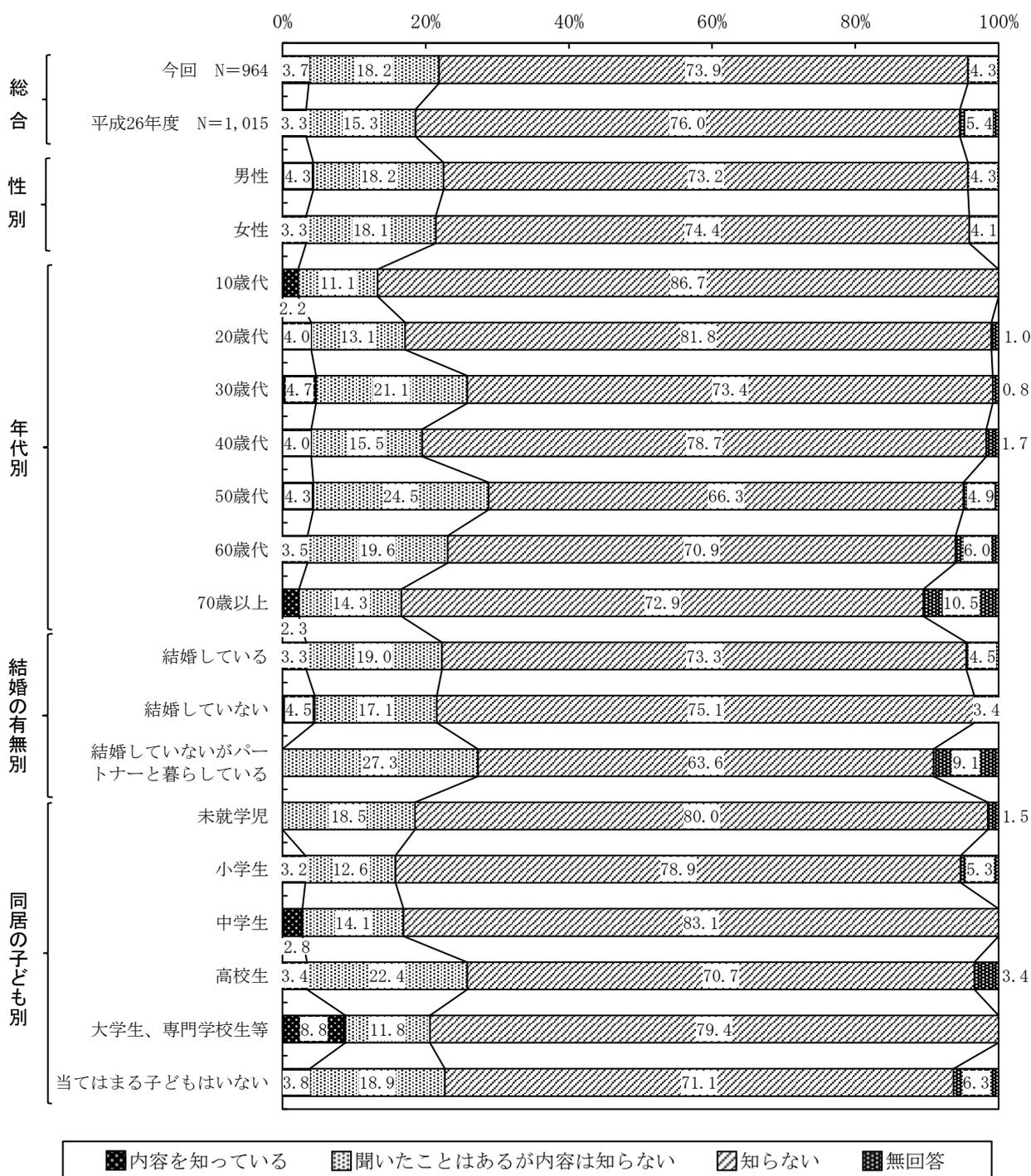
結婚の有無別では、「内容を知っている」の割合が、結婚していないがパートナーと暮らしている層が45.5%と最も高くなっており、結婚していない層は25.2%と20.3ポイントの差がある。

居住地域別では、「内容を知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた割合は高知市で79.9% (34.6%+45.3%) と最も高く、最も低い高知市以外の市の61.5% (26.0%+35.5%) と比較すると18.4ポイントの差がある。

同居の子ども別では、大学生、専門学校生等と同居している層の周知度が50.0%と最も高く、小学生、中学生と同居している層では約30%と、20ポイント近い差がある。

(オ) クオータ制

図表 11-7 男女共同参画関連用語等の周知度「クオータ制」 [総合：N=964、選択数：1]



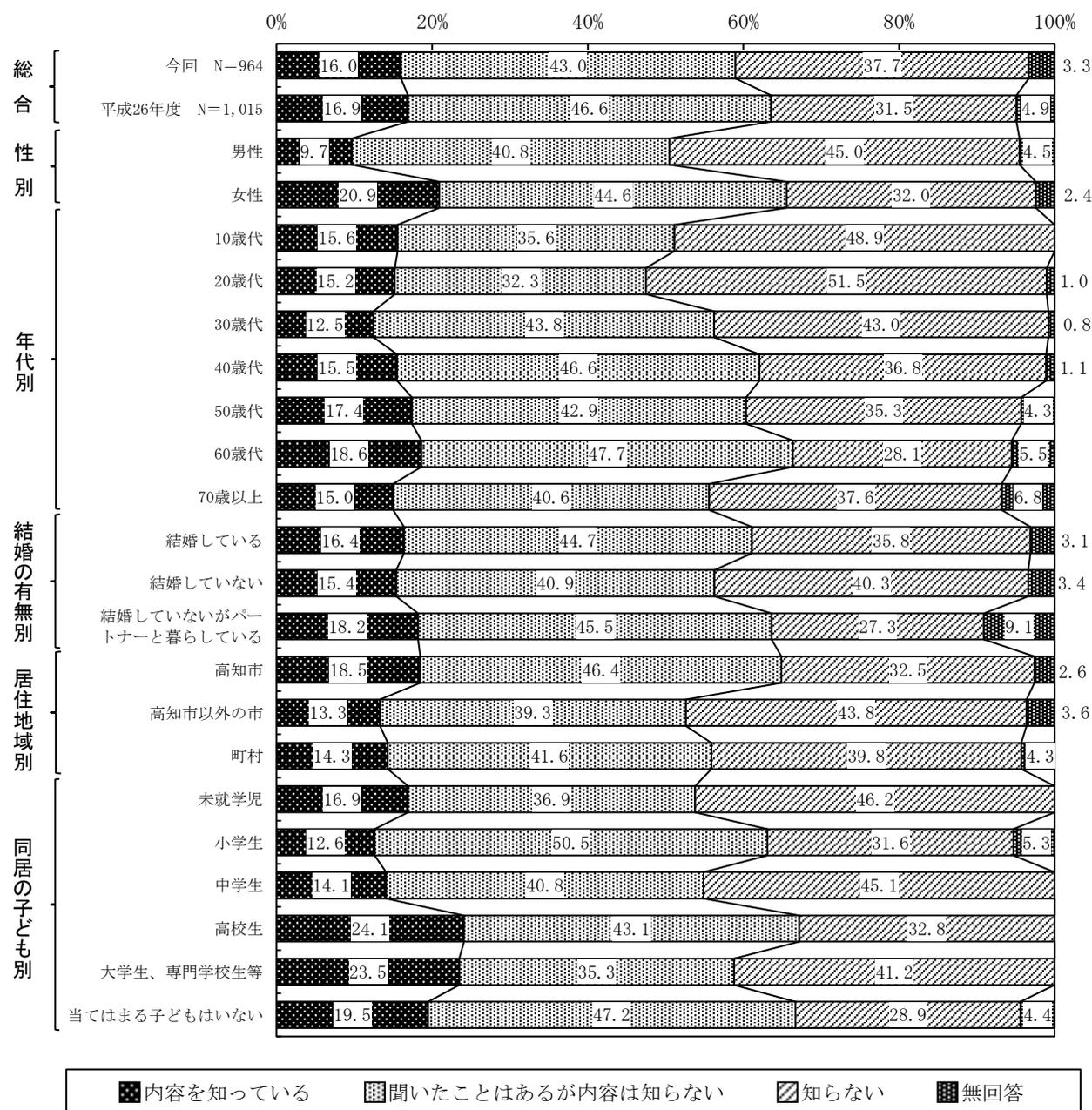
クオータ制については、今回の調査項目の中で、「内容を知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合がともに最も低く、マスコミ等での露出度の低さからか、周知度は低くなっている。

また、「内容を知っている」の割合は前回調査が3.3%に対し、今回調査では3.7%とほぼ横ばいだが、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合は前回調査の15.3%に対し、今回調査では18.2%と2.9ポイント増加しており、「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた割合も、前回調査が18.6%に対し、今回調査では21.9%と3.3ポイント増加している。さらに、「知らない」と回答した割合も、前回調査の76.0%から今回調査の73.9%へと2.1ポイント減少している。

(カ) 女性相談支援センター

図表 11-8 男女共同参画関連用語等の周知度「女性相談支援センター」

[総合：N=964、選択数：1]



女性相談支援センターについては、「内容を知っている」(16.0%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(43.0%)合わせて59.0%となっており、前回調査よりも減少している。

性別では、女性(20.9%)の方が男性(9.7%)よりも「内容を知っている」割合が高くなっている。

年代別では年代が高くなるほど「内容を知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」を足した割合が高くなる傾向にある。

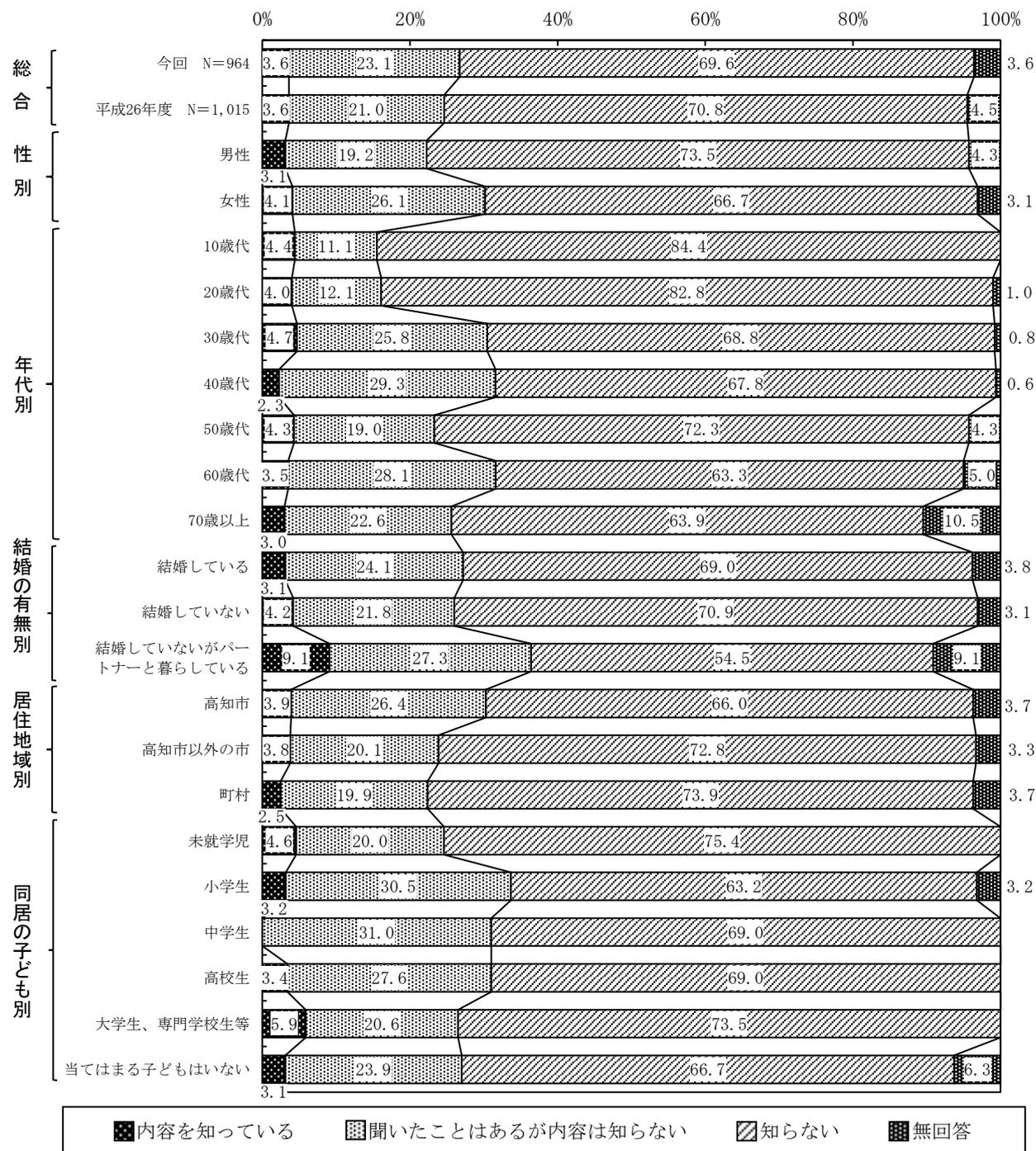
居住地地域別では、「内容を知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」を足した割合は、高知市で64.9%(18.5%+46.4%)と最も高く、最も低い高知市以外の市の52.6%(13.3%+39.3%)と比較すると、12.3ポイント高くなっている。

同居の子ども別では、高校生、大学生、専門学校生等と同居している層と、当てはまる子どもはいない層の周知度は、未就学児、小学生、中学生と同居している層と比べると高くなっている。

(キ) 高知家の女性しごと応援室

図表 11-9 男女共同参画関連用語等の周知度「高知家の女性しごと応援室」

[総合：N=964、選択数：1]



高知家の女性しごと応援室については、前回調査と比較してもほぼ横ばいとなっている。

性別では、「内容を知っている」(男性3.1%、女性4.1%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(男性19.2%、女性26.1%)と女性の方が高くなっている。

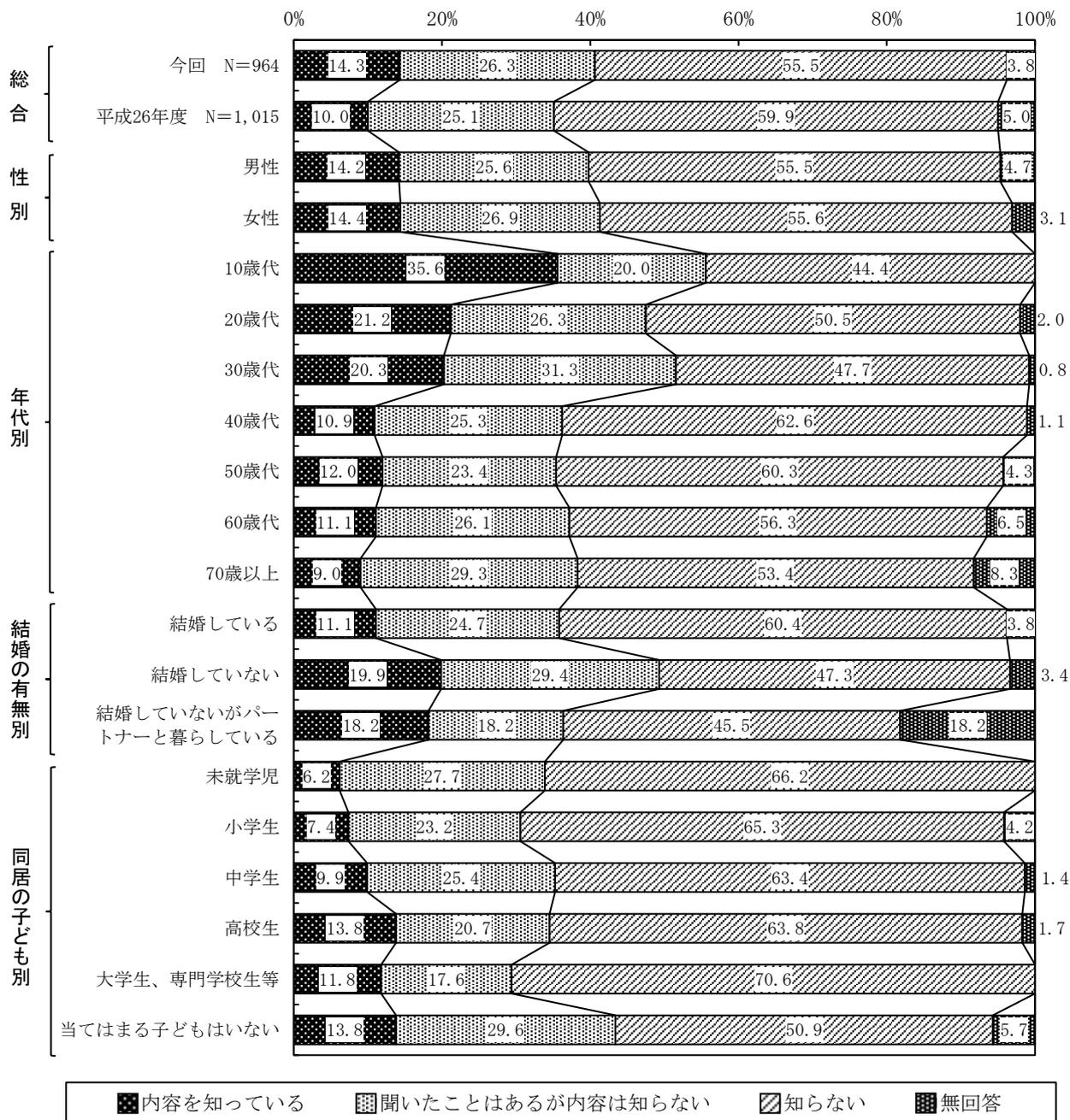
年代別では、「知らない」が10歳代(84.4%)、20歳代(82.8%)で8割を超えている。また、最も多い10歳代(84.4%)と、最も少ない60歳代(63.3%)では21.1ポイントの差がある。

居住地別では、「知らない」は町村(73.9%)が最も高く、最も少ない高知市(66.0%)と比較して7.9ポイントの差がある。

(ク) 女子差別撤廃条約

図表 11-10 男女共同参画関連用語等の周知度「女子差別撤廃条約」

[総合：N=964、選択数：1]



女子差別撤廃条約については、「内容を知っている」(14.3%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(26.3%)で、合わせて40.6%の周知度である。

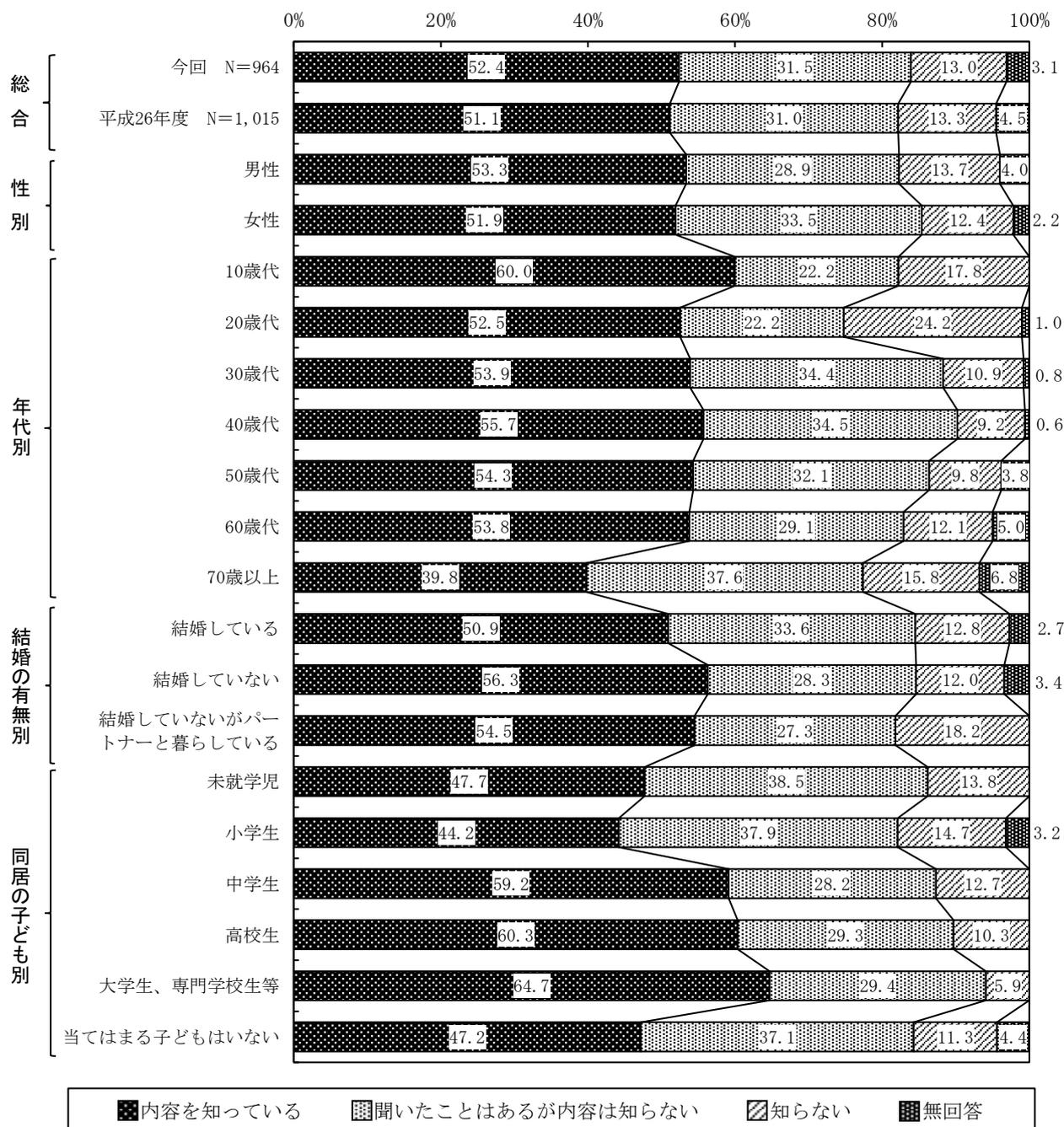
性別による周知度の違いはほとんど無い。

年代別では、「内容を知っている」(35.6%)が10歳代で最も高くなっており、低い年代の方が周知度は高くなっている傾向にある。

(ケ) 男女雇用機会均等法

図表 11-11 男女共同参画関連用語等の周知度「男女雇用機会均等法」

[総合：N=964、選択数：1]

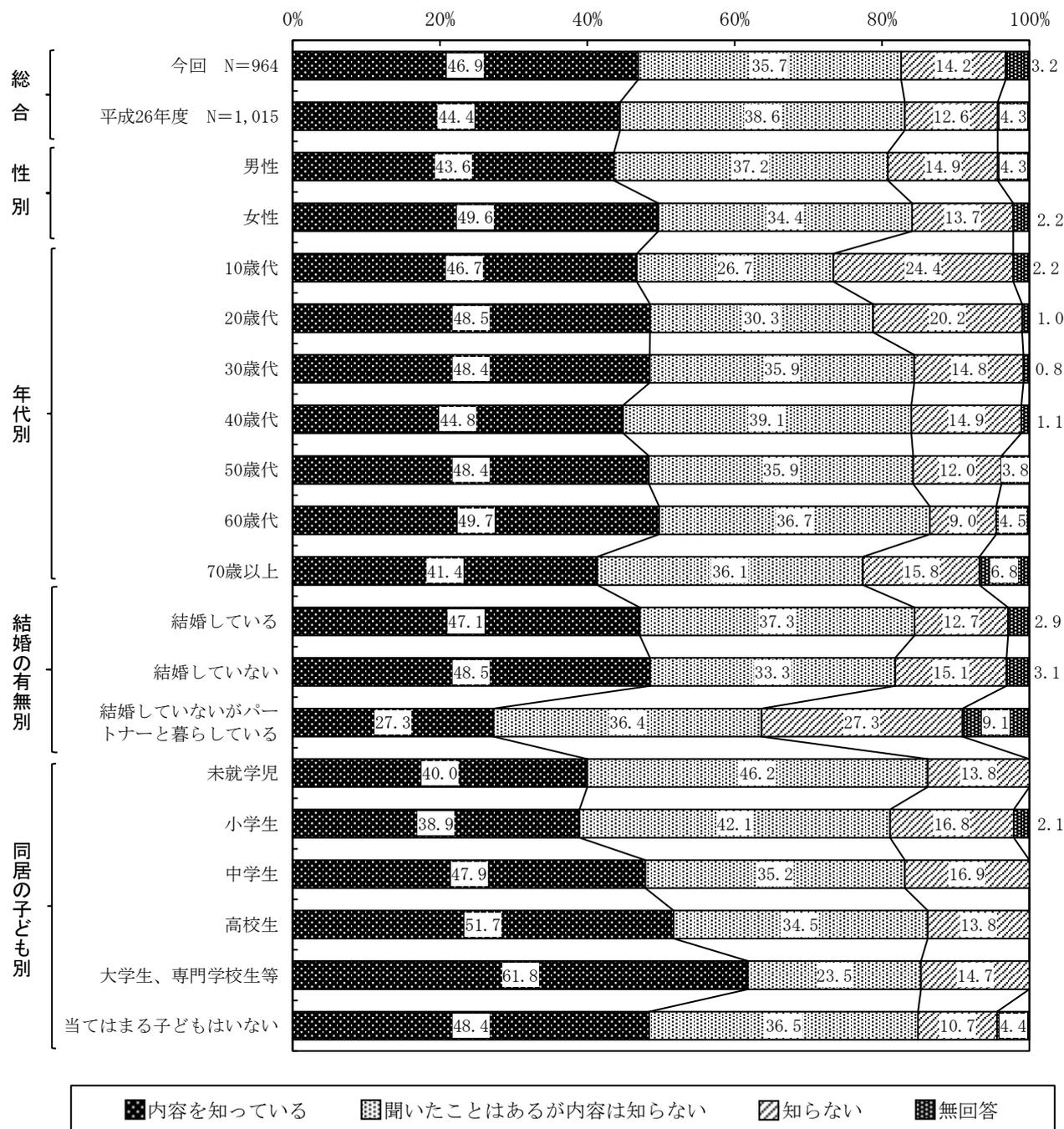


男女雇用機会均等法については、「内容を知っている」(52.4%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(31.5%)で合わせて83.9%の周知度である。なお、「内容を知っている」については、70歳以上で39.8%になっている他は、概ね50%から60%の周知度となっている。

(コ) 育児・介護休業法

図表 11-12 男女共同参画関連用語等の周知度「育児・介護休業法」

[総合：N=964、選択数：1]



育児・会議休業法については、「内容を知っている」(46.9%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(35.7%)で合わせて82.6%の周知度である。

年代別では、年代が高くなるほど「知らない」の割合が低くなっていく傾向にある。

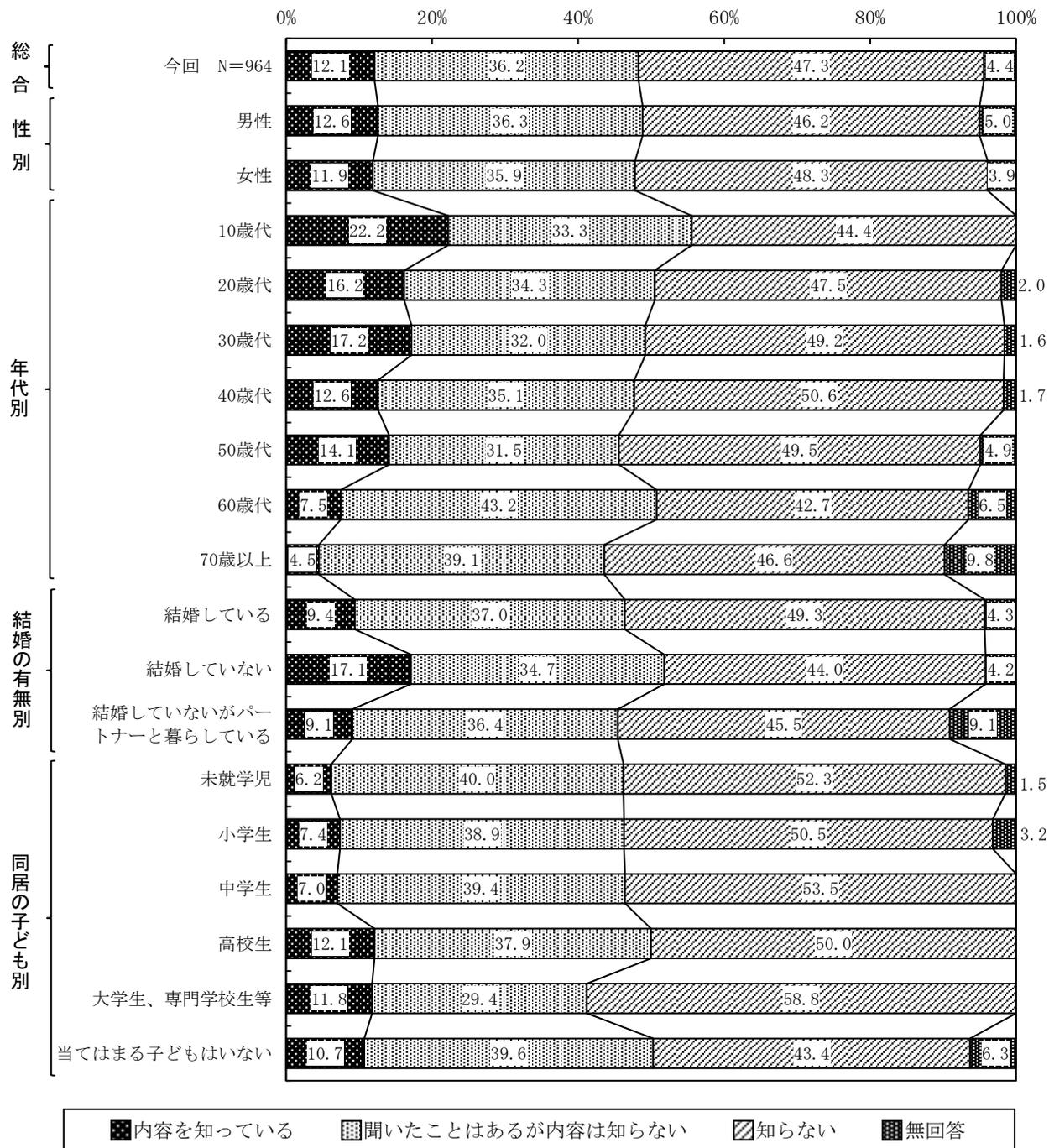
結婚の有無別では、「内容を知っている」割合が、結婚していると結婚していない層では47%以上であるのに対し、結婚していないがパートナーと暮らしている層では27.3%と20ポイント近い差がある。

同居の子ども別では、同居している子どもの年齢が高くなるほど「内容を知っている」の割合が高くなっている。

(サ) 女性活躍推進法

図表 11-13 男女共同参画関連用語等の周知度「女性活躍推進法」

[総合：N=964、選択数：1]



今回新たに追加した質問である。

女性活躍推進法については、「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせたものが、「知らない」とほぼ同数となっており、男女差はほとんど見られない。

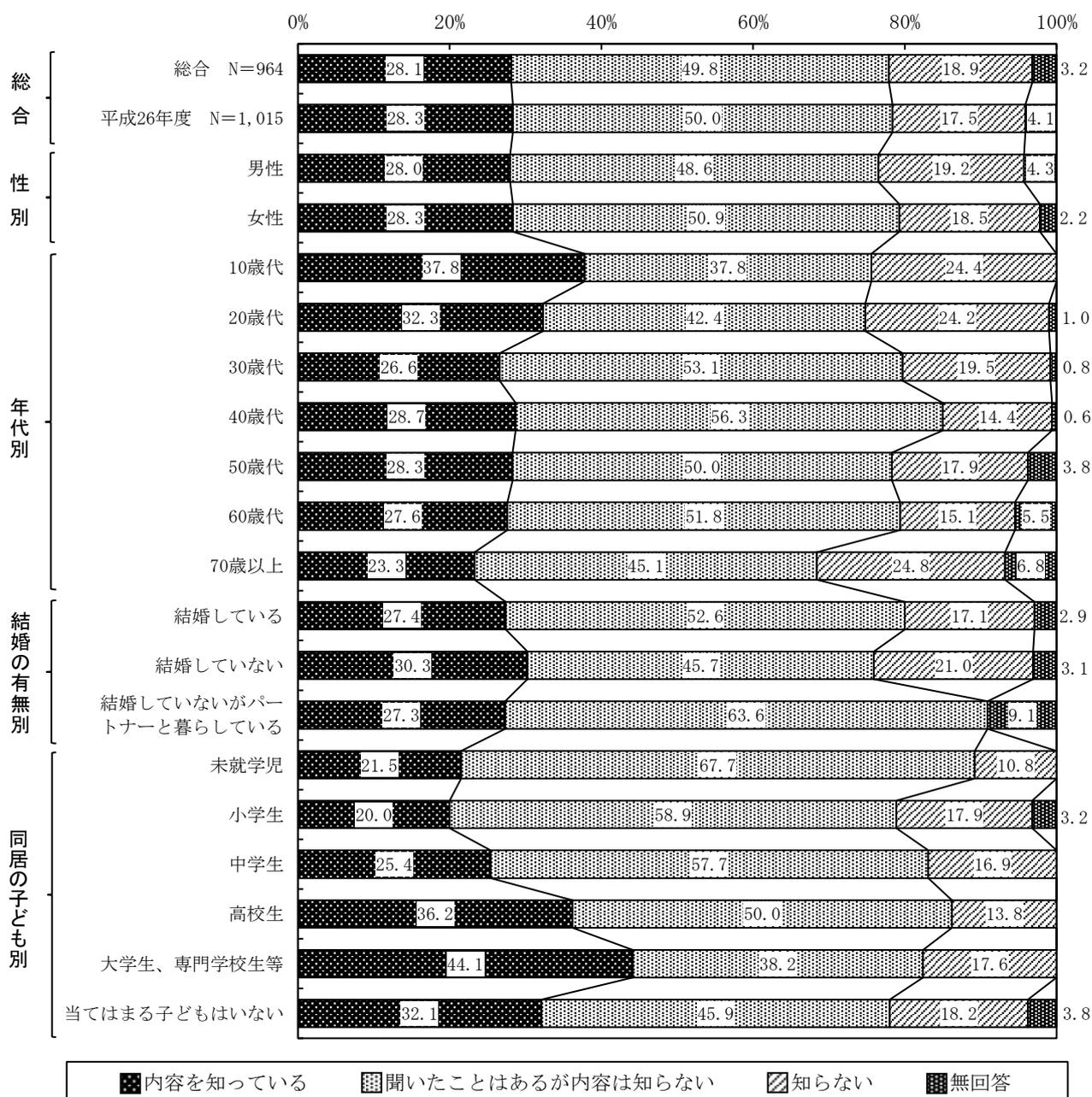
結婚の有無別では、結婚していない層で「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせたものが51.8%と最も高くなっている。

年代別では低い年代ほど「内容を知っている」の割合が高い傾向にある。

(シ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（いわゆるDV防止法）

図表 11-14 男女共同参画関連用語等の周知度「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（いわゆるDV防止法）」

[総合：N=964、選択数：1]



配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（いわゆるDV防止法）については、「内容を知っている」（28.1%）、「聞いたことはあるが内容は知らない」（49.8%）と、合わせて77.9%の周知度となっている。

性別に関しては、ほとんど差は見られない。

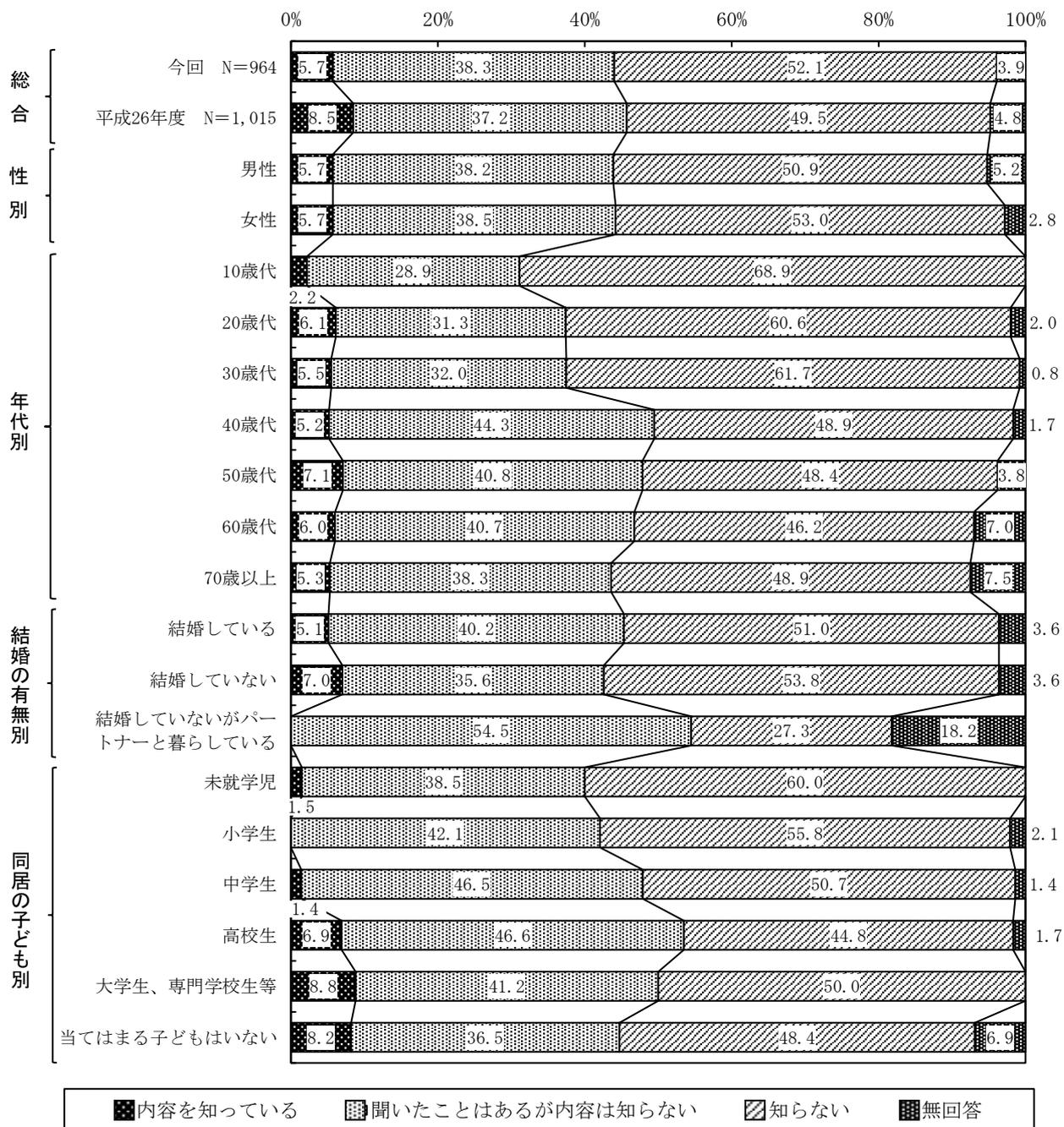
年代別では、「内容を知っている」の割合が、70歳以上（23.3%）で低く、10歳代、20歳代では30%を超えている。

同居の子ども別では、「内容を知っている」は、大学生、専門学校生等と同居している層が44.1%と最も高く、最も少ない小学生と同居している層の20.0%とは、24.1ポイントの差がある。また、子供の年齢が高いほど「内容を知っている」の割合が高くなる傾向にある。

(ス) 高知県男女共同参画社会づくり条例

図表 11-15 男女共同参画関連用語等の周知度「高知県男女共同参画社会づくり条例」

[総合：N=964、選択数：1]



高知県男女共同参画社会づくり条例については、「内容を知っている」5.7%、「聞いたことはあるが内容は知らない」38.3%で、約半数が「知らない」と回答している。

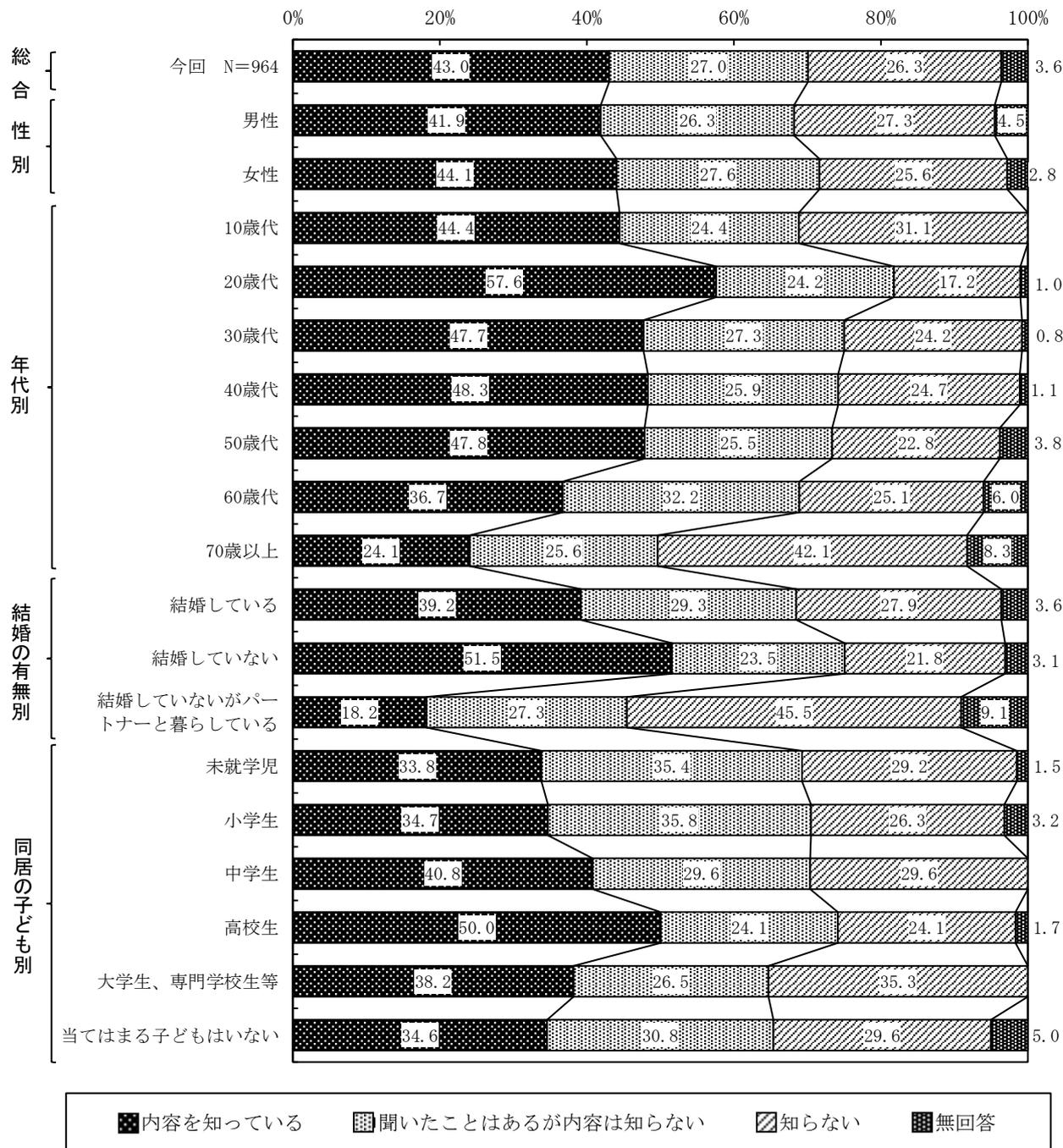
性別に関しては、ほとんど差は見られない。

年代別では、「内容を知っている」では年代による差は見られないが、「聞いたことはあるが内容は知らない」では10歳代(28.9%)、20歳代(31.3%)、30歳代(32.0%)の割合が低く、40歳代(44.3%)、50歳代(40.8%)、60歳代(40.7%)では高くなっている。

(セ) 性的少数者（いわゆるLGBTなど）

図表 11-16 男女共同参画関連用語等の周知度「性的少数者（いわゆるLGBTなど）」

[総合：N=964、選択数：1]



今回新たに追加した質問である。

性的少数者（いわゆるLGBTなど）については、「内容を知っている」43.0%、「聞いたことはあるが内容は知らない」27.0%、「知らない」26.3%と回答している。

男女差による大きな違いはない。

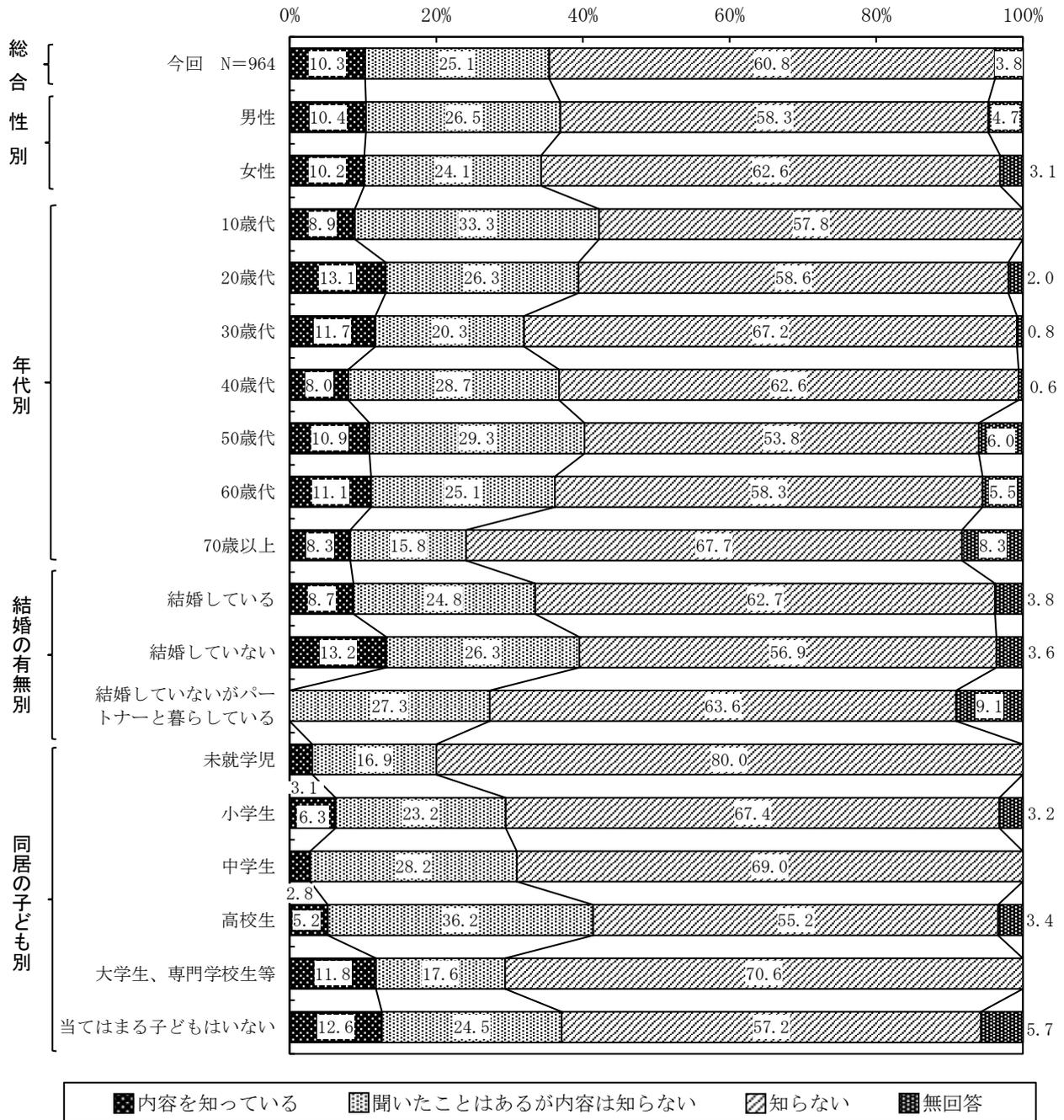
年代別では、「内容を知っている」が20歳代（57.6%）で最も高く、最も低い70歳以上（24.1%）と比べると33.5ポイントの差がある。

結婚の有無別では、「内容を知っている」が結婚していない層（51.5%）で最も高く、最も低い結婚していないがパートナーと暮らしている層（18.2%）と比べると33.3ポイントの差がある。

(ソ) 性的指向・性自認 (SOGI)

図表 11-17 男女共同参画関連用語等の周知度「性的指向・性自認 (SOGI)」

[総合：N=964、選択数：1]



今回新たに追加した質問である。

性的指向・性自認 (SOGI) については、「知らない」が 60.8%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」25.1%、「内容を知っている」10.3%、となっており、全般的に認知度は低い。

性別では、女性 (62.6%) の方が男性 (58.3%) より、「知らない」と回答した割合が多い。

年代別では、「知らない」の割合が30歳代 (67.2%) と70歳以上 (67.7%) で高い割合となっている。

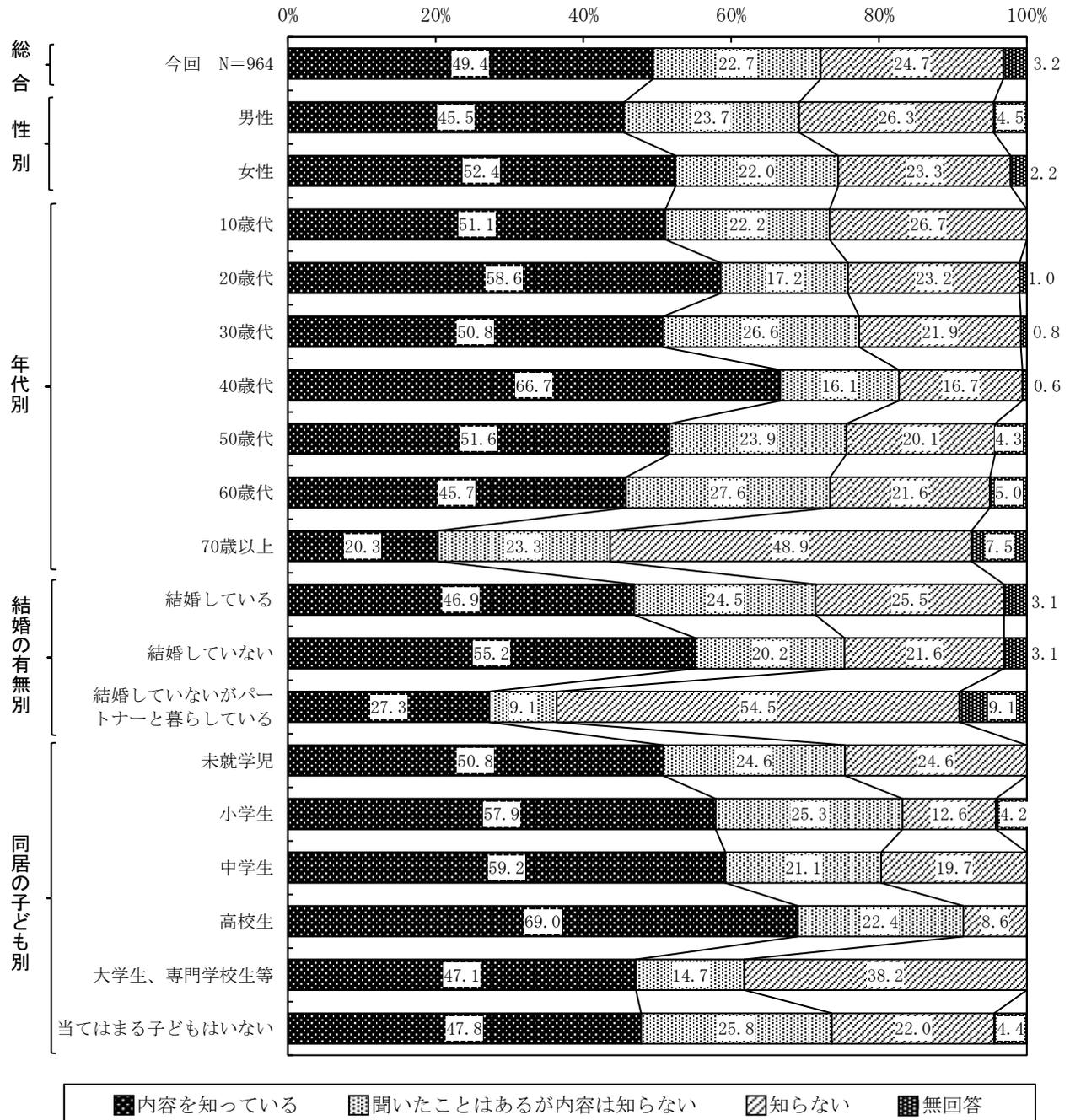
結婚の有無別では、結婚していないがパートナーと暮らしている層が「内容を知っている」という回答が0%となっている。

同居の子ども別では、未就学児と同居している層で、80%が「知らない」と回答している。

(タ) カミングアウト

図表 11-18 男女共同参画関連用語等の周知度「カミングアウト」

[総合：N=964、選択数：1]



今回新たに追加した質問である。

カミングアウトについては、「内容を知っている」が49.4%、「聞いたことはあるが内容は知らない」は22.7%と、合わせて72.1%と周知度は高い。

性別では、「内容を知っている」の割合が、男性(45.5%)よりも女性(52.4%)の方が高くなっている。

年代別では、40歳代(66.7%)が最も高く、一番低い70歳以上(20.3%)とでは46.4ポイントの差がある。

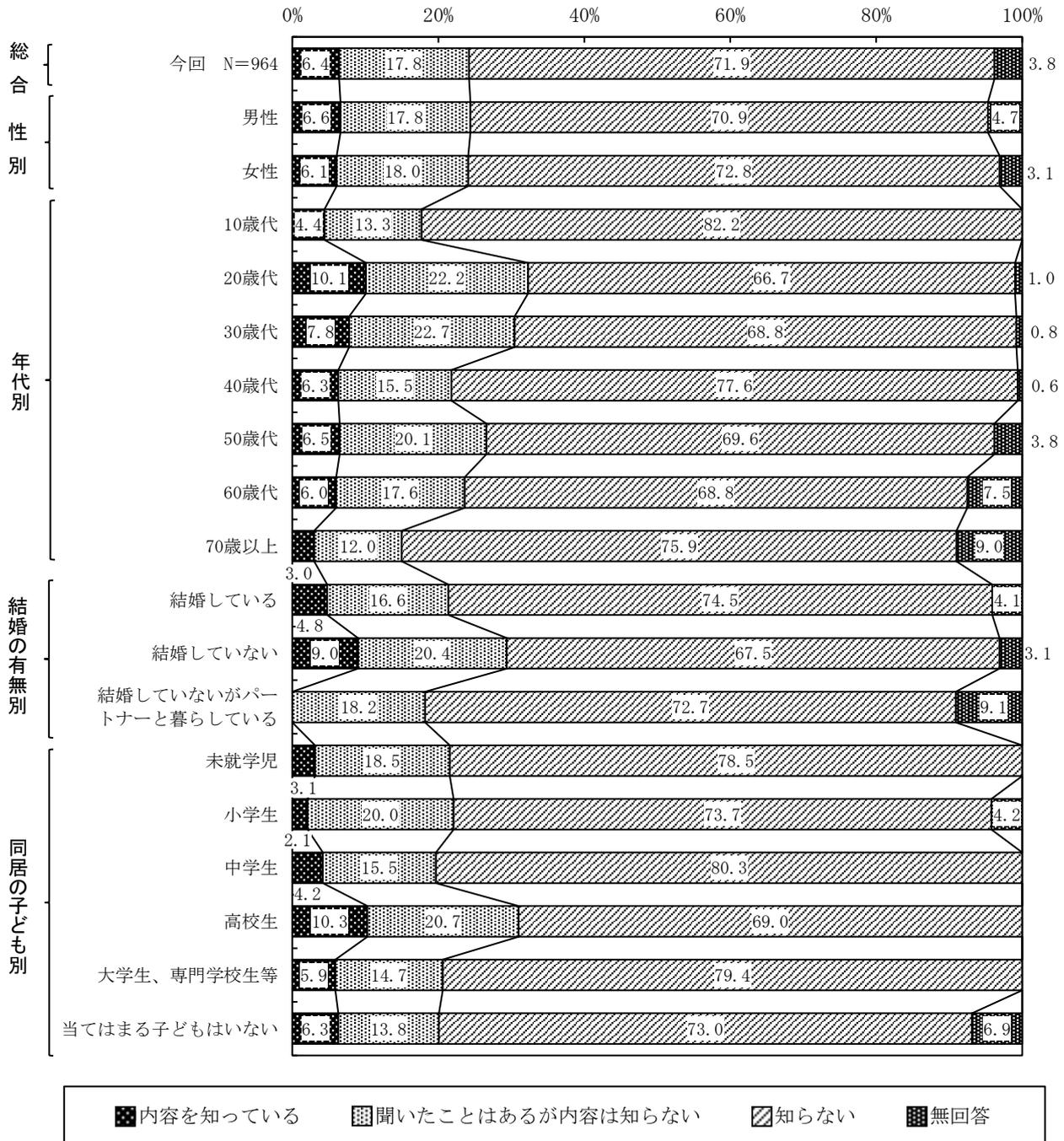
結婚の有無別では、「知らない」の割合が、結婚していないがパートナーと暮らしている層で54.5%と最も高く、結婚をしている層(25.5%)、結婚をしていない層(21.6%)と比較すると倍以上の差となっている。

同居の子ども別では、「内容を知っている」と回答した割合は高校生と同居している層が69.0%と最も高く、最も低い大学生、専門学校生等と同居している層の47.1%と比較して21.9ポイントの差がある。

(チ) アウティング

図表 11-19 男女共同参画関連用語等の周知度「アウティング」

[総合：N=964、選択数：1]



今回新たに追加した質問である。

アウティングについては、「知らない」が71.9%と高く、周知度は低い状態である。

性別では、男女による差はほとんど無い。

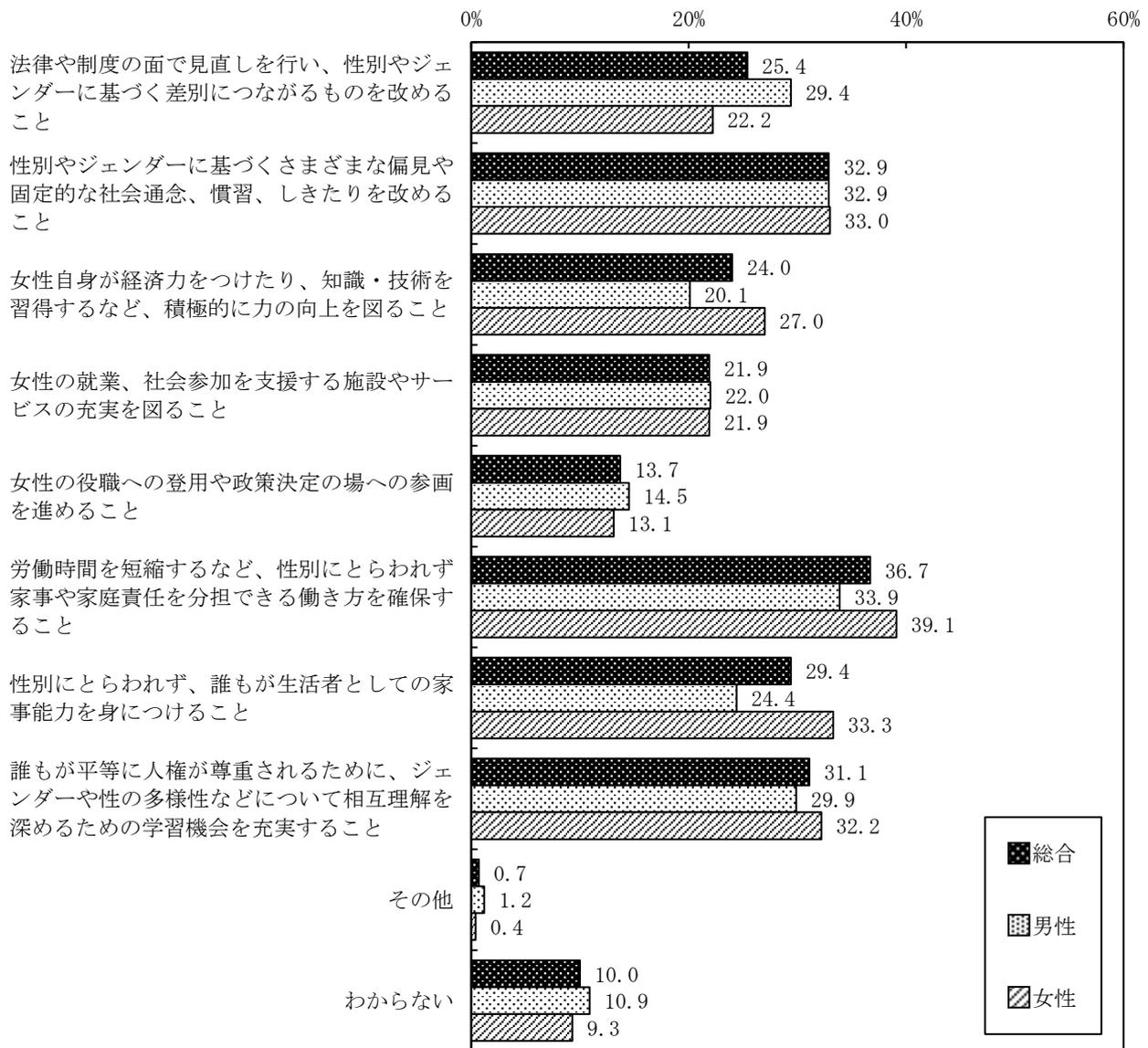
年代別では、10歳代で「知らない」が82.2%と最も高い。また、高い年代ほど「内容を知っている」の回答の割合が低くなる傾向にある。

結婚の有無別では、「内容を知っている」の割合が、結婚していないがパートナーと暮らしている層で0%となっている。

同居の子ども別では、高校生と同居している層では、「内容を知っている」(10.3%)と「聞いたことはあるが内容は知らない」(20.7%)を合わせた割合が他よりも10ポイント前後高くなっている。

問 12 あなたは、今まで以上に男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(3つまで○印)【全員回答】 [N=964、選択数：3つ以内]

図表 12-1 今まで以上に男女共同参画社会の実現のために力を入れていくべきこと
 [総合：N=964、性別、選択数：3つ以内]

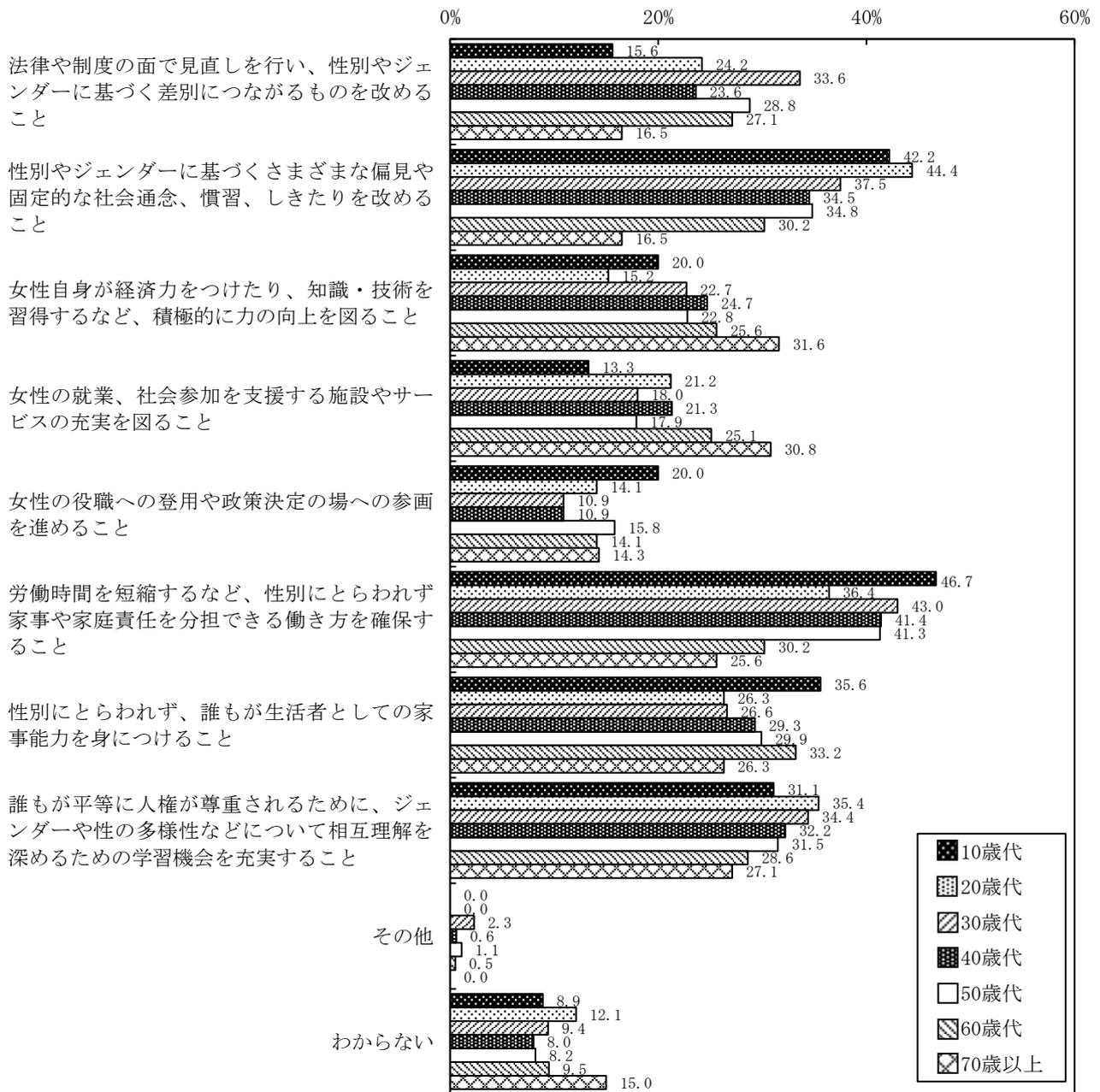


今まで以上に男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきか、複数回答で質問したところ、「労働時間を短縮するなど、性別にとらわれず家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること」(36.7%)、「性別やジェンダーに基づくさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」(32.9%)、「誰もが平等に人権が尊重されるために、ジェンダーや性の多様性などについて相互理解を深めるための学習機会を充実すること」(31.1%)と続いた。

性別では、「性別にとらわれず、誰もが生活者としての家事能力を身につけること」(男性24.4%、女性33.3%)で8.9ポイント差、「法律や制度の面で見直しを行い、性別やジェンダーに基づく差別につながるものを改めること」(男性29.4%、女性22.2%)で7.2ポイント差、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(男性20.1%、女性27.0%)で6.9ポイント差が見られたほか、大きな男女差は認められなかった。

図表 12-2 今まで以上に男女共同参画社会の実現のために力を入れていくべきこと（年代別）

[年代別：N=964、選択数：3つ以内]



年代別では、10歳代（46.7%）、30歳代（43.0%）、40歳代（41.4%）、50歳代（41.3%）で「労働時間を短縮するなど、性別にとらわれず家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること」が最も高くなっている。また、20歳代（44.4%）は「性別やジェンダーに基づくさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」、60歳代（33.2%）は「性別にとらわれず、誰もが生活者としての家事能力を身につけること」、70歳以上（31.6%）は「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」が最も高くなっている。

一方、10歳代を除くすべての年代で「女性の役職への登用や政策決定の場への参画を進めること」の割合が低くなっている。

VI 調査結果

〔数 表〕

問1 次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (ア)から(ク)まで、あなたの気持ちに最も近い番号(1~6)に1つだけ○印。

	サンプル	(ア)家庭生活						(イ)職場生活						(ウ)学校教育						(エ)政治の場											
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答									
総合	実数	964	81	375	339	68	11	70	20	77	361	331	60	5	90	40	7	102	651	24	3	138	39	239	427	158	11	2	96	31	
	%	100.0	8.4	38.9	35.2	7.1	1.1	7.3	2.1	8.0	37.4	34.3	6.2	0.5	9.3	4.1	0.7	10.6	67.5	2.5	0.3	14.3	4.0	24.8	44.3	16.4	1.1	0.2	10.0	3.2	
性別	男性	422	14	142	174	38	9	35	10	20	152	165	28	5	35	17	0	33	295	13	3	62	16	73	197	92	7	2	41	10	
	女性	540	66	232	165	30	2	35	9	57	209	165	32	0	55	22	7	69	355	11	0	76	22	166	230	65	4	0	55	20	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0
年代別	10歳代	45	0	13	24	6	0	2	0	2	12	17	1	0	11	2	1	0	35	7	0	2	0	5	24	13	0	0	2	1	
	20歳代	99	6	28	36	16	2	11	0	9	39	29	11	1	10	0	0	8	69	5	1	16	0	23	40	16	2	0	18	0	
	30歳代	128	7	45	51	11	2	9	3	12	40	51	13	2	8	2	1	12	95	1	0	17	2	34	54	22	1	1	14	2	
	40歳代	174	17	64	61	7	2	20	3	15	66	63	14	0	14	2	2	16	118	3	1	31	3	52	73	26	2	0	19	2	
	50歳代	184	23	70	62	10	3	14	2	14	69	76	12	1	9	3	0	18	141	3	0	19	3	44	90	35	3	0	10	2	
	60歳代	199	18	97	58	9	2	8	7	16	80	58	7	1	23	14	3	25	121	2	1	32	15	53	91	20	2	1	22	10	
	70歳以上	133	9	58	47	9	0	6	4	9	55	36	2	0	15	16	0	23	71	3	0	21	15	28	55	25	1	0	11	13	
	無回答	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1
従業上の地位別	会社などに雇用されている方	522	47	193	187	37	7	44	7	37	198	207	45	4	28	3	4	51	373	8	3	77	6	128	239	86	6	1	59	3	
	自営業主	84	5	27	35	7	3	4	3	5	24	38	0	1	12	4	1	11	51	4	0	11	6	17	42	13	2	0	5	5	
	家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している者)	63	8	23	19	8	0	4	1	4	20	25	5	0	7	2	0	5	42	1	0	11	4	14	25	16	1	1	4	2	
	無職(主婦、主夫、学生を含む)	284	19	128	96	15	1	18	7	31	115	57	9	0	43	29	2	35	181	9	0	37	20	78	117	42	1	0	27	19	
無回答	11	2	4	2	1	0	0	2	0	4	4	1	0	0	2	0	0	4	2	0	2	3	2	4	1	1	0	1	2		
仕事の内容別	管理職	58	1	23	22	5	2	4	1	0	28	23	5	0	2	0	0	6	44	0	0	8	0	9	36	11	0	0	2	0	
	専門・技術職	185	17	69	75	9	1	14	0	11	59	83	16	2	14	0	1	16	138	3	0	25	2	40	91	26	4	0	24	0	
	事務職	126	14	56	37	6	1	9	3	15	55	38	7	1	8	2	2	15	86	2	0	19	2	35	52	21	2	0	14	2	
	販売・サービス・保安職	163	17	53	63	17	3	6	4	10	57	74	11	0	8	3	2	19	110	4	1	23	4	49	65	30	1	0	15	3	
	農業漁業職	49	4	18	16	5	1	4	1	3	15	21	3	0	6	1	0	4	31	1	0	9	4	8	22	12	1	1	3	2	
	生産・輸送・建設・労務職	79	6	20	26	10	2	13	2	5	27	28	8	2	7	2	0	3	56	2	2	13	3	15	38	14	0	1	9	2	
	無回答	9	1	4	2	0	0	2	0	2	1	3	0	0	2	1	0	4	1	1	0	2	1	3	2	1	1	0	1	1	
	役員	21	1	7	8	2	1	2	0	0	9	10	1	0	1	0	0	3	14	0	0	4	0	4	0	4	11	3	1	0	2
雇用形態別	正規の職員・従業員	313	25	113	110	24	4	32	5	25	118	118	32	2	18	0	3	27	231	5	2	43	2	72	145	56	3	1	36	0	
	非正規の職員・従業員(契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む)	179	21	70	66	11	2	9	0	11	70	76	11	1	9	1	1	21	124	3	1	27	2	51	80	26	2	0	19	1	
	無回答	9	0	3	3	0	0	1	2	1	1	3	1	1	0	2	0	0	4	0	0	3	2	1	3	1	0	0	2	2	
結婚の有無別	結婚している	584	53	246	210	34	7	25	9	41	222	207	33	3	50	28	3	68	399	10	0	77	27	147	263	95	5	0	52	22	
	結婚していない	357	27	123	122	29	4	44	8	34	135	116	24	2	37	9	4	32	240	10	3	59	9	90	155	58	6	2	40	6	
	結婚していないがパートナーと暮らしている	11	0	4	5	1	0	0	1	1	3	3	2	0	1	1	0	1	8	0	0	1	1	2	3	2	0	0	3	1	
	無回答	12	1	2	2	4	0	1	2	1	1	5	1	0	2	2	0	1	4	4	0	1	2	0	6	3	0	0	1	2	
夫婦共働き	はい	339	32	131	130	24	7	9	6	19	123	144	23	3	20	7	1	32	248	8	0	39	11	72	168	61	4	0	27	7	
	いいえ	242	21	112	78	10	1	16	4	22	98	62	8	1	30	21	2	35	148	2	1	38	16	74	93	33	1	1	25	15	
	無回答	3	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1
	無回答	3	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1
居住地域別	高知市	459	41	188	154	34	3	31	8	33	194	144	27	3	42	16	1	58	315	6	1	60	18	122	210	62	6	0	43	16	
	高知市以外の市	338	27	126	128	25	5	21	6	35	117	123	24	2	24	13	5	32	231	12	2	45	11	85	143	66	3	2	32	7	
	町村	161	13	61	54	9	3	18	3	9	49	63	9	0	23	8	1	12	103	5	0	33	7	31	73	29	2	0	21	5	
	無回答	6	0	0	3	0	0	0	3	0	1	1	0	0	1	3	0	0	2	1	0	0	3	1	1	1	0	0	0	3	
世帯構成別	一人世帯	126	11	39	39	11	2	19	5	15	42	43	11	1	7	7	1	15	83	1	1	17	8	22	59	23	0	1	15	6	
	一世帯世帯(夫婦だけ)	221	18	108	68	10	5	9	3	16	85	72	10	0	22	16	0	27	144	6	0	32	12	54	98	40	2	0	15	12	
	二世帯世帯(親と子)	489	43	184	179	39	2	34	8	38	192	157	34	3	55	10	4	47	341	12	2	71	12	127	218	74	6	0	57	7	
	三世帯世帯(親と子と孫)	99	8	37	41	6	2	4	1	7	34	45	5	1	4	3	2	11	69	2	0	13	2	28	43	16	2	1	7	2	
	その他の世帯	15	0	4	7	0	0	0	4	0	1	4	9	0	0	1	0	0	2	7	1	0	4	1	7	3	2	1	0	2	0
無回答	14	1	3	5	2	0	0	3	0	4	5	0	0	1	4	0	0	7	2	0	1	4	1	6	3	0	0	0	4		
同居の子ども別	未就学児	65	0	25	28	4	2	5	1	3	25	26	4	2	4	1	0	6	49	0	0	9	1	16	36	8	0	0	4	1	
	小学生	95	10	35	39	4	1	5	1	9	32	36	9	2	6	1	1	8	71	1	0	13	1	31	39	12	0	0	13	0	

(単位:人、%)

(オ)地域活動の場						(カ)法律や制度の上						(キ)社会通念・慣習・しきたり						(ク)社会全体									
男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答							
37	255	438	52	1	151	30	70	284	372	60	6	142	30	150	462	204	17	1	102	28	93	490	226	48	2	81	24
3.8	26.5	45.4	5.4	0.1	15.7	3.1	7.3	29.5	38.6	6.2	0.6	14.7	3.1	15.6	47.9	21.2	1.8	0.1	10.6	2.9	9.6	50.8	23.4	5.0	0.2	8.4	2.5
9	94	220	28	1	58	12	13	109	205	32	6	48	9	39	204	117	9	1	43	9	15	211	122	31	2	34	7
28	161	217	24	0	93	17	57	175	166	28	0	94	20	111	257	87	8	0	59	18	78	279	103	17	0	47	16
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1
1	6	25	6	0	7	0	1	11	21	6	0	6	0	5	15	19	0	0	6	0	2	18	17	4	0	4	0
2	19	46	4	0	27	1	5	21	36	15	2	20	0	13	40	27	3	0	15	1	7	41	26	12	1	12	0
6	29	56	9	0	25	3	8	28	55	11	0	24	2	22	52	30	4	0	18	2	13	57	33	9	0	14	2
10	40	79	12	0	30	3	15	53	69	9	2	24	2	31	85	33	3	0	19	3	17	92	41	7	0	14	3
6	51	95	9	0	20	3	15	63	69	15	0	19	3	29	96	41	3	0	13	2	17	98	48	10	0	9	2
7	66	82	7	1	28	8	17	68	71	4	2	29	8	34	110	29	1	1	18	6	22	117	32	3	1	17	7
5	44	54	5	0	14	11	9	40	50	0	0	20	14	16	63	25	3	0	13	13	15	67	28	3	0	11	9
0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1
22	125	248	27	1	92	7	39	141	216	36	5	80	5	86	244	122	11	1	53	5	54	260	130	29	2	43	4
5	23	36	7	0	8	5	8	21	34	5	1	11	4	14	38	18	2	0	8	4	8	38	22	5	0	8	3
2	24	26	5	0	4	2	5	23	23	6	0	4	2	9	29	14	1	0	8	2	4	35	14	4	0	5	1
8	81	124	11	0	46	14	17	96	95	13	0	46	17	40	145	50	2	0	32	15	26	152	59	9	0	24	14
0	2	4	2	0	1	2	1	3	4	0	0	1	2	1	6	0	1	0	1	2	1	5	1	1	0	1	2
2	18	27	6	0	5	0	3	17	28	4	1	5	0	6	33	16	0	0	3	0	3	33	16	2	0	4	0
8	45	90	8	0	31	3	11	51	77	15	1	28	2	35	86	37	4	0	23	0	22	97	36	15	0	15	0
10	36	53	4	0	21	2	12	32	50	9	1	20	2	24	66	19	4	0	10	3	16	64	28	4	0	12	2
5	33	80	8	0	33	4	15	40	72	8	2	23	3	22	76	42	3	0	16	4	11	75	52	6	1	15	3
1	14	25	4	0	3	2	4	19	14	5	0	6	1	6	20	14	0	0	8	1	6	22	12	4	0	4	1
3	21	33	8	1	11	2	4	24	31	5	1	12	2	13	27	25	2	1	9	2	6	39	20	6	1	6	1
0	5	2	1	0	0	1	3	2	1	1	0	1	1	3	3	1	1	0	0	1	2	3	2	1	0	0	1
0	6	12	1	0	2	0	2	5	11	0	0	3	0	3	8	8	0	0	2	0	1	9	7	2	0	2	0
12	74	145	20	1	58	3	24	71	140	27	4	46	1	50	150	73	8	1	29	2	29	161	74	20	2	27	0
9	45	87	6	0	30	2	12	64	62	9	1	29	2	32	82	40	3	0	21	1	22	88	48	7	0	12	2
1	0	4	0	0	2	2	1	1	3	0	0	2	2	1	4	1	0	0	1	2	2	2	1	0	0	2	2
19	168	267	33	0	76	21	42	178	236	26	1	79	22	91	298	115	9	0	50	21	57	314	128	23	0	43	19
17	83	162	18	1	70	6	27	102	128	33	5	57	5	58	156	84	8	1	46	4	35	167	91	24	2	36	2
1	2	6	0	0	1	1	1	1	5	0	0	3	1	1	4	2	0	0	3	1	1	6	2	0	0	1	1
0	2	3	1	0	4	2	0	3	3	1	0	3	2	0	4	3	0	0	3	2	0	3	5	1	0	1	2
12	91	163	23	0	41	9	26	93	148	18	0	47	7	50	174	74	4	0	30	7	30	181	84	14	0	24	6
7	76	101	10	1	35	12	16	84	85	8	2	32	15	41	121	41	4	1	21	13	27	130	43	9	1	19	13
0	1	1	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1
12	116	217	17	0	83	14	30	139	172	32	4	67	15	77	224	89	6	0	50	13	41	253	95	20	1	38	11
21	89	151	23	1	45	8	30	93	144	18	1	46	6	52	156	82	6	1	34	7	37	157	96	16	1	27	4
4	50	68	12	0	22	5	10	52	54	9	1	29	6	21	81	32	5	0	17	5	15	80	33	11	0	16	6
0	0	2	0	0	1	3	0	0	2	1	0	0	3	0	1	1	0	0	1	3	0	0	2	1	0	0	3
7	26	66	4	1	16	6	12	26	57	5	3	19	4	12	55	38	1	1	14	5	10	56	39	8	1	9	3
5	70	96	14	0	27	9	11	73	90	4	0	32	11	32	120	41	1	0	16	11	18	126	47	6	0	15	9
17	128	218	27	0	89	10	38	146	180	45	3	72	7	80	235	95	12	0	61	6	52	253	103	27	1	47	6
6	26	48	4	0	13	2	9	33	35	4	0	15	3	22	43	24	2	0	6	2	10	43	31	4	0	8	3
2	2	4	2	0	5	0	2	3	4	1	0	4	1	4	4	2	1	0	4	0	2	8	1	2	0	2	0
0	3	6	1	0	1	3	0	3	6	1	0	0	4	0	5	4	0	0	1	4	1	4	5	1	0	0	3
3	18	27	7	0	9	1	6	19	25	5	0	9	1	13	33	11	2	0	5	1	6	36	12	4	0	6	1
4	23	46	6	0	16	0	9	27	36	7	1	15	0	20	44	13	3	0	15	0	10	50	19	2	0	13	1
1	18	31	5	0	16	0	4	21	31	4	0	11	0	14	31	15	1	0	10	0	4	43	12	4	0	8	0
2	12	31	3	0	9	1	2	16	27	3	0	9	1	11	26	12	1	0	7	1	3	34	11	3	0	6	1
0	6	16	1	0	10	1	1	9	15	5	0	4	0	2	22	6	0	0	4	0	1	17	7	4	0	5	0
9	49	67	7	0	19	8	18	50	55	6	0	22	8	26	82	28	5	0	13	5	28	75	36	4	0	10	6

★(1)は全員、(2)は結婚している(またはしたことがある)方のみお答えください。
問2 家庭生活における男女の役割分担の理想と現実について、伺います。(1つだけ○印)

(単位:人、%)

	サンプル	(1)あなたの理想に最も近いものはどれですか 【全員回答】								
		男性が家事を支え、女性が家事・育児に専念する	女性が家事を支え、男性が家事・育児に専念する	男性と女性が共同で家事を支え、主に女性が家事・育児を分担する	男性と女性が共同で家事を支え、主に男性が家事・育児を分担する	男性と女性が共同で家事を支え、共同で家事・育児を分担する	男性と女性の役割を固定せず、家事・育児も分担し自由に行う	男性と女性の役割を固定せず、家事・育児も分担する	その他	無回答
総合	実数	964	124	2	97	4	436	249	11	41
	%	100.0	12.9	0.2	10.1	0.4	45.2	25.8	1.1	4.3
性別	男性	422	76	2	62	4	149	106	5	18
	女性	540	48	0	35	0	286	143	6	22
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	2	0	0	0	0	1	0	0	1
年代別	10歳代	45	3	0	0	0	20	18	0	4
	20歳代	99	8	0	5	0	41	32	2	11
	30歳代	128	11	1	11	0	67	31	1	6
	40歳代	174	23	0	17	3	83	44	1	3
	50歳代	184	20	0	24	1	89	42	1	7
	60歳代	199	34	1	22	0	84	49	3	6
	70歳以上	133	25	0	18	0	51	33	3	3
	無回答	2	0	0	0	0	1	0	0	1
従業上の地位別	会社などに雇用されている方	522	62	0	57	2	254	129	4	14
	自営業主	84	12	1	15	1	32	19	2	2
	家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している者)	63	6	0	8	0	34	12	1	2
	無職(主婦、主夫、学生を含む)	284	43	1	16	1	113	87	4	19
仕事の内容別	管理職	58	6	0	10	0	28	14	0	0
	専門・技術職	185	21	1	21	0	100	39	1	2
	事務職	126	13	0	6	0	66	36	2	3
	販売・サービス・保安職	163	21	0	20	2	72	41	2	5
	農業漁業職	49	5	0	11	0	21	9	2	1
	生産・輸送・建設・労務職	79	13	0	12	1	26	20	0	7
	無回答	9	1	0	0	0	7	1	0	0
	役員	21	4	0	2	0	9	6	0	0
雇用形態別	正規の職員・従業員	313	33	0	36	1	158	73	3	9
	非正規の職員・従業員(契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む)	179	24	0	18	1	81	49	1	5
	無回答	9	1	0	1	0	6	1	0	0
結婚の有無別	結婚している	584	89	1	66	2	274	139	6	7
	結婚していない	357	34	1	28	2	159	102	5	26
	結婚していないがパートナーと暮らしている	11	1	0	1	0	2	4	0	3
	無回答	12	0	0	2	0	1	4	0	5
夫婦共働き	はい	339	35	1	48	1	184	68	1	1
	いいえ	242	53	0	18	1	92	67	5	6
	無回答	3	0	0	0	0	1	2	0	0
居住地域別	高知市	459	68	0	35	0	212	127	6	11
	高知市以外の市	338	37	1	39	2	149	87	4	19
	町村	161	19	1	23	2	73	34	1	8
	無回答	6	0	0	0	0	2	1	0	3
世帯構成別	一人世帯	126	16	0	14	0	50	30	2	14
	一世帯世帯(夫婦だけ)	221	38	0	28	0	100	51	1	3
	二世帯世帯(親と子)	489	57	0	43	3	225	139	8	14
	三世帯世帯(親と子と孫)	99	10	2	10	1	50	22	0	4
	その他の世帯	15	1	0	2	0	7	3	0	2
同居の子ども別	無回答	14	2	0	0	0	4	4	0	4
	未就学児	65	5	0	4	1	40	14	0	1
	小学生	95	17	1	8	1	50	15	2	1
	中学生	71	11	1	7	2	36	14	0	0
	高校生	58	6	0	10	1	27	13	0	1
	大学生、専門学校生等	34	6	0	4	0	16	8	0	0
当てはまる子どもはいない	159	18	0	14	1	74	46	4	2	

★(1)は全員、(2)は結婚している(またはしたことがある)方のみお答えください。
問2 家庭生活における男女の役割分担の理想と現実について、伺います。(1つだけ○印)

(単位:人、%)

	サンプル	2) あなたの家庭での実際の役割分担に最も近いものはどれですか(どれでしたか)。【結婚している(またはしたことがある)方のみ回答】							
		男性が 家事を支え、 女性が家事・ 育児に専念す	女性が 家事を支え、 男性が家事・ 育児に専念す	事 男・ 性・ 育 児 と 女 性 が 共 同 で 家 計 を 支 え、 主 に 女 性 が 家	事 男 ・ 性 と 女 性 が 共 同 で 家 計 を 支 え、 主 に 男 性 が 家	育 男 性 と 女 性 が 共 同 で 家 計 を 支 え、 共 同 で 家 事・	担 男 性 と 女 性 の 役 割 を 固 定 せ ず、 家 事・ 育 児 も 分	そ 他	
総合	実数	665	175	1	272	8	126	66	17
	%	100.0	26.3	0.2	40.9	1.2	18.9	9.9	2.6
性別	男性	267	68	0	93	4	62	35	5
	女性	397	107	1	179	4	63	31	12
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	1	0	0	0	0	1	0	0
年代別	10歳代	2	1	0	1	0	0	0	0
	20歳代	19	3	0	5	1	8	1	1
	30歳代	64	12	0	24	1	18	8	1
	40歳代	127	25	0	58	2	27	12	3
	50歳代	147	36	0	63	2	32	10	4
	60歳代	177	62	0	65	1	24	21	4
	70歳以上	128	36	1	56	1	16	14	4
	無回答	1	0	0	0	0	1	0	0
従業上の地位別	会社などに雇用されている方	344	74	0	149	6	81	26	8
	自営業主	74	14	0	28	0	17	11	4
	家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している者)	50	8	0	26	1	7	7	1
	無職(主婦、主夫、学生を含む)	192	78	1	68	1	19	21	4
	無回答	5	1	0	1	0	2	1	0
仕事の内容別	管理職	53	14	0	21	0	13	3	2
	専門・技術職	135	27	0	51	3	41	11	2
	事務職	79	20	0	36	0	17	5	1
	販売・サービス・保安職	113	20	0	60	1	18	9	5
	農業漁業職	35	4	0	16	1	5	7	2
	生産・輸送・建設・労務職	46	11	0	14	2	9	9	1
	無回答	7	0	0	5	0	2	0	0
雇用形態別	役員	19	7	0	6	0	5	1	0
	正規の職員・従業員	202	39	0	83	4	53	17	6
	非正規の職員・従業員(契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む)	117	28	0	58	1	20	8	2
	無回答	6	0	0	2	1	3	0	0
結婚の有無別	結婚している	576	155	0	241	6	111	54	9
	結婚していない	75	18	1	28	2	11	8	7
	結婚していないがパートナーと暮らしている	9	2	0	0	0	3	3	1
	無回答	5	0	0	3	0	1	1	0
夫婦共働き	はい	337	39	0	171	5	85	32	5
	いいえ	236	113	0	71	1	26	21	4
	無回答	2	1	0	0	0	0	1	0
居住地域別	高知市	334	104	0	122	7	58	33	10
	高知市以外の市	219	42	1	102	1	42	25	6
	町村	109	29	0	47	0	25	7	1
	無回答	3	0	0	1	0	1	1	0
世帯構成別	一人世帯	51	13	1	22	0	8	5	2
	一世帯世帯(夫婦だけ)	217	58	0	87	2	43	24	3
	二世帯世帯(親と子)	310	86	0	121	5	58	30	10
	三世帯世帯(親と子と孫)	71	14	0	37	1	13	5	1
	その他の世帯	9	2	0	2	0	3	1	1
無回答	7	2	0	3	0	1	1	0	
同居の子ども別	未就学児	62	14	0	20	3	19	4	2
	小学生	91	20	0	40	2	18	10	1
	中学生	69	14	0	34	1	15	4	1
	高校生	53	14	0	24	2	10	2	1
	大学生、専門学校生等	30	10	0	11	1	6	2	0
	当てはまる子どもはいない	133	41	0	58	0	16	12	6

★(1)は全員、(2)は働いている(または働いたことのある)方のみお答えください。
問4 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について、伺います。(1つだけ〇印)

(単位:人、%)

	サンプル	(1)生活の中での、「仕事」と「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの理想に最も近いものはどれですか。【全員回答】										
		「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「地域・個人の生活」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	その他	無回答	
総合	実数	964	37	128	39	239	33	63	141	259	3	22
	%	100.0	3.8	13.3	4.0	24.8	3.4	6.5	14.6	26.9	0.3	2.3
性別	男性	422	30	44	22	110	25	30	63	88	2	8
	女性	540	7	84	17	128	8	33	78	171	1	13
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
年代別	10歳代	45	2	6	4	9	2	2	2	18	0	0
	20歳代	99	4	11	14	15	6	10	12	22	0	5
	30歳代	128	2	26	5	26	3	11	17	35	0	3
	40歳代	174	8	32	5	35	3	11	23	54	0	3
	50歳代	184	8	25	2	48	10	10	27	52	0	2
	60歳代	199	4	14	5	64	3	8	38	58	1	4
	70歳以上	133	9	14	4	41	6	11	22	20	2	4
	無回答	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
従業上の地位別	会社などに雇用されている方	522	19	81	24	127	23	34	71	138	0	5
	自営業主	84	8	4	1	23	4	3	17	22	2	0
	家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している者)	63	1	7	2	12	1	8	16	16	0	0
	無職(主婦、主夫、学生を含む)	284	9	35	11	74	5	18	34	83	1	14
	無回答	11	0	1	1	3	0	0	3	0	0	3
仕事の内容別	管理職	58	3	6	0	20	3	2	7	16	1	0
	専門・技術職	185	6	31	9	55	5	10	24	43	0	2
	事務職	126	3	21	6	18	4	11	21	41	0	1
	販売・サービス・保安職	163	8	24	3	40	10	9	23	45	0	1
	農業漁業職	49	3	0	1	12	1	7	13	11	1	0
	生産・輸送・建設・労務職	79	5	10	7	15	5	5	16	15	0	1
	無回答	9	0	0	1	2	0	1	0	5	0	0
	役員	21	3	2	0	8	0	0	5	3	0	0
雇用形態別	正規の職員・従業員	313	10	51	16	73	14	23	42	81	0	3
	非正規の職員・従業員(契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む)	179	6	28	8	44	9	9	21	52	0	2
	無回答	9	0	0	0	2	0	2	3	2	0	0
結婚の有無別	結婚している	584	18	86	11	167	15	36	97	144	1	9
	結婚していない	357	19	42	25	67	17	25	43	107	2	10
	結婚していないがパートナーと暮らしている	11	0	0	1	1	1	1	1	6	0	0
	無回答	12	0	0	2	4	0	1	0	2	0	3
夫婦共働き	はい	339	13	58	5	92	10	21	58	80	0	2
	いいえ	242	5	27	6	75	5	14	38	63	1	8
	無回答	3	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
居住地域別	高知市	459	13	62	16	117	17	24	71	128	2	9
	高知市以外の市	338	17	44	16	81	12	27	44	86	1	10
	町村	161	7	22	7	40	4	10	25	44	0	2
	無回答	6	0	0	0	1	0	2	1	1	0	1
世帯構成別	一人世帯	126	9	13	6	30	6	6	15	34	3	4
	一世帯世帯(夫婦だけ)	221	10	30	5	66	4	10	37	54	0	5
	二世帯世帯(親と子)	489	16	66	23	114	19	36	72	133	0	10
	三世帯世帯(親と子と孫)	99	2	16	3	26	3	8	16	25	0	0
	その他の世帯	15	0	2	0	1	1	1	0	9	0	1
	無回答	14	0	1	2	2	0	2	1	4	0	2
同居の子ども別	未就学児	65	0	16	2	13	0	9	9	16	0	0
	小学生	95	4	20	1	30	2	6	13	18	0	1
	中学生	71	2	14	0	23	1	3	6	21	0	1
	高校生	58	2	8	0	21	1	4	6	15	0	1
	大学生、専門学校生等	34	2	1	1	5	2	6	7	10	0	0
	当てはまる子どもはいない	159	5	17	7	43	8	8	31	39	0	1

★(1)は全員、(2)は働いている(または働いたことのある)女性の方のみお答えください。
問4 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について、伺います。(1つだけ選択)

(単位:人、%)

	サンプル	(2)あなたの現実(現状)に最も近いものはどれですか(どれでしたか)。 【働いている(または働いたことのある)方のみ回答】									
		「仕事」を優先している(優先した)	「家庭生活」を優先している(優先した)	「地域・個人の生活」を優先している(優先した)	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している(優先した)	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している(優先した)	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している(優先した)	ライフステージの変化に応じて、その都度考えている(考えた)	その他	
総合	実数	858	325	87	14	224	33	12	60	94	9
	%	100.0	37.9	10.1	1.6	26.1	3.8	1.4	7.0	11.0	1.0
性別	男性	377	176	21	10	76	14	6	31	40	3
	女性	480	149	66	4	147	19	6	29	54	6
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
年代別	10歳代	8	3	0	3	0	1	0	0	1	0
	20歳代	74	39	6	3	8	11	1	2	3	1
	30歳代	118	44	17	2	28	6	0	7	13	1
	40歳代	169	60	20	1	49	2	3	10	22	2
	50歳代	177	73	15	2	48	6	2	9	21	1
	60歳代	189	69	18	3	52	3	3	18	21	2
	70歳以上	122	37	11	0	38	4	3	14	13	2
	無回答	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
従業上の地位別	会社などに雇用されている方	514	212	47	8	140	24	5	23	52	3
	自営業主	83	33	7	0	18	2	2	10	9	2
	家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している者)	61	12	8	0	22	3	0	8	8	0
	無職(主婦、主夫、学生を含む)	193	67	25	5	40	4	5	19	24	4
	無回答	7	1	0	1	4	0	0	0	1	0
仕事の内容別	管理職	58	28	5	0	13	0	1	4	6	1
	専門・技術職	183	75	17	1	50	7	1	12	20	0
	事務職	123	51	17	2	32	4	2	3	11	1
	販売・サービス・保安職	161	52	15	3	54	5	2	9	21	0
	農業漁業職	48	17	2	0	13	5	0	8	2	1
	生産・輸送・建設・労務職	76	31	5	2	17	8	1	5	6	1
	無回答	9	3	1	0	1	0	0	0	3	1
	雇用形態別	役員	21	13	1	0	4	1	0	1	1
正規の職員・従業員	308	149	23	5	71	16	1	12	28	3	
非正規の職員・従業員(契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む)	177	49	22	3	61	7	4	8	23	0	
無回答	8	1	1	0	4	0	0	2	0	0	
結婚の有無別	結婚している	559	194	68	3	170	10	10	49	52	3
	結婚していない	283	125	17	11	51	23	2	9	39	6
	結婚していないがパートナーと暮らしている	11	4	1	0	2	0	0	2	2	0
	無回答	5	2	1	0	1	0	0	0	1	0
夫婦共働き有無別	はい	337	121	43	3	107	6	4	26	26	1
	いいえ	219	72	25	0	62	4	6	23	25	2
	無回答	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0
居住地域別	高知市	413	152	48	3	108	17	6	26	50	3
	高知市以外の市	293	113	26	9	78	13	4	21	25	4
	町村	148	60	13	2	36	3	2	12	18	2
	無回答	4	0	0	0	2	0	0	1	1	0
世帯構成別	一人世帯	117	64	6	3	18	7	0	2	13	4
	一世帯世帯(夫婦だけ)	209	81	21	2	53	3	7	17	25	0
	二世帯世帯(親と子)	427	142	48	9	124	18	3	33	45	5
	三世帯世帯(親と子と孫)	84	32	10	0	24	5	2	6	5	0
	その他の世帯	14	4	2	0	3	0	0	1	4	0
無回答	7	2	0	0	2	0	0	1	2	0	
同居の子ども別	未就学児	62	14	14	0	19	2	2	5	6	0
	小学生	91	23	18	0	37	1	2	5	5	0
	中学生	69	20	9	0	28	0	2	4	6	0
	高校生	53	11	6	1	24	3	1	3	4	0
	大学生、専門学校生等	30	12	4	0	8	1	1	3	1	0
	当てはまる子どもはいない	147	54	13	0	41	5	0	17	16	1

問5 男女がともに働きやすくなるためには、(1)家族や地域において、(2)企業など職場において、(3)行政の取組において、それぞれ
 どのようなことが必要だと思いますか。(2つまで○印)

	サンプル	(1)家族や地域において必要なこと							(2)企業など職場において必要なこと												
		家族が、女性が働くことについて理解すること	女性自身が、働くことについての意識を向上させること	協力が、育児・介護などには男女を問わず分担し、協力すること	両親や親せきが、家事・育児・介護などを手伝うこと	地域に、子育てや介護をするうえで助けてくれる人、サービスがあること	その他	無回答	無回答	仕事と、子育てや介護の両立について、職場(上司・同僚・部下)の理解が得られること	育児・介護に関する休暇・休業等の制度が整っており、取得しやすい雰囲気があること	在宅勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方が整備されていること	再雇用制度が導入されていること	長時間労働が改善され、仕事以外の時間を多く持てるようになること	給与・昇進・昇格等の面で、性別による差がなくなること	勤務時間の長さなどでなく、仕事の成果で評価されること	非正規雇用の労働条件が改善されること	職場におけるセクシュアル・ハラスメントやマタハラが、せやいじめをなくすること	育児や介護による仕事への制約を理由とした不利益な取り扱いをなくすること	その他	無回答
総合	実数	964	222	112	698	122	464	18	9	436	424	124	72	195	134	100	124	111	60	17	17
	%		23.0	11.6	72.4	12.7	48.1	1.9	0.9	45.2	44.0	12.9	7.5	20.2	13.9	10.4	12.9	11.5	6.2	1.8	1.8
性別	男性	422	107	60	265	75	192	8	2	187	171	67	36	97	63	61	52	32	20	6	3
	女性	540	115	52	432	47	272	10	6	248	253	57	36	98	71	39	72	79	40	11	13
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
年代別	10歳代	45	11	6	37	7	15	0	0	15	16	7	2	9	11	10	5	7	5	0	0
	20歳代	99	18	13	71	18	48	1	1	42	44	18	8	27	8	9	13	16	5	1	1
	30歳代	128	20	11	91	19	64	3	2	58	58	19	7	31	19	15	13	14	5	3	2
	40歳代	174	34	22	128	23	83	2	2	88	81	29	9	35	31	21	13	12	10	3	1
	50歳代	184	42	29	143	19	80	4	1	81	84	22	16	36	24	16	28	16	10	4	4
	60歳代	199	45	17	140	23	111	4	1	91	82	22	17	33	28	19	28	28	17	2	2
	70歳以上	133	52	14	87	13	63	4	1	60	59	7	13	24	13	10	24	18	8	4	6
	無回答	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
従業上の地位別	会社などに雇用されている方	522	105	61	389	71	257	9	3	239	248	69	40	112	73	52	72	49	29	9	5
	自営業主	84	23	10	48	10	44	4	0	41	32	11	4	15	12	11	8	11	3	3	2
	家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している者)	63	20	4	46	6	29	1	1	31	22	8	4	14	7	6	4	6	6	1	2
	無職(主婦、主夫、学生を含む)	284	73	35	208	34	131	4	3	122	121	35	22	53	41	31	37	44	22	4	5
無回答	11	1	2	7	1	3	0	2	3	1	1	2	1	1	0	3	1	0	0	3	
仕事の内容別	管理職	58	10	13	42	9	26	1	0	25	32	11	1	14	4	11	2	4	1	1	1
	専門・技術職	185	33	18	145	22	88	1	2	95	81	27	12	44	24	15	21	16	10	1	4
	事務職	126	21	9	91	13	80	0	2	63	60	20	6	26	20	11	13	12	5	2	1
	販売・サービス・保安職	163	45	18	113	25	79	5	0	62	70	17	23	26	27	17	31	19	12	4	1
	農業漁業職	49	14	4	34	4	28	1	0	26	23	4	1	11	5	4	5	3	3	2	2
	生産・輸送・建設・労務職	79	24	12	50	13	26	5	0	35	33	9	5	18	12	10	10	11	5	2	0
	無回答	9	1	1	8	1	3	1	0	5	3	0	0	2	0	1	2	1	2	1	0
	無回答	9	1	1	8	1	3	1	0	5	3	0	0	2	0	1	2	1	2	1	0
雇用形態別	役員	21	5	3	14	5	10	0	0	9	11	6	0	5	1	4	1	0	0	0	1
	正規の職員・従業員	313	53	39	239	39	164	3	2	141	152	48	23	78	48	40	16	27	17	6	3
	非正規の職員・従業員(契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む)	179	44	18	131	25	81	5	1	84	81	15	16	27	22	7	53	21	12	3	1
	無回答	9	3	1	5	2	2	1	0	5	4	0	1	2	2	1	2	1	0	0	0
結婚の有無別	結婚している	584	142	61	428	72	294	9	3	288	262	79	40	109	77	51	78	63	37	7	12
	結婚していない	357	72	46	256	47	168	9	4	139	156	43	27	80	56	45	42	46	23	10	4
	結婚していないがパートナーと暮らしている	11	4	3	6	1	2	0	1	3	4	0	4	2	1	2	3	1	0	0	0
	無回答	12	4	2	8	2	0	0	1	6	2	2	1	4	0	2	1	1	0	0	1
夫婦共働き	はい	339	83	33	252	43	163	5	1	173	151	55	19	66	46	34	44	28	16	2	7
	いいえ	242	60	28	174	30	127	4	2	114	110	23	22	41	31	17	34	34	21	5	4
	無回答	3	0	0	3	0	1	0	0	2	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
	無回答	3	0	0	3	0	1	0	0	2	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
居住地域別	高知市	459	96	49	349	50	228	9	4	207	197	58	39	87	66	51	59	54	28	7	8
	高知市以外の市	338	78	45	235	55	159	5	4	148	156	45	20	74	46	30	44	38	23	6	6
	町村	161	46	17	112	16	75	4	0	80	70	21	10	32	22	17	21	19	8	4	2
	無回答	6	2	1	2	1	2	0	1	1	1	0	3	2	0	2	0	0	1	0	1
世帯構成別	一人世帯	126	28	21	84	17	53	5	2	47	47	15	12	30	14	15	16	24	6	7	2
	一世帯世帯(夫婦だけ)	221	59	24	156	31	104	3	3	111	99	28	17	36	29	14	28	24	15	2	6
	二世帯世帯(親と子)	489	101	51	372	52	251	7	3	222	229	67	29	102	73	55	60	49	31	6	5
	三世帯世帯(親と子と孫)	99	27	12	67	19	44	2	0	47	43	9	7	22	16	12	14	10	5	2	2
	その他の世帯	15	2	2	11	0	9	1	0	6	4	1	4	1	2	1	5	3	1	0	0
	無回答	14	5	2	8	3	3	0	1	3	2	4	3	4	0	3	1	1	2	0	2
同居の子ども別	未就学児	65	5	4	55	11	36	1	0	41	33	11	2	18	4	3	7	7	2	0	1
	小学生	95	17	6	69	11	43	3	0	50	44	16	3	22	15	7	10	9	4	3	0
	中学生	71	14	11	54	6	34	1	1	36	31	14	3	13	15	7	7	2	7	0	0
	高校生	58	13	10	43	5	27	1	0	27	22	12	4	11	9	5	6	3	12	1	0
	大学生、専門学校生等	34	4	1	29	3	17	1	1	15	16	4	1	8	7	4	3	1	2	0	0
	当てはまる子どもはいない	159	41	20	122	13	82	3	0	66	71	13	10	34	29	16	28	21	4	1	4

(単位:人、%)

(3) 行政の取組において必要なこと															
が 充 実 す る こ と	保 育 所 な ど の 定 期 的 に 利 用 で き る 保 育 サ ー ビ ス	ポ ー ト ・ セ ン タ ー な ど 一 時 預 か り フ ア ミ リ ー ・ サ が	充 実 す る こ と 一 時 預 か り フ ア ミ リ ー ・ サ が	放 課 後 児 童 ク ラ ブ や 放 課 後 子 ど も 教 室 な ど が 充 実 す る こ と	児 童 手 当 な ど 子 育 て に 関 する 経 済 的 な 支 援 が 充 実 す る こ と	介 護 サ ー ビ ス が 充 実 す る こ と	職 の 支 援 が あ る こ と	出 産 や 育 児 ・ 介 護 等 で い っ た ん 退 職 し て も 再 就 職 す る こ と	と 女 性 を 積 極 的 に 活 用 す る 企 業 へ の 支 援 を 行 う こ と	男 性 の 家 事 や 育 児 へ の 参 加 を 促 す た め の 意 識 啓 発 を 行 う こ と	ラ ス メ ン ト に 関 する 啓 発 を 行 う こ と	セ ク シ ュ ア ル ・ ハ ラ ス メ ン ト や マ タ ニ テ ィ ・ ハ ラ ス メ ン ト に 関 する 啓 発 を 行 う こ と	育 児 休 業 や 介 護 休 暇 を 実 施 し て い る 企 業 へ の 支 援 (助 成 金 な ど)を 行 う こ と	そ の 他	無 回 答
218	279	185	222	258	219	72	96	47	146	13	25				
22.6	28.9	19.2	23.0	26.8	22.7	7.5	10.0	4.9	15.1	1.3	2.6				
107	117	81	108	123	80	31	28	24	62	4	8				
110	161	104	114	135	139	41	68	23	83	9	17				
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0				
9	7	11	9	11	17	5	6	6	2	0	0				
35	33	12	37	13	22	5	12	6	12	1	2				
38	39	23	47	18	29	11	16	1	22	0	3				
29	44	43	51	37	39	14	19	10	30	3	2				
44	53	30	31	60	36	19	17	11	29	4	5				
34	63	34	22	76	50	12	16	9	33	3	7				
28	39	32	25	43	26	6	10	4	17	2	6				
1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0				
126	150	97	132	129	114	39	59	27	86	8	12				
17	28	16	20	32	14	6	4	3	9	1	2				
15	24	14	9	19	16	3	4	3	7	0	2				
57	74	57	61	77	74	22	29	14	42	3	7				
3	3	1	0	1	1	2	0	0	2	1	2				
16	17	14	10	17	6	5	7	2	11	1	2				
37	52	27	55	47	44	9	23	10	31	3	3				
32	43	30	24	31	29	13	11	5	18	2	2				
37	48	36	39	42	35	16	17	8	26	1	4				
18	17	7	8	18	12	1	2	2	4	1	0				
16	21	12	22	24	17	4	6	6	11	0	4				
2	4	1	3	1	1	0	1	0	1	1	1				
7	3	5	4	5	1	1	3	2	4	0	1				
73	93	56	87	72	68	22	31	15	57	5	9				
43	51	34	39	49	43	15	25	9	25	3	2				
3	3	2	2	3	2	1	0	1	0	0	0				
128	175	129	125	163	129	42	53	25	92	9	15				
82	97	53	93	86	85	28	43	21	51	4	10				
3	3	1	1	6	3	1	0	1	1	0	0				
5	4	2	3	3	2	1	0	0	2	0	0				
79	100	77	83	95	68	30	32	15	49	4	6				
47	73	52	43	68	60	12	21	10	43	5	8				
2	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0				
111	121	77	104	121	110	31	57	22	75	8	12				
76	104	74	76	97	63	26	26	19	46	5	6				
30	50	34	42	39	44	14	12	5	24	0	7				
1	4	0	0	1	2	1	1	1	1	0	0				
28	26	23	32	33	22	12	16	8	18	4	4				
46	73	47	38	76	40	15	13	13	35	2	7				
119	147	96	127	119	116	32	54	19	63	6	11				
18	23	17	21	24	32	10	11	4	24	1	2				
3	5	0	2	3	6	2	0	2	4	0	0				
4	5	2	2	3	3	1	2	1	2	0	1				
22	22	18	18	3	18	4	7	3	11	0	0				
20	19	30	35	11	18	7	12	2	18	3	1				
12	20	15	25	19	10	9	8	1	10	0	3				
13	14	14	17	12	10	5	7	1	13	0	1				
9	9	4	10	10	7	0	5	1	4	0	3				
34	51	24	22	54	41	8	19	9	23	4	3				

問6 あなたは、配偶者や恋人があなたに対して、次のようなことをした場合、それを暴力だと思いますか。
(あなたの気持ちに最も近い番号(1～3)に1つだけ○印)

	サンプル	(ア)素手で殴ったり、足でける				(イ)バットやベルト等、物を使って殴る				(ウ)物を投げつける。突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする				(エ)ドアをけったり、壁に物を投げつける。刃物などを突きつけたり、殴るふりをして、おどす				(オ)大声でどなる、罵倒するなどして恐怖感を与える				(カ)小バカにするようなことを言ったり、態度を取る				
		どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答					
総合	実数	964	848	92	3	21	925	7	4	28	856	73	4	31	870	60	6	28	756	170	11	27	486	396	49	33
	%	100.0	88.0	9.5	0.3	2.2	96.0	0.7	0.4	2.9	88.8	7.6	0.4	3.2	90.2	6.2	0.6	2.9	78.4	17.6	1.1	2.8	50.4	41.1	5.1	3.4
性別	男性	422	363	47	2	10	400	5	2	15	365	38	3	16	372	33	3	14	304	94	9	15	180	190	34	18
	女性	540	483	45	1	11	524	2	2	12	489	35	1	15	496	27	3	14	451	75	2	12	305	205	15	15
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	2	2	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0
年代別	10歳代	45	41	3	1	0	44	0	1	0	42	2	1	0	42	2	1	0	39	5	1	0	26	16	3	0
	20歳代	99	85	12	0	2	96	1	0	2	90	7	0	2	90	7	0	2	83	13	0	3	46	47	3	3
	30歳代	128	117	10	0	1	126	1	0	1	116	10	1	1	121	5	0	2	100	24	2	2	60	60	6	2
	40歳代	174	151	20	0	3	169	3	0	2	155	18	0	1	155	18	0	1	142	29	2	1	94	68	11	1
	50歳代	184	164	14	1	5	176	2	1	5	159	17	1	7	168	10	1	5	141	37	1	5	103	66	8	7
	60歳代	199	177	15	0	7	192	0	0	7	180	10	0	9	179	11	1	8	160	30	3	6	105	75	11	8
	70歳以上	133	111	18	1	3	121	0	2	10	112	9	1	11	113	7	3	10	90	31	2	10	51	63	7	12
	無回答	2	2	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0
従業上の地位別	会社などに雇用されている方	522	458	55	0	9	507	5	0	10	467	45	0	10	480	33	0	9	412	95	5	10	271	217	23	11
	自営業主	84	75	6	0	3	80	1	0	3	74	6	0	4	77	5	0	2	68	14	0	2	42	33	4	5
	家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している者)	63	57	4	1	1	62	0	0	1	60	2	0	1	58	3	0	2	48	13	0	2	27	32	2	2
	無職(主婦、主夫、学生を含む)	284	249	26	2	7	267	1	4	12	247	19	4	14	246	18	6	14	221	45	6	12	140	111	19	14
	無回答	11	9	1	0	1	9	0	0	2	8	1	0	2	9	1	0	1	7	3	0	1	6	3	1	1
仕事の内容別	管理職	58	51	7	0	0	57	1	0	0	54	3	0	1	56	2	0	0	51	7	0	0	33	22	2	1
	専門・技術職	185	170	14	0	1	184	0	0	1	172	13	0	0	176	9	0	0	155	29	1	0	103	72	10	0
	事務職	126	111	12	1	2	122	2	0	2	110	14	0	2	112	12	0	2	95	28	1	2	62	57	5	2
	販売・サービス・保安職	163	145	15	0	3	158	2	0	3	150	10	0	3	151	9	0	3	130	28	1	4	81	75	3	4
	農業漁業職	49	41	5	0	3	46	0	0	3	43	3	0	3	42	4	0	3	36	9	1	3	23	19	3	4
	生産・輸送・建設・労務職	79	64	11	0	4	73	1	0	5	64	9	0	6	69	5	0	5	53	21	0	5	34	33	5	7
	無回答	9	8	1	0	0	9	0	0	0	8	1	0	0	9	0	0	0	8	0	1	0	4	4	1	0
	役員	21	18	3	0	0	19	1	0	1	17	3	0	1	18	2	0	1	16	4	0	1	9	10	1	1
雇用形態別	正規の職員・従業員	313	276	32	0	5	305	3	0	5	284	25	0	4	289	20	0	4	248	58	3	4	163	132	13	5
	非正規の職員・従業員(契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む)	179	157	19	0	3	176	1	0	2	159	17	0	3	166	11	0	2	141	33	2	3	94	74	8	3
	無回答	9	7	1	0	1	7	0	0	2	7	0	0	2	7	0	0	2	7	0	0	2	5	1	1	2
	結婚の有無別	結婚している	584	522	52	1	9	566	3	1	14	524	43	1	16	536	29	3	16	460	104	6	14	293	245	28
結婚していない	357	308	36	2	11	340	4	2	11	313	28	3	13	314	30	2	11	280	61	4	12	180	143	20	14	
結婚していないがパートナーと暮らしている	11	9	2	0	0	10	0	0	1	10	1	0	0	10	1	0	0	8	3	0	0	6	4	1	0	
無回答	12	9	2	0	1	9	0	1	2	9	1	0	2	10	0	1	1	8	2	1	1	7	4	0	1	
夫婦共働き有無別	はい	339	309	27	1	2	333	3	0	3	309	26	0	4	316	19	0	4	272	61	2	4	173	146	15	5
	いいえ	242	211	24	0	7	230	0	1	11	213	16	1	12	216	10	3	13	186	41	4	11	120	96	12	14
	無回答	3	3	0	0	0	3	0	0	0	2	1	0	0	3	0	0	0	2	1	0	0	1	1	1	0
	無回答	3	3	0	0	0	3	0	0	0	2	1	0	0	3	0	0	0	2	1	0	0	1	1	1	0
居住地域別	高知市	459	420	31	1	7	446	4	0	9	411	37	0	11	424	25	0	10	373	71	5	10	233	196	15	15
	高知市以外の市	338	290	38	2	8	321	1	4	12	297	24	4	13	300	21	5	12	261	62	4	11	175	128	23	12
	町村	161	132	23	0	6	153	2	0	6	142	12	0	7	140	14	1	6	118	35	2	6	75	70	10	6
	無回答	6	6	0	0	0	5	0	0	1	6	0	0	0	6	0	0	0	4	2	0	0	3	2	1	0
世帯構成別	一人世帯	126	107	13	0	6	115	1	1	9	107	8	0	11	108	8	1	9	97	19	1	9	66	44	6	10
	一世帯世帯(夫婦だけ)	221	203	14	1	3	213	0	1	7	198	15	1	7	202	9	2	8	179	34	2	6	117	83	12	9
	二世帯世帯(親と子)	489	427	53	2	7	475	5	2	7	435	42	3	9	443	37	2	7	378	96	8	7	234	222	24	9
	三世帯世帯(親と子と孫)	99	85	9	0	5	95	1	0	3	89	6	0	4	92	4	0	3	81	14	0	4	53	38	4	4
	その他の世帯	15	13	2	0	0	15	0	0	0	13	2	0	0	12	2	0	1	9	5	0	1	6	6	2	1
	無回答	14	13	1	0	0	12	0	0	2	14	0	0	0	13	0	1	0	12	2	0	0	10	3	1	0
同居の子ども別	未就学児	65	58	7	0	0	65	0	0	0	61	4	0	0	60	4	0	1	46	17	1	1	28	35	1	1
	小学生	95	81	10	0	4	92	0	0	3	85	7	0	3	83	9	0	3	70	20	1	4	48	40	3	4
	中学生	71	63	7	0	1	70	0	0	1	61	9	0	1	62	8	0	1	53	15	2	1	33	33	4	1
	高校生	58	50	7	1	0	57	0	1	0	49	8	1	0	53	4	1	0	43	14	1	0	32	24	2	0
	大学生、専門学校生等	34	28	7	1	0	30	3	1	0	29	4	1	0	30	3	1	0	26	5	3	0	16	14	3	1
	当てはまる子どもはいない	159	140	16	0	3	154	1	0	4	144	8	0	7	147	7	0	5	128	25	1	5	73	73	8	5

(単位:人、%)

(キ)何を言っても、長時間無視し続ける				(ク)交友関係を制限したり、電話、メール等を細かくチェックする				(ケ)嫌がっているのに、性的な行為を強制する				(コ)見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる				(サ)「誰のおかげで生活できるのか」などと言う				(シ)生活費を渡さない、極端に制限して渡す			
どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答				
505	334	94	31	560	298	71	35	791	125	18	30	748	136	49	31	710	176	48	30	732	166	36	30
52.4	34.6	9.8	3.2	58.1	30.9	7.4	3.6	82.1	13.0	1.9	3.1	77.6	14.1	5.1	3.2	73.7	18.3	5.0	3.1	75.9	17.2	3.7	3.1
188	163	55	16	203	158	41	20	329	67	10	16	308	66	32	16	275	100	30	17	291	90	25	16
316	170	39	15	355	140	30	15	460	58	8	14	439	69	17	15	434	76	17	13	440	75	11	14
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0
29	11	5	0	29	13	3	0	44	0	1	0	43	1	1	0	42	2	1	0	41	3	1	0
58	33	5	3	54	36	6	3	84	12	1	2	84	10	2	3	80	14	2	3	79	17	1	2
71	40	15	2	77	40	9	2	111	12	3	2	106	12	8	2	96	21	9	2	97	25	4	2
93	65	15	1	97	58	18	1	144	27	1	2	133	27	12	2	133	28	12	1	133	28	11	2
106	62	11	5	124	48	6	6	154	21	3	6	144	26	8	6	143	28	7	6	147	27	4	6
95	73	22	9	121	54	15	9	157	32	3	7	146	39	7	7	136	48	7	8	153	34	5	7
52	49	21	11	56	49	14	14	95	21	6	11	91	20	11	11	79	35	9	10	81	31	10	11
1	1	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0
295	176	40	11	305	174	32	11	435	72	5	10	413	75	24	10	398	92	22	10	409	90	14	9
41	33	7	3	55	20	5	4	73	8	0	3	68	12	1	3	58	21	2	3	57	22	1	4
27	26	8	2	32	24	4	3	51	9	1	2	47	10	3	3	49	9	3	2	50	8	3	2
136	96	38	14	162	76	30	16	224	34	12	14	214	36	20	14	199	52	19	14	209	44	17	14
6	3	1	1	6	4	0	1	8	2	0	1	6	3	1	1	6	2	2	1	7	2	1	1
34	20	4	0	39	16	3	0	52	6	0	0	52	4	2	0	48	8	2	0	49	8	1	0
103	68	13	1	113	62	10	0	159	24	2	0	150	27	7	1	148	28	9	0	149	31	5	0
73	44	7	2	72	45	7	2	105	17	2	2	101	20	3	2	100	20	4	2	95	27	2	2
89	57	13	4	96	52	10	5	139	19	1	4	133	18	8	4	123	32	4	4	130	27	3	3
26	14	6	3	27	15	3	4	37	8	0	4	31	12	2	4	32	11	2	4	36	7	2	4
34	29	10	6	39	26	7	7	59	14	1	5	54	15	5	5	47	22	5	5	52	17	4	6
4	3	2	0	6	2	1	0	8	1	0	0	7	1	1	0	7	1	1	0	5	3	1	0
11	8	1	1	13	6	1	1	17	3	0	1	16	4	0	1	18	2	0	1	18	2	0	1
185	102	21	5	188	102	19	4	264	41	4	4	251	42	15	5	242	53	14	4	243	59	7	4
96	63	17	3	100	64	11	4	149	26	1	3	142	27	8	2	134	34	8	3	144	27	6	2
3	3	1	2	4	2	1	2	5	2	0	2	4	2	1	2	4	3	0	2	4	2	1	2
296	209	62	17	336	183	46	19	476	84	8	16	447	93	28	16	426	114	29	15	447	99	23	15
197	116	31	13	209	108	25	15	296	39	9	13	285	39	20	13	270	56	17	14	271	60	12	14
4	6	1	0	7	4	0	0	9	2	0	0	7	3	1	0	6	4	1	0	6	4	1	0
8	3	0	1	8	3	0	1	10	0	1	1	9	1	0	2	8	2	1	1	8	3	0	1
177	126	32	4	199	109	26	5	286	46	3	4	265	54	15	5	259	61	15	4	262	62	11	4
121	79	28	14	139	70	18	15	187	38	4	13	180	39	11	12	167	51	12	12	184	34	12	12
1	1	1	0	1	1	1	0	2	0	1	0	1	0	2	0	1	0	2	0	1	2	0	0
243	174	30	12	275	142	27	15	384	58	6	11	364	68	16	11	354	82	12	11	363	75	10	11
186	96	44	12	198	97	29	14	269	46	11	12	252	47	25	14	237	62	26	13	243	64	19	12
73	63	18	7	84	57	14	6	133	20	1	7	128	20	7	6	115	32	8	6	123	25	6	7
3	1	2	0	3	2	1	0	5	1	0	0	4	1	1	0	4	0	2	0	3	2	1	0
60	43	13	10	67	40	8	11	97	16	4	9	97	13	6	10	86	23	8	9	87	25	4	10
113	75	25	8	142	51	18	10	183	26	5	7	164	39	11	7	164	42	8	7	172	36	6	7
262	177	43	7	271	171	38	9	401	70	8	10	387	66	26	10	365	92	23	9	375	84	22	8
56	30	9	4	64	27	4	4	86	9	1	3	78	14	4	3	75	14	6	4	78	15	2	4
6	5	2	2	7	5	2	1	12	2	0	1	11	2	1	1	9	4	1	1	10	3	1	1
8	4	2	0	9	4	1	0	12	2	0	0	11	2	1	0	11	1	2	0	10	3	1	0
29	28	7	1	31	29	4	1	49	15	0	1	48	13	3	1	43	17	4	1	48	15	1	1
54	32	5	4	55	31	5	4	78	13	1	3	76	11	4	4	76	11	4	4	79	9	3	4
35	29	6	1	38	26	6	1	59	10	1	1	52	15	3	1	53	12	5	1	55	11	4	1
32	22	3	1	33	22	3	0	49	8	1	0	49	6	3	0	43	12	3	0	45	9	3	1
19	12	3	0	20	13	1	0	31	1	2	0	26	6	2	0	26	6	2	0	30	3	1	0
81	57	16	5	88	53	12	6	124	27	3	5	123	22	9	5	113	33	8	5	117	30	7	5

問7 あなたは問6(ア)～(シ)のようなことを経験したり、見聞きしたことがありますか。(1つだけ○印)

(単位:人、%)

		サンプル	直接、経験したことがある	身近に見聞きしたことがある	経験したこともないし、見聞きしたこともない	無回答
総合	実数	964	199	366	378	21
	%	100.0	20.6	38.0	39.2	2.2
性別	男性	422	72	180	157	13
	女性	540	126	186	220	8
	その他	0	0	0	0	0
	無回答	2	1	0	1	0
年代別	10歳代	45	0	9	35	1
	20歳代	99	12	39	47	1
	30歳代	128	33	48	45	2
	40歳代	174	33	75	65	1
	50歳代	184	42	75	61	6
	60歳代	199	42	80	74	3
	70歳以上	133	36	40	50	7
	無回答	2	1	0	1	0
従業上の地位別	会社などに雇用されている方	522	107	213	194	8
	自営業主	84	17	34	31	2
	家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している者)	63	13	27	22	1
	無職(主婦、主夫、学生を含む)	284	60	88	127	9
	無回答	11	2	4	4	1
仕事の内容別	管理職	58	10	21	27	0
	専門・技術職	185	52	68	61	4
	事務職	126	24	43	58	1
	販売・サービス・保安職	163	35	75	52	1
	農業漁業職	49	4	23	21	1
	生産・輸送・建設・労務職	79	9	42	24	4
	無回答	9	3	2	4	0
	雇用形態別	役員	21	1	6	14
正規の職員・従業員		313	67	126	115	5
非正規の職員・従業員(契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む)		179	38	78	61	2
無職		9	1	3	4	1
結婚の有無別	結婚している	584	136	212	225	11
	結婚していない	357	60	145	143	9
	結婚していないがパートナーと暮らしている	11	2	6	2	1
	無回答	12	1	3	8	0
夫婦共働き	はい	339	73	128	135	3
	いいえ	242	63	83	87	9
	無回答	3	0	1	2	0
居住地域別	高知市	459	98	172	181	8
	高知市以外の市	338	68	134	130	6
	町村	161	31	60	63	7
	無回答	6	2	0	4	0
世帯構成別	一人世帯	126	26	54	45	1
	一世代世帯(夫婦だけ)	221	60	74	83	4
	二世代世帯(親と子)	489	90	194	195	10
	三世代世帯(親と子と孫)	99	18	37	40	4
	その他の世帯	15	3	4	7	1
	無回答	14	2	3	8	1
同居の子ども別	未就学児	65	18	20	27	0
	小学生	95	23	33	36	3
	中学生	71	14	27	28	2
	高校生	58	11	24	23	0
	大学生、専門学校生等	34	6	12	15	1
	当てはまる子どもはいない	159	36	59	58	6

★問7で「1. 直接、経験したことがある」を選んだ方のみお答えください。>

問8 あなたは、あなたの配偶者や恋人に次のようなことをしたこと、またはされたことはありますか。(あなたの経験に最も近い番号(1~4)に○印)
 ※複数選択の方がいるため、横計が合わないところがある。

サンプル	実数	(ア) 素手で殴ったり、足でける					(イ) バットやベルト等、物を使って殴る					(ウ) 物を投げつける。突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする					(エ) ドアをかけたリ、壁に物を投げつけたり。刃物などを突きつけたり、殴るふりをして、おどす					(オ) 大声でなる、罵倒するなどして恐怖感を与える					(カ) 小バクにするようなことを言ったり、態度を取る					
		したことがある		されたことがある		どちらでもない・無回答	したことがある		されたことがある		どちらでもない・無回答	したことがある		されたことがある		どちらでもない・無回答	したことがある		されたことがある		どちらでもない・無回答	したことがある		されたことがある		どちらでもない・無回答						
		1	2	1	2		1	2	1	2		1	2	1	2		1	2	1	2		1	2	1	2							
総合	199	5	30	24	34	114	2	8	4	12	174	4	21	20	30	132	5	17	30	38	114	14	26	58	33	78	16	28	56	42	74	
%		2.5	15.1	12.1	17.1	57.3	1.0	4.0	2.0	6.0	87.4	2.0	10.6	10.1	15.1	66.3	2.5	8.5	15.1	19.1	57.3	7.0	13.1	29.1	16.6	39.2	8.0	14.1	28.1	21.1	37.2	
性別	男性	72	2	20	6	40	1	7	1	3	60	3	15	4	10	43	4	13	3	11	43	10	21	9	7	28	8	17	10	14	29	
女性	126	3	9	18	28	74	1	1	3	9	113	1	6	16	20	88	1	4	27	27	70	4	4	49	26	50	8	11	46	28	44	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
無回答	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
年代別	10歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
20歳代	12	0	2	1	3	6	0	0	1	1	10	0	0	1	4	7	0	1	2	4	5	0	0	4	2	6	1	0	5	4	2	
30歳代	33	0	4	4	7	18	0	2	0	2	29	0	4	3	5	22	1	2	6	6	19	0	5	10	6	13	3	3	8	12	7	
40歳代	33	4	5	7	3	16	2	2	0	3	26	3	6	7	6	15	3	7	8	4	14	7	4	13	5	7	4	4	9	4	14	
50歳代	42	1	8	6	8	24	0	2	2	2	37	0	5	6	6	27	0	3	7	10	23	4	4	15	10	13	3	8	19	9	12	
60歳代	42	0	4	4	6	29	0	1	0	4	37	1	2	1	5	34	1	2	3	9	27	2	4	11	6	21	5	8	12	6	15	
70歳以上	36	0	6	2	7	21	0	1	1	0	34	0	4	2	4	26	0	2	4	5	25	1	8	5	4	18	0	5	3	7	23	
無回答	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
従業上の地位別	会社などに雇用されている方	107	4	18	14	21	55	1	4	2	10	91	2	13	12	16	70	3	10	19	23	55	8	14	34	17	39	11	17	30	26	32
自営業主	17	0	6	1	3	8	0	2	0	0	15	1	4	1	4	8	0	2	1	4	11	2	4	3	2	8	1	4	3	2	9	
家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している方)	13	0	1	3	0	10	0	0	1	1	11	0	1	3	2	8	0	1	3	0	9	1	0	4	5	4	0	1	5	3	5	
無職(主婦、主夫、学生を含む)	60	1	4	6	10	40	1	2	1	1	55	1	3	4	8	44	2	4	7	11	37	3	7	17	9	26	4	6	17	11	27	
無回答	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	
仕事の内容別	管理職	10	0	4	0	1	5	0	0	0	1	9	1	1	0	2	6	0	1	1	1	7	0	3	1	3	4	1	2	2	3	4
専門・技術職	52	3	8	7	11	26	1	1	1	2	47	0	6	4	10	34	1	6	8	9	29	5	3	17	8	21	8	4	19	6	17	
事務職	24	1	5	3	3	15	0	1	0	2	22	1	3	3	4	17	0	3	4	3	16	1	3	7	9	7	1	3	5	12	6	
販売・サービス・保安職	35	0	5	6	7	18	0	3	2	3	27	0	6	6	5	20	0	2	7	10	17	2	6	12	4	13	1	10	10	8	10	
農業漁業職	4	0	0	1	0	3	0	0	0	1	3	0	0	1	1	2	0	0	1	1	2	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3	
生産・輸送・建設・労務職	9	0	2	1	1	5	0	0	0	2	7	1	1	2	0	5	2	0	1	2	4	2	3	2	0	2	0	3	1	2	4	
無回答	3	0	1	0	1	1	0	1	0	0	2	0	1	0	0	2	0	1	1	1	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	2	
雇用形態別	役員	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
正規の職員・従業員	67	4	12	7	13	35	1	2	2	4	58	2	9	6	11	43	2	8	10	13	36	6	7	20	12	25	9	10	17	18	19	
その他	38	0	6	7	7	19	0	2	0	5	32	0	4	6	4	26	1	2	9	9	18	2	7	13	4	14	2	7	13	7	12	
無回答	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
結婚の有無別	結婚している	136	3	20	12	21	87	0	4	1	6	126	2	16	12	22	92	3	13	16	26	83	12	17	35	27	54	12	20	37	29	54
結婚していない	60	2	9	12	12	26	2	3	3	6	46	2	4	8	8	38	2	4	14	11	29	1	8	22	6	24	4	8	19	13	17	
結婚していないがパートナーと暮らしている	2	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	
無回答	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
夫婦共働きの有無別	はい	73	3	14	9	9	42	0	3	1	5	65	2	11	10	13	43	2	9	12	14	40	9	10	20	16	25	7	12	23	14	27
いいえ	63	0	6	3	12	45	0	1	0	1	61	0	5	2	9	49	1	4	4	12	43	3	7	15	11	29	5	8	14	15	27	
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
居住地地域別	高知市	98	3	17	13	15	53	1	4	4	7	83	1	11	11	20	59	1	10	16	21	53	9	11	26	20	39	11	15	28	20	34
高知市以外の市	68	1	11	8	13	39	0	2	0	4	62	2	8	6	8	47	2	6	8	14	39	3	11	20	10	27	2	11	20	18	23	
町村	31	1	2	3	5	21	1	1	0	1	28	1	1	3	2	25	2	1	6	2	21	1	4	12	3	11	3	2	7	4	16	
無回答	2	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	
世帯構成別	一人世帯	26	1	6	4	4	12	1	1	0	3	21	1	2	2	3	18	1	3	5	3	14	0	3	11	1	11	2	4	9	3	10
一世代世帯(夫婦だけ)	60	1	5	3	10	42	0	0	1	1	58	0	6	3	7	44	0	3	5	12	40	6	7	15	10	26	5	8	12	14	28	
二世代世帯(親と子)	90	3	16	12	15	49	1	6	3	5	76	3	11	9	18	56	3	8	13	20	50	7	13	23	18	34	9	10	27	21	29	
三世代世帯(親と子と孫)	18	0	2	4	3	9	0	0	0	3	15	0	1	5	2	11	1	3	5	2	8	0	3	7	4	5	0	6	6	3	5	
その他の世帯	3	0	1	1	1	1	0	0	0	0	3	0	0	1	0	2	0	0	2	0	1	0	0	2	0	1	0	0	1	1	1	
無回答	2	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	
同居の子ども別	未就学児	18	0	4	1	5	9	0	1	0	1	16	0	3	0	5	11	0	3	2	6	8										

〈副問1〉あなたは、上記のしたこと、されたことについて誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○印)

(単位:人、%)

	サンプル	家族・親せき	友人・知人	警察	法務局・人権擁護委員	市町村役場・福祉事務所	県庁	女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)	こうち男女共同参画センター「ソレレ」	裁判所・法テラス	医療関係者(医師、歯科医師、看護師など)	民間の機関(弁護士会、民間シェルターなど)	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった	無回答	
総合	実数	199	50	59	14	0	1	0	4	1	7	1	1	5	97	10
	%		25.1	29.6	7.0	0.0	0.5	0.0	2.0	0.5	3.5	0.5	0.5	2.5	48.7	5.0
性別	男性	72	12	12	4	0	0	0	0	0	2	0	0	2	45	6
	女性	126	38	47	10	0	1	0	4	1	5	1	1	3	52	3
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
年代別	10歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20歳代	12	3	7	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3	0
	30歳代	33	9	14	6	0	0	0	0	1	2	0	0	0	11	3
	40歳代	33	12	11	4	0	1	0	2	0	3	0	0	1	14	2
	50歳代	42	8	13	1	0	0	0	1	0	2	1	0	0	22	1
	60歳代	42	11	11	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	23	1
	70歳以上	36	7	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	24	2
	無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
従業上の地位別	会社などに雇用されている方	107	26	37	10	0	0	0	3	1	5	1	1	3	51	4
	自営業主	17	4	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	1
	家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している者)	13	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	2
	無職(主婦、主夫、学生を含む)	60	16	15	2	0	1	0	1	0	2	0	0	1	31	2
	無回答	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
仕事の内容別	管理職	10	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0
	専門・技術職	52	13	21	6	0	0	0	2	0	3	1	1	3	19	3
	事務職	24	5	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	2
	販売・サービス・保安職	35	12	12	6	0	0	0	1	1	2	0	0	0	16	0
	農業漁業職	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0
	生産・輸送・建設・労務職	9	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2
	無回答	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
	役員	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
雇用形態別	正規の職員・従業員	67	16	21	5	0	0	0	3	0	3	1	0	2	33	3
	非正規の職員・従業員(契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む)	38	10	16	5	0	0	0	0	1	2	0	1	1	16	1
	無職	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	結婚の有無別	結婚している	136	31	31	5	0	0	0	1	0	0	1	0	4	75
結婚していない	60	18	26	9	0	1	0	3	1	7	0	1	1	22	1	
結婚していないがパートナーと暮らしている	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
夫婦共働き	はい	73	17	17	4	0	0	0	1	0	0	1	0	3	38	5
	いいえ	63	14	14	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	37	3
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	居住地地域別	高知市	98	20	30	6	0	0	0	2	1	1	1	1	3	47
高知市以外の市	68	18	19	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	35	2	
町村	31	11	9	7	0	1	0	2	0	5	0	0	0	15	1	
無回答	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
世帯構成別	一人世帯	26	6	11	2	0	0	0	1	0	2	0	0	0	12	1
	一世帯世帯(夫婦だけ)	60	14	9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	38	2
	二世帯世帯(親と子)	90	21	32	9	0	0	0	2	0	3	0	1	4	40	4
	三世帯世帯(親と子と孫)	18	8	4	2	0	1	0	1	1	1	0	0	0	7	2
	その他の世帯	3	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	無回答	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
同居の子ども別	未就学児	18	4	8	2	0	0	0	0	1	1	0	0	2	5	2
	小学生	23	8	8	3	0	1	0	1	0	1	0	0	1	10	1
	中学生	14	5	4	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	1
	高校生	11	7	4	2	0	1	0	1	0	2	0	0	0	4	0
	大学生、専門学校生等	6	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
	当てはまる子どもはいない	36	10	13	4	0	0	0	2	0	2	0	1	2	17	0

★副問1で「13.どこ(だれ)にも相談しなかった」を選んだ方のみお答えください。
 (副問2) あなたが、どこ(だれ)にも相談しなかったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○印)

(単位:人、%)

	サンプル	どこ(誰)に相談してよいかわからなかった	世間体が悪く、恥ずかしくて言えなかった	相談しても解決しないので、無駄だと思ったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もつとひどいことをされると思ったから	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをずると思つたから	他人にとやかく言われたくなかつたから	いずれやめるだろうと思つたから	自分に悪いところがあると思つたから	相談するほどのことではないと思つたから	その他	無回答	
総合	実数	97	8	7	24	3	16	21	1	8	9	11	39	7	2
	%		8.2	7.2	24.7	3.1	16.5	21.6	1.0	8.2	9.3	11.3	40.2	7.2	2.1
性別	男性	45	4	3	5	1	4	7	0	5	4	8	21	2	1
	女性	52	4	4	19	2	12	14	1	3	5	3	18	5	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年代別	10歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20歳代	3	0	0	2	1	2	1	0	0	1	1	2	0	0
	30歳代	11	2	0	3	1	1	2	1	1	0	2	3	2	0
	40歳代	14	1	0	1	0	0	4	0	0	1	2	9	2	0
	50歳代	22	2	1	7	0	5	7	0	0	3	4	10	0	0
	60歳代	23	2	4	6	1	3	6	0	3	1	1	7	2	2
	70歳以上	24	1	2	5	0	5	1	0	4	3	1	8	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
従業上の地位別	会社などに雇用されている方	51	5	3	14	3	9	14	1	4	4	10	22	5	0
	自営業主	10	1	1	0	0	1	2	0	1	1	0	5	0	0
	家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している者)	4	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3	0	0
	無職(主婦、主夫、学生を含む)	31	1	3	9	0	5	3	0	3	4	1	9	2	2
	無回答	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
仕事の内容別	管理職	9	1	1	1	1	1	0	0	1	0	1	4	1	0
	専門・技術職	19	3	2	4	0	3	9	0	1	2	3	8	1	0
	事務職	11	1	0	6	1	3	4	1	1	1	2	4	2	0
	販売・サービス・保安職	16	2	1	2	1	1	3	0	1	2	2	9	0	0
	農業漁業職	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
	生産・輸送・建設・労務職	5	0	0	1	0	2	2	0	1	0	2	1	0	0
	無回答	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0
雇用形態別	役員	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正規の職員・従業員	33	3	0	9	2	6	9	0	3	4	9	14	4	0
	非正規の職員・従業員(契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む)	16	2	3	4	1	3	5	1	1	0	1	7	1	0
	無職	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
結婚の有無別	結婚している	75	7	6	15	0	11	13	0	8	6	8	31	7	2
	結婚していない	22	1	1	9	3	5	8	1	0	3	3	8	0	0
	結婚していないがパートナーと暮らしている	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
夫婦共働き有無別	はい	38	5	3	4	0	3	8	0	4	2	7	21	4	0
	いいえ	37	2	3	11	0	8	5	0	4	4	1	10	3	2
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
居住地域別	高知市	47	3	4	12	2	11	12	1	2	4	4	21	5	1
	高知市以外の市	35	4	2	7	1	3	6	0	4	1	5	13	2	0
	町村	15	1	1	5	0	2	3	0	2	4	2	5	0	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
世帯構成別	一人世帯	12	0	1	3	1	3	2	0	0	1	0	5	0	0
	一世帯世帯(夫婦だけ)	38	4	5	8	0	7	4	0	6	1	4	15	2	2
	二世帯世帯(親と子)	40	3	0	11	2	6	13	1	2	5	6	18	4	0
	三世帯世帯(親と子と孫)	7	1	1	2	0	0	2	0	0	2	1	1	1	0
	その他の世帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
同居の子ども別	未就学児	5	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	2	1	0
	小学生	10	1	0	1	0	0	2	0	1	1	2	3	4	0
	中学生	5	1	0	1	0	0	1	0	0	1	1	3	1	0
	高校生	4	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	2	1	0
	大学生、専門学校生等	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0
	当てはまる子どもはいない	17	1	1	4	0	1	4	0	0	3	1	7	1	0

問9 デートDV(交際相手からの暴力)、DV(配偶者等からの暴力)、性暴力などの行為が社会問題になっていますが、このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。(3つまで○印)

(単位:人、%)

		サンプル	加害者を実施するカウセンシングや更生プログラ	罰則を強化する	学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や暴力を防止するための教育を行う	職場などで、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う	地域で、防止啓発のための研修会、イベント等	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に	被害者が早期に相談できるような、身近な相談窓口を増やし、窓口の周知を図る	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者等に対し、研修や啓発を行う	DV被害者が自立して新たな生活を始めるための支援を強化する(衣食住の確保)	その他	わからない	無回答
総合	実数	964	270	413	308	105	49	152	456	134	250	18	63	85
	%		28.0	42.8	32.0	10.9	5.1	15.8	47.3	13.9	25.9	1.9	6.5	8.8
性別	男性	422	117	184	125	55	39	56	198	70	84	10	28	36
	女性	540	153	229	182	50	10	96	257	63	166	8	35	48
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1
年代別	10歳代	45	13	16	15	11	5	8	17	8	14	0	5	1
	20歳代	99	29	47	26	10	4	15	57	21	17	2	7	5
	30歳代	128	47	61	38	10	5	24	70	26	33	4	4	3
	40歳代	174	59	90	59	18	7	32	79	23	40	3	9	12
	50歳代	184	55	81	53	24	11	27	76	25	45	4	12	18
	60歳代	199	48	71	66	17	11	30	98	18	69	3	11	22
	70歳以上	133	19	47	50	15	6	16	58	12	32	2	15	23
	無回答	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1
従業上の地位別	会社などに雇用されている方	522	154	242	162	57	25	80	250	78	137	10	26	43
	自営業主	84	24	35	24	7	6	15	39	11	19	2	7	8
	家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している者)	63	16	23	19	6	3	12	25	10	14	4	3	4
	無職(主婦、主夫、学生を含む)	284	74	110	100	35	14	43	138	32	79	2	27	26
無回答	11	2	3	3	0	1	2	4	3	1	0	0	4	
仕事の内容別	管理職	58	13	21	19	5	3	14	21	11	13	1	4	7
	専門・技術職	185	50	90	55	18	8	21	100	23	44	3	8	18
	事務職	126	41	66	42	11	4	20	59	14	42	2	6	6
	販売・サービス・保安職	163	54	58	54	22	10	33	75	29	37	6	8	11
	農業漁業職	49	12	22	10	4	2	10	26	5	11	2	3	4
	生産・輸送・建設・労務職	79	24	37	20	8	7	9	29	17	21	2	7	7
	無回答	9	0	6	5	2	0	0	4	0	2	0	0	2
	役員	21	6	9	5	4	0	4	7	1	2	0	1	4
雇用形態別	正規の職員・従業員	313	95	155	94	33	19	45	157	46	86	6	13	21
	非正規の職員・従業員(契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む)	179	49	74	60	19	6	30	83	31	49	3	12	16
	無職	9	4	4	3	1	0	1	3	0	0	1	0	2
結婚の有無別	結婚している	584	155	237	200	67	27	95	267	65	155	9	41	59
	結婚していない	357	112	169	102	36	18	54	178	64	90	7	20	23
	結婚していないがパートナーと暮らしている	11	1	7	3	0	3	1	5	2	2	2	0	1
	無回答	12	2	0	3	2	1	2	6	3	3	0	2	2
夫婦共働き	はい	339	94	148	103	38	12	55	158	43	85	8	23	31
	いいえ	242	61	87	94	29	15	39	107	24	70	1	19	27
	無回答	3	0	1	2	0	0	1	3	1	0	0	0	0
居住地域別	高知市	459	130	192	159	44	18	73	223	71	121	11	30	41
	高知市以外の市	338	92	143	100	42	20	52	155	42	86	4	23	29
	町村	161	46	77	47	18	11	26	74	20	40	2	10	15
	無回答	6	2	1	2	1	0	1	4	1	3	1	0	0
世帯構成別	一人世帯	126	33	52	37	13	8	19	55	23	31	2	10	11
	一世帯世帯(夫婦だけ)	221	47	79	75	22	12	42	100	18	57	3	22	28
	二世帯世帯(親と子)	489	144	230	152	51	24	76	244	73	128	11	28	33
	三世帯世帯(親と子と孫)	99	38	39	36	14	4	11	44	16	30	1	2	9
	その他の世帯	15	3	8	3	1	0	2	7	1	4	0	1	3
	無回答	14	5	5	5	4	1	2	6	3	2	1	0	1
同居の子ども別	未就学児	65	16	32	20	5	0	10	31	12	19	2	5	5
	小学生	95	22	45	30	10	2	14	43	13	26	1	6	8
	中学生	71	22	29	22	7	2	11	34	12	10	2	5	9
	高校生	58	22	26	19	8	2	13	28	9	14	2	1	3
	大学生、専門学校生等	34	12	13	9	6	2	6	17	5	6	2	1	3
	当てはまる子どもはいない	159	45	71	55	20	6	15	75	20	46	4	8	13

問10 次にあげることのうち、あなたがセクシュアル・ハラスメントだと思うことはどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

(単位:人、%)

	サンプル	地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する	相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体にさわると	宴席で、お酌やテュエット、ダンス等を強要する	(女性のみに)お茶くみや掃除をさせる等) 性別による役割分担を強要する	性別を理由とした不利益な扱いをする(昇進を制限する等)	相手の容姿や服装に関してあれこれ言う	相手が嫌がっているのに、性的なことを話題にする	相手が嫌がっているのに、性的なことを話題にする	ニュードポスターやポルノ雑誌等を人目につくところに置く、飾る	「結婚はまだか」や「子どもはまだか」等たびたび聞く	「ホモ」、「オカマ」、「レズ」等、相手の性的指向を話題にして、からかう	わからない	無回答	
総合	実数	964	824	807	676	568	674	587	746	633	579	674	18	80	
	%		85.5	83.7	70.1	58.9	69.9	60.9	77.4	65.7	60.1	69.9	1.9	8.3	
性別	男性	422	357	349	298	250	283	238	312	267	238	280	11	36	
	女性	540	467	458	378	318	391	349	434	366	341	394	7	42	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	無回答	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
年代別	10歳代	45	41	40	33	29	36	28	38	34	29	36	1	1	
	20歳代	99	88	86	71	59	71	67	83	70	67	74	4	4	
	30歳代	128	118	117	100	92	99	89	110	95	89	99	1	4	
	40歳代	174	155	149	130	116	132	112	138	123	119	127	2	12	
	50歳代	184	158	157	133	110	124	115	142	124	109	130	3	17	
	60歳代	199	162	160	132	108	138	123	147	117	115	135	4	19	
	70歳以上	133	102	98	77	54	74	53	88	70	51	73	3	21	
	無回答	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
従業上の地位別	会社などに雇用されている方	522	455	452	381	322	375	344	418	373	343	383	7	38	
	自営業主	84	69	68	56	48	63	45	63	51	44	55	1	9	
	家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している者)	63	53	52	43	36	38	35	44	34	33	39	2	6	
	無職(主婦、主夫、学生を含む)	284	240	230	192	158	193	158	216	172	156	192	8	23	
	無回答	11	7	5	4	4	5	5	5	3	3	5	0	4	
仕事の内容別	管理職	58	48	48	43	38	44	40	47	45	40	44	1	8	
	専門・技術職	185	157	159	123	109	123	126	149	123	119	136	4	14	
	事務職	126	117	111	95	82	95	87	101	93	87	101	0	6	
	販売・サービス・保安職	163	141	138	123	102	122	95	127	110	94	111	1	12	
	農業漁業職	49	41	43	35	28	30	26	36	29	28	32	1	5	
	生産・輸送・建設・労務職	79	65	65	54	43	56	45	58	52	47	47	3	7	
		無回答	9	8	8	7	4	6	5	7	6	5	6	0	1
		役員	21	15	15	14	11	12	12	13	13	11	13	1	4
雇用形態別	正規の職員・従業員	313	278	277	236	209	234	222	261	235	218	239	5	16	
	非正規の職員・従業員(契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む)	179	157	154	126	100	127	107	141	122	111	128	1	15	
	無職	9	5	6	5	2	2	3	3	3	3	3	0	3	
結婚の有無別	結婚している	584	494	483	409	331	408	353	451	376	345	404	8	54	
	結婚していない	357	315	309	254	226	255	225	281	246	222	260	8	21	
	結婚していないがパートナーと暮らしている	11	8	9	7	6	5	4	7	5	6	4	0	2	
	無回答	12	7	6	6	5	6	5	7	6	6	6	2	3	
夫婦共働きの有無別	はい	339	289	284	242	200	238	210	263	227	213	237	5	30	
	いいえ	242	202	198	166	130	170	144	188	148	132	165	4	23	
	無回答	3	3	3	2	2	2	1	2	2	2	2	0	0	
居住地域別	高知市	459	398	393	348	282	336	300	372	323	296	346	6	36	
	高知市以外の市	338	282	272	209	187	225	186	245	203	188	218	8	29	
	町村	161	140	138	115	97	110	100	126	105	93	108	4	13	
	無回答	6	4	4	4	2	3	1	3	2	2	2	0	2	
世帯構成別	一人世帯	126	108	106	88	80	89	81	99	86	79	91	2	11	
	一世帯世帯(夫婦だけ)	221	183	178	153	118	141	128	160	138	124	148	4	23	
	二世帯世帯(親と子)	489	430	418	351	297	354	308	390	335	307	356	8	30	
	三世帯世帯(親と子と孫)	99	81	83	66	58	70	56	78	61	53	64	3	11	
	その他の世帯	15	12	12	8	10	10	7	10	5	9	8	1	2	
	無回答	14	10	10	10	5	10	7	9	8	7	7	0	3	
同居の子ども別	未就学児	65	56	54	47	39	46	41	54	43	42	48	1	6	
	小学生	95	78	80	62	53	66	62	73	61	59	65	2	10	
	中学生	71	60	57	48	41	50	46	53	45	46	50	0	10	
	高校生	58	53	51	42	38	44	38	44	41	37	42	0	4	
	大学生、専門学校生等	34	28	29	24	23	26	25	28	23	24	27	0	3	
	当てはまる子どもはいない	159	132	131	104	86	109	87	121	98	82	102	4	12	

問11 あなたは、次にあげる言葉について、知っていますか。(それぞれ該当する番号(1~3)に1つだけ○印)

サンプル	(ア) 仕事と生活の調和(ワークライフ・バランス)			(イ) DV(ドメスティック・バイオレンス)			(ウ) セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)			(エ) こころ男女共同参画センター「ソレ」			(オ) クオータ制			(カ) 女性相談支援センター			(キ) 高知家の女性しごと応援室			(ク) 女子差別撤廃条約													
	内容を 知っている	知らない	無回答	聞いた ことがある	知らない	無回答	聞いた ことがある	知らない	無回答	聞いた ことがある	知らない	無回答	聞いた ことがある	知らない	無回答	内容を 知っている	知らない	無回答	聞いた ことがある	知らない	無回答	内容を 知っている	知らない	無回答											
総合	実数	964	369	297	236	62	805	112	22	25	841	90	6	27	295	394	242	33	36	175	712	41	154	415	363	32	35	223	671	35	138	254	535	37	
	%	100.0	38.3	30.8	24.5	6.4	83.5	11.6	2.3	2.6	87.2	9.3	0.6	2.8	30.6	40.9	25.1	3.4	3.7	18.2	73.9	4.3	16.0	43.0	37.7	3.3	3.6	23.1	69.6	3.6	14.3	26.3	55.5	3.8	
性別	男性	422	169	113	112	28	336	62	11	13	356	51	2	13	117	157	129	19	18	77	309	18	41	172	190	19	13	81	310	18	60	108	234	20	
	女性	540	200	183	123	34	468	50	10	12	484	38	4	14	177	237	113	13	18	98	402	22	113	241	173	13	22	141	360	17	78	145	300	17	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	2	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	2	0	0	0	1	1	0	1	1	0
年代別	10歳代	45	25	9	11	0	33	10	2	0	37	8	0	0	5	16	24	0	1	5	39	0	7	16	22	0	2	5	38	0	16	9	20	0	
	20歳代	99	40	28	28	3	89	5	4	1	89	8	1	1	20	35	42	2	4	13	81	1	15	32	51	1	4	12	82	1	21	26	50	2	
	30歳代	128	63	31	27	7	118	8	1	1	118	9	0	1	37	65	25	1	6	27	94	1	16	56	55	1	6	33	88	1	26	40	61	1	
	40歳代	174	70	62	37	5	157	14	1	2	165	7	1	1	52	85	36	1	7	27	137	3	27	81	64	2	4	51	118	1	19	44	109	2	
	50歳代	184	74	53	45	12	154	23	1	6	162	15	0	7	68	72	37	7	8	45	122	9	32	79	65	8	8	35	133	8	22	43	111	8	
	60歳代	199	71	58	50	20	161	27	3	8	169	22	1	7	73	72	44	10	7	39	141	12	37	95	56	11	7	56	126	10	22	52	112	13	
	70歳以上	133	26	55	37	15	92	25	9	7	100	20	3	10	39	49	34	11	3	19	97	14	20	54	50	9	4	30	85	14	12	39	71	11	
	無回答	2	0	1	1	0	1	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	2	0	0	0	1	1	0	1	1	0
従業上の地位別	会社などに雇用されている方	522	225	159	111	27	463	42	5	12	481	31	1	9	173	222	114	13	17	103	389	13	84	232	194	12	22	119	369	12	74	137	297	14	
	自営業主	84	31	25	22	6	67	15	0	2	68	12	0	4	23	32	25	4	2	20	56	6	13	39	26	6	1	19	56	8	10	17	51	6	
	家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している者)	63	15	25	19	4	49	12	1	1	53	9	0	1	15	32	15	1	2	8	49	4	11	28	22	2	1	13	47	2	8	13	40	2	
	無職(主婦、主夫、学生を含む)	284	98	81	82	23	219	41	15	9	232	35	5	12	81	103	87	13	15	43	210	16	46	109	118	11	11	68	193	12	45	83	142	14	
無回答	11	0	7	2	2	7	2	1	1	7	3	0	1	3	5	1	2	0	1	8	2	0	7	3	1	0	4	6	1	1	4	5	1		
仕事の内容別	管理職	58	28	15	10	5	50	6	0	2	52	4	0	2	26	18	11	3	2	15	39	2	11	19	26	2	1	13	42	2	7	13	36	2	
	専門・技術職	185	81	54	42	8	169	12	1	3	172	10	0	3	62	83	36	4	5	34	141	5	34	85	60	6	6	41	134	4	19	50	112	4	
	事務職	126	55	48	21	2	117	7	0	2	119	6	0	1	45	55	24	2	3	24	98	1	30	54	41	1	7	31	87	1	22	29	73	2	
	販売・サービス・保安職	163	68	54	31	10	143	15	3	2	146	13	1	3	45	76	39	3	8	36	112	7	18	86	54	5	9	45	103	6	29	48	80	6	
	農業漁業職	49	11	18	15	5	31	15	0	3	37	9	0	3	5	25	15	4	3	8	34	4	4	20	22	3	0	8	36	5	4	11	30	4	
	生産・輸送・建設・労務職	79	25	17	31	6	60	14	2	3	67	10	0	2	23	28	26	2	0	10	66	3	7	32	37	3	1	11	64	3	9	14	52	4	
無回答	9	3	3	2	1	9	0	0	0	9	0	0	0	5	1	3	0	0	4	4	1	4	3	2	0	0	2	6	1	2	2	5	0		
雇用形態別	役員	21	8	7	4	2	14	5	0	2	17	2	0	2	7	10	2	2	0	5	14	2	4	4	11	2	0	4	15	2	2	6	11	2	
	正規の職員・従業員	313	152	86	62	13	289	15	3	6	296	13	0	4	100	132	76	5	13	62	234	4	51	139	118	5	12	70	227	4	51	80	176	6	
	非正規の職員・従業員(契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む)	179	61	63	44	11	155	19	2	3	161	15	1	2	65	75	34	5	4	32	137	6	28	85	62	4	9	42	123	5	21	46	107	5	
	無回答	9	4	3	1	1	5	3	0	1	7	1	0	1	1	5	2	1	0	4	4	1	1	4	3	1	1	3	4	1	0	5	3	1	
結婚の有無別	結婚している	584	222	172	151	39	489	69	11	15	514	52	4	14	198	240	126	20	19	111	428	26	96	261	209	18	18	141	403	22	65	144	353	22	
	結婚していない	357	141	118	76	22	303	38	7	9	314	31	2	10	90	148	109	10	16	61	268	12	55	146	144	12	15	78	253	11	71	105	169	12	
	結婚していないがパートナーと暮らしている	11	5	4	2	0	10	1	0	0	9	1	0	1	5	3	2	1	0	3	7	1	2	5	3	1	1	3	6	1	2	2	5	2	
	無回答	12	1	3	7	1	3	4	4	1	4	6	0	2	2	3	5	2	1	0	9	2	1	3	7	1	1	1	9	1	0	3	8	1	
未婚無別	はい	339	141	99	81	18	294	35	2	8	307	26	0	6	111	146	73	9	11	64	252	12	55	155	120	9	12	72	243	12	29	67	174	11	
	いいえ	242	78	73	70	21	192	33	9	8	204	25	4	9	86	92	52	12	8	46	172	16	42	103	88	9	6	68	156	12	29	67	134	12	
	無回答	3	2	1	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	2	0	1	0	1	0	2	0	1	0	1	1	1	1	1	0	1	2	0	0	
居住地域別	高知市	459	195	133	97	34	399	41	8	11	412	34	1	12	159	208	75	17	15	87	335	22	85	213	149	12	18	121	303	17	65	120	256	18	
	高知市以外の市	338	123	106	96	13	272	48	9	9	285	40	3	10	88	120	119	11	15	56	257	10	45	133	148	12	13	68	246	11	56	87	182	13	
	町村	161	49	56	41	15	131	21	4	5	140	15	2	4	47	64	47	3	6	31	117	7	23	67	64	7	4	32	119	6	15	45	96	5	
	無回答	6	2	2	2	0	3	2	1	0	4	1	0	1	1	2	1	2	0	1	3	2	1	2	2	1	0	2	3	1	2	2	1	1	
世帯構成別	一人世帯	126	50	44	25	7	101	16	5	4	106	13	0	7	40	52	29	5	5	22	92	7	23	53	43	7	7	31	81	7	29	29	61	7	
	一世帯世帯(夫婦だけ)	221	79	72	51	19	184	26	4	7	189	23	2	7	72	83	56	10	8	44	159	10	37	98	77	9	7	50	153	11	22	53	134	12	
	二世帯世帯(親と子)	4																																	

(ケ) 男女雇用機会均等法				(コ) 育児・介護休業法				(サ) 女性活躍推進法				(シ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(いわゆるDV防止法)				(ス) 高知県男女共同参画社会づくり条例				(セ) 性的少数者(いわゆるLGBTなど)				(ソ) 性的指向・性自認(SOGI)				(タ) カミングアウト				(チ) アウティング				
内容を 知っている	聞いた ことがあるが 内容は 知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことがあるが 内容は 知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことがあるが 内容は 知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことがあるが 内容は 知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことがあるが 内容は 知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことがあるが 内容は 知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことがあるが 内容は 知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことがあるが 内容は 知らない	知らない	無 回答					
505	304	125	30	452	344	137	31	117	349	456	42	271	480	182	31	55	369	502	38	415	260	254	35	99	242	586	37	476	219	238	31	62	172	693	37	
52.4	31.5	13.0	3.1	46.9	35.7	14.2	3.2	12.1	36.2	47.3	4.4	28.1	49.8	18.9	3.2	5.7	38.3	52.1	3.9	43.0	27.0	26.3	3.6	10.3	25.1	60.8	3.8	49.4	22.7	24.7	3.2	6.4	17.8	71.9	3.8	
225	122	58	17	184	157	63	18	53	153	195	21	118	205	81	18	24	161	215	22	177	111	115	19	44	112	246	20	192	100	111	19	28	75	299	20	
280	181	67	12	268	186	74	12	64	194	261	21	153	275	100	12	31	208	286	15	238	149	138	15	55	130	338	17	283	119	126	12	33	97	393	17	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0
27	10	8	0	21	12	11	1	10	15	20	0	17	17	11	0	1	13	31	0	20	11	14	0	4	15	26	0	23	10	12	0	2	6	37	0	
52	22	24	1	48	30	20	1	16	34	47	2	32	42	24	1	6	31	60	2	57	24	17	1	13	26	58	2	58	17	23	1	10	22	66	1	
69	44	14	1	62	46	19	1	22	41	63	2	34	68	25	1	7	41	79	1	61	35	31	1	15	26	86	1	65	34	28	1	10	29	88	1	
97	60	16	1	78	68	26	2	22	61	88	3	50	98	25	1	9	77	85	3	84	45	43	2	14	50	109	1	116	28	29	1	11	27	135	1	
100	59	18	7	89	66	22	7	26	58	91	9	52	92	33	7	13	75	89	7	88	47	42	7	20	54	99	11	95	44	37	8	12	37	128	7	
107	58	24	10	99	73	18	9	15	86	85	13	55	103	30	11	12	81	92	14	73	64	50	12	22	50	116	11	91	55	43	10	12	35	137	15	
53	50	21	9	55	48	21	9	6	52	62	13	31	60	33	9	7	51	65	10	32	34	56	11	11	21	90	11	27	31	65	10	4	16	101	12	
0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
297	163	50	12	271	186	53	12	82	181	242	17	160	266	84	12	40	214	255	13	242	146	120	14	50	137	319	16	288	116	105	13	32	106	371	13	
34	34	12	4	29	36	13	6	5	33	40	6	19	43	17	5	2	28	47	7	36	21	22	5	7	25	47	5	38	19	23	4	3	17	57	7	
26	27	8	2	24	23	15	1	4	23	35	1	13	35	13	2	1	25	35	2	25	16	20	2	7	11	43	2	31	13	17	2	3	6	52	2	
145	77	52	10	126	95	53	10	24	108	135	17	77	131	66	10	11	98	161	14	112	73	87	12	34	68	169	13	115	68	90	11	23	41	206	14	
3	3	3	2	2	4	3	2	2	4	4	1	2	5	2	2	1	4	4	2	0	4	5	2	1	1	8	1	4	3	3	1	1	2	7	1	
33	19	4	2	33	16	7	2	7	21	27	3	19	31	6	2	4	27	25	2	27	15	13	3	6	15	35	2	35	10	11	2	3	10	42	3	
98	68	15	4	95	71	15	4	15	69	96	5	46	104	31	4	14	76	90	5	84	52	43	6	19	50	110	6	102	41	38	4	12	37	132	4	
80	40	5	1	68	48	9	1	25	42	56	3	40	75	10	1	13	51	59	3	62	41	22	1	18	28	79	1	79	29	17	1	9	30	86	1	
84	55	20	4	77	60	22	4	33	60	64	6	53	72	33	5	8	64	87	4	79	46	34	4	15	54	88	6	87	36	35	5	8	36	113	6	
19	19	7	4	15	17	12	5	2	18	25	4	11	21	13	4	2	19	23	5	16	13	16	4	4	12	30	3	19	14	13	3	3	5	37	4	
40	18	18	3	32	28	16	3	6	24	46	3	22	34	20	3	1	25	50	3	31	14	31	3	1	13	60	5	32	17	26	4	3	9	63	4	
3	5	1	0	4	5	0	0	3	3	3	0	1	7	1	0	1	5	3	0	4	2	3	0	1	1	7	0	3	1	5	0	0	2	7	0	
12	7	0	2	11	5	3	2	4	10	5	2	7	10	2	2	3	8	8	2	10	4	5	2	2	6	11	2	10	5	4	2	1	3	15	2	
179	101	29	4	165	115	28	5	48	108	150	7	102	164	43	4	27	128	153	5	149	89	69	6	35	81	189	8	180	73	56	4	24	68	217	4	
102	52	20	5	90	64	21	4	30	59	83	7	51	86	37	5	10	75	89	5	81	51	43	4	13	46	115	5	94	37	42	6	7	32	134	6	
4	3	1	1	5	2	1	1	0	4	4	1	0	6	2	1	0	3	5	1	2	2	3	2	0	4	4	1	4	1	3	1	0	3	5	1	
297	196	75	16	275	218	74	17	55	216	288	25	160	307	100	17	30	235	298	21	229	171	163	21	51	145	366	22	274	143	149	18	28	97	435	24	
201	101	43	12	173	119	54	11	61	124	157	15	108	163	75	11	25	127	192	13	184	84	78	11	47	94	203	13	197	72	77	11	32	73	241	11	
6	3	2	0	3	4	3	1	1	4	5	1	3	7	0	1	0	6	3	2	2	3	5	1	0	3	7	1	3	1	6	1	0	2	8	1	
1	4	5	2	1	3	6	2	0	5	6	1	0	3	7	2	0	1	9	2	0	2	8	2	1	0	10	1	2	3	6	1	2	0	9	1	
171	125	35	8	157	127	44	11	33	113	180	13	86	187	56	10	18	134	176	11	139	99	91	10	27	87	213	12	178	83	68	10	12	61	254	12	
127	66	40	9	116	89	30	7	23	100	106	13	76	114	44	8	13	97	121	11	89	70	71	12	24	56	151	11	96	58	79	9	16	33	180	13	
1	2	0	0	3	0	0	0	1	2	0	0	1	2	0	0	1	1	0	1	1	2	0	0	2	1	0	0	3	0	0	1	2	0	0	0	
248	145	52	14	233	166	47	13	51	183	204	21	135	249	61	14	31	187	223	18	208	129	104	17	52	119	271	17	243	101	101	14	37	78	326	18	
186	100	41	11	156	113	56	13	46	110	167	15	90	152	85	11	19	120	186	13	144	85	98	11	40	77	208	13	164	75	89	10	20	59	247	12	
67	58	32	4	61	64	33	3	19	54	83	5	44	77	36	4	5	60	91	5	61	46	49	5	7	45	103	6	68	43	44	6	5	34	116	6	
4	1	0	1	2	1	1	2	1	2	2	1	2	2	0	2	0	2	2	2	1	0	3	2	0	1	4	1	1	0	4	1	0	1	4	1	
69	30	19	8	66	38	16	6	23	41	52	10	45	55	19	7	13	46	59	8	58	36	26	6	20	36	61	9	59	34	26	7	11	33	75	7	
114	69	30	8	106	71	34	10	18	87	103	13	48	118	45	10	14	85	112	10	91	58	61	11	21	55	135	10	92	50	70	9	10	39	161	11	
250	170	60	9	217	194	68	10	54	172	250	13	140	246	95	8	27	186	262	14	213	135	130	11	48	114	315	12	264	104	112	9	34	84	358	13	
61	27	7	4	55	31	10	3	17	40	38	4	30	47	18	4	1	41	53	4	45	28	22	4	10	34	51	4	52	27	15	5	6	13	75	5	
4	6	5	0	2	8	5	0	1	7	7	0	5	8	2	0	0	5	10	0	5	3	6	1	0	1	13	1	6	3	6	0	1	2	12	0	
7	2	4	1	6	2	4	2	4	2	6	2	3	6	3	2	0	6	6	2	3	0	9	2	0	2	11	1	3	1	9	1	0	1	12	1	
31	25	9	0	26	30	9																														

問12 あなたは、今まで以上に男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
(3つまで○印)

(単位:人、%)

		サンプル	法律や制 度に基づく 差別に見 直しが行 われるも のを改め ること	性的な社 会通念、 慣習、し きたり、 見聞や面 面	女性自身 が経済力 をつけたり 、知識・技 術を習 得すること	女性の就 業、社会 参加を支 援する設 置やサー ビスの充 実を図る こと	女性の役 職への登 用や政策 決定の場 への参画 を進める こと	労働時間 を短縮す るなど、 性別にと らわれず 家事や家 庭責任を 分担でき る働き方 を確保す ること	性別にと らわれず 、誰もが 生活者と しての家 事能力を 身につけ ること	誰もが 平等に人 権が尊重 されるた めに、ジ ェンダー や性の多 様性を充 実するこ と	その他	わから ない	無回 答
総合	実数	964	245	317	231	211	132	354	283	300	7	96	57
	%		25.4	32.9	24.0	21.9	13.7	36.7	29.4	31.1	0.7	10.0	5.9
性別	男性	422	124	139	85	93	61	143	103	126	5	46	26
	女性	540	120	178	146	118	71	211	180	174	2	50	30
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
年代別	10歳代	45	7	19	9	6	9	21	16	14	0	4	1
	20歳代	99	24	44	15	21	14	36	26	35	0	12	1
	30歳代	128	43	48	29	23	14	55	34	44	3	12	3
	40歳代	174	41	60	43	37	19	72	51	56	1	14	9
	50歳代	184	53	64	42	33	29	76	55	58	2	15	10
	60歳代	199	54	60	51	50	28	60	66	57	1	19	15
	70歳以上	133	22	22	42	41	19	34	35	36	0	20	17
	無回答	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
従業上の地位別	会社などに雇用されている方	522	153	194	126	100	68	217	151	162	4	46	21
	自営業主	84	26	18	18	20	7	19	25	30	2	11	7
	家族従業者(自営業主の家族で、その自営業に従事している者)	63	11	17	20	15	9	22	20	20	0	3	4
	無職(主婦、主夫、学生を含む)	284	54	87	64	72	44	94	86	86	1	34	23
	無回答	11	1	1	3	4	4	2	1	2	0	2	2
仕事の内容別	管理職	58	18	20	18	7	7	22	17	15	1	5	3
	専門・技術職	185	60	69	39	36	21	84	64	67	0	11	8
	事務職	126	37	51	28	27	20	55	36	44	1	6	3
	販売・サービス・保安職	163	42	60	39	33	23	59	47	54	1	20	6
	農業漁業職	49	12	10	14	13	5	14	10	17	1	3	4
	生産・輸送・建設・労務職	79	18	16	23	18	7	21	20	13	2	14	6
	無回答	9	3	3	3	1	1	3	2	2	0	1	2
雇用形態別	役員	21	5	7	9	2	4	5	7	1	0	3	2
	正規の職員・従業員	313	107	125	62	60	40	138	90	106	0	20	12
	非正規の職員・従業員(契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む)	179	40	60	53	38	23	71	52	51	3	21	6
	無職	9	1	2	2	0	1	3	2	4	1	2	1
結婚の有無別	結婚している	584	153	184	151	135	74	217	169	174	2	56	36
	結婚していない	357	87	130	76	70	54	129	113	118	5	37	18
	結婚していないがパートナーと暮らしている	11	3	2	3	4	2	5	1	7	0	0	1
	無回答	12	2	1	1	2	2	3	0	1	0	3	2
夫婦共働き有無別	はい	339	93	112	85	75	40	143	95	105	1	27	16
	いいえ	242	59	70	66	61	33	71	73	68	1	28	21
	無回答	3	0	1	1	0	0	2	1	1	0	0	1
居住地域別	高知市	459	127	159	127	104	72	174	144	142	2	31	25
	高知市以外の市	338	68	102	70	72	36	124	94	109	3	42	21
	町村	161	48	55	33	34	23	54	43	48	2	23	9
	無回答	6	2	1	1	1	1	2	2	1	0	0	2
世帯構成別	一人世帯	126	30	34	31	24	22	35	35	40	1	18	12
	一世帯世帯(夫婦だけ)	221	47	76	58	52	32	71	67	57	0	24	16
	二世帯世帯(親と子)	489	127	167	110	102	63	197	141	168	6	43	23
	三世帯世帯(親と子と孫)	99	32	35	24	27	9	37	29	26	0	9	4
	その他の世帯	15	7	3	5	4	2	8	4	7	0	1	0
無回答	14	2	2	3	2	4	6	7	2	0	1	2	
同居の子ども別	未就学児	65	24	26	12	13	5	34	15	23	1	4	4
	小学生	95	21	33	16	22	7	39	28	36	1	7	4
	中学生	71	20	26	20	12	7	27	17	19	1	7	5
	高校生	58	16	20	16	10	8	25	24	12	1	3	4
	大学生、専門学校生等	34	15	11	4	8	3	13	9	12	1	2	1
	当てはまる子どもはいない	159	42	40	44	40	19	60	46	52	2	17	8

VII 自由回答

令和元年度男女共同参画県民意識調査自由記載内容

◆「男女共同参画について」

【男女共同参画社会】

- ・理解が進みつつあると思います。しかし、人によって差別的な言動をする場面に出会い、嫌な思いをすることもたくさんあります。人それぞれ事情を分かり合い、助け合える世の中になって欲しいと思います
- ・女性が子を産むということは、一生変わらない。男性も女性もそれぞれに特徴を持ち、性別を超えて、人間として生きていかないと生活は完成しない。男女差別など今どきナンセンス。もっと考えないといけないことがたくさんあるはず。男女の差など、小さいことなので。世間にはもっともっと大切なことがある。男だから、こう。女だから、こう。と考えること自体がおかしいです。人間が人間として楽しい充実した人生を送れる世界になりますように
- ・平等はいい事だと思うが、「どうしてもこうしないと」って事も多々あるので場合による。（例：家事等は女の人に偏りがち。）でも、力仕事や運転、電気系とか自然に男がやらないといけないところがあり、どっちもどっちと思う気もする
- ・個人の人格、人権を尊重できる。当たり前の社会が出来ればと思う
- ・すべての人が人として、男女関係なく認め合い、適材適所で活躍できること。経済的に安定し、感謝と思いやりがあれば、社会は住みやすく、平和に。相手の立場を尊重し、公正な評価と対価を望みます
- ・男女共同参画社会の実現には、制度の充実が必要だと思いますが、女性も男性も、仕事と暮らしに余裕がないと理解し合う、協力し合うことが難しいと思います。子育て世代の人達は忙しく、大変だなあと思います
- ・「女性は出産や育児のため、仕事を続けることが出来ないから」という理由で、医科大学の入試差別事件がありました。これが日本の現実です。少子高齢化に歯止めをと言いながら、女性が仕事をしながら出産、子育てをすることの困難な状況は改善されません。制度の改善と意識改革は車の両輪のように一緒に進めなくてはならないと思いますが、制度が変われば意識も変わるのではないのでしょうか。まずは行政が制度を改めるところから始めなくてはならないと思います。ジェンダー平等は男も女もLGBTの人々もすべての人が当事者です。ジェンダー平等が実現されないと、一人一人の人権が保障されているとは言えないと思います。日本のジェンダー平等度は110位で、現在の値では日本は人権が大切にされている国とは言えないと思います。ジェンダー平等の実現なしに、男女共同参画社会の実現はあり得ないと思います。男女共同参画社会実現のために女性差別撤廃条約選択議定書批准の実現を何よりも急がなくてはならないと思います
- ・男女共同参画社会という概念には、女性が男性と同じような働き方や生き方ができるようにするという含意が多分に含まれているもののように思われますが、それはいささか硬直的なものに思われます。多くの女性がそのような生き方を本当に求めているのかは疑問ですし、男性もいわゆる「家長」的な役割に生きづらさを感じる人もかなりの割合で増えていると思います。そもそも、社会には男女以外の全てのジェンダーの人々も含まれているので、男女を含むあらゆる人々が、性的な属性に基づく役割付けを押し付けられない社会を理想とするべきで、その意味でジェンダーフリー社会化がより進めばいいなと思います。むろん

男女の性差に基づく様々な問題があることは依然として変わりませんが、単に男女を同じにするという考え方では、そこからこぼれてしまう人々を排除することを意味するので、違いは違いとしてお互いに認め許容し合える、より自由な生き方を支援する社会の具体的な制度設計を目指して欲しいです。あと余談になりますが、このアンケートを機にフェミニズムやジェンダーフリー運動等について少し調べ直しましたが、やはり無限に批判されるので、現実では減多なこととは言えないなという思いを新たにしました。こうした分野における攻撃的な言動や排他的な志向は本当に嫌な気持ちにさせられます

- ・男女共同参画社会はいいことだと思いますが…。同和事業のように、差別に対して過度の優遇処置により、一方が逆転したなどと言われたいような分け隔てのない社会になり、男女共同の理念に基づき、どちらかの権力が強くないように、共に思いやりの心を忘れず、やっていってほしいものです
- ・日本が一度潰れない限り、男女共同参画社会は無理だと思います
- ・男女共同参画社会になる様に、これからも意識を変える推進に期待しています

【差別はなくなるらない】

- ・レディースデー、逆セクハラ、女性専用車両。このような言葉、習慣があるうちは、実現は不可能
- ・会社内での男女平等などは経営者の資質が問われるものだと思う。公務員のように収入でも平等にしない限り、男女の差別はなくなるらない

【男女の相互理解・尊重】

- ・男と女は、公平であるが平等ではない。特性が違うことを尊重する教育が大事。人としての価値は同じでも、同じことが得意なわけではない。平等に同じ仕事や家事をすることが良いとは思わない。それで苦しんでいる人がたくさんいる。男女の違いをプラスにとらえて協力し合う社会が嬉しい
- ・人類は男と女しかいないのだから、お互い個性や人種を理解し合い、相手を思いやる心を養いたいものです。どうしても自分の欲望や権力欲が強く、人にぶついたりして相手を傷つける人がいる。誰もが平和に暮らしたいと願っているはずなのに

【身体的な差異、性差に由来するもの】

- ・男女平等というには分かりますが、身体づくりやホルモンバランス等、男女に違いがあり、やはり同じとは無理だと思う。その中で、仕事の評価や地位等はきちんとしてもらいたいし、女性も正直に女性だから、母だからと言える事も必要だと思う。全て同じ見方でっていうのでは賛成できない。見方を変えていく事も必要と思う。「女性だから…」ではなく「女性なのだから…」というように！！女性を差別するのではないですが（区別）、母になった人とそうでない人、凄く違います。その差が理解できる社会が望ましいです
- ・男女は平等ではないと思う。それを、無理矢理同じ様に仕事をさせようとか、同じ地位にあげようとか（女性管理職何人以上必須とか）はやめた方が良く思う。それこそ、男女差別だと思う。子どもを産めるのは女性だけだし、力も違うし、体の構造、心も脳も違う。自分で、自分がどうしたいかと、それをさまたげるものがない世界が良い社会だと思う。妊娠、子育て期間に働けなくて管理職になれないのは当然。でも、仕事をした女性がなれない世の

中はダメだと思う。周りの考え方が変わる必要があると思う

【過度に男女平等が意識されているのではないか】

- ・男女の違いは当然あるものなので、それぞれに向き不向きや得意なもの、そうでないものがあるのは当たり前だと思います。上辺だけ何でも平等にしようとしても、周囲にとっては返って迷惑になることもあります。個人的に社会で弱者とされる人の声の大きさに我慢を強いられる事もあったため、「何がなんでも全て平等に」等の主張には少し疑問を覚えます
- ・男性優先、女性優先のいずれにも偏らず、中立を保つことが大切である。男尊女卑、女尊男卑にならないことが望ましいかと

【「男女平等」＝「女性優遇」になっている】

- ・女性の活躍推進として、「管理職の女性割合を〇%にする」といった取組がありますが、本人の能力と希望に応じて役職を与えるべきであり、女性だからという理由で優遇される(＝管理職につく)おそれのある数値目標を掲げるのは、いかがなものかと個人的には思います

【男性優遇の是正】

- ・転職し、男女平等な組織から男尊女卑な風土の組織に移り、毎日苛立っています。家庭内では男女平等を感じますが、職場での苛立ちを犬にぶつけるようになり、“男だからって何も偉くない”という言動が増えたように感じます

【女性は家庭や子育てを重視すべき】

- ・女性がどんどん社会に進出するのは良い事だと思いますが、子育て中は、やはり、労働時間の短縮などで子どもとの時間をしっかりと持ってもらいたい。子どもは、やはり「お母さん」が大好きだから、幼い時期は子どもとの関わりをしっかりと持って欲しいと願います
- ・最近、子育ては夫婦平等になっておりますが、やはり、子どもは母性愛が多い方が良いのでは？と思います

【女性の意識改善】

- ・女性自身の意識や生活力の向上を希望します
- ・自分が世間知らずなだけかもしれませんが、男女共同参画社会を実現するためと何度もアンケートの質問にありましたが、「女性自身が経済力をつける」、「女性相談支援」、「女性の就業」と女性ばかりという感じがします。今の日本はそんなにも女性への差別がひどいのでしょうか？私がカフェで過ごしている時に隣の席に若い女の子たちがいましたが、「専業主婦になりたい」、「男がおごるのが当たり前」と言っていました。そういう人達ばかりではないというのは分かっていますが、まず変えなければいけないのは“女性の方の意識”ではないのでしょうか？高知はどこも人手不足なので、パートでも何でも働き口はどこでもあります。行政が動かなくても大丈夫なのではないのでしょうか？あと、テレビなどで「子どもには母親が必要！」という内容が何度も放送されていたら、そりゃ女性は育児に専念しなきゃってなって仕事辞めますよ
- ・女性だから弱い、女性だからできないという観念をなくしていかなければならない。都合の良い平等意識を持たない事が大切だと思う

【男性の意識改善】

- ・男性の理解が必要だと思います
- ・会社で男性社員がトイレ掃除をしない。掃除当番があるのは女性だけで、男子トイレまで掃除させられるのはおかしいと思う。女性が下に見られているように感じる
- ・私の住んでいる地域は田舎だからなのか、男女差別がひどいと思います。50、60 を過ぎたおっさんが10代、20代にセクハラをするのが当たり前のような世の中が変わってほしいなと思います

【その他】

- ・男女共同、平等。随分前から言われておりますが、なかなかそれに至らない、至っていないと感じております。全ての事に…
- ・誰もが平等に生活できる社会を望みます。まずは家庭の中で、それぞれの人を尊重し、協力し合い、暮らしていくことが大切ではないかと思えます
- ・現在の政治や企業の活動において男性と女性の間には格差（差別？）は存在する。我が家は共働きで子どももいないため、比較的平等な立場で生活しているが、それでも夫（男）の家事に係る比率は20%以下だと思う。これを是正すべきものであるかどうか分からないが、少なくとも家庭生活は円満にしていると思う。男女が社会の中で平等（共同）になるかは日本人の意思であり、そうなりたい人がそうなれる社会制度や社会の人々の意識改革は必要だが、そうなりたくない人も世の中にはいる事も認識し、認容する事も大切である。家事や育児を仕事と自分で認めてやっている人もOKだと思うし、会社の中でも役職に関係なく自分の仕事（一般事務やお茶くみ等）をこなす事で満足しているならそれもOKだと思う
- ・これから社会に出ていこうとしている年代です。女性だからといって制限されたり、押し付けられたりせず、誰もが自分らしく生活できる社会であって欲しい
- ・男女共同参画社会と言っておりますが、今に女性上位の社会になると思えます。又、そうやっていただきたいです
- ・男女平等の世界が本当に来るのでしょうか
- ・「女性だから…」 「男性だから…」 と固定観念にとらわれず、1人の人間として認め合い、困った事があると家庭内や地域内、学校や行政などがお互いに支え合える社会となる事が理想であり、そのような社会づくりをしていく事が大切だと思います。そのためには、一人一人の意識が大事だと思います
- ・家庭も企業も社会も、男と女の両方の力が必要だ。学校での学習レベルも、男と女に差はなく、男よりも数段努力する女性、男よりも数段頭の良い女性はたくさんいる。健康面でも男女間の差はない。今後、ますます少子化の社会に入っていく、今までより数段上の女性の活躍が社会全体にとっても必要である。なので、特に民間企業での女性の待遇面（特に給与面）の改善が必要！家庭、企業、社会での、男と女の力は五分五分、必要性も五分五分。特に60歳を過ぎてくると、女性の方が色んな力があるように思う。健康で長生きで、活動的なのも、60を過ぎてくると女の方が上。男の方が弱い
- ・仕事に関しては男性が優遇されている気がするが、社会的には女性が優遇されていると思う。（例）男が働き、女が家事するという考え。女性専用車両はあるが、男性専用はない。男から女へのセクハラはよく聞くが、女から男はあいまいになっている

- ・晴天時には、「洗濯もつとしたかった」、「洗濯よく乾いて大物が干せるね」雨が降りそうな時には「早く帰って洗濯ものを入れないと」、「ふりそうなき、家に入れてきた」とか洗濯のことで男性とこんな会話する日が楽しみです（独り身ならつぶやいているかも）
- ・男女共同参画社会という言葉すら死語になる社会になります。男性の中にも女性的部分があり、女性の中にも男性的部分があります。1人の人間の男性性と女性性の中和が大切だと思います

◆就労・企業に関すること

【長時間労働等の是正】

- ・私自身、出産後に就業して正社員にまでなれたが、親と同居で子育ての助けがなかったら、絶対不可能な働き方だと思う。男女共に残業のない職場ができれば、もっと子育てしやすく、働きやすく、何より続けやすいと思う
- ・労働時間をもっと短くして、休暇も取りやすくする必要があります。(特に子どものいる人、病気がちな人、50代以降の人等に冷たいです!!) 教員(中学校)をしておりましたが、今も現場はとても苦しんでいる人が多いと思います。いじめ(?)や嫌がらせもあります。私は今、仕事に行けていません。仕事がつくて、長距離の通勤で、一生懸命やろうとしているのに、50半ばになると集中力や体力も続かず、仕事の失敗もあり、クレームもひどく、校長から「5段階中、あなたの評価は2です!クレームが全く来なくなるまで、研修を受けてもらいます(一年間)」と言われ、職場の中でいられなくなり、不安障害のようになってしまいました。本当に何とかして欲しいです。失敗やハンデがあっても、安心して働ける、支え合える社会にする必要があります!どうぞ、力を貸して下さい
- ・どんな人でも笑顔で働いていける職場や環境ができればいいなと思います。高知県全体の給料を上げることもそれに繋がる一点であると思います

【女性の就労の場の確保】

- ・女性はキャリアと子育ての二者択一を迫られている。その状況を是正できるように社会の空気を変えるべき!
- ・出産時に退職し、家事・育児に専念すると、次に就職したくても、求職中では保育園の入所の優先順位が低く、預けるまで時間がかかること。新しい職場に就職しても、有給休暇をもらえるまで何か月もあり、欠勤が増え、減給になることなど…。子育て女性の再就職は大変だと実感しています。高知の所得は低く、共働きは必然となる世帯が多いのが現状で、家事や育児となると心身の余裕がなくなると思う

【能力による正当な評価】

- ・私の場合は会社自体がアメリカの会社で、仕事場は男女の差別がなく、とても働きやすい状況でした。給与等も結果重視で男女の差はなく、私自身もコンピューターのエンジニアとして働いていたので、特に不満もなく、自由に働くことが出来ました。ただ聞くとところによると日本の会社の場合は未だに男女の差(仕事の内容も給与等も)がかなりあるようで、残念だと思います

【職場でのセクハラ・パワハラ・マタハラ】

- ・現在は無職だが、以前勤めていた職場でセクハラにあい、うつになり退職して、傷病手当で生活中。収入は減り、生活が苦しい。死にたいと思うこともある。以前の職場は、セクハラについての教育もされている環境だった。セクハラしている側はセクハラと思っておらず、又、立場上注意もできないような状態だった。小さい町の小さい職場ではセクハラを訴えることは難しい。皆に知られてしまい、今後の就職にも差し支えると思ってしまう。社会的な弱者とは、こんなものかと日々思っている。現在も精神内科にて治療中である。(社会的に認められる立場である上の人が、セクハラについて知っているのに平然とセクハラをしている。悪いとは思っていない)
- ・現在、職場に産休・育休中の女性社員が1名いるのですが、その方のシワ寄せを受けており、正直、女性の立場ながら「マタハラ」にあたるような考えを持ってしまっています。(この人のせいで、私の仕事が増えてしまった等) その社員のせいで、私は残業も増え、プライベートの時間が減ってしまい、軽いうつになってしまいました。私のような思いをする方が一人でも減るように企業に対してのサポート、教育をお願いしたいと思います。男女間だけでなく、女性間でも「ハラスメント」はありえるというのも、少しばかりでいいので、気にしていただけると幸いです
- ・特に古い中小企業では、女性のみが担当する業務以外の仕事(お茶くみ、食器の片づけ等)が多いと思われる。それらを担当する女性自身もそのことに違和感を持っていないように見える
- ・女性に対するパワハラ、マタハラ、セクハラがないホワイト企業を増やして欲しいし、有るのであれば知りたい。パワハラ、マタハラの多い今の仕事を辞めたくてたまらない
- ・法律や企業の休暇制度が少しずつ変わってきていることで、性別に関わらず働きやすい環境になっていると思うが、まだまだ昔ながらの固定的な社会通念が残っているように思う。周りでも、お茶くみや掃除は女性の仕事、家事や育児は女性がやって当然というような職場や家庭の話聞くので…

◆DV被害について

【DVの防止・啓発】

- ・(特に) 男性は力が強いので、暴力的な言動をされると、(特に) 女性はその職場や家庭でいることが難しくなります。やはり、小さい頃から家庭や職場や学校で、DVについて防止啓発していく必要が大いにあります
- ・男性だけでなく女性でも、男性等から受けたDVのフラストレーションを子どもに向ける等し、虐待が大きな問題となっています。皆が安心して、安全に生活できるような仕組み、工夫が社会に求められています
- ・DVする人は、小さい頃に愛情をたっぷり与えて貰わず育った人です。今、愛情をかけてもらっていない子ども達に温かい環境を整えてあげて欲しいです。そうすれば、DVする人が次第に減っていきます。今現在、DVの被害にあっている人を守る事はとても大切です。でも、DVする人は、一見立派に見える人でも、実際は心の中でとても愛情を求めています。肯定して欲しいと思っています。そのケアをしないとDVを卒業できません

【DV加害者・被害者】

- ・このアンケートについて、お答えしましたが、形に残らない暴力、いわゆる言葉の暴力というのが一番卑怯な手口です。私はそれが一番許せません。このアンケート内容の行為の中にもありますが、DVを受けている、又は受けているかもという人に対して相談窓口が多々あると思いますが、受けている人が簡単にそういう場を利用するのは困難かと思います。見つかったらどうしようとか、それがバレたら今以上にエスカレートするかもしれないとか。恐怖の方が先立ってしまい、打ち明けられないかかもしれないと思います。かなりの勇気のいることだと思います。DVをする人には、自分がDVをしていると自覚が無いのがほとんどだと思います。特に上に立とうとする者、逆らえば容赦ない言葉の暴力で潰そうとする。家庭を持った男性の方が多いと思います。男と女、同じ人間なのに、家庭、社会、この世の中の全ての男性とは言いませんが、女性を見下して差別する男が多いのではないのでしょうか。皆同じ人間です。このような差別はあってはいけないものです。私は差別、DV、いじめ、全て許せないです。見下しているような人の考え方は根元から直さない限り無くならないと思います
- ・今の時代、男がハラスメントを家庭内で受けていることが多い気がします。しかも、それは社会的に黙認されているので、解決できない。かえってたちが悪い
- ・DV＝暴力をふるった方がどういう場面でも加害者のように言われていますが、双方に問題ありきだと思います。もっと高齢者、子どもに優しく住みやすい町づくりを望みます

◆行政に対して

【行政による施設や制度等の子育て支援の充実】

- ・県外から転居して来た者ですが、当初、良く思ったこととして、わざわざそこに行かなくても近くに支援を求められる窓口だけでも欲しかった（教えて欲しい）。特に土地勘もない中、もう少し何とかならないかと感じることが多かった。新規の施設は望まないが、既存施設の有効活用などを検討していただきたい
- ・家族制度が変化してきているので、子育てや介護にかかる支援策の拡充を望みます。また、各自治体での格差も広がってきており、行政サービスがどこでも住んでいても、なるべく平等に受けられるものであって欲しいと思います
- ・海外、国内外問わず、良いと思う条例は取り入れた方がこれからの国や高知県のためになると思う。すぐには「女のくせに」とか「男のくせに」といった思考は変えられないと思うけど、簡単な方法、お金のかからないやり方からでいいから、始めるべき。今の国を見てると結婚して子育てする気にはなれない
- ・子育て支援を充実させ、高知県の人口を増やしたい
- ・近年、少子化時代であるため一世帯に3人以上の子どもがいる場合はもっと援助をして欲しいと思う。経済面や子育てしていく上でのサポート等をもっと充実して欲しいと思う。今の子ども達が大人になった時の社会が心配です

【女性への支援】

- ・女性が自立できるよう経済的な支援があれば良いと思う

【県民への啓発・広報の実施】

- ・まず県が先頭になって取り組みを広く認知されるように県独自の広報なり、法設備を進めていただきたい。今高知県では様々なイベントが行われているが、そのような場所にブースを設けてアピールするだけでも効果はあるのではないか
- ・問題自体の内容が県民や市町村の事を真剣に考えていない。問題自体に直面した経験者の経験談等は全く参考にならない。参考になるならDV等の数が減るはず。なぜ減らない！？アンケート等が参考になると考える事が時代遅れである。今の世の中、人の顔をうかがいながら生活するのが普通になっている。だから、近所づきあいもうわべだけであり、事が起こるまで誰も気付かない。行政しか対応できないのに、行政自体が世間から逃げている。DV問題は行政の甘さから起こる事を忘れている。自治体の強化、学校のシステム強化、家庭訪問、児童福祉の強化など、書類上の判断だけでなく、見る聞く感じる事が一番大事である。事が起こる前に、事前に防ぐ事を考えてない行政。相談窓口が狭いので、もっと世間に分かりやすく広報するべきである
- ・どうしても、DVというと男性が女性にと思われがち（多い）ですが、1年くらい我慢して友人に打ち明けると警察に行ったらと勧められ、相談にしてみました。他に相談する所が早く分かっていたら、長くつらい思いをしなくても良かったと思います。男性も相談しやすい窓口や場所をもっと分かりやすくして欲しいです
- ・すでにあると思うが事例として、こういうこと（もの）が“男女共同参画社会”であるということを知ることが分かりやすい内容でPRすることが大切だと思う
- ・高知県は女性もかなり多くの方が働いていてしっかりしていると思うので実現する土壌はあると思います。高知県独自の県民性に合った形を、現場の声を聞きながら作っていったらいいと思います

◆教育

【子どもへの教育】

- ・家事は子どもの時から男の子もやって当たり前という教育をやるべきだと思います。学校とか保育園などの保育・教育機関でも教えるべき。私の周囲では、フルタイムの共働きでも女性が家事をほとんど、もしくは多くを負担しているパターンが多いです
- ・他者を心身共に傷つけることがいけないこと。ということを知り、子ども達が当たり前で理解できるように成長する社会をどう作ればいいのでしょうか。そうすれば、個人が尊重され、男女問わず、障がいのある人、LGBT問題も解決されると思います。その子ども達が、教育者となり、新しい花をいっぱい咲かせてもらいたい
- ・「男女共同参画」という言葉が使われるようになって、どの位経ったのか…。未だに、男女差別意識、マイノリティといわれる人たちや、障害を持つ人たちに対する差別がなくならないこの国で、実現できるのか…と書いてしまいます。実現できるとすれば、次の世代か、更にその次の世代あたりになるのでは…。それも今から、しっかりした教育をしていった上でいいことだと思います。若くて、柔軟な世代に、これまでの大人が抱えている意識をそのまま申し送ることのないようにしたいものです。ちなみに、所謂『長男の嫁』といわれる私自身『自由に使える存在』という受け止めをされておりました。誰もが同じ人間。人権を尊重する教育が何より大切だと思います
- ・教育（学校）等で、男女差別に関する機会（講義）を増やして欲しい

◆その他

【その他】

- ・今回のアンケートにお答えを致しましたが、私なりの意見を述べたいと思います。私は人種には差別はありません。自分自身の考えですが、たとえ、肌の色、ハーフ、クォーターであっても、その本人達に流れている血は、日本人だからです。それから、在日の海外の血がある方ですが、日本にいたのであれば、日本の慣習、法律を守って欲しい。そうでなければ、母国に帰るべきであると思います。最後に人間関係ですが、どちらかが地位が高いとか、有名人であっても、パートナーであれば、どちらともお互いを尊重して欲しいです。100対0という関係はやめて欲しいです
- ・男女平等にはなかなかいかないでしょう。生まれつき違うのだから。ただ、職場でのパワハラ、セクハラについては断固反対である。女の上司でもパワハラは、今現在どこにもある。これは改善されないものだろうか？あと「LGBT」に関しては、個人の自由であるからあまり関心はない。それによって差別はしない。自由だから。個人を尊重する
- ・法や制度が改善されても、本人の意識、思考が変わらない限り、それは押し付けられた上辺だけのもので、本当の意味での「差」は無くならないと思います。これまでの「常識」が正しいとは限らない、と知る機会や場を持つことが必要かと思います。家庭で正しく教えられなければ、他で学ぶ機会がなく、そのまま大人になり、親になってしまう。今は家族というものが機能せず、崩壊しつつあると思うので、「家族」以外でそういう場があれば、気づきになるのではないかと思います
- ・高知県民の賃金を上げて下さい。生活水準の引き上げをお願いしたい！全国でも最悪です。高知で仕事は何をしても最低。怒りを感じます
- ・結婚する前からお互いに専門職（両者とも医療職）についていました。結婚、家庭を持つことで母である私が介護業界にうつり、年収も150万ほど下がりました。介護業界では、介護のみ低賃金と言われていますが、家庭を守るため、一時的に医療職にいった時にも低賃金で雇われています。収入に格差があることは理解できますが、生活が本当に苦しいです。家庭と仕事を両立することは、本当に難しい。生活が苦しい
- ・より良い労働環境と助け合う社会が実現できることを願います
- ・結婚して29年になります。義父からのDVが悩みです
- ・わからないのが多くてごめんなさい
- ・この調査でどこまで役に立つかわかりません。ただ言葉が方言によりきつく聞こえるため、娘は小学生、中学生の時、学校に行くのが怖い時がありました。何でも話せる親、兄弟姉妹や1人でも友人がいれば学校、職場、結婚生活等を何とか乗り切れるのでは！？と思います。まず、話せる場をつくるというのは大切です。家族がお互いに心の変化に気づけるよう心掛けています（今現在は多くの友人ができています）
- ・みんなが心を広くもって、誰もが、住みよい世の中になればいいですね
- ・原始女性は太陽であった
- ・とつてもつらい時期もあり、一人で子どもを育てられないと考えました。私は体力に自信もないので。主人に助けられたことも多々あります。自分が横柄な態度をとったこともあると思います。暴力はいけないことだけど、自分も反省すべきことはあります
- ・頭で分かっていることと、実際の自分に誤差が生じているのではと反省はするのですが、つい楽な方に流されてしまう日々です

- ・むつかしゅうございます
- ・本人が障害者の為、質問に答えられません
- ・わからない
- ・職権乱用のない社会。罪を犯した人間は、誰であっても責任を果たすべき
- ・ご苦労様です。顔も見えない人と何とバカな時間。わけがわからない
- ・今日の件で、改めて勉強していきたい
- ・非常に難しい問題に取り組んでおられますことを影ながら応援させていただきます。世の中には、経済力もないのに男に生まれただけで女をさげすむ風変わりな人間もいて、私が生きてきた中で出会ったりもしましたので、そのような人間がいる限りは、なかなか理想的な男女共同参画社会を築き上げることは困難かと思いますが、次世代（私の子が大人になって日本社会を担う頃）には、この社会がよくなるよう、私も手助けできることがあれば積極的に行動を起こしたいです。何をしたいか分からないことだらけですが…。すいません、全く関係ないことを書きますが、子どもの虐待に対してですが、行政は本当に子どもを助ける気があるとは思えないです。警察も同じです。人権が大事とか、プライバシーの関係とか色々と言いつつ聞かれますが、ずっと、とろいことばかりしていらっしゃいませんか？そもそも虐待する親がいけない訳なので、そんな親は必要以上に守る必要はないと思います。捕まえたら、無期懲役や死刑でいいと思います。一時保護とかいうのは、よく意味不明だなと思う対応です。ニュースで見ますが、虐待する親は永遠に虐待してるでしょう？なんでそこへまた子どもを戻すんですか？バカですか？虐待のニュースを見るたび、腹がたちすぎてしまうんですが、確かに子育ては大変です。我が子にイライラすることもあります、かわいいですし、産んだからには育てないといけないでしょう。親なんですから。それを痛めつけて、死に追いやるような人間は社会に不要です。もっと刑を重くしてください。で、保護施設の方も自分が親代わりだと本気で思える人のみ働いてください。もっと子どもを大事にして下さい。言葉が悪いですが、今捕まっている虐待していた親、全員丸ごと死刑にしてやったらいいのにと本気で思います。話が脱線しすぎましたが、日本、世界が明るく楽しく、何より平和で生きていける社会に心よりなっけて欲しいと切に願います
- ・男女共同と謳うのもいいですが、仕事に対する個々の意識を高める事も大切では
- ・「男女等性別」ではなく、「人として」と自然に考える社会が本来の社会。私でも公でも、欲の優先が進むと、今の日本の様に本質からずれていくと思う。情報をきちんと平等に伝えてくれる社会（国）であって欲しい
- ・田舎暮らしの上、高齢なので、あまり今の世の中が詳しく分からない
- ・協力する事が大切と思う
- ・男は男らしく。女は女らしく
- ・色々勉強になりました
- ・ますます格差社会になっている中で男女の金銭トラブルによるハラスメントは減少しにくいのではないか。社会そのものが平等に動いていない。ホワイト系、ブルー系の格差も多くなり、ブルー系の格差も多くなり、ブルー系での労働時間短縮などをホワイト系の人間が勝手に作り収入を下げ、家庭が円満にいくわけがない
- ・男女共同参画社会などという言葉、制度の時代に共働き 40 年を終え、考えること。①子育てに大きな落とし穴があった。仕事優先で母親としての心のゆとりがなくて、子どもに一番大切な「愛情」を込めて育てることが出来なかった。②男女共同参画社会が進む中で、日本

の子どもの「教育、子育て」は本当に大丈夫なのかを心配する。③各家庭、1人でも生活のできる所得が必要と考える

- アンケートの主旨は分かるが、女性の中でも、本当に男女共同参画社会を望む者とそうではなく、おいしい所だけとって主張する者とに分かれるのではないのか？女性に限らず、男性の中にもいるとは思いますが。現在、LGBTの方たちの事を認めていく流れにはなってきているが、まだまだ受け入れがたい世の中であり、男とか女とかいう前に1人の人間がどう社会と関わっていくのか。という事の方が大切ではないかと思う。また、子育てをしている中で、精神的に未発達の子どもが増えているようにも思う。その子ども達が成長し、社会に出た時に“共同参画社会”をとる以前の事になるのではないだろうか。すいません。まとまりのない感想になってしまいました
- 日本の人口減少が止まらないのは子育てがしづらい世の中になったから？十分な収入が得られないから？結婚しない男女が増えたから？男女平等なら改善されるの？このままでは、どんどん日本は生きづらい国になってしまう。子ども、孫達の時代にはどうなってしまうのだろうか？？？
- 社会の底辺（弱者）で暮らしている方の協力者として、これからも頑張ってください
- 1. 女性の誰もが社会進出したいと考えている訳ではない。家庭の中で家族が生活していく環境を守っていくのが自分の務めと考えている者もいる。2. 働きたいと考えている者が働けないという環境ではいけないと考えている。3. 自分が一番良いと思うのは、亭主の給料だけで家族を十分に食べさせる事が出来、子どもに相当の教育を受けさせる事が出来るのであれば、妻は家庭の中で家事や育児に専念するという姿である。それでも妻がどうしても働きたいというのであれば、何かを犠牲にはしなければならないが、働く機会を与えてやらなければならないだろうと思う
- 法律やシステムも大切。でも、全ての人々の心の平安ができれば、いろんなことが解決できると思う。ピンポイントでなく、社会や日本や世界がもっと心に余裕があったらいいなと思います。きれいごとなのかもしれませんが…
- 朝は「おはようございます」、昼は「こんにちは」、夕は「こんばんわ」とか気軽に声掛けできるようになっていったらいいのになって思います！人間として、一番大事な挨拶だと思うので。ありがとうございました
- 1ページに「男女共同参画社会」の実現を目指して様々な取組をしているとありますが、具体的にどのような事をしているのか耳にした事がない。まだまだ女性の地位は低く、先進国のアメリカでさえそうだと聞く。日本でも、やれ「ヒールを履け」だの、「仕事中は眼鏡はダメ」だのと、男性社会の身勝手を強要される。たったこれだけの事を聞いても、今の日本社会のすべてを物語っているのではないのか。女性も理不尽な事には、声を上げ、又それを受け入れる社会にならなければ「男女共同参画社会」なんてあり得ない。別の話ですが、よく色々な情報を知りたくても、「ホームページをごらん下さい」とある。これほど高齢者が多いのに、いったいどれ程の人が、スマホやパソコンを持っているとお考えなのか。誰もが平等に情報を知る方法はないのか！

【地域経済・景気】

- 高知県は他の県より給料、時給が安いので県外へ出る人もいるので、仕事、賃金などもっと増やして欲しい

【ソールについて】

- ・まだまだソールの活動や女性の社会参加への理解が少ないと思います。男女やLGBTの方が何の壁もない社会になっていくことを望みます

◆調査

【今回の調査についてのご意見】

- ・子どもができてから専業主婦として何年か家事や育児をしていますが、やはり時々ふと仕事をしていたらと思う時があります。夫婦共働きの家庭を見ていると母親側の負担がどうしても多く感じ、再就職をするのをためらっている時にこの意識調査が届きました。何かしら変化がある事を期待しています
- ・このようなアンケートをとって何かが変わったりするのを見た事がない。結果がみられないのなら無駄だと思う。もっと他にすべき事があるのではないだろうか
- ・こういうアンケートに税金を使うな！途中からバカバカしくなった！外国資本、大企業に有利な政策や政治をするから、県民は心を病み、おかしくなる。遺伝子組み換えのワクチンや食べ物が広がり、人の心と体をむしばんでいる。暴力の原因、男女共同とかは社会が貧しくなったから増えただけ。根本的に県政の方向自体間違っている。(社会が富めば暴力も少なくなり、家庭は基本的に男が働き、女が家を守る慣習が増える)
- ・F3の質問について、パート欄がなく、無職として回答しました
- ・勝手に送ってこないで下さい
- ・F7-8を無記名でも、念の為防犯上無回答。今回の調査依頼を機会に関心を持つことが出来ました
- ・問3の答え5（男性が子育て、介護すれば評価される）が答えとして存在する事自体に、違和感を感じます。女性が子育て、介護をする事は普通の事？（もちろん、出産等は女性でないと無理な事がありますが…）男性は評価しないと出来ないの？
- ・内容や質問がわかりにくい
- ・質問の内容が「女性について」が多く、男女共同参画社会についてのアンケートのはずなのに偏っている気がしました。女性の地位が“未だに低い”ということを印象づけるような感じがしました
- ・せつかくのアンケート、県のホームページじゃインターネット環境のない人は見る事が出来ない。表にして分かり易くして「あかるいまち」などの広報にちゃんと載せて欲しい。難しい言葉ばかりで文章自体に仰々しさがあり、嫌悪感を持った。特に問6下に「上記は全てDVに該当します。」と書いてしまったら、分かった上で自分の意見を表現しようとしていても、○を全てにつけないといけない気分になるので、アンケートの言葉にはふさわしくありません
- ・日本はこれから人が減りますよね？もっと減らして、この国を弱体化させたい人がこのアンケートを作ったの？LGBTでない人の権利を無視してLGBTの人の権利のみ認めると言ってるようにしか見えないアンケートなら、新宿二丁目で取れば良いのでは？

VIII 自由回答

〔「その他」の内容〕

F 7 あなたの世帯は

- ・四世代（4）
- ・祖母と孫
- ・叔父と姪
- ・兄弟姉妹（3）
- ・親子と姪

問2 家庭生活における男女の役割分担の理想と現実について、伺います

（1）あなたの理想に最も近いものはどれですか

- ・男性が家計を支え、共同で家事・育児を分担する
- ・男性が家計を支え、女性はどちらでも
- ・わからない
- ・男が家計を支え、女が主として家事育児をする。男も当然、分担する
- ・能力のある者が行う
- ・パートナーによって役割分担は変わる気がする
- ・お互いにコミュニケーションをはかって共同に行う
- ・人によって違うのに、意見を押し付けるな

（2）あなたの家庭での実際の役割分担に最も近いものはどれですか（どれでしたか）

- ・1から3に移行しました
- ・女性が家計を支え、家事をしていた
- ・わからない
- ・男が家計を支え、女が主として家事育児をする。男も当然、分担する
- ・男性と女性が共同で家計を支え、家事・育児は祖父母に助けてもらって何とかやりくりしている
- ・男性と女性が共同で家計を支え、女性のみが家事・育児を担う
- ・1→22～34歳。5→35～53歳。54歳以降は1（育児に専念するは除く）
- ・家計分担、家事は女性（私）
- ・男性が家計を支えるが、女性は家事や育児に専念するという設問は固定観念にすぎない。他の事もする時間はあるはず
- ・男性が主に家計を支え、共同で家事・育児を分担する
- ・自分1人
- ・男性が家計を支え、家事は分担制
- ・女だけ

問3 あなたが考える理想的な男女の役割分担が実現するためには、どんなことが必要だと思いますか

- ・わからない（2）
- ・地域が家庭を支える
- ・男性の非正規雇用を完全になくし、給料UP（人間らしい生活ができるレベルに）
- ・男女が違いを尊重し、敬い合う社会であること
- ・能力。お互いに尊重し、適材適所で頑張る。そして、認めて感謝すること
- ・社会において優遇されている男性が、女性に寄り添った考え方をすること
- ・男女の役割ではなく、2人分と考えて分担する

問4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について伺います

（1）あなたの理想に最も近いものはどれですか

- ・生きる事に優先順位はない
- ・わからない

（2）あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか（どれでしたか）

- ・上記全てあてはまらず
- ・順位はない
- ・特に優先はない
- ・わからない
- ・個人の生活
- ・家族に介護の必要な人がいた為、働く事が出来なかった
- ・自分の家庭水準(所得額) に応じて生活をしてきた

問5 男女がともに働きやすくなるためには、それぞれどんなことが必要だと思いますか

（1）家族や地域において必要なこと

- ・政治のやり方次第！
- ・その家庭でそれぞれ話し合いは良い
- ・教育が必要である。（主に小中学）
- ・3, 4, 5をする事
- ・特になし
- ・金と時間
- ・年間収入が低い高知県では、理屈抜きで共稼ぎしなければ、生活が成り立たない
- ・母子家庭、精神障害者への行政の支援や理解
- ・1, 2, 3という選択肢があること自体男女の差を感じる
- ・公的に地域ごとに保育、病気時の保育等の支援があること
- ・働く＝やりたいことをする（できる）社会になります
- ・働ける間は働くつもり

（2）企業など職場において必要なこと

- ・正社員を増やすこと
- ・特になし
- ・わからない
- ・雇用を増やし、労働過重にならないようにする
- ・人員配置数の見直し
- ・ここに書いてある事全てが必要だと思う
- ・最低賃金の引き上げ
- ・1から10まで全部無理では？
- ・分かりません
- ・自営業のようなものなので、ある程度自由に働いている
- ・各企業に対し、決めた事を守らなければ厳罰にしないと意味なし
- ・社会主義的資本主義の体制の是非を問うべきである
- ・学歴、資格による差別をなくす事。社会全体で
- ・3, 5, 6, 9, 10の為に4, 8が必要なのではないのでしょうか

（3）行政の取組において必要なこと

- ・減税
- ・税額控除
- ・労働時間を減らす
- ・1～10、全部導入しても多分無理
- ・ブラック企業の取り締まり、罰を強化して欲しい
- ・6ページから8ページまでの設問はすべてに○が入ります。1つか2つを選ぶのは無理がある

- ・私立などの授業料が高い為、収入に応じて入学できない生徒がいる。助成金が受け取りにくいなど
- ・保育士や福祉介護職員の給料及び職場環境の改善→人材不足でサービスが出来なくなってきた→若者の地方への定着→地方発展
- ・行政に頼りすぎず、少しは自立すること
- ・職場、家庭、地域等において困っている人のアドバイスできる人材、場所の充実
- ・8に対して、啓発だけでなく、女性と同じ休暇、フレックスな働き方ができるように法改正

問8 あなたは、あなたの配偶者や恋人に次のようなことをしたこと、またはされたことはありますか

(ス) その他のDV行為(具体的に)

- ・夫の借金
- ・私物を壊された
- ・首を絞める
- ・多額の保険に入るよう強制される
- ・家から閉め出された
- ・姑に何も言うなと主人に言われ、ストレスが溜まって大変だった
- ・祖父母から自分への結婚資金を共有財産として使われた
- ・貸したお金を全く返そうとしない。口だけ(元事実婚相手よりされて、経済的状況がおかしくなった)

問8 副問1 DV行為について相談した相手

- ・占い師
- ・職場のカウンセラー
- ・職場の人
- ・今、何十年経って思い出すと、腹が立ち人に言いふらす様になっている(姑と小姑、そして主人)

問8 副問2 あなたが、どこ(だれ)にも相談しなかった理由

- ・お互いに話し合いで解決
- ・性格のため仕方がない
- ・問6は全てDVと書かれていたが、DVでも本人がどのラインでDVとするかの考えもあるのでは?
- ・本人の心の弱さなので、改善は難しいと考える
- ・外面が良いので理解してもらいづらかった
- ・一度、電話相談をするが、反対に変な言い方をされたから(私も主人も2回目の結婚。主人の子どもに私がうらまれると言われた)
- ・冗談の範囲で本気で嫌がったりしない程度にからかう。配偶者の意思表示がはっきりしていれば、これもコミュニケーション
- ・両親、兄妹、誰もいないし、親戚も遠い人しかいないので、今まで良く生きてたと思いますよ。本当につらかった

問9 デートDV（交際相手からの暴力）、DV（配偶者等からの暴力）、性暴力などの行為が社会問題になっていますが、このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか

- ・パートナーを慎重に選ぶ
- ・加害者の親子共々再教育
- ・相談しても治らない。必ず反省せず、今まで以上に大きくなる。限界まで我慢。それ以上は距離を置くか離婚しかないと思う
- ・テレビの質を良くする事。食べ物を変える。(添加物を食べない)
- ・規制等を言っているが、完全にDV等がなくなることはない。貧しくない県地方村国作り。家庭環境でも地方の環境がいかにか心を豊かにするか
- ・被害者は自分がDVにあっている自覚が無い場合も多いので、「問6」のようなアンケート内容を教育に利用する
- ・警察による民事介入をする。日頃の地域パトロールを増やす
- ・本人自らが、誰かに相談するしかない
- ・“無職”をなくす。経済的に余裕があれば、ずいぶん少なくなると思う。働かないのに保護をしてもらうのはいけないことだと思う。ボランティアでも何でもいいから、公園の草刈りでも何でも労力と引き換えに報酬をもらうべきである
- ・DVの定義の周知、DVと認められるハードルを下げる。DVされた時に、これはDVだと認識できるように
- ・離婚等のハードルを低くする（世間体が悪くならないよう）
- ・言葉の暴力は言っている本人はほとんど気づいてない場合が多く、言われた方はいたたまれません
- ・DVを行う人のかかえている問題を深く掘り下げ、根本の課題を解決する
- ・被害者自身、自覚がなかったりするので被害者にも気づかせる
- ・DVは被害者の自愛心の低さが現実化したもの。「自分はそんな経験に値しない」と意識を変えれば（自分を愛し認め、大切にすること）、DVは止まる
- ・加害者が相談できる環境。「安全プログラム」とか言ったら苦しい。本人は分かっていると思う。分かっている人もいると思う
- ・ストレスをなくす
- ・そのために刑務所がある

問12 あなたは、今まで以上に男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか

- ・力を入れなくて良い
- ・行政に関わる方の改革を図る事
- ・性別に関わらず、思いやりをもつこと。相手を尊ぶこと。大切にすること。自分を知ること
- ・男女の意識の変革。男の場合は、下心をもたず平等にあつかう事。女性の場合は、何かというときにセクハラと言う。都合が悪くなったら、女性を前面にして出す事
- ・給料を上げる。物価を下げる。ストレスをなくす
- ・適材適所
- ・家族が仲良くやる

IX 調査票
〔単純集計結果〕

男女共同参画社会に関する県民意識調査のお願い

令和元年 10 月
高知県文化・生活・スポーツ部 県民生活・男女共同参画課

県民の皆様へ

日頃から、県政の推進にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

高知県では、男女が互いにその人権を尊重し、互いに支え合い、責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会」の実現を目指して、様々な取組を進めております。

この調査は、県民の皆様の男女共同参画に関するお考えをお聞きし、「こうち男女共同参画プラン」の改定や今後の施策推進の基礎資料とすることを目的に実施する重要な調査です。回答していただく方は、県内にお住まいの満 18 歳以上の方 2,000 名を無作為に選ばせていただきました。

調査結果は、統計的に処理したうえで分析に用いますので、個人のお答えの内容や皆様の個人情報が入り外に漏れることは一切ありませんし、他の目的に使用したりすることはありません。率直なご意見をお聞かせください。

調査の結果については、令和 2 年 3 月に県のホームページで公表する予定です。

今回は、次のテーマについて、皆様のお考えをお聞かせください。

1. 男女共同参画に関する意識について
2. 家庭生活について
3. 男女がともに働きやすい職場づくりについて
4. ドメスティック・バイオレンス(夫婦・恋人間の暴力)／セクシュアル・ハラスメントについて
5. 男女共同参画の推進について

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ささやかながら謝礼品として、「高知家プリント入りボールペン」を同封します。

(※ 裏面の「記入・回答にあたってのお願い」をよく読んでお答えください。)

記入・回答にあたってのお願い

- ・この調査は、個人を対象にしていますので、あて名の方ご自身がお答えください。
- ・この調査は、無記名式です。あなたのお名前やご住所を書いていただく必要はありません。
- ・回答者に指定がある設問以外は、全員がお答えください。

調査票の返送について

- ・ご回答をいただいた調査票は、記入もれがないかお確かめのうえ、同封の返信用の封筒に入れて、切手を貼らずに11月15日（金曜日）までにご返送ください。

調査の実施について

- ・この調査は、高知県が株式会社トミーコーポレーション（高知市高須2丁目17-34）に発送や回収等の業務を委託して行っています。

*この調査についてのおたずねは、下記までご連絡ください。

調査票の発送・回収などについて：株式会社トミーコーポレーション

（電話：088-861-5025）

質問の内容などについて：高知県 文化生活スポーツ部 県民生活・男女共同参画課

（電話：088-823-9651）

まず、あなたご自身のことについてお尋ねします。

以下のF 1からF 8までは、問1から問12までの回答が性別によってどう違うか、年代別にはどう違うかがみられるか、などといった分析をする上で必要な質問です。あてはまる番号に○をつけてください。

F 1 あなたの性別は（1つだけ○印）

（回答者数 964人）

	項目	回答数	回答比率
1	男	422	43.8%
2	女	540	56.0%
3	その他	0	0.0%
	無回答	2	0.2%

F 2 あなたの年代は（1つだけ○印）

（回答者数 964人）

	項目	回答数	回答比率
1	10歳代	45	4.7%
2	20歳代	99	10.3%
3	30歳代	128	13.3%
4	40歳代	174	18.0%
5	50歳代	184	19.1%
6	60歳代	199	20.6%
7	70歳以上	133	13.8%
	無回答	2	0.2%

F 3 あなたのお仕事についてお伺いします。
あなたの従業上の地位は（1つだけ○印）

（回答者数 964人）

	項目	回答数	回答比率
1	会社などに雇用されている方	522	54.1%
2	自営業主	84	8.7%
3	家族従業者（自営業主の家族で、その自営業に従事している者）	63	6.5%
4	無職（主婦、主夫、学生を含む）	284	29.5%
	無回答	11	1.1%

F3-1 F3で1～3を選んだ方におたずねします。

あなたのお仕事の内容は（1つだけ○印）

（回答者数 669人）

	項目	回答数	回答比率
1	管理職	58	8.7%
2	専門・技術職	185	27.7%
3	事務職	126	18.8%
4	販売・サービス・保安職	163	24.4%
5	農林漁業職	49	7.3%
6	生産・輸送・建設・労務職	79	11.8%
	無回答	9	1.3%

F3-2 F3で「1. 会社などに雇用されている方」を選んだ方におたずねします。

あなたの雇用形態は（1つだけ○印）

（回答者数 522人）

	項目	回答数	回答比率
1	役員	21	4.0%
2	正規の職員・従業員	313	60.0%
3	非正規の職員・従業員（契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む）	179	34.3%
	無回答	9	1.7%

F4 あなたは結婚していますか。（1つだけ○印）

（回答者数 964人）

	項目	回答数	回答比率
1	結婚している	584	60.6%
2	結婚していない	357	37.0%
3	結婚していないがパートナーと暮らしている	11	1.1%
	無回答	12	1.2%

F5 F4で「1. 結婚している」と答えられた方におたずねします。

あなたは夫婦共働きですか。（1つだけ○印）

（回答者数 584人）

	項目	回答数	回答比率
1	はい	339	58.0%
2	いいえ	242	41.4%
	無回答	3	0.5%

F 6 あなたの住んでいる市町村は（1つだけ○印）

（回答者数 964 人）

	項 目	回答数	回答比率
1	高知市	459	47.6%
2	高知市以外の市	338	35.1%
3	町村	161	16.7%
	無回答	6	0.6%

F 7 あなたの世帯は（1つだけ○印）

（回答者数 964 人）

	項 目	回答数	回答比率
1	一人世帯	126	13.1%
2	一世代世帯（夫婦だけ）	221	22.9%
3	二世代世帯（親と子）	489	50.7%
4	三世代世帯（親と子と孫）	99	10.3%
5	その他の世帯	15	1.6%
	無回答	14	1.5%

F 8 お子さんと同居している方におたずねします。

あなたが同居しているお子さんに、次の方はいますか。（あてはまるものすべてに○印）

（回答者数 375 人）

	項 目	回答数	回答比率
1	未就学児	65	17.3%
2	小学生	95	25.3%
3	中学生	71	18.9%
4	高校生	58	15.5%
5	大学生、専門学校生等	34	9.1%
6	当てはまる子どもはいない	159	42.4%

それでは、次のページから順にお答えください。

- 質問は副問含めて 18 問あります。
- 質問の前に、「★」のあるものは、該当する方のみお答えください。

◆ 1. 男女共同参画に関する意識について

問1 次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

((ア)から(ク)まで、あなたの気持ちに最も近い番号(1~6)に1つだけ○印)

(回答者数 964人)

項目	選択肢		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平 等		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14		
(ア)家庭生活	81	8.4%	375	38.9%	339	35.2%	68	7.1%	11	1.1%	70	7.3%	20	2.1%		
(イ)職場生活	77	8.0%	361	37.4%	331	34.3%	60	6.2%	5	0.5%	90	9.3%	40	4.1%		
(ウ)学校教育	7	0.7%	102	10.6%	651	67.5%	24	2.5%	3	0.3%	138	14.3%	39	4.0%		
(エ)政治の場	239	24.8%	427	44.3%	158	16.4%	11	1.1%	2	0.2%	96	10.0%	31	3.2%		
(オ)地域活動の場	37	3.8%	255	26.5%	438	45.4%	52	5.4%	1	0.1%	151	15.7%	30	3.1%		
(カ)法律や制度の上	70	7.3%	284	29.5%	372	38.6%	60	6.2%	6	0.6%	142	14.7%	30	3.1%		
(キ)社会通念・慣習・しきたり	150	15.6%	462	47.9%	204	21.2%	17	1.8%	1	0.1%	102	10.6%	28	2.9%		
(ク)社会全体	93	9.6%	490	50.8%	226	23.4%	48	5.0%	2	0.2%	81	8.4%	24	2.5%		

◆ 2. 家庭生活について

★ (1) は全員、(2) は結婚している (またはしたことがある) 方のみお答えください。

問2 家庭生活における男女の役割分担の理想と現実について、伺います。(1つだけ○印)

	項目	選択肢	回答数	回答比率
(1)	あなたの理想に最も近いものはどれですか【全員回答】 (回答者数 964人)	男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する	124	12.9%
		女性が家計を支え、男性が家事・育児に専念する	2	0.2%
		男性と女性が共同で家計を支え、主に女性が家事・育児を分担する	97	10.1%
		男性と女性が共同で家計を支え、主に男性が家事・育児を分担する	4	0.4%
		男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する	436	45.2%
		男性と女性の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う	249	25.8%
		その他	11	1.1%
		無回答	41	4.3%
(2)	あなたの家庭での実際の役割分担に最も近いものはどれですか (どれでしたか) 【結婚している (またはしたことがある) 方のみ回答】 (回答者数 665人)	男性が家計を支え、女性が家事・育児に専念する	175	26.3%
		女性が家計を支え、男性が家事・育児に専念する	1	0.2%
		男性と女性が共同で家計を支え、主に女性が家事・育児を分担する	272	40.9%
		男性と女性が共同で家計を支え、主に男性が家事・育児を分担する	8	1.2%
		男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する	126	18.9%
		男性と女性の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う	66	9.9%
		その他	17	2.6%

問3 あなたが考える理想的な男女の役割分担が実現するためには、どんなことが必要だと思いますか。

(3つまで○印)

(回答者数 964人)

	項目	回答数	回答比率
1	夫婦や家族間で、コミュニケーションを増やすこと	554	57.5%
2	年配者や周りの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	172	17.8%
3	男性が家事・子育て・介護等に参加することに対する、女性の抵抗感をなくすこと	61	6.3%
4	男性が家事・子育て・介護等に参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと	272	28.2%
5	社会のなかで、男性による子育て、介護についての評価を高めること	213	22.1%
6	労働時間短縮や休暇制度を充実することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	342	35.5%
7	育児・介護休業制度が充実するとともに、休業しやすい職場の雰囲気があること	361	37.4%
8	女性が働くことを希望したときに、相談窓口の充実など様々な支援があること	127	13.2%
9	共働きしなくても生活できる所得が確保されること	329	34.1%
10	その他	13	1.3%
11	特に必要なことはない	11	1.1%
	無回答	19	2.0%

◆ 3. 男女がともに働きやすい職場づくりについて

★ (1) は全員、(2) は働いている (または働いたことのある) 方のみお答えください。

問4 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) について、伺います。 (1つだけ○印)

	項目	選択肢	回答数	回答比率
(1)	生活の中での、「仕事」と「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの理想に最も近いものはどれですか。 【全員回答】 (回答者数 964 人)	「仕事」を優先したい	37	3.8%
		「家庭生活」を優先したい	128	13.3%
		「地域・個人の生活」を優先したい	39	4.0%
		「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	239	24.8%
		「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	33	3.4%
		「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	63	6.5%
		「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	141	14.6%
		ライフステージの変化に応じて、その都度考えたい	259	26.9%
		その他	3	0.3%
		無回答	22	2.3%
(2)	あなたの現実 (現状) に最も近いものはどれですか (どれでしたか)。【働いている (または働いたことのある) 方のみ回答】 (回答者数 858 人)	「仕事」を優先している (優先した)	325	37.9%
		「家庭生活」を優先している (優先した)	87	10.1%
		「地域・個人の生活」を優先している (優先した)	14	1.6%
		「仕事」と「家庭生活」をともに優先している (優先した)	224	26.1%
		「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している (優先した)	33	3.8%
		「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している (優先した)	12	1.4%
		「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している (優先した)	60	7.0%
		ライフステージの変化に応じて、その都度考えている (考えた)	94	11.0%
		その他	9	1.0%

問5 男女がともに働きやすくなるためには、(1) 家族や地域において、(2) 企業など職場において、(3) 行政の取組において、それぞれどんなことが必要だと思いますか。

(1) 家族や地域において必要なこと (2つまで○印)

(回答者数 964人)

	項目	回答数	回答比率
1	家族が、女性が働くことについて理解すること	222	23.0%
2	女性自身が、働くことについての意識を向上させること	112	11.6%
3	家事・育児・介護などは男女を問わず分担し、協力すること	698	72.4%
4	両親や親せきが、家事・育児・介護などを手伝うこと	122	12.7%
5	地域に、子育てや介護をするうえで助けてくれる人や支援・サービスがあること	464	48.1%
6	その他	18	1.9%
	無回答	9	0.9%

(2) 企業など職場において必要なこと (2つまで○印)

(回答者数 964人)

	項目	回答数	回答比率
1	仕事と、子育てや介護の両立について、職場(上司・同僚・部下)の理解が得られること	436	45.2%
2	育児・介護に関する休暇・休業等の制度が整っており、取得しやすい雰囲気があること	424	44.0%
3	在宅勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方が整備されていること	124	12.9%
4	再雇用制度が導入されていること	72	7.5%
5	長時間労働が改善され、仕事以外の時間を多く持てるようにすること	195	20.2%
6	給与・昇進・昇格等の面で、性別による差がなくなること	134	13.9%
7	勤務時間の長さなどでなく、仕事の成果で評価されること	100	10.4%
8	非正規雇用の労働条件が改善されること	124	12.9%
9	職場におけるセクシュアル・ハラスメント(注1)やマタニティ・ハラスメント(注2)など、色々な場面での嫌がらせやいじめをなくすこと	111	11.5%
10	育児や介護による仕事への制約を理由とした不利益な取り扱いをなくすこと	60	6.2%
11	その他	17	1.8%
	無回答	17	1.8%

(注1)「セクシュアル・ハラスメント(=性的いやがらせ)」とは・・・

相手が望まない性的な言動により相手方の生活環境を害すること、または性的な言動に対する相手方の対応によりその者に不利益を与えること

(注2)「マタニティ・ハラスメント」とは・・・

働く女性が妊娠・出産にあたって職場で受ける精神的・肉体的な嫌がらせ、いじめのこと

(3) 行政の取組において必要なこと（2つまで○印）

(回答者数 964人)

	項目	回答数	回答比率
1	保育所などの定期的に利用できる保育サービスが充実すること	218	22.6%
2	柔軟に子どもを預かってくれる保育サービスが充実すること（一時預かり、ファミリー・サポート・センターなど）	279	28.9%
3	放課後児童クラブや放課後子ども教室などが充実すること	185	19.2%
4	児童手当など子育てに関する経済的な支援が充実すること	222	23.0%
5	介護サービスが充実すること	258	26.8%
6	出産や育児、介護等でいったん退職しても再就職の支援があること	219	22.7%
7	女性を積極的に活用する企業への支援を行うこと	72	7.5%
8	男性の家事や育児への参加を促すための意識啓発を行うこと	96	10.0%
9	セクシュアル・ハラスメントやマタニティ・ハラスメントに関する啓発を行うこと	47	4.9%
10	育児休業や介護休暇を実施している企業への支援（助成金など）を行うこと	146	15.1%
11	その他	13	1.3%
	無回答	25	2.6%

◆4. ドメスティック・バイオレンス(夫婦・恋人間の暴力)(注1) / セクシュアル・ハラスメントについて

(注1)「DV(ドメスティック・バイオレンス)」とは・・・

配偶者や恋人など、親密な関係にある、または、あったパートナーからの身体や心への暴力のこと。暴力には、肉体的、精神的、経済的、性的暴力などがある。

問6 あなたは、配偶者や恋人があなたに対して、次のようなことをした場合、それを暴力だと思いますか。
(あなたの気持ちに最も近い番号(1~3)に1つだけ○印)

(回答者数 964人)

項目	選択肢	どんな場合も暴力に当たると思う		暴力の場合とそうでない場合がある		暴力に当たると思わない		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
(ア) 素手で殴ったり、足でける		848	88.0%	92	9.5%	3	0.3%	21	2.2%
(イ) バットやベルト等、物を使って殴る		925	96.0%	7	0.7%	4	0.4%	28	2.9%
(ウ) 物を投げつける。突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする		856	88.8%	73	7.6%	4	0.4%	31	3.2%
(エ) ドアをけったり、壁に物を投げつける。刃物などを突きつけたり、殴るふりをして、おどす		870	90.2%	60	6.2%	6	0.6%	28	2.9%
(オ) 大声でどなる、罵倒するなどして恐怖感を与える		756	78.4%	170	17.6%	11	1.1%	27	2.8%
(カ) 小バカにするようなことを言ったり、態度を取る		486	50.4%	396	41.1%	49	5.1%	33	3.4%
(キ) 何を言っても、長時間無視し続ける		505	52.4%	334	34.6%	94	9.8%	31	3.2%
(ク) 交友関係を制限したり、電話、メール等を細かくチェックする		560	58.1%	298	30.9%	71	7.4%	35	3.6%
(ケ) 嫌がっているのに、性的な行為を強制する		791	82.1%	125	13.0%	18	1.9%	30	3.1%
(コ) 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる		748	77.6%	136	14.1%	49	5.1%	31	3.2%
(サ) 「誰のおかげで生活できるのか」などと言う		710	73.7%	176	18.3%	48	5.0%	30	3.1%
(シ) 生活費を渡さない、極端に制限して渡す		732	75.9%	166	17.2%	36	3.7%	30	3.1%

上記はすべてDVに該当します。

問7 あなたは問6（ア）～（シ）のようなことを経験したり、見聞きしたことがありますか。

（1つだけ○印）
（回答者数 964人）

	項目	回答数	回答比率
1	直接、経験したことがある	199	20.6%
2	身近に見聞きしたことがある	366	38.0%
3	経験したこともないし、見聞きしたこともない	378	39.2%
4	無回答	21	2.2%

★問7で「1. 直接、経験したことがある」を選んだ方のみお答えください。

問8 あなたは、あなたの配偶者や恋人に次のようなことをしたこと、またはされたことはありますか。

（あなたの経験に最も近い番号（1～4）に○印）
（回答者数 199人）

項目	選択肢		したことがある				されたことがある				どちらもない・無回答	
	何度もした	1, 2度した	何度もされた	1, 2度された	何度もされた	1, 2度された						
(ア) 素手で殴ったり、足でける	5	2.5%	30	15.1%	24	12.1%	34	17.1%	114	57.3%		
(イ) バットやベルト等、物を使って殴る	2	1.0%	8	4.0%	4	2.0%	12	6.0%	174	87.4%		
(ウ) 物を投げつける。突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする	4	2.0%	21	10.6%	20	10.1%	30	15.1%	132	66.3%		
(エ) ドアをけったり、壁に物を投げつける。刃物などを突きつけたり、殴るふりをして、おどす	5	2.5%	17	8.5%	30	15.1%	38	19.1%	114	57.3%		
(オ) 大声でどなる、罵倒するなどして恐怖感を与える	14	7.0%	26	13.1%	58	29.1%	33	16.6%	78	39.2%		
(カ) 小バカにするようなことを言ったり、態度を取る	16	8.0%	28	14.1%	56	28.1%	42	21.1%	74	37.2%		
(キ) 何を言っても、長時間無視し続ける	8	4.0%	26	13.1%	26	13.1%	28	14.1%	117	58.8%		
(ク) 交友関係を制限したり、電話、メール等を細かくチェックする	3	1.5%	9	4.5%	25	12.6%	14	7.0%	150	75.4%		
(ケ) 嫌がっているのに、性的な行為を強制する	1	0.5%	5	2.5%	26	13.1%	18	9.0%	149	74.9%		
(コ) 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	0.5%	4	2.0%	3	1.5%	9	4.5%	182	91.5%		
(サ) 「誰のおかげで生活できるのか」などと言う	4	2.0%	9	4.5%	22	11.1%	17	8.5%	148	74.4%		
(シ) 生活費を渡さない、極端に制限して渡す	1	0.5%	6	3.0%	20	10.1%	5	2.5%	167	83.9%		
(ス) その他のDV行為	1	0.5%	3	1.5%	5	2.5%	4	2.0%	186	93.5%		

〈副問1〉 あなたは、上記のしたこと、されたことについて誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(あてはまるものすべてに○印)

(回答者数 199人)

	項目	回答数	回答比率
1	家族・親せき	50	25.1%
2	友人・知人	59	29.6%
3	警察	14	7.0%
4	法務局・人権擁護委員	0	0.0%
5	市町村役場・福祉事務所	1	0.5%
6	県庁	0	0.0%
7	女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）	4	2.0%
8	こうち男女共同参画センター「ソーレ」	1	0.5%
9	裁判所・法テラス	7	3.5%
10	医療関係者（医師、歯科医師、看護師など）	1	0.5%
11	民間の機関（弁護士会、民間シェルターなど）	1	0.5%
12	その他（具体的に）	5	2.5%
13	どこ（だれ）にも相談しなかった	97	48.7%
14	無回答	10	5.0%

★副問1で「13. どこ（だれ）にも相談しなかった」を選んだ方のみお答えください。

〈副問2〉 あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。（あてはまるものすべてに○印）

(回答者数 97人)

	項目	回答数	回答比率
1	どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから	8	8.2%
2	世間体が悪く、恥ずかしくて言えなかった	7	7.2%
3	相談しても解決しないので、無駄だと思ったから	24	24.7%
4	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどいことをされると思ったから	3	3.1%
5	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから	16	16.5%
6	自分にも悪いところがあったから	21	21.6%
7	相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをと思ったから	1	1.0%
8	他人にとやかく言われたくなかったから	8	8.2%
9	いずれやめるだろうと思ったから	9	9.3%
10	自分に悪いところがあったから	11	11.3%
11	相談するほどのことではないと思ったから	39	40.2%
12	その他	7	7.2%
13	無回答	2	2.1%

問9 デートDV（交際相手からの暴力）、DV（配偶者等からの暴力）、性暴力などの行為が社会問題になっていますが、このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。

（3つまで○印）

（回答者数 964人）

	項目	回答数	回答比率
1	加害者に対するカウンセリングや更生プログラム等を実施する	270	28.0%
2	法律、制度の制定や見直しを行い、加害者への罰則を強化する	413	42.8%
3	学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や暴力を防止するための教育を行う	308	32.0%
4	職場などで、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う	105	10.9%
5	地域で、防止啓発のための研修会、イベント等を行う	49	5.1%
6	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	152	15.8%
7	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やし、窓口の周知を図る	456	47.3%
8	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者等に対し、研修や啓発を行う	134	13.9%
9	DV被害者が自立して新たな生活を始めるための支援を強化する（衣食住の確保）	250	25.9%
10	その他	18	1.9%
11	わからない	63	6.5%
12	無回答	85	8.8%

問10 セクシュアル・ハラスメントについてお聞きします。

次にあげることのうち、あなたがセクシュアル・ハラスメントだと思うことはどれですか。

（あてはまるものすべてに○印）

（回答者数 964人）

	項目	回答数	回答比率
1	地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する	824	85.5%
2	相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体にさわる	807	83.7%
3	宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する	676	70.1%
4	（女性のみにお茶くみや掃除をさせる等）性別による役割分担を強要する	568	58.9%
5	性別を理由とした不利益な扱いをする（昇進を制限する、給与を低く抑える等）	674	69.9%
6	相手の容姿や服装に関してあれこれ言う	587	60.9%
7	相手が嫌がっているのに、性的なことを話題にする	746	77.4%
8	ヌードポスターやポルノ雑誌等を人目につくところに置く、飾る	633	65.7%
9	「結婚はまだか」や「子どもはまだか」等たびたび聞く	579	60.1%
10	「ホモ」、「オカマ」、「レズ」等、相手の性的指向を話題にして、からかう	674	69.9%
11	わからない	18	1.9%
12	無回答	80	8.3%

5. 男女共同参画の推進について

問11 あなたは、次にあげる言葉について、知っていますか。

(それぞれ該当する番号(1~3)に1つだけ○印)

(回答者数 964人)

項目	選択肢		内容を 知っている		聞いたことが あるが内容は 知らない		知らない		無回答	
	内容	人数	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
(ア) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)		369	38.3%	297	30.8%	236	24.5%	62	6.4%	
(イ) DV(ドメスティック・バイオレンス)		805	83.5%	112	11.6%	22	2.3%	25	2.6%	
(ウ) セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)		841	87.2%	90	9.3%	6	0.6%	27	2.8%	
(エ) こうち男女共同参画センター「ソーレ」		295	30.6%	394	40.9%	242	25.1%	33	3.4%	
(オ) クオータ制 ※注1		36	3.7%	175	18.2%	712	73.9%	41	4.3%	
(カ) 女性相談支援センター		154	16.0%	415	43.0%	363	37.7%	32	3.3%	
(キ) 高知家の女性しごと応援室		35	3.6%	223	23.1%	671	69.6%	35	3.6%	
(ク) 女子差別撤廃条約		138	14.3%	254	26.3%	535	55.5%	37	3.8%	
(ケ) 男女雇用機会均等法		505	52.4%	304	31.5%	125	13.0%	30	3.1%	
(コ) 育児・介護休業法		452	46.9%	344	35.7%	137	14.2%	31	3.2%	
(サ) 女性活躍推進法		117	12.1%	349	36.2%	456	47.3%	42	4.4%	
(シ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(いわゆるDV防止法)		271	28.1%	480	49.8%	182	18.9%	31	3.2%	
(ス) 高知県男女共同参画社会づくり条例		55	5.7%	369	38.3%	502	52.1%	38	3.9%	
(セ) 性的少数者(いわゆるLGBT※注2など)		415	43.0%	260	27.0%	254	26.3%	35	3.6%	
(ソ) 性的指向・性自認(SOGI※注3)		99	10.3%	242	25.1%	586	60.8%	37	3.8%	
(タ) カミングアウト※注4		476	49.4%	219	22.7%	238	24.7%	31	3.2%	
(チ) アウティング※注5		62	6.4%	172	17.8%	693	71.9%	37	3.8%	

(注1)「クオータ制」とは・・・

性別を基準に一定の人数や比率を割り当てる手法

(注2)「LGBT」とは・・・

次の言葉の頭文字をとって組み合わせた言葉で、性的少数者(セクシュアルマイノリティ)を表す言葉の一つとして使われることもある。性的少数者には、LGBT以外にも、男女どちらにも恋愛感情を抱かない、自分自身の性を決められない・分からないなど、様々な性のありようを持つ人々がいる。

「L」はレズビアン(女性の同性愛者)

「G」はゲイ(男性の同性愛者)

「B」はバイセクシュアル(両性愛者)

「T」はトランスジェンダー(「身体の性」と「心の性」が一致しないため「身体の性」に違和感を持つ人)

(注3)「^そ^じSOGI」とは・・・

Sexual Orientation (性的指向) (どのような性別の人を好きになるか) と Gender Identity (性自認) (自分の性をどのように認識しているか) の頭文字をとった言葉。LGBTのような少数者を指す言葉でなく、SOGI (性的指向と性自認) はすべての人が持つ属性であり、どのようなSOGIであっても平等に人権が尊重されるべきであるという、国際的な潮流に則った考え方がある。

(注4)「カミングアウト」とは・・・

性的少数者であることを告白すること。性的少数者当事者の中には、性的指向や性自認をカミングアウトすることによって、「自分を偽ることなく生きたい」と思いながら、否定的な反応を恐れてカミングアウトできない人たちもいる。

(注5)「アウトティング」とは・・・

本人の了承なく、その人の性的指向や性自認について暴露することであり、プライバシーに関わる重大な人権侵害。カミングアウトするかどうかや、いつ、誰に、どのように伝えるかは、当事者が決めることである。

参照：

(注2) (注3) (注4) (注5)

法務省人権擁護局 “多様な性について考えよう！～性的指向と性自認～”

<http://www.moj.go.jp/JINKEN/LGBT/index.html> (参照 2019-10-02)

(注3)

日本労働組合総連合会 性的指向及び性自認に関する差別禁止に向けた取り組みガイドライン (2017)

<https://www.jtuc-rengo.or.jp/activity/gender/lgbtsogi/> (参照 2019-10-02)

問12 あなたは、今まで以上に男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

(3つまで○印)

(回答者数 964人)

	項目	回答数	回答比率
1	法律や制度の面で見直しを行い、性別やジェンダー（注1）に基づく差別につながるものを改めること	245	25.4%
2	性別やジェンダーに基づくさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること	317	32.9%
3	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	231	24.0%
4	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	211	21.9%
5	女性の役職への登用や政策決定の場への参画を進めること	132	13.7%
6	労働時間を短縮するなど、性別にとらわれず家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること	354	36.7%
7	性別にとらわれず、誰もが生活者としての家事能力を身につけること	283	29.4%
8	誰もが平等に人権が尊重されるために、ジェンダーや性の多様性などについて相互理解を深めるための学習機会を充実すること	300	31.1%
9	その他	7	0.7%
10	わからない	96	10.0%
11	無回答	57	5.9%

(注1)「ジェンダー」とは・・・

社会的・文化的に形成された性別。

◎ 男女共同参画社会に関するご意見、ご感想がございましたら、どんなことでも結構ですから、ご自由にご記入ください。

VI 自由回答 (111 ページ～) に記載しています

質問は以上です。長時間ご協力いただきありがとうございました。

記入もれがないか、もう一度お確かめいただき、同封の返信用封筒に入れて、

11月15日(金)までに、切手を貼らずに、ご返送ください。(お名前は不要です。)

お手数をおかけしますが、よろしく申し上げます。

令和元年度 男女共同参画社会に関する県民意識調査報告書

令和2年3月 発行

[編集・発行] 高知県文化スポーツ部 県民生活・男女共同参画課

〒780-8570 高知市丸ノ内1-2-20

TEL 088-823-9651

FAX 088-823-9879
